

182

和漢
雅俗

いろは
辞典

第壹冊

高橋五郎著 いろは辭典 第二冊出版 廣告

雅俗第一冊出版

雅俗第一冊(四百ページ)豫約日限通本日(十二月廿五日)ヨリ御送金ノ順序ニ從ヒ送本ス○第二冊ハ一月廿五日ヨリ終尾第三冊ハ二月廿五日ヨリ送本ス○今春出版ノ漢英ノ部豫約日限一月十五日着ノ見込チ以テ御送付有ルベシ○今ヨリ相違ナク出版スベシ依テ豫約諸君ノ御送金亦遅々ナク御取計ヒモノナレバ其時天地ニ餘地チ有セシムル爲メ故送本スルモハ仮製本ニテ完成ノ上ハ何レモ合本ニ調製セラレ竹篋チ以テ大切ニ御裁斷有ルベシ
ト書冊ノ邊縁チ充分ニ截斷セズ若シ未タ連續スル部分有ラハ竹篋チ以テ大切ニ御裁斷有ルベシ
副仲此迄數多ノ豫約出版モ取扱ヒシ今般ノ辭典申込ノ如キハ近頃稀ナル盛況ニテ本日(十二月十五日)迄ノ申込總數參千六百三十二部ノ多キニ達セリ依テ最初四千部印刷セシニ猶又一千部追加ニテ本日(十二月十五日)迄ノ申込江次郎氏ノ周旋ニテ舶來「キク」判參百貳拾連(拾八萬枚)チ買入レシニ東京ノ「キク」判舶來紙ノ價額頗ニ騰貴シタル有様ナリ

雅俗第二回豫約

定價金參圓五拾錢
豫約金參圓七拾五錢

第一回豫約日限既ニ經過シ此迄豫約謝絶シ來リシガ然カルキハ皆出來迄恰モ賣買チ停止シタル有様ニテ彼我ノ不便ニ付今般第二回豫約トシテ一千部ノ申込チ諾ス○豫約御望ノ方ハ第一冊分金六十錢チ添ヘ御申込有レバ直ニ送本ス○第二冊ハ一月廿五日ヨリ送本ニ付金六拾錢ハ一月十五日迄ニ第三冊終尾ハ二月廿五日ヨリ送本ニ付殘額五拾五錢増ハ一月十五日迄ニ送金有ルベシ○製本ハ本綴仮表紙トス脊皮金字入上等製本(漢英對照ノ部)チ御望ノ向ハ貳拾五錢増トス但上等製本ハ全一冊終尾ニ至テ遞送ス○遞送費ハ(東京府下チ除キ)實費チ申受クベシ若シ實費御送付ナキハ先拂ヒチ以テス○代金チ郵便切手ニテ代用ノ向ハ其金額ノ一割増トス○郵券二錢送付アレハ此見本方法書等チ呈ス○豫約滿員ノ上ハ普通買價ニ復ス

漢英第二回豫約

定價金五圓五拾錢
豫約金參圓八拾錢

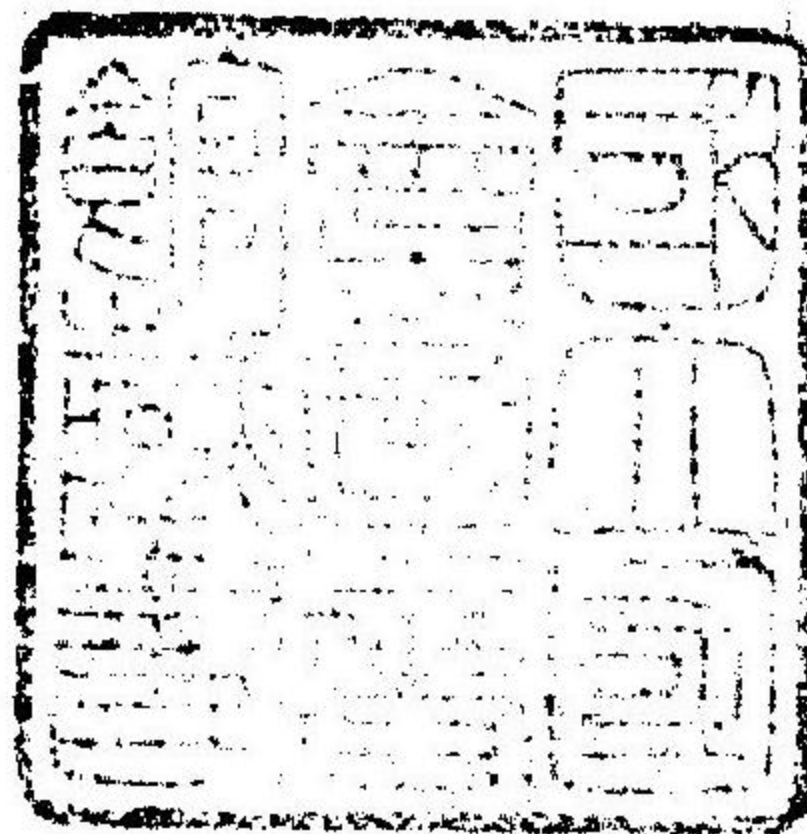
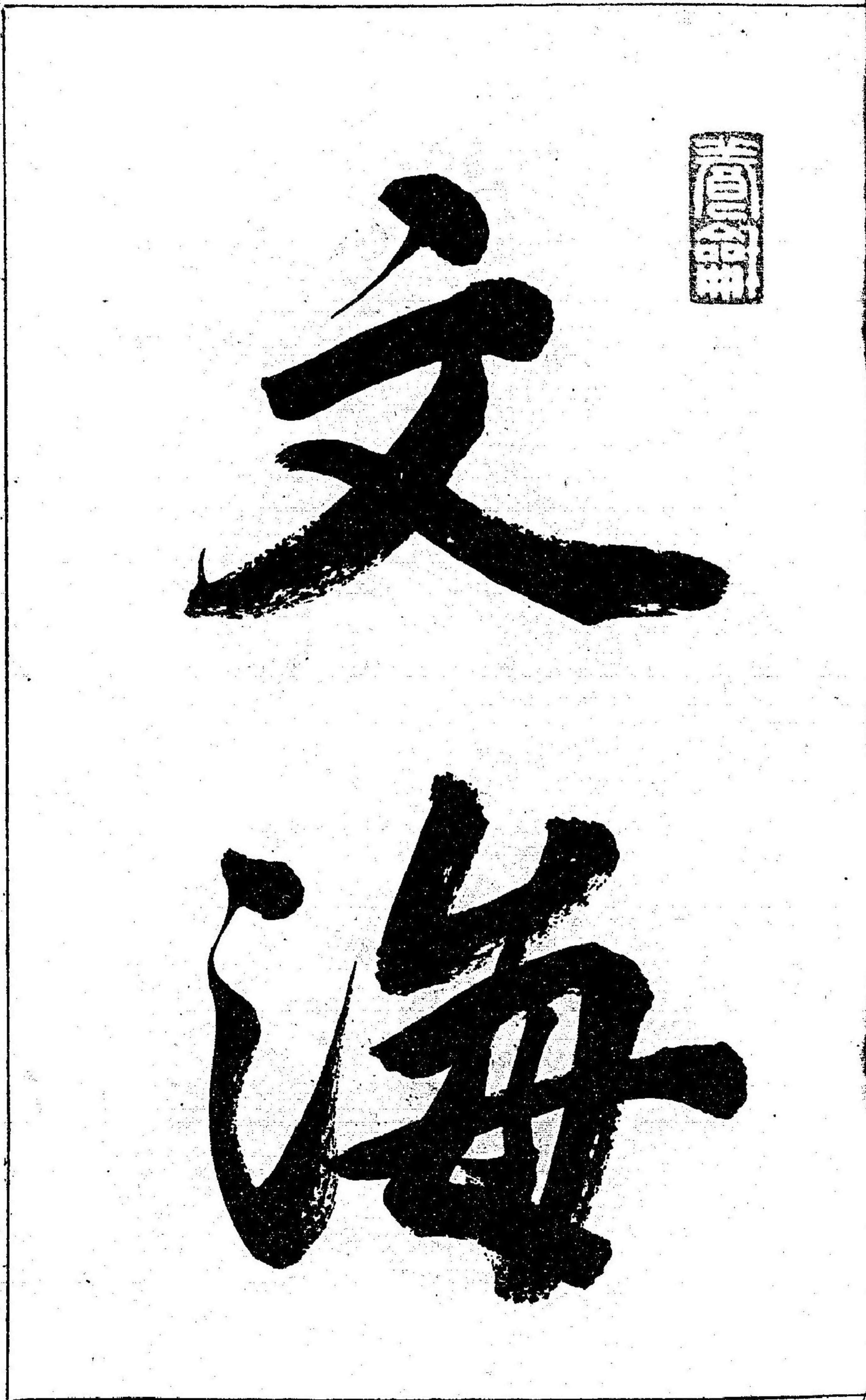
○豫約申込ハ成ルベク至急チ要ス○來二月廿五日製本完成○豫約金ハ十二月壹圓參拾錢一月壹圓參拾錢二月壹圓貳拾錢送付有ルベシ○至急送本御望ノ方ハ皆金送付アレハ送本ス但現在部數限リアリ出拂ヒタルキハ其旨更ニ通知シ製本出來ノ上送本ス○遞送費ハ(東京府下チ除キ)實費チ申受クベシ若シ實費送金ナキハ先拂ヒチ以テス○代金チ郵便切手ニテ代用ノ向ハ其金額ノ一割増トス○郵券二錢送付アレハ此見本方法書等チ呈ス○豫約日限チ經過シタルハ從前ノ買價ニ復ス

高橋五郎著

和漢 いろは 辭典

東京 小林家藏版

813.1 Ta224v



261041

指鉞

題しんばら白曲洪基



序



空^{ウブ}伯斯^ス他作^ス英語字書序中有曰
余遺^ニ此書于國人深望^下其修善
日進福祉增長財貨日多智識日富
志行敬虔令吾邦尊榮^中又深感謝^上

至大至仁之主。保祐吾弱體。令成
就斯業於艱難勞苦之中。正直曰
此書之作者。蓋亦有同於空氏
之深望與感謝者。其所以增長
邦人之福祉。豈淺鮮哉。喜而題。

明治二十一年十月

文學博士中邨正直



小序

余輩辭書ノ學ヲ振起シ、辭書ノ必要ヲ唱道セント欲シ、茲ニ大辭典ノ基礎ヲ置、エ、先ツ漢英對照いろは辭典ト云フヲ著ハシタリ、終ニハ江湖諸君ノ賛成ニ由リ之ヲ以テ我國ノ大ウエブストルト爲スノ日アラシム事ヲ期ス、然レモ該辭典タル英文ノ對照有ルガ爲メ語數夥多ニシテ代價亦隨テ廉ナラズ、加フルニ未ダ英字ヲ知ラザル諸君ニハ殆ンド其用ナシト云フモ可ナリ、依テ今回英語解釋ヲ省キ、又一般ニ必要ナラザル語ヲ略シ、更ニ遺漏ニ係レル有用ノ和漢語凡三千ヲ補充シ、一層解釋ヲ精密ニシ、此書ヲ出版シ、專ラ事務映掌ノ諸君及和漢學ニ從事セラル、諸君ニ便セントス、蓋シ我國ニ於テ西洋法ニ倣ヒ著作シタル和漢字書ハ此いろは辭典ヲ以テ嚆矢トス、想フニ我國亦是ヨリシテ邦語字書ノ有用ナルヲ知ルニ至ラン

明治廿一年十一月十日

著者識

緒言

凡ソ其術ニ精巧ナラントセバ先其器械ヲ精良ナラシメザル可ラズ、辭書ハ即チ文學ノ構成ニ用フル器械タルニ外ナシ、此器械ニシテ備ハラズンハ文學ノ精華ヲ期シ難シ、此器械ニシテ有ル事ナクンハ國語ノ一半ハ既ニ死シテ廢滅ニ屬スト謂フ可シ、今日ノ如キ奎運隆盛ノ時機ニ際シテ豈之ニ隨伴スルノ好辭書ナクシテ已ム可ンヤ、支那ニハ已ニ數百年前ニ於テ字彙康熙字典ノ如キ大著アリ、是未タ完全ナラズト雖モ文字ノ定義之ニ由テ復誤ラズ、英米ニ於テハオーグレルビー、ウエブストル等ノ大字典アリ、文學ニ志ス者ヲシテ毫モ遺憾トスル所ナカラシム、見ル可シ辭書ノ精良ハ文化ノ進歩ト步履ヲ等ウスル事ナ、茲ニ近ク我邦辭書ノ情態ヲ見ルニ其昔日ニ成リシト今日ニ成リシトヲ論ゼズ、大概粗略ニシテ語數亦甚タ少ナク、加フルニ其搜字法迂遠ヲ極メテ徒ラニ搜索者ノ精神ト時問トヲ費ヤサシメ、而シテ十中八九ハ搜索シ得ザルノ徒勞ニ歸シテ止ム而已、適々幸ニシテ搜索シ得ルモ只之ニ當タル一漢字ヲ見ル而已ニシテ毫モ其何ノ意義タルヲ解釋セル者アル無シ、本辭書ハ西洋字書編輯ノ體裁ニ倣ヒいろは順ヲ追テ每語ヲ掲ゲ一々其釋義ヲ附シ漢語ノ之ニ相當スル類語ヲ多ク列記シタレバ其搜索ノ語手ニ應ジテ顯レ來リ其意義一目ニ瞭然タリ、又其解釋ニ至リテモ意義ノ沿革古代ノ用法等ヲ詳論セズ、只今日ニ有用ナル解釋ヲ簡便ニ爲シタル而已、此ノ如キ字書ニ於テハ此方却

テ實益アリト信ズレバ也、然リト雖モ一國古今ノ語タル其數固ヨリ窮リナクシテ一語モ殘サズ之ヲ掲ゲントスレバ汗牛ノ大書冊トナリテ便益却テ少ナシ、是ヲ以テ其全ク目今必要ナラザル者又世間ニ格別ノ用ナキ術語及ビ書冊ニ見ユル事務ナル古語ノ如キハ之ヲ省キテ載セズ是偏ニ輕便實益ヲ主トスレバナリ請フ之ヲ諒セヨ
明治廿一年十一月十日 著者 識

凡例

- 第一凡ソ字書ノ要ハ搜字ヲシテ容易ナラシムルニ在リ故ニ此書ハ本邦慣習ノ假名數引キ十三門部類分ケ等ノ迂遠ナル法ニ從ハズ西洋字書ノ體ニ倣ヒ一ニいろはノ順序ニ從フ例ヘバ
- 第二假名同シクシテ清音、半濁音、濁音ノ區別アル者ハ此三順序ニ從テ其位次ヲ定ム例ヘバ
はは、母 はば、幅 ばは、馬肥 ばば、老婆
はん、版 ばん、麵包 ばん、鵞 ばん、如シ
- 第三凡ソ字書ハ書籍上ニ散見シテ解讀シ難キ文字及ビ心中ニ和語又ハ漢語ヲ記憶スルモ其文字ヲ忘レタル者トヲ搜得スルニ在リ西洋ノ字書ハ一部ニテ此兩點ヲ完備スルモ本邦ニ於テハ漢字書和字書ノ二種ヲ備フ

ルニ非ザレバ此目的ヲ達スル能ハズ故ニ此辭典ハ一部ニシテ此兩益ヲ與フルノ組織ニシテ此缺點ヲ補ヒタリ、且又本邦ノ字書ニヨルニ到底搜得スル能ハザル文字多シ例ヘバ墨魚トイフ文字有ルヲ見ニ若シ和訓ヲ知ラザルニ於テハ如何ナル字書ニヨルモ之ヲ搜シ得ル能ハズ本書又此缺點ヲ補ヘリ是ノ如キ者ハ先ツ其音ニ循ヒテ「ばくぎよ」ト掲グ出シ其下ニ之ヲ解釋セリ即チ

ばくぎよ、墨魚、いか、烏賊
ト記スルガ如シ又漢字ニ特異ノ和讀ヲ附シタル語ノ如キハ其本調ヲ掲グルハ勿論ニシテ尙搜索ノ爲メ其漢字ノ音ニ循ヒテ掲載シ其下ニ之ガ眞箇ノ讀方ヲ示セリ例ヘバ

はんきう、斑鳩、いかるが
ノ如シ又漢語ナラズシテ只文字而已ヲ借リタル者ニシテ字音ノ如ク讀ミテハ其意ヲ成サザル者ニハ「」ノ記號ヲ附シテ之ヲ區別ス例ヘバ
「ちやうせん」長船、をさふね、ノ如シ
第四同一ノ文字ニシテ和訓漢語トモニ要用ナル者ハ各其位置ニ挿入ス例ヘバ、い或ハしノ部ニ於テ

い、膽 しみづ、清水
ト記シ、た或ハせノ部ニ於テ
たん、膽、い、せいす、清水、しみづ、きよみづ
ト記スルガ如シ

第五各語ヲ區畫スルニ黑點即チ()ヲ以テシ意味ノ少ク異ナルニハ圈點即チ()ヲ以テシ又註解ニ屬スル者ハ括弧ヲ以テス例ヘバ

ひなか、田舎、鄙、ひな(都會を離れたる地方をいふ)ノ如シ
村落、鄉村、村莊、()ノ如シ

第六此辭典ハ總テいろはノ順序ニ從フト雖モひな、え、二文字ニ限リイを名ノ部ニ混入ス例ヘバ
い、膽、ひ、井、をひ、甥、おひ、笈、え、菫、を、菫

ノ如シ但シ其假名遣ヒニ至リテハ決シテ混合セズ
第七此辭典ハ每詞ニ記號ヲ附シ其所屬ヲ示シテ用フル者ニ便ス即チ(名)ハ名詞(形)ハ形容詞(副)ハ副詞(自)ハ自動詞(他)ハ他動詞ナリ又一語ニシテ此ニ兼スル者ハ其二記號ヲ列記シ(形副)名形等ト爲ス此他ハ其全語ヲ記シテ之ヲ示ス例ヘバ代名詞、後置詞等ノ如シ、

又眞ノ連語ニアラズシテ二三語相連ナレル者及ビ二三語相合シテ句ヲ爲セル者並ニ地名姓氏等ニハ是等ノ符號ヲ附セズ
第八本邦在來ノ字書ハ假名遣ヒノ誤謬甚タ多キヲ以テ此書ハ充分ノ注意ヲ加テ之ヲ訂正セリ

第九圖書ハ現物ヲ見ザレバ明ラカナラザル如キ者ノ實體ヲ示スチ目的トス且又圖書ノ内某家所藏ト記シ有ル者ノ如キ一ハ本邦ノ美術ヲ示スノ便リニトテ撰ベリ但シ是多ク古書ニヨリタルモノナレハ現今果シテ其家ノ所有ナルヤハ判然セズ

いはい「俗」副 否、いや、いな、しからず
いん(名) 醫員、醫者(いしや)くすし、醫師
いん(名) 委員、そうた(多くの人に代りて事を爲す様に選ばれたる人)

いろ(名) 素服、練衣、ものころも、ふちころも、喪衣、喪服、素釋(喪中又は葬儀に着する服)

いろ(名) 侍、侍中、に籠る家、もや

いろ(名) 色、青赤等の性質、また交合男女の相交る事

いろ(名) 情人、いろをとり、情婦、いろをんな

いろいろ(形副) 色々、種々、各様、各種、諸般、各般、さまざま、ま、もろもろ

いろは 伊呂波、弘法大師が作れる四十七字の今様歌、字母、かなもじ

いろは(名) 母、はは、たらちね(古語)

いろばなし(名) 色話、癡話、情話、こひばなし(男女相親しむ詞)

いろど(名) 妹、いもうと、いもと、又弟、ねとうと

いろどり(名) 丹青、彩色(さいしき)濃淡、彩飾、畫等に各種の色を施して飾る事

いろどる(他) 施彩色、さいしきする

いろり(名) 煎汁、にじる、にだし、かけしる

いろり(名) 圍爐裏、紅爐、火爐、地爐、暖爐、ひとこ(火をたく處)

いろをと(名) 色男、情夫、こひととと、密夫、まをとと、美男子、よきををとと

いろをんな(名) 色女、情婦、こひをんな、かくしつま、ねつち

いろこ(名) 雲脂、ふけ、頭垢、あたまわか
いろこと(名) 情事、交合、ねやごと、みとのまくはひ、房事(男女相交る事)
いろこのみ(名) 好色、いろすき、をんなすき、をととすき
いろあげ(名) 色揚、復色、そめかへし、そめなほし
いろあひ(名) 色相、いろつき、いろのちか
いろざと(名) 花街、游廓、淫肆、女閨、遊里(いろまちを見よいろざし(名) 顔色、かほいろ、れもざし、又いろあひ、いろ、いろどり

いろきちがひ(名) 色氣違、花風病、花癪(男が女と或は女が男を非常に好く病)
いろぎぬ(名) 色絹、いろつけぎぬ
いろめ(名) 色目、情眼、媚目、淫目、はれたるめつき
いろめかしき(形) 好色、いろこのまじき、すきところある
いろめつかふ 使色眼、賣弄眼目、流盼、斜視、目眺、はれたるめつきする
いろめく(自) 呈取色、まけいろになる、しらける
いろめく(自) 似好色、いろこのむらしくある、呈美色、はなやかみゆる

いろゑ(名) 彩繪、にしきゑ、彩色畫、いろどれるゑ
いろも(名) 姉妹、あねいもと、あねご、いもとと(古語)
いろせ(名) 兄、あに(古語)
いろん(名) 異論、こしやう、異議、異見、異説(反對の議論)
いは(名) 鹿、磔、磔、磔、魚網の罟を云ふ、しづみれもり
いは(名) 岩、巖、磔、磔、磔、石、岩、いはし
いは(名) 射場、ゆみいるところ

いろか(名) 色香、うつくしよ及よきにはひ(婦女花葩等の)

いろがみ(名) 色紙、いろつけがみ

いろづく(自) 着色、あからむ(木葉などが)、又トゆくする、うむ(菓等が)、また現色、いろあらはるる、あやめのみ

ねくる。また顔色、かほいろ

いろづく(自) 酩酊、酒に酔て赤くなるをいふ

いろつや(名) 光澤、色艶、光彩、つや、ひかり、こり

いろね(名) 兄、このかみ、わに、又わね(古語)

いろね(名) 色音、こわね、音聲

いろなほし(名) 色直、婚禮後等の祝宴をいふ

いろろ(名) 遺漏、もれれち、わち、脱漏

いろくろ(形) 色黒、くろさいいろなる。燿(かほいろくろ)

いろぐる(名) 色狂、淫亂、をんなぐるひ、又をととぐる

いろくす(名) 鱗、うろくづ、魚類、又うろこ、こけ

いろまち(名) 色町、花街、女閨、遊里、北里、いろざと(遊女の居る町)、くわ、よと

いろけ(名) 色氣、春情、春思、いろところ、よところ(男女相慕ふの情)

いろけづく(自) 色氣附、よところつく、催情、思春、發情端

いろふ(他) 辭いなむ、ことわる、こばむ、辭退

いろふ(他) 拚處理、あつかふ、關、かかはる

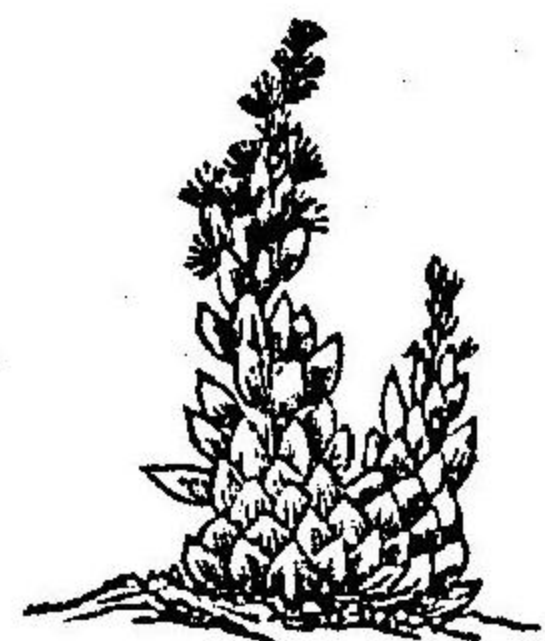
いろふ(他) 綵、いろどる

いろぶみ(名) 色文、情書、艶書、こひぶみ、ちわぶみ

いろふじ(名) 榮耀、はれ、さらびやかさ、はまれ(古語)

いは 伊庭或は伊場(氏)
いは(名) 意馬、こころのこま、心の奔逸を馬にたとへたる者
いはる 岩井、岩間の井また氏)
いはい「する」自 違背、そむく、もとる、したがはぬ
いはい(名) 位牌、靈臺、木主、かみやういた
いはいだう(名) 位牌堂、影堂、先祖代々の位牌を置く處
いはいてふ 睡菜、みづいてふ(植物)
いはいし(名) 磐石、れはきなるいし
いはば 言則、たとへば、いふてみれば(假設の辭)
いははし 岩橋(氏)
いははし(名) 懸燈、いしばし、いしだん
いははじかみ(名) 骨碎補、石毛、薑、姜(生薑の一種)(植物)
いはは(名) 巖、いはをみよ
いはとがしは(名) 石帆、石迹、柏、うみかや(植物)
いはり(名) 尿溺、洩、せうべん
いはりだめ(名) 溺池、せうべんつば
いはりぶくろ(名) 膀胱、ばうくわう、脬、小便囊(小便の溜る機關)
いはる「俗」自 威張、はびこる、たかぶる、跋扈
いはれこし(名) 岩興(米を煎りて砂糖にてかためたる菓子)
いはれもだか(名) 石草の一種、いはとけ(植物)
いはかがみ(名) 藤纏毬の一種、とらうづる(植物)
いはがねさう(名) 蛇眼草(植物)
いはかうじ(名) 石香需(植物)
いはがしは(名) 石草、石蘭、石波(植物)

いはかせ(名) 醫博士、醫學者、博學なる醫者
 いたれび(名) 續帯、はらねび(孕婦の)
 いはたけ(名) 石茸(植物)
 いはれ(名) 謂、縁由、わけ、因縁、縁故、ゆゑよし、ことわり
 いはれなき(形) 無謂、わけもなき、無理なるを謂ふ
 いはれんげ(名) 佛甲草、瓦松、救火
 草はとけのつめ(植物)
 いはつばめ(名) 石燕(動物)
 いはつば(名) 太一餘糧(礦物、て
 鐵鑽の類) のげんれはい
 いはつつじ(名) 羊躑躅、黃杜鵑、も (圖)
 ちつつじ(植物)
 いはづす(他) 射外、いそんじる、あてそこなふ(矢を)
 いはな(名) 嘉魚(動物)
 いはなみ 岩並、いはならび
 いはなし(名) 荆梨(植物)
 いばら(名) 茨棘、棘、ばら、れどろ、むばら(植物)
 いばらがき(名) 荆棘垣、いばらのかきね
 いばらしやうび(名) 薔薇、ばら(植物)
 いはむ(自) 屯、聚居、たむろする
 いはう(名) 醫方、いやすみち、治療の方
 いはう(名) 異方、他方、ことくに
 むはう(名) 韋袍、かはばれり
 いばう(名) 意望、のぞみ、このみ
 むばう(名) 遺忘、ものわすれ
 いはく 曰、「いふ」をみよ
 いはく(名) 醫伯、醫師、いはかせ



のげんれはい

いししみづ 石清水(大和の地名)
 いはひば(名) 石長生、いはとけ、卷柏、丹沙草、鬼麗(植物)
 いはひべ(名) 齋食、古代の祭服
 いはひづま(名) 愛妻、たいせつよするつま、かはゆくねも
 ふつま
 いはひうた(名) 頌(ものをほめてよむ詩歌)
 いはひのさかもり 祝宴、賀廷、慶儀、よろこびのいはひ
 いはひげ(名) 鳥非、鬼鹿(植物)
 いはひと(名) 祝女、はふりめ、かみにつかへるとんな。又
 はしづま、いはひづま
 いはひとと(名) 祝儀祝、賀、よろこびこと
 いはひざけ(名) 祝酒、慶酒、慶宴、よろこびざけ、よろこび
 のさかもり
 いはひび(名) 祝日、よろこびのひ、祭日、まつりび
 いはひも(名) 仙人、戀(植物)
 いはも(名) 岩桃(植物)
 いはず(名) 瘡者、腫れ、ねふし
 むはん「する」(他) 違犯、をかそ、やぶる、そむく(法律等に)
 むはん「する」(自) 違反、そむく、もどる、たがふ
 いはんや 況、矧、まして、なほさら
 いにしへ(名、副) 古往昔、上世、わがれるよ、むかし、往古、太
 古、遠古、古代、往代、上古
 いにしとし 往年、先年、さきのとし
 むん(名) 一する(他) 委任、ゆだね、委託、ゆだねる、まか
 す
 いは(名) 庵、菴、廬、いはり
 いは 五百、ごひゃく(古語)

むはく「する」(他) 威迫、をどしせまる
 むはく(名) 帷幕、まく、天幕、あげはり
 いはくら 岩倉氏
 いはぐみ(名) 石莖、ひとつばに同じ(植物)
 いはくすり(名) 石斛、とくさらん、いはとく(植物)
 いはや(名) 窟、石窟、石室、巖洞、巖室、石洞、ほらわな
 いはやなき(名) 石莖、はこねぐ(植物)
 いはまめ(名) 石斛(植物)
 いはけなき(形) 幼稚、穉、をさなき
 いはふ(他) 祝賀、慶賀、がする、よろこびいふ。祝、祝福、は
 ぐ、鎮、祭祀、まつる
 むはふ(形) 違法、ねきてまたがふ
 いばふ 嘶、いななく
 いはふやなき(名) 石莖、はこねぐ(植物)
 いはふき(名) 虎耳巾の一種(植物)
 いはとけ(名) 石草、いはひば(植物)
 いはこんじやう(名) 岩紺青、藥石
 いはあやめ(名) 石菖、水御草(植物)
 いはさ 岩佐氏
 いはき 岩城氏
 いはき(名) 石胡荽、はなひりぐ(植物)
 いはゆる 所謂、いふところの(人)の謂ふ所と云ふ義
 いはみ 石見(山陰道の國名)
 いはしろ 岩代(東山道に屬する國の名)
 いはしは(名) 岩鹽、山鹽、天然の堅鹽
 いはしのね(名) 石斛、金銀、石莖(植物)
 いはしみつ(名) 石泉、いはまのしみづ
 いげ(名) 疣、疥、贅肉、ふすべ、ちひさきこぶ(肉の)、瘰癧子、疣
 胞
 いば 異母、ちがふはは
 いはる 五百井氏
 いばい(名) 疥癬、疥癩、ちひさきこぶ(肉の)、ざらつきも
 の(蝦蟇の背の)
 いはり(名) 庵、菴、草舎、廬、いは、わらや、かりや
 いはりする(自) 營庵、すまひする(重に假屋など)
 いばがへる(名) 蝦蟇、ひきがへる(動物)
 いばたらふ(名) 蟲白、蠟、いはたより取る蠟
 いばたのき(名) 水蠟樹、らふのき(植物)
 いばそく(名) 伊蒲塞(優婆塞「うばそく」に同ト)
 いばむしり(名) 蟻、かまきり(動物)
 いはう(名) 異邦、いこく、とつくに、外國
 いはう 移封、くにがへ、諸侯の領分を他處に移すをいふ
 いはく 伊北氏
 いばく(名) 衣襟、ひらつつみ
 いはく(名) 水竹菜(植物)
 いはね 五百枝、ねはくのえだ(樹の)
 いはひ(名) 灸瘡、灸潰、やいと、のくづれ、さうのあや
 いはす(名) 商陸、やまごばう(植物)
 いはす(名) 或いをす(五百樓、魚住氏)
 いへ(名) 家宅、舍、屋、室、厦、戸(人の住む建物)
 いへ(名) 家居、構宅、あところ、居住、館、たち、宅居、舍
 いへばと(名) 鵠、鴉、だうばと、鴉、飛奴(動物)
 いへばに 得不言、言んとしすれば言へぬ
 いへにれ(名) 兔葵、せつぶんざう(植物)

いへごころ(名) 家所、そまひ、いへ
いへごじ(名) 家刀自主母女主人、どんなあわると
いへごも(後置詞) 雖なれども、いふといへども
いへぬし(名) 家主、やぬし、ねはや
いへかり(名) 税居、借居、借住、僑居、しやくやすまひ、かりやすまひ
いへがら(名) 家柄、門地、名門、右族、華貴、閥閥、望族、門閥
いへがまへ(名) 家構、いへのつくり
いへづと(名) 家裏、家土産、みやげ
いへつづき(名) 家績、家あひつらなる事
いへつぎ(名) 家嗣、家督人、後嗣、あとり、あどつぎ、相續人
いへなみ(名) 家並、いへならび、又(副)いへごとよ
いへう(形) 意表、おもひのほか、意外
いへのをさ(名) 家長、主人、いへのあるじ、いへのぬし
いへのこ(名) 家之子、家産奴(主人の家にて生れたる奴僕、いへうまれのしもへ)
いへごと(名) 毎家、家家、毎戸、萬戸、戸戸、かどまみ
いへで(名) 家出、出奔、失踪、かけもち、亡命
いへあと(名) 家址、やしきあと
いへあけ(名) 家明、いへをたちのこと
いへさ(名) 家城(氏)
いへすぢ(名) 家系、ちすぢ
いへん(名) 移變、うつりかはり
いへん(名) 異變、かはり、へんじ(變事)
いへん(名) 連變、やくそくちがひ

いと(名) 絲、絃、線、綸、綫、條、糸、ほそきすぢ、又生絹(さいと)
いと(名) 犀、斗、ゆとり、あかくみ舟の
いと(副) 最、もつとも、甚、はなはだ
いと(名) 異土、他邦、外國、とつくに、異域
いと(名) 井戸、ぬ(水汲む穴)
いと(名) 緯度(東西に渉る度線)
いと(名) 雲布、兼絲、さぬいとまじり
いと(名) 糸入り、ゆきもめん、糸入結城木綿(織物の名)
いと(名) 井傍、井側、ぬどのそば
いと(名) 井邊、井側、ぬどのそば
いと(名) 絲齋、絲萩、秋芽子(植物)
いと(名) 井掘、井工、ぬどほるひと
いと(名) 愛憫、いたはる、あはれむ、かわゆくたもふ
いと(名) 愛憐、いとほしくある、かわゆくある
いと(名) 射透、射穿、いぬく、矢なごを以て
いと(名) 蟋蟀、竈馬、促織、齋雞、かうらぎ(動物)
いと(名) 最太、甚、はなはだ、愈、彌、いよいよ
いと(名) 絲取鍋、紡績鍋(絹絲を績ぐに用ふる鍋)
いと(名) 彌甚、敷、はなはだ、たしき
いと(名) 射取、いととる、矢にて、いこうす
いと(名) 絲織(絹織物の名)
いと(名) 糸賀(氏)
いと(名) 井輪、井榎、ぬづつ(井筒)
いと(名) 井邊、ぬどざらへ
いと(名) 海金沙、かにくさ(植物)
いと(名) 金線魚、金線魚(動物)

いとよりぐるま(名) 紡車、いととりぐるま、繰車、ねはか、
いとよりぐるま(名) 紡績竿、いととりぼう
いとたけのあそび 絲竹遊音樂の遊をいふ
いとごこ(名) 絲底、居底、空足、わけずこ
いとなは(名) 纒、つるべなは
いとなむ(他) 經營、たてつくる、しつらふ、こしらふ
いとなでしこ(名) 石竹の一種(植物)
いとなみ(名) 家業、すきはひなりはひ、生計
いとむ(他) 挑、擲、いひかけ、る戰等を。又目眺、いごなふ、くどく(女を)
いと(名) 伊東、伊藤(氏)
いと(名) 依藤、よりふぢ(氏)
いと(名) 椅桐、しまざり(植物)
いと(名) 移動、ひきうつり、ところがへ、轉居
いと(名) 異同、ちがひめ、ことなるねなじき
いと(名) 絲結、類、いとのおすびだま
いと(名) 威德、いさはひ、威光、みいづ
いと(名) 緒端、緒こち、はじめ、はじまり
いと(名) 糸繰、絡繰、いとぐるま、又いとこるう
いと(名) 井戸車、ぬどのろくろ
いと(名) 絲屑、いとのかづ、くづいと
いと(名) 絲履、いとにてつくれるくつ
いと(名) 懿德天皇、人皇第四代(の帝)
いと(名) 井戸屋、井工、ぬどほり
いと(名) 糸柳(植物)

いとま(名) 暇、閑散、餘暇、餘間、間暇、間隙、遣ひま、てそぎ、
いとま(名) 告辭、告別、いとまごひする
いとま(名) 辭表、じしよくをねがふふみ
いとま(名) 暇請、暇乞、訣別、辭訣、告別、辭去、わかれのあいさつ
いとま(名) 不逞、いとまなし
いとま(名) 絲絡、絡板、絲捲、いとまくらうつは
いとま(名) 離婚書、さりじやう、みくだりはん、離婚狀
いと(名) 居途、ぬどはす、をばりまでをる(僕婢等が)
いと(名) 幼稚、稚、をさなき、孺嬰、孩冲
いと(名) 厭、敷、射、嫌、忌、きらふ、いむ
いと(名) 從兄弟、兄弟姉妹の子女
いと(名) 居所、住所、すまひどころ
いと(名) 從弟、最濃、煮、料理法、よて善く煮あはせたる者(をいふ)
いと(名) 萬纏草(植物)
いと(名) 井邊、淘、ぬどがへ
いと(名) 垂絲海棠、絲櫻(植物)
いと(名) 狗牙、さば、そるときは
いと(名) 野馬、陽炎、遊絲、かげろふ(動物)
いと(名) 織射、弋、矢に絲をつけて射る弓
いと(名) 挑、戰、ののしりたかふ
いと(名) 挑合、あひあらすふ
いと(名) 結縷子、の一種、野芝(植物)
いと(名) 愛子、かはゆきこ、ひさうむすこ、或むそめ

いとすぢ 縷綫、線、いと
いとすげ(名) 崖櫻植物
いとすすき(名) 絲薄、石世(植物)
いとん[する]自 委頓、すうつふれる、やふれる
いち(名) 市、墟、市井、いちまち、いちば
いち(形名) 一(ら)つ、壹、ひとつ
いち(名) 醫治、療治、やまひをいやすわざび
いち(俗名) 意地、心術、性、こころね、こんたやう
いち(名) 位置、くらゐ、のぼしよ、たちば
いち(名) 一する(他) 維持、もちこたへ、たもつ、とさへる
いち(或いちの(名) 甜橘子、水松植物)
いちい 一意、ひとつのこころ、一心
いちの 一位(第一の位階)、又ひとり(一人)
いちいち(副) 一一、ひとつひとつ、おのの
いちいちする(自) 暗喩、トれいかる、いやしくある(小兒
などが)
いちのがし(名) 石櫛植物
いちのん 一員、ひとり、一名
いちは 一羽、鳥一つにいと、いつびさ
いちば 一把、ひとたば、ひとつ
かね
いちば(名) 市場、墟、市井、うり
かひば、あきなひば
いちばい 一倍、ひとかさおほき
いちばる 意地張、いひつのも、
かたくなにするまふ
いちばつ(名) 鳶尾、紫羅傘植物
(圖のつはちい)



いちりん 一簾、一厘、錢、又量目の名
いちりん 一輪、ひとつわ、ひとふさ
いちりんさう(名) 雙瓶梅、いちげさう(植物)
いちる 一縷、ひとすぢ、糸にいふ
いちるゐ 一類、なかつづきあひ
いちを 市尾(氏)
いちをか 市岡(氏)
いちねう 一應、ひととほり
いちねく 一億、萬萬を億といふ
いちねんす 一量、量目八匁と云ふ
いちわり 一割、十分一をいふ、什一
いちわる[俗]形 意地悪、悪性、乖性、むねわるき、こころ
あしき
いちが(形) 一概、ひとくくり、一様
いちかは 市川(氏)
いちがう 一毫、ひとすぢ、毛髪にいふ
いちがう 一郷、ひとさと、さとぢう
いちがふ 一合、水量又田地にいふ、十勺
いちがん 一眼、かため、隻眼
いちよく 違勅、帝王の詔命に違ひ戻る事
いちだ 市田(氏)
いちだ 一朵、ひとふさ、花杯の、ひとかたまり
いちだ 一駄、ひと又馬一匹だけの荷にいふ
いちだい 一代、ひとよ、一世
いちだいに 一大事、重要なる事柄、また大危急
いちだん 一段、ひととき、一階
いちれつ 一列、同様、ひとならび

いちはやき(形) 逸捷、すみやか、てばやき
いちはし 市橋(氏)
いちばん 一番、第一、いちばん
いちばんのり 先登、戦争の時第一に敵陣に切込む事
いちにんたうせん 一人當千、ひとりにてせんにんよあ
たる、一騎當千
いちべつ 一別、わかれ、別離(朋友などに云ふ)
いちべう 一秒、時計の一セコンド)
いちど 一度、ひとたび、一次、一回
いちどかはし 一度替、いちどがはり、かはりがはり
いちどう(名副) 一同、みなみな、ことごとく、みな
いちち 伊地知(氏)
いちちつ 一帙、ひとまき、一部、書籍にいふ
いちぢやう[する] 一定、いつてい、きままる、さだまる
いちぢん 一陣、ひとしきり(雨風に云ふ)
いちり 一理、ひとつのことわり
いちり 一里、三十六丁と一里とす
いちりよ 一族、軍隊五百人を一族と云ふ
いちりつ 一律、ひとつてうし(萬篇一律など言ひて變化
またしきと謂ふ詞)
いちりづか(名) 一里塚、里塚、封塚(里敷をしめす物)
いちりう 一流、ひとながれ、ひとば(一派)
いちりやう 一兩、貨幣並に量目四匁に用ふる詞
いちりやう 一輛、車を數へる詞、くるまひとつ
いちりやう 一領、衣服鎧等と數へる詞、きものひとつ
いちりやう[ば] 一兩、輩、ひとよりふたり、二三人
いちりふ 一粒、ひとつぶ

いちれん 一聯(詩の對句などをいふ)、ひとつら、一連、ひ
とつづき
いちぞく 一族、やから、けんぞく
いちぞん 一存、おのれ、ひとりのかんがへ、一己之思慮
いちづ(名) 一途、ひとすぢ、ひたすら
いちねんこう(名) 一捻紅、牡丹の異名
いちねんはぎめ副 隔年、間歲、いちねんおき
いちらん 一覽、一見、ひとたびみる、ちよつとみる
いちう 一字、家を數ふる詞、いつけん、ひとつのいへ
いちう(名) 意衷、こころのうち、心中
いちう(名) 一する(自) 移住、すまひがへ、うつりすむ(他國
などに)
いちのはさま 一狭間、一迫戸(城壁の外垣を云ふ)
いちのがは 市野川(氏)
いちのかみ 市正、町奉行、府知事、いちのつかさ
いちのやれり(名) 櫛屋織(織物の名)
いちのき 櫛木(氏)
いちのみや 一宮、一國中第一等の神宮をいふ
いちのみと 一人、(舞關太政大臣などを指して云ふ)
いちのひと 市人、町人、市僧、さちあきうと
いちぐ 一具、ひとそろへ
いちくわん 一卷、ひとまき(書冊にいふ)
いちくら(名) 肆、廊、みせ、あきなひみせ、店舗
いちぐう 一隅、ひとすみ
いちぐん 一軍、ひといくさ、一隊、兵士の、ひとぐみ
いちぐん 一郡、ひととほり、こほりぢう
いちや 一夜、ひとよ、ひとばん

いちやくつく(俗)目 狎戯、ちやらつく、べたつく(婦女の
 妓態よりよ)
 いちやづけ(名) 宿漬、ひとよづけのつけもの
 いちやう(名) 倚聴、たちぎき
 むぢやう(名) 遺状、ゆむじやう、のこしぶみ(死人の)かき
 ねきぶみ
 いちやうらいふく 一陽來復(十月に陽氣のかへる事)
 いちやくさう(名) 鹿蹄草(植物)
 いちまい 一枚、ひとひら紙板など。一葉(書籍の)
 いちまいたき(形) 一枚措、隔葉、いちまいとび
 いちまち(名) 市町、まち
 いちまた 一萬田(氏)
 いちまつ(名) 間格、べんけいがた(格子じまの如き模様)
 いちまう 一毛、けひとすぢ、一髪
 いちまん 一萬、十千を萬といふ
 いちげれいん 一氏量目(一厘六毛強を云ふ)
 いちげつ 一月、正月、むつき(第一の月)
 いちげさう(名) 雙瓶梅、いちりんさう(植物)
 いちげんきん 一絃琴、須磨琴を云ふ、絃一本のみ
 いちぶ 一分、尺度の名にて一寸の十分一。舊貨幣の名(四
 朱)
 いちぶ 一部、一帙、ひとまさ。一部分
 いちぶしじう 一部始終、始末、顛末、このもどすゑ
 いちぶん 一分、ひとつのわかち
 いちこ(名) 巫女、みこ、あがたみこ、降巫、降魂、梓巫(あづさ
 みこ、又くちよせをんな)
 いちご(名) 覆盆子、欝盆、莓、さいちご(植物)

いちこく 一斛、一石、升目の名、即ち十斗をいふ

いちごまめ(名) 荳(植物)
 いちごふ 一切佛書に言ふ所の年代の一紀、一カルバ
 いちごん 一言、ひとこと
 いちでう 一條、一件、ことがらひとくだり
 いちでうてんわう 一條天皇(人皇第六十六代の帝)
 いちでふ 一疊、ひとかさね。一帖、ひとをり(紙など)
 いちでし 一弟子、高弟、いちばんでし。高足、上足(第一の
 門徒)
 いちわく 一握、ひとにぎり
 いちわし 逸足、疾足、はやあし
 いちぎ 一座(一處に坐する人々)。また夥黨、なかま、くみ
 (藝人などの)
 いちざつ 一撮、ひとつまみ(少きを謂ふ)
 いちきたな(俗)形 好食、ものくひたがる
 いちぎやう 一行、ひととくだり(文字の)
 いちぎやうれき(形) 間行、隔行、ひととくだりおき、いちぎ
 やうとび
 いちめ(名) 市女、ものうるをんな、をんなあきうと
 いちめい(名) 一命、わがいのち、生命
 いちめる(俗)他 磨難、折磨、囉唆、なやます、くるしめる
 いちめがさ(名) 市女笠、市女のかぶる中高き笠の名
 いちめん 一面、ひとかゝもて。また全體、そうたい
 いちみ(名) 一味、なかま、みかた、黨類
 いちし(名) 羊蹄、うしのした、しのね(植物)
 いちじ 一寺、ひとつてら、一箇寺
 いちじ 一事、ひとこと

いちじるしき(或いちしるき)(形) 著、掲然、掲焉、炳然、著
 明、いやりこ、めだつ
 いちじよう 一乗、車を數へる詞、くるまひとつ
 いちじつさんしう 一日三秋(長く思ふ時間を形容する
 詞)
 いちじく(名) 無花菓(花なくして直に菓の出来る木また
 其菓、映日菓(植物))
 いちじふ 一汁、しるひとつ(食事に云ふ)
 いちじせんきん 一字千金、文字の貴き體
 いちじん 一尋、一仞、ひとひら
 いちねふ 一葉、一枚、ひとひと書籍にいふ。また一艘(船
 の)
 いちねふらん(名) 一葉蘭、はらん(植物)
 いちえん 一圓、金子の名。また全體の事を謂ふ
 いちび(名) 蒭麻、さりあさ、白麻(植物)
 いちび(名) 赤檮、迹見氏、聖徳太子の舎人
 いちび 一尾、いつびき(魚、いふ)
 いちびと(名) 市人、市郭兒、あきうと、市僧
 いちびがら(名) 蒭幹、いちびのから、焚きて火絨(はくち)
 製する物)
 いちびぐさ(名) 補骨脂、はこし(植物)
 いちびめ(名) 市姫、市を守護する女神
 いちもつ 逸物(鷹犬馬等の偏強なるを云ふ)
 いちもくれうせん 一目瞭然、ひとめよてあきらか
 いちもくぶん(俗)副 一目散、ひとまき、いつしやうけん
 め
 いちもん 一文、文字ひとつ。又は一厘の十分一)

いちもん 一門、ひとつやから、一族、親戚縁者しんるぬ
 いちもんふつう 一文不通(文字を少しもしらぬをいふ)
 無學、めがみぬぬ

いちもんめ 一匁、量目の名、もんめをみよ
 いちせ 一畝、田地よいふ所三十歩にあたる
 いちせん 一膳、一杯、飯にいふ
 いり(名) 入、いること。いりたか(容積)
 いり(名) 委吏、くらやくにん
 いりほが(形) 回曲、ふさはぬ
 いりとり(名) 熬鳥(料理の名)、いりたるとり
 いりちがふ(自) 入違、錯簡、顛倒、いりまちがふ
 いりか(名) 入費、出費、いりめ、つひね
 いりかはる(自) 入代、交代、交迭、かはりてをる
 いりがはら(名) 砂堀、はうろく、ものいるつちがはらけ
 いりがね(名) 入金、入銀、はいるかね、まうけ
 いりかさ 入嵩、いりだか、とりだか
 いりよう(俗)名形 入用、必要、又かかり、失費
 むりようさい(名) 委陵菜、かはらさい(植物)
 むりよく(名) 威力、威勢
 むりつ(する)自 罎立、よだつ、さかだつ
 いりつける(他) 熬着(食物を油等にて)
 いりなべ(名) 熬鍋、ものを熬るなべ
 いりむこ(名) 入婿、入夫、入贅、贅婿、接脚夫、相續女子の家
 に聲となりて入る人)
 いりう 夷隆、たひらか及たかさ
 いりうと(名) 入人、いりむこ
 いりうみ(名) 入海、内海、曲海、灣、いりね

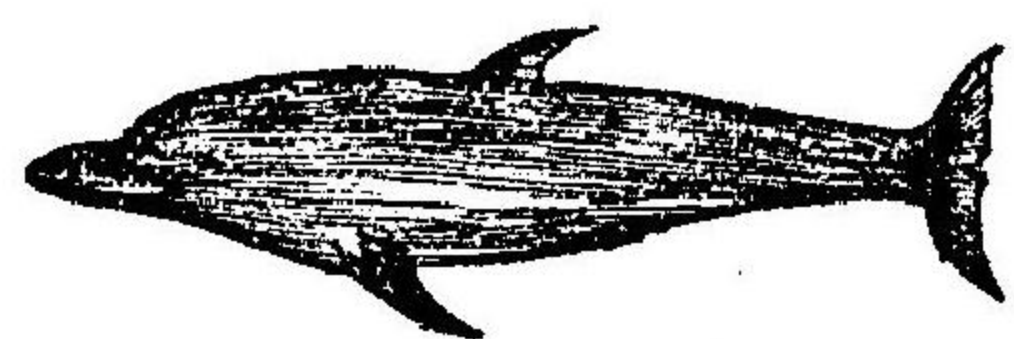
いりくち(名) 入口、はいるところ、かど、かどくち、門口
 いりくむ(自) 複雑、ひととほりならぬ、盤錯、錯踪、いりま
 じる、縹粉、紛綸、紛紜、いりみだれる
 いりまめ(名) 炒豆、いりたるまめ
 いりまじる(自) 紛錯、交錯、混雑、さまざまにまじる
 いりこ(名) 熬海鼠、乾海參、ほしなまこ(食物)
 いりこむ(自) 入込、來入、はいる、いりきたる
 いりこめ(名) 炒粳、熬米、炒米、やきこめ
 いりあひ(名) 薄暮、晚鐘、日没、落日、ゆふぐれ、ひくれ
 いりざかな(名) 熬肴、いりたるざかな
 いりきん(俗) 入金、いりがね、手に入る金
 いりみだれる(自) 入亂、紛亂、混淆、混雑、軋轉、こんざつす
 る、いりまじる
 いりじほ(名) 熬鹽、やきしほ、燒鹽(食物)
 いりね(名) 入江、灣、曲江、水灣、海が陸に深く入りたる者
 いりひ(名) 没日、落日、落暉、夕陽、斜陽、傾義、倒景、ゆふひ、
 れつるひ
 いりもの(名) 熬物、煎物、いりたるくひもの
 いりもみぢ(名) 濃紅葉、いろこさもみぢ、ひとしほあかさ
 もみぢ
 いりん(名) 弊倫(人倫の大道)
 いぬ(名) 犬、狗、地、羊、守門、侯、獵、鷹、(動物)
 いぬる(名) 乾、西北をいふ
 いぬる(名) 燈心草、ゆきさ、(植物)
 いぬるかぜ 厲風、西北の風をいふ
 いぬるたどり(名) 蛇齒草(植物)
 いぬばへ(名) 狗蠅、だに、いぬしらみ(動物)

いぬはり(名) 狗張子(小兒の枕邊に置て物怪を禦くと
 云ふ者にして今は専ら小兒の玩具とし、宮泰の時に
 は大抵之を携ふ)
 いぬはぎ(名) 胡枝子(植物)
 いぬはじり(名) 犬走、石垣と壕との間の狭き細道
 いぬはじかみ(名) 山薑、生薑の一種(植物)
 いぬほらうづき(名) 龍葵(植物)
 いぬとくさ(名) 麻黃、龍沙草、節節草、かつねくさ(植物)
 いぬる(自) 寢寐、ねる(ぬる、ねむる、就寝)
 いぬる(自形) 逝去、往、ゆく、さんぬる
 いぬれもの(名) 犬退物、射術の名、犬と退ている遊戲
 いぬれもだか(名) 狗澤瀉(植物)
 いぬわらび(名) 狗脊、扶節、せんまい、倒掛草、陰地蕨(植物)
 いぬからし(名) 山芥菜(植物)
 いぬかうじゆ(名) 風輪菜、筒牀(植物)
 いぬがや(名) 粗榧、へばがや(植物)
 いぬがみ(名) 犬神、いぬのみたまのかみ
 いぬがし(名) 春桂、紅桂(植物)
 いぬかひ 犬養、犬飼(氏)
 いぬかひばし 牽牛星、河鼓星、わたなばた、ひこばし、天漢
 にて織女と會すと云ふ星
 いぬよもぎ(名) 菴藺、きくよもぎ(植物)
 いぬたか 黃荑、遊獵に言ふ詞、よて黃犬蒼鷹と云ふ事
 いぬたら(名) 椿榎、虎目樹(植物)
 いぬたで(名) 水蓼、澤蓼、荭(植物)
 いぬそらまめ(名) 翹搖、搖草、野蠶豆、野豌豆(植物)
 いぬつか 犬塚(氏)

いぬつけ(名) 柞奴(植物)
 いぬなづな(名) 葦薙、にがな、狗薙、葦薙(植物)
 いぬのはなひげ 馬薙、藪精草の一種、はしくさ(植物)
 いぬのらまめ(名) 蠶豆のなる菜(植物)
 いぬのこ 狗子、犬兒、狛、いぬころ、ぶのころ、こいぬ
 いぬく(他) 射貫、いとほし、矢等を以て
 いぬぐ(名) 渡蔬(植物)
 いぬく(名) 闘犬、いぬをくひあはせるわざ
 いぬぐす(名) 銅吻、大陰草、のくす、治葛(植物)
 いぬやへなり(名) 鹿藿、いぬふんどう、野綠豆(植物)
 いぬまさ(名) 羅漢松(植物)
 いぬふな(名) 山毛櫸(植物)
 いぬふぐり(名) 婆娑納(植物)
 いぬふせき(名) 狗防、猪欄、いぬよけ
 いぬぶ(名) 岐路、痛座、しこり
 いぬころ(名) 犬兒、狛、ぶのころ(動物)
 いぬさくら(名) 犬櫻(植物)
 いぬさんせう(名) 狗山椒、豈椒、狗椒、猪椒(植物)
 いぬきはだ(名) 小葉(植物)
 いぬしろね(名) 地瓜、早苗の一種、しろね(植物)
 いぬじに(名) 犬死、徒死、いたづらじに、むだじに
 いぬじにん 犬神人、つるめさう(祇園使、令卑賤者の稱)
 いぬしらみ(名) 狗蠅、だに(動物)
 いぬしゆろちく 樸竹(植物)
 いぬえんじゆ(名) 櫻槐(植物)
 いぬびは 天仙菓、こいちじく(植物)
 いぬびと 隼人、はやと

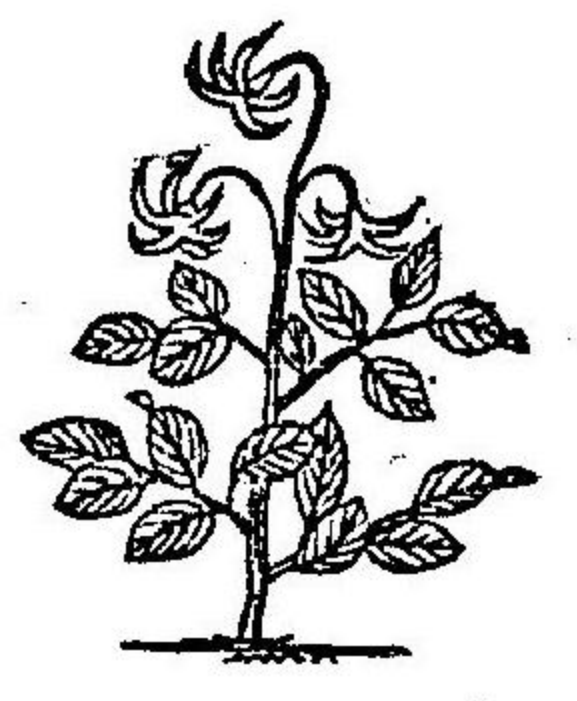
いぬびに(名) 狼尾草、宿田翁、狼、はぐさ、狼荑(植物)
 いぬせうま(名) 竹麻(植物)
 いぬせんまい(名) 毛蕨(植物)
 いぬ(自) 入、はいる
 いぬ(他) 鑄(金屬を鑄して物を作る)
 いぬ(他) 射、弋、はなつ(矢を)
 いぬ(他) 煎、熬、炒(食物等を鍋の類にて焼くを謂ふ)
 いぬ(自) 居、をる(住する)、ある
 いぬ(他) 異類、ことなるたぐひ、異物(別種の物)
 いぬ(俗) 衣類、きもの、きるもの
 いぬ(名) 遺類、のこれるもの、子遺
 いぬ(名) 海豚、魚、江豚、鰐、鰐、鮪、鯨
 屬の一にて胎生の魚なり)
 いぬ(他) 忽、忽、諸、輕忽、輕翠
 いぬ(他) 魚、うを、さかな、うろこづ
 いぬ(他) 魚、うを、さかな、うろこづ
 いぬ(他) 射、落、いて、たらしむる(鳥等
 を矢にて)
 いぬ(他) 伊織(氏)
 いぬ(他) 釣、父、漁、翁、うをつるひと、
 つりし、又つること
 いぬ(他) 魚、鬮、者、鮮、戸、魚、商、うを、うり、さかな、うりし
 いぬ(他) 魚、腸、さかな、のはらわた
 いぬ(他) 魚、目、疵、眼、眩、目、蹠、に、生、ず、る、堅、き、豆
 いぬ(他) 魚、目、疵、眼、眩、目、蹠、に、生、ず、る、堅、き、豆
 いぬ(他) 寢、安、安んじて眠らるるをいふ)
 いぬ(他) 寢、安、安んじて眠らるるをいふ)
 いぬ(他) 寢、安、安んじて眠らるるをいふ)

(圖のかるい)



いをすみ 魚住(氏)
 いわう(名) 硫黄、青礬砂、ゆわら
 いわう 以往、いさ、すぎにしかた
 いわうばな(名) 硫黄花、ゆばな
 いわうがしま 硫黄島、薩摩島の沖の小島をいふ
 いわうの 醫王野(氏)
 いわうやま(名) 硫黄、ゆわらのでるやま
 いわうせんせい 醫王善進、藥師佛を云ふ
 いわし(名) 鱒、鰻魚(動物)
 いか(名) 紙、鷺たこ、いかのほり、風鳶(玩具)
 いか(名) 鳥賊、鰻魚、鰻、墨魚、含墨魚(動物)
 いか(名) 衣架、みそかけ、きものかけ、衣桁
 いか(名) 五十(氏)
 いか(名) 刺球、毛毬、栗頭(栗等の實の針毛殻)
 いか(名) 伊賀(東海道の國名)
 いかい(名) 醫戒、いしやのいましめがき
 いかい(名) 願解、れとがひととく、あごをはづす、ねは
 わらひする
 いかい(俗形) 大、ねはきい、ふと、い、でかい
 むかい(名) 位階、くらゐ(正一位より従八位までの等級あり)
 むかい(名) 遺誡、のこせるいましめ(死者の)
 むがい(名) 遺骸、しかばね、しまがら、なきがら、
 いかに(副) 如何、若何、云何、奈何、いかが、なまやうに、ど
 う
 いかにも 如何、いかにしても、どうも
 いかほど 如何程、なにはど

(圖の草 礎)



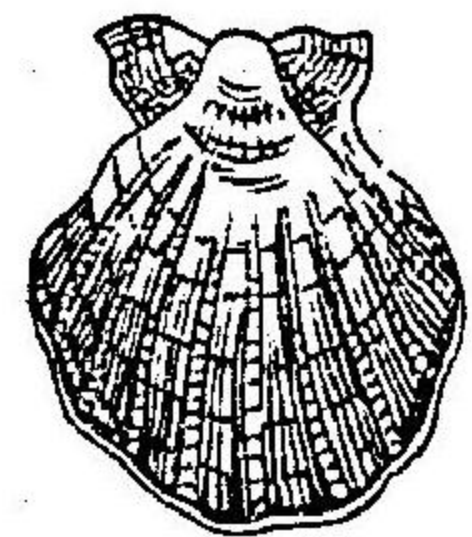
いかへす(他) 射反矢をいてかへす
 いかり(名) 怒、怒憤恨、悲憤、はらたち、いきどほり、ね
 こり
 いかり(名) 錨、鉄錨、船止め置く爲に投する鐵具、いし
 かり、礎
 むかり 井符(氏)
 いかりがましき(俗形) 怒箇間敷、はらたらしき
 いかりづな(名) 錨、いかりなは、錨鎖
 いかりうを 渡父魚、杜父魚、うしぬすびと、かくぶつ、伏念
 魚、船釘魚(動物)
 いかりさう(名) 礎草、淫羊藿、
 やまどりくさ、黃徳祖(植物)
 いかる(名) 桑鷹(動物)
 いかる(自) 怒、怒、怒、憤、憤、憤、怒、
 怒、怒、怒、はらたつ、いさと
 はる
 いかるが 斑鳩、つちくれればと、
 ままめはし、鵝、鵝、鵝、鵝(動物)、また地名(大和國平群
 郡と播磨國揖東郡にあり)
 いか(副) 若何、如何、奈何、いかに、なにかやう
 いか(名) はしき(形) 如何敷、うたがはしき、あてよならぬ
 いかた(名) 射法、ゆみいるしかた
 いかた(名) 鎔金銀銅鐵、型土、模木、範竹、いこむかた
 (物を鑄こむ器) 模型、模
 いかた(名) 梓、筏、解、解、解、解(木材を編て水に浮ぶる者)
 いかたや(名) 鎔工、いものし
 いかたし(名) 筏師、いかたづくり

いかつ(俗形) 雄、退、むばり、がはなる、ぎすきすする
 いかづち(名) 雷、なるかみ、雷公、雷霆、かみなり
 いかな(名) 玉筋魚(動物)
 いからせる 令怒、使激、はらたさせる、ねこらせる、又そび
 やかす、うへにあげる(肩を、又うごかす、ふくらす)(鼻
 を)
 いがむ(自) 哮喘、うなる、哇、犬猫等が怒れる時又は交る
 時
 いがむ(自) 曲、ゆがむ、歪、まがる
 いかう(名) 衣桁、みそかけ、衣架、きものかけ
 いかう 以降、以降、このかた、以來
 いかう(名) 意向、こころむき、志
 いかう 遊行、よきれたこなひ、德行
 むかう(名) 遺稿、のこしたるかきもの(死人の)、遺文
 いかう 飯河、いひかは(氏)
 いかのぼり(名) 鳥賊、紙鳶、風巾、鵝老紙、風鳶、たこ(小童
 が風に飛ばす玩具)
 いかのかふ(名) 鳥賊甲、いかにせな
 いか(名) 醫學、病氣療治の學問
 いか(名) 醫學、病氣療治の學問
 いか(名) 醫學、病氣療治の學問
 いか(名) 醫學、病氣療治の學問
 いかやう(俗形) 如何様、なにやう、いかなる、いかに
 いかけ(名) 沃懸地、漆器に金銀の箔をねきたる者
 いかける(他) 鑄補、いてれぎなふ(鍋釜等を)
 いかけし(名) 補鑄師、補鑄匠(鉛屋)、いかけや、なべかまな
 ほし
 いかで(副) 爭、那、如何、何、いかにして、どうして
 いがさ(名) 蒲笠、むにてつくれるかさ

いがか(名) 飯糰、飯糰、ざる、箸、
 いがか(名) 瑞籬、みづがき、たまがき(神宮の垣也)
 いかめしき(形) 巍然、ねごそか、屹然、巖然
 いかし(名) 茂穂、よくみのれるほ
 いかひ(名) 淡菜、東海夫人、いのかひ(動物)
 むかひ 猪飼(氏)
 いかものつくり(名) 噉物作、にせものつくり、又いかめし
 きつくりもの(刀劍にいふ)
 いかものぐひ(名) 如何物、吃、噉物、食、やたらにものくふこ
 と、又いふ
 いかものすき(名) 異嗜、かはりものすき、奇癖
 いかす(他) 令活、いきこむる、使生存ながらへさする
 いかん(名) 衣竿、かけざを、きものほすさを
 いかん 如何、奈何、若何、云何、いかにの音便
 むかん(名) 胃腸、ののはれもの(胃中に生ずる癩の類)
 むかん(名) 遺骸、くちをしさ、うらみ、のこりをしさ、残念
 いよ 伊豫(南海道の國名)
 いよ(自) 彌、愈、ますますいごと、終、つひに「俗用」
 いよかつら(名) 白前(植物)
 いよたつ(自) 彌立、さかだつ、よだつ(毛などを)
 いよう 異容、かはりたるすがた、かはりよう
 いよやか(形) 轟轟、森然、そびわたる、たからかなる
 いよめ(名) 鷓鴣、には、かいつぶり(鵝、動物)
 いた(名) 板(木を薄く鋸にてひきたる者)、ひきわりき、版
 (版木の)
 むだ 井田(氏)
 いたい(名) 衣帶、しやうたい

いたい 異體 ことなるかたち
 いたいたしき(形) 痛痛敷いたましき、あはれげなる
 いたいけ(名) 幼氣雅幼、わかさ。また最愛氣、かわいらし
 いたはり(名) 煩疾、いたつき、わづらひ
 いたはる(他) 撫恤、勞慰、補助、ねぎらふ
 いたばめ(名) 板壁、はめいた
 いたばし(名) 板橋(木板作りの橋)
 いたはしき(形) 悼敷、恚哀、あはれむべき、かわいさうな
 いたべい(名) 板屏、板塀、木板作りの牆、いただき
 いたべをか 板部岡(氏)
 いたぎ(名) 板戸(木の戸といふ)
 いたどり(名) 虎杖、酸模草、武杖(植物)
 いたち(名) 蚰、鼯、鼯、黃鼠、鼠狼(動物)
 いたちはトカミ(名) 蔓椒、いぬさんせう(植物)
 いたちう(名) 油身魚(動物)
 いたちう(名) 連翹、連喬(植物)
 いたちう(名) 草決明、馬蹄決明(植物)
 いたりや 以太利亞(歐羅巴洲中の國、其首府を羅馬とい
 ふ)
 いたる(自) 至、到、格、届、逮、弔、迄、造、臻、詣、抵、極、追、達、きた
 る。どくとく、つく
 いたわり(名) 板割、ひきわりいた
 いたがね(名) 板金、鍍金、銀のくいた
 いたがこひ(名) 板圖、いたがき(板垣)
 いたがき 板垣(氏)
 いたがみ(名) 板紙、あつさかみいた

いたやがひ(名) 板屋、貝、海翁、榮
 螺、花蛤、文蛤、まだらがひ(肉
 美として食ふに宜し)
 いたましき(形) 傷敷、痛敷、切
 但、傷悲、痛、あはれなる
 むたけだか(形) 居長高(つと立
 ちあがりたる貌)
 いたふだ(名) 板札、いたのかきふだ、方策
 いたふす(他) 射斃、射倒、いころばす、いころす
 いたご(名) 板子(船板を云ふ)
 いたごし(名) 腰輿のりもの(貴人の旅行等に用ふる者)
 いたごんがう(名) 板金剛、げた、或さうり
 いたで(名) 痛手、深城、傷手、深傷、重傷、れもさす
 いたてる(他) 射立、つづける(矢を)
 むだてん(名) 韋駄天(佛法守護神の名)
 いたき(形) 痛傷、疼、いたむ
 いたきつく(自) 抱着、抱附、とりつく(人に)
 いため(名) 板目、板理、いたのすぢめ
 いためがは(名) 醜皮、革、撓皮、あめしがは、柔皮、つくりが
 は
 いたみ 伊丹氏(又地名)
 いたみ(名) 疼痛、ひびらき、ひりつき、痠痛、哀悼
 いたみいる(俗) 自) 痛入、れそれいる
 いたみのうた 挽歌、哀傷歌、送葬歌、とむらひうた(送葬の
 歌) 薙露歌
 いたみのし 挽詩(送葬の支那詩)
 いたしき(名) 板敷、いたのま



(圖のひがやたい)

いただたみ(名) 板疊、いたたき(床の上の)
 いたたく(他) 戴、頂戴のせる(頭に)。うける(上より)
 いただき(名) 頂頂、顛、顛、かしら(人身にいふ)
 いただき(名) 巖、岩、嶮、嶮、をのへ、みね(以上山に謂ふ)
 絶頂てつべん
 むだつ(名) 遺脱、遺瀉、わち、もれ
 いたづら(形) 徒、無益、虚、むなしき、やくにたたぬ
 いたづらもの(名) 徒者、てんがうかくもの、戲謔者、また
 淫奔女、みだらなるをんな
 いたづく(動) 勞、こころをらうとる、こころづかひする
 いたつき(名) 疾病、やまひ、所勞、病苦、病惱、病痾、また煩勞
 わづらひ
 いたづき(名) 平題、箭、衝、鏑、射の箭の根にて鏃の鋭から
 すまるき者
 いたむ(自) 悼傷、哀悼、惆悵、惻隱、悽愴、慘愴、哀戚、慟哭、弔
 惆戚戚、かなしむ、なげく
 いたむ(自) 痛、疼痛、いたくある
 いたう(名) 醫道、いしやのみち、醫術
 いたのま(名) 板間、いたのゆか(板床)
 むたく(俗) 名) 居室、すまひ
 むたく(名) 一する(他) 委托、たのむこと。まかせる、ゆだね
 る
 いたく(他) 懷、抱、擁、かかへる
 いたくよふ 泥醉、沈醉、渾醉、酣醉、酩酊、爛醉
 いたくなく 痛哭、慟哭、太泣、なげく
 いたくら 板倉(氏)
 いたや(名) 板屋、いたたきといふ

いたねん(名) 板櫃、いたたきのねんがは
 いたひかづら(名) 薜荔(植物)
 いたびさし(名) 板庇、いたづくりのひさし
 いたす(他) 致、爲、する、なす、つくす
 いたん(名) 異端、異說、邪說、外道、よこしまのみち
 むたん(する) 自) 畏懼、れそればかる
 いたい(名) 衣領(いりやう)、ころも
 むれい(名) 威靈、いきほひ、威德、神君等の)
 むれい(名) 違例、不例、不悞、帝王等の病氣に云ふ)
 むれいせん(名) 威靈仙(植物)
 いたば(名) 入齒、種齒、假齒、義齒、補齒、つくりば、こしらへ
 ば
 いたばくろ(名) 入黒子、筒青、刺黒子
 いたちがふ(他) 入違、誤置、あやまりいれる
 いたちがひ(名) 入違、誤置、あやまりいれること
 いたる(他) 入、なかまねく、又いらしむる。容、うけいれる、
 ゆるそ、納、とる、をさめる
 いたかへる(他) 入代、入替、入換、かへていれる
 いたがみ(名) 鬢、假髮、かもと、いれげ
 むれつ(名) 偉烈、たはしいなるてがら、大功
 いたう(名) 醫療、療治、やまひいやすわざ
 いたませる(他) 入混、混淆、まじへいれる
 いたふだ(名) 入札、投票、買物、或は撰擧、なごに己れの意と
 書きて出す札、また然かする事
 いたこ(名) 入子(重箱等の)、くみあはするはこ
 いたことば(名) 挿詞、挿話、挿入語、はさみことば(文章の
 中に入れる)

いれこめる(他) 入籠、なかみいれる
 いれこざら(名) 碟子、くみあふさら
 いれめ(名) 假眼、假睡、つくりまなこ、こしらへめ
 いれもの(名) 入物、容器、ものいれるうつは
 いれもじ(名) 入文字(詩歌等の中に隠伏せしむる文字を云ふ)
 いれずみ(名) 鯨墨刑(肉皮に墨を刺す刑罰)
 いそ 五十、ごじふ(古語)
 いそ(名) 磯、磯、海濱、さし、うみばた
 むそ(名) 蝟鼠、けはりねずみ(動物)「其圖は蝟の下み出せり」
 いそいそ(形) 勇勇、忻然、うきうき、はきはき(氣のひきたつ貌)
 いそはなび(名) 石菘菘、いそまつ(植物)
 いそべ(名) 磯邊、さしべ、海岸
 いそがはしき(形) 忙多忙、倥傯、憤悶、忙忽、擾劇、紛違、雜
 選、いそまなき、ここれほき、ひまなき
 いそな(或いそなぐさ)(名) 磯菜、海邊に生ふる草(植物)
 いその 磯野(氏)
 いそぐ(自) 急はやる、疾行、ばやくわるく
 むぞく(名) 遺囑、遺言、ゆるごん
 むぞく(名) 遺俗(昔の風俗の残れる者)
 むぞく(名) 遺族(死者の遺れる親族をいふ)
 いそや 磯谷(氏)
 いそま(名) 磯間、うみべ
 いそまつ(名) 磯松、いそはなび、石菘菘(植物)
 いそふ(自他) 競、きそふ、あらしふ、争、また叱、しかる、詞

いそさんせう(名) 石生(植物)
 いそきんちやく(名) 菟葵希(植物)
 いそじ 五十歳、五十年(古語)
 いそしく(副) 懇切、ねんごろに
 いそひば(名) 石柏(植物)
 いぞん(俗) 異存、異見、ことなるかんがへ
 いつ(副) 何時、なんとき
 いつ(名形) 一壺、いち、ひとつ
 いづ 伊豆、東海道の國名
 いづ(名) 稜威、威光(神及び朝廷の御威光を云ふ、みいづ、尊嚴)
 むづ(名) 槭(植物)
 いつゐ 一圍、ひとかかへ(木等の大きさをいふ)
 いついろ 五色、青黄赤白黒を云ふ
 いついう(名) 逸遊、あそび、宴樂、逸樂
 いつば 一派、一宗、一流、ひとわかれ
 いつば 逸馬、とぎうま、はやうま、駿馬、駿足、真馬、龍馬、はしりうま(動物)
 いつばい 一敗、ひとやぶれ
 いつばい 一杯、ひとさかづき、又トふぶん
 いつはり(名) 僞、詭譎、詐僞、欺計、虚偽、伴
 いつはりたはれ(名) 伴狂、そらさちがひ、えせさちがひ
 いつはりごと(名) 虚言、妄語、うそ、詐僞、兩舌、妄誕、虚妄、虚誕
 いつはる(自) 僞、うそをつく、詐、いつはりいふ
 いつばう 一方、ひとかた
 いつばう 一抱、ひとかかへ、一圍

いっばう 一苞、ひとつと
 いっばのまつ(名) 五葉松、ごえんのまつ(植物)
 いっばく 一泊、一宿、ひととまり、ひとやどり
 いっばん 一斑、一部、ねはよそ
 いっばん 一半、なかば、半分
 いっばん 一般、ひとどほり、また惣體なべて
 いっばん 一飯、一食、一度の食
 いっば 一步、ひとあし
 いっばん 一品、親王の位階の第一
 いっばん 一本、ひともと、長者を數る詞
 いっばんばし(名) 獨木橋、まるさばし
 いっばんだち 一本立、ひとりだつ、孤立、獨立
 いっべ(名) 齋食、いはひべ
 いっぺい 一柄、鎗長刀、又は太鼓等を數ふる詞
 いっぺら 一俵、ひとたわら
 いっぺら 一鏢、ひとたまひ
 いっぺら 五重扇、貴婦人の用ふる者
 いっぺん 一變、ひとかはり
 いっぺん 一遍、偏ひとどほり
 いっぺん 一片、ひとひら(紙布心等に云ふ)
 いっぺん 一篇、ひとくさり(文章をいふ)
 いつとなく 無何時、いつしか
 いつとら 一刀、ひとかたな、ひとたち
 いつとら(或いつと) 一斗、一升、をいふ、升目の名
 いつとら 一頭、ひとかしら(獸を數ふる詞)、一匹
 いつとら 一等、第一なるを謂ふ
 いつとら「ちよ」 一統、ひとつよすべる

いつとらりやうだん 一刀兩斷(斷然相決するを形容する詞)
 いつとらさんれい 一刀三禮(佛像の彫刻に云ふ詞、即一刀をいれては三度禮拜するといふ)
 いつとでも 雖何時、なんとき、にても
 いつとどき(俗) 一時、ひととき、時間、一刻
 いつち(名) 一する(自) 一致、ひとつになること、ひとつよあふ
 いつち「俗」 最、もつとも(田舎語)
 いづち 何地、何處、いづこ何方、いづかた
 いつちつ 一帙、ひとつつみ(書籍一部をいふ)
 いつちうぶし(名) 一巾節、歌曲の一派の名
 いつちやう 一張、ひとはり(提燈等を數ふる云ふ)
 いつちやう 一頂、ひとつ(袈裟座具等を數るに云ふ)
 いつちやう 一町、ひとまち
 いつちやう 一丁(六十間をいふ)、又ひとつち
 いつちやう 一艇(墨蠟燭等を數ふる云ふ)
 いつちやひ 一茶匙、量目、一匁と云ふ
 いつりう 一旒、ひとながれ(旗をいふ)
 いづる(自) 出、でる、顯來、あらはれる
 いつか 五日
 いつか 一荷、ひとになひ、ひとに
 いつか 一家、ひといへ、一家内、全家、いへぢう
 いつか 何時、いつしか、早晩、はやかれれ、そかれ
 いつか 一箇、ひとつとつ
 いつかい 一介、すこし
 いつかい 一階(家屋の一層又は等級に云ふ)

いつかい 一蓋笠を敷ふるに云ふ
 いつかど〔俗〕形副 一稜、一廉、れきれき、いやしからぬ
 いづかた 何方、いづく、どこ、いづち
 いつかう 一行、くみなかま同行、つれだつひと
 いつかう〔副形〕 一向、まつたく、つやつや、ひとむき
 いつがう 一毫、ひとすぢ(毛髪の)
 いつかうしう 一向宗、浄土真宗をいふ、阿徒宗
 いつかけ(名) 塗掛、ながし(金銀の)
 いつかじよ 一箇所、ひとところ
 いつかじよ 一箇張、一貫張、かみはりぬき、かみはりう
 つは
 いつよ〔する〕自 逸豫、たのしみ、逸樂
 いつたい 一隊、ひとくみ(兵士等にいふ)
 いつたい 一體、ひとつからだ。又副(全體、そうたい)
 いつたい 一帯、ひとそぢ(地などに云ふ)
 いつたう(形) 佚蕩、放逸、ほしほしま、わがまま
 いつたうしゆはん 一筆、手半(筆桿に同ト一尺二寸と云ふ)
 いつたん〔副〕 一旦、ひとたび、いちど、かつて
 いつたん 逸彈、それだま、まぐれだま
 いつたんし 一彈指(瞬間をいふ)、またたくひま
 いづれ(代名詞) 何、那、孰、どちら、どれ、なに、甚麼、什麼、又
 不論爲何、なにもせよ
 いつれい 揖禮(いふれい)、あいさつ(支那人のする如き)
 いつそ〔俗〕副 寧、むしろ、かへつて
 いつそう 一層、一階(樓臺城櫓塔等の段階に云ふ)、又ひ
 とかさ、ひときは

いつそう 一憎(氏)
 いつそく 逸足(いちわし)をみよ
 いつそく 一足(足袋、沓等を敷ふるよ用ふる詞よして一
 對の義あり)
 いつそく 一則、一篇(文章にいふ)
 いつぞや〔副〕 日外、他日、さるころ、かつて、他時、異時
 いつそん 一尊、ひとつはとけ(佛像等を敷ふるに云ふ)
 いつそん 一村、ひとつむら、又ひとむら
 いつそん 一樽、ひとたる
 むづつ(名) 井筒、むどがは
 いつつい 一對、ひとくみ
 いつつかさねのきぬ 五重衣(十二單を云ふ)
 いつつう 一通、ひとつ(書狀等を敷へるに云ふ)
 いつつのをしへ 五教(君臣、父子、夫婦、昆弟、朋友の道を
 謂ふ)
 いつつのもじ 五文字(清、真、美、讀、吟の五婦徳をいふ、
 又をんな
 いつづけ(名) 居續、流連、あそびつづけ、かへらぬこと
 (娼家等に)
 いづな(名) 飯繩、眩人(小魔獸にて魔法師に使はるる者)
 いづなつかひ(名) 飯繩使(いづなつかひ)、役鬼者、幻
 術者
 いつらく(名) 逸樂、たのしみ、をどり、逸遊
 いつう 一羽、ひとは鳥の)
 むつう(名) 胃痛、むのふのいたみ
 いつく 一軀、一身、からだ
 いつく 一句、ひとつもんく

いつく(他) 齋、奉事、かしづく、あがめまつる、つかへる(古
 語)
 いつく 一口、ひとより(太刀、剃刀、鐘磬釜鍋等を敷ふるに
 云ふ)
 むつく(自) 居着、ぬさだまる、ぬすわる
 いづく 何處、どこ、いづれのところ
 いづくち 一俱、一拘致(俱、天竺語にして億と翻す
 其實は一〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇にちたる)
 いつくわ 一類、ひとつ(珠數等の)
 いつくわ(名) 一和、一致、やはらぎあふこと、協
 同
 いつくわ 一夥、ひとくみ(多くの人の)
 いつくわ〔する〕 一過、ひとたび(過ぎたる)
 いつくわ〔副〕 一回、ひとたび、一度、一次
 いつくわい 一塊、ひとかたま(土などの)
 いつくわい 一回忌、一周忌
 いつくわん 一管、ひとくだ(笛などを敷るに云ふ)
 いつくわん 一串、ひとさし、ひとくし
 いつくわん 一貫、ひとつら、ひとつらぬき(錢などの)、又
 十錢
 いつくわんめ 一貫、ひと千匁をいふ)
 いつくしむ(他) 愛、うつくしむ、あひする、かわいがる、あ
 はれむ
 いつくしき(形) 嚴れ、ごそか、いかめしき、りりしき、凜凜
 有威嚴
 いつくしき(形) 可愛、うつくしき、あいらしき、かわいら
 いつくしみ(名) 慈仁、あはれみ、恵、めぐみ、寵、恩、仁愛、慈

仁慈愛、恩愛、恩寵、恩惠、寵愛
 いづくん 一群、ひとむれ(人畜禽獸などの)
 いづくん(形) 逸群、ぬきんでたる、ひいでたる
 いづくん(副) 惡、安、焉、胡、奚、いかで、いかにぞ
 いつまで 何時迄、なんどきまで
 いつまで(名) 壁生草(植物)
 いつけ 一家、ひとついでへのもの、同宗、同族、ひとつやから
 いつけつ〔する〕自 一決、さだまる、きまる
 いつけつ〔する〕自 一結、ひとつにまとまる
 いつけん 一間(六尺をいふ)
 いつけん 一軒、ひとつ(家屋を敷るに云ふ)、一棟、ひとむ
 ね
 いつけん 一見、ひとめみること、一目
 いづぶち 出淵(氏)
 いづぶたさい 一夫多妻、男が同時に多くの妻をもつ事
 いづぶらう 一風流、一風人(異なる流義をいふ)
 いづぶく 一幅、一副、ひとつ(掛物等を敷るに云ふ)
 いづぶく(自) 一腹、一生、同腹の兄弟姉妹に謂ふ)
 いづこ 一箇、ひとつ、ひとり、一己
 いづこ(名) 佚娛、たのしみ、をどり
 いづこ 何處、那邊、いづく、いづち、どこ
 いづころ 何時頃、なんどきころ
 いづこく 一刻、かたとき(一時の半をいふ)、しばし
 いづこく 一國、ひとつのくよ、くにちう
 いづこくもの〔俗〕(名) 頑固者、かたくなもの、執拗者、粹
 ならぬ人)

いつこくせんきん 一刻千金(時刻の貴きといふ)
 いつこくせんじう 一刻千秋(待どはしきを謂ふ譬)
 いつこじん 一箇人、ひとりのひと
 いつこん 一獻、ひとさし酒杯にいふ
 いつてら[する]自他 一定、さだまる。さだむる
 いつてつ 一幟、ひとつみち、同様
 いつてつもの(名) 頑固漢、いつこくもの
 いつてう 一兆(萬億を兆といふ)
 いつてう(名) 乙鳥(つばめ(動物))
 いつてういつせき 一朝一夕、ひとあはひとゆふ(暫くの
 間を形容する文句)
 いつてふ 一貼、ひとつみ。ひとはり(藥膏藥等にいふ)
 いつてき 一滴、ひとたらし、ひとしづく
 いつても[俗] 於何時、なんどきでも
 いつてん 一天、そらいちめん
 いつてん 一點、ひとほし、ぼつちり
 いつてん 一纏、ひとまとひ、一團坐
 いつてんのきみ 天皇天下の主を謂ふ
 いつわく 一握、ひとにぎり
 いつさい 逸才、すぐれたるちえのひと
 いつさい(形副) 一切、すべて
 いつさいたふ 一妻多夫(女が夫を同時に多くもつ風)
 いつさいきやう 一切經佛經の全體
 いつさいしゆじやう 一切衆生、すべてのいきもの(佛語)
 いつさつ 一冊、ひととぎ、ひとつ(書籍を數るに云ふ)、一
 本
 いつさつ 一撮、ひとつまみ

いつさう 一雙、ひとつがひ(屏風を云ふ)
 いつさう 一壯、ひとひ(灸治を數ふるに云ふ)
 いつさう 一抓、ひとつかみ
 いつさくねん 一昨年、れととし
 いつさくじつ 一昨日、れとどひ、れとつひ
 いつさん 一盞、ひとさかづき、一杯、一屆
 いつさん[に]副 獸參、逸散(疾く奔馳する貌)
 いつさん 一山、ひとやま、やまぢう(寺にも適用す)
 いつき 一紀、十二年を云ふ
 いつき 一騎、ひとり(騎馬武者にいふ)
 いつき 一期、一年を云ふ
 いつき 一己、いつこ、ひとり
 いつき 一跬、一越、半歩をいふ
 いつき 一基、ひともと、塔婆石等をかぎふる詞
 いつき 一揆、土寇、土賊
 いつきわらは(名) 齋童(住吉の神事にあづかる童男)
 いつきかしづく(自) 齋冊、つかへる、奉仕
 いつきよ 一炬、ひとたいまつ等にいふ
 いつきよ[する]自 逸居、はたらかすして居るを云ふ、
 樂居
 いつきよ 一舉、ひとはたらき
 いつきよ 一筥、ひとばこ
 いつきよに副 一舉、ただちに、いちどよて
 いつきよう(名) 逸興、なぐさみ
 いつきよう 一興、ひとれもしろさ、ひとなぐさみ
 いつきよう 一拱、ひとかかへ、一圍
 いつきたうせん 一騎當千(一人にて多くの敵をわたる

いつきを云ふ
 いつきむすめ(名) 齋女、いはひこ、かみにつかへるをんな
 いつきをんなはふり
 いつきむすめ(名) 愛女、いつくしむすめ、かわいがるむ
 いつきむすめ
 いつきら 一弓、間敷歩尺に用ふる詞
 いつきらうち 一騎、單騎、戰騎
 いつきのみや(名) 齋宮(伊勢に在り、齋院(山城加茂に在
 り)、いつきのみこのすまひたまふみや。又いつきのみ
 こ(皇女が身を獻げて神前に事ふる者といふ)
 いつきのみこ(名) 齋王、いつきのみや、さいかう、さいる
 ん
 いつきく 一掬、ひとすくひ
 いつきやう 一頃、田百畝を頃と云ふ
 いつきやく 一脚、ひとつ(卓机床机を數ふる詞)
 いつきふ 一級、ひときだ、一階、一段
 いつきめ(名) 齋女、かみまつりするをんな、かみ又つかへ
 るをんな、とんなはふり
 いつきん 一鈞、量目三拾斤を云ふ
 いつきん 一斤、量目、日本は百六十匁、西洋は百二十匁
 いつゆ 一庾、十六斗を云ふ
 いつゆう(名形) 逸雄、はやりを
 いづみ(名) 泉、泉水、湧泉、しみづ
 いづみ 和泉、五畿内の國名
 いづみ(名) 籬竹器、よて小兒を息まじむる者
 いづみん(名) 逸民、隱者、いんとんじや、よすてびと
 いつし[する] 一視、ひとつにみる。又ひとめみる

いつし 一咫、八寸を咫と云ふ
 いつし 一紙、いちまいがみを云ふ
 いつし 一枝、ひとえだ
 いつし 一子、ひとりのこ、一男
 いつし 一師、二千五百人の軍兵をいへり
 いつし 一歳、ひととせ、肉にいふ
 いつし(名) 逸矢、それや、ながれや
 いつし 逸字、ぬけ、脱字
 いつしはんせん 一紙半錢(わづかの事をたどふる詞)
 いつしどうじん 一祝、同仁(誰彼の差別なく同ト様よめ
 ぐみあはれむを云ふ)
 いつしか(副) 何時、いつとなく、早晚
 いつしよ(形名) 一緒、ひととくるめ、ひとつもの
 いつしよ 一所、一處、ひとところ
 いつしよんぢう(形) 一所不住(家を定めぬを云ふ)、とこ
 ろさだめぬ(天下を家とする)
 いつしつ 一室、ひとへや、ひとま、ひといへ
 いつしう 一宗、一派、一宗派、ひとわかれ(教法の)
 いつしう 一週、ひとまはり、一七日、一周
 いつしう 一襲、ひとかさね(衣服にいふ)
 いつしうかん 一週間、ひとまはりのあひだ
 いつしうねん 一周年、としひとまはり
 いつしうき 一周忌、一年忌(人の死にて一年めの時をい
 ふ)
 いつしく 一宿、ひとやどり、一泊
 いつしや 一舍(支那にて三十五里を云ふ)、一日路(行軍
 の)

いっしやう 一生、生涯、よにわたるかぎり
 いっしやう 一章、書籍の一段落をいふ
 いっしやう 一唱、ひととをなへ
 いっしやう 一升、一合を十あはせたる者
 いっしやう 逸性、氣樂、のんき、さらくのたち
 いっしやうが い 生涯、いのちのかぎり、よにわたるかぎり
 いっしやうけんめい 一生懸命、いのちがけ、ちからをつ
 くして
 いっしやうふばん形 一生不犯(生涯交合せぬをいふ)
 いっしやうさんたん 一唱三嘆、ひとたびとなへみたび
 なげく(詩文章をほむる詞)
 いっしやく 一尺、ひとさし十寸をいふ
 いっしやく 一灼、ひとひ(一火)
 いっしやく 一勻、十抄をいふ
 いっしやく 一酌、ひとつき酒をいふ
 いっしやく 一色(氏)
 いっしやく 一首、ひととうた(歌一つ)
 いっしやく 一株、ひとかぶ
 いっしやく 一鉢、一朱に同じ六錢二厘五毛
 いっしやく 一種、ひとくさ、ひとつのだぐひ
 「いっしやく」 一手、ひとて
 いっしやく 一瞬、ひとまばたき
 いっしやく 一旬、十日を云ふ
 いっしやく 一新、舊をそとて新らしくするをいふ
 いっしやく 一心、ひとつこころ
 いっしやく 一身、ひとつみ、わがみ

いっしん 一尋、ひとひろ
 いっしん 逸人、世をさけて隠れたる人、逸士、いんし
 いっしんふらん 一心不亂、こりかたまりて、わきめもふ
 らず、ひとむき
 いっしん 一英、ひとふさ(花にいふ)
 いっしん(形) 汨越、ひかりかがやく貌
 いっしん(形) 汨道、はげしく流るる貌
 いっしん 一葉、ひとひら、ひとは
 いっしん 一ヒ、ひとそくひ、ひとさじ
 いっしん(名) 溢美、はめすぎ過譽
 いっしん 一匹、牛馬等の一箇をいふ、一疋(布帛二反を云
 ふ)
 いっしんこう(名) 一品紅、せうせう(植物)
 いっしん(副) 何時、居常、毎常、毎毎、毎度、つねに
 いっしん 出雲、山陰道の國名
 いっしん 乍、毎度、乍例
 いっしん 一畝、三十歩を云ふ
 いっしん 一世、一代、ひとよ
 いっしん「に」(副) 一齊、ひとしく、うちそろひて
 いっしん 一際、ひととを
 いっしん(副) 一世紀、一百年を云ふ
 いっしん(副) 一切、そこしも、一向、とんと、さらば
 いっしん 一説、あるはあし、ひとつ(のせつ)
 いっしん 一笑、ひとわらひ
 いっしん 一昔、ひとむかし
 いっしん 一石(圍碁のあそびに云ふ)

いっせき 一夕、ひとよ、いちや
 いっせん「する」 一洗、ひとあらひする
 いっせん 一戦、ひといくさ
 いっせん 一錢、十厘をいふ、又いちもんめ
 いっせん 一千、十百をいふ
 いっせん(自) 逸、にげさる、かけいだす(馬などの走りさ
 るを謂ふ)、又ひきたつ
 いっせん 一寸、ひととぎ十分をいふ
 いっせんばし「俗」(名) 侏儒、せびく、ひき、ちさこ
 いね(名) 稻、こめのなるくさ、しね、せちごめ、稌、嘉穀、嘉
 禾、嘉蔬(植物)
 いねばたけ(名) 稻畦、た(田)、いねつくろはたけ
 いねる(自) 寢寐、いぬる、ねる(床にいる或は臥するを謂
 ふ)
 いねかは(名) 秭、いなほ(稻穂)
 いねかり 稻刈、納稼、穫稻
 いねかぬる 難寐、ねられぬ、ねむられぬ
 いねかけ(名) 喬杆
 いねがてぬ 難寐、いねがたし(古語)
 いねつきむし(名) 蟻、蟻、蟻(動物)
 いねつきうた(名) 稻香歌(大嘗會などに稻をつくととき唱
 へし歌)
 いねつきこま(名) 蝦蟇、はたむし、蜚蟻、蟥蛄(動物)
 いねむり(名) 居眠、坐睡、坐寝、居睡、すわりながらねむる
 こと
 むねう「する」(他) 圍繞、めぐりかこむ
 むねう(名) 遺尿、いばりたれ、遺溺、ねせうべん、よつぱり

いねうちば(名) 打禾場、穀場、こくうちば
 いねん 意念、おもひ、こころ
 いねん(名) 遺念、おもひのこし
 いね 伊奈氏
 いな(名) 野魚、ぼらのこ、撥尾魚、鱒(動物)
 いな(副) 否、不、しからず、不諾、不肯
 いな 維那(氏)
 いない(副) 以内、これよりうち、このうち
 いなば 因幡、山陰道の國名
 いなば 稻葉(氏)
 いなば(名) 稻葉、いなむら(をみよ)
 いなば(名) 粟、排、禾穂、いねのは
 いなば(自) 居直、すわりなほる
 いなとみ 稻實(氏)
 いなり 稻荷、狐神、宇賀の御魂を祭る
 いなねはせどり(名) 稻負鳥、にはくなぶり(動物)
 いな(名) 田舎、ひな部、村落、郷村、むらざと
 いな(名) 田舎、ひな部、村落、郷村、むらざと
 いな(名) 村姫、いなかのとしよりをんな
 いな(名) 村翁、いなかのとしよりをんな
 いな(名) 村翁、いなかのとしよりをんな
 いな(名) 村翁、いなかのとしよりをんな
 いな(名) 田舎風、野様、ひなぶり、いなかざま
 いな(名) 田舎語、郷談、ひなことば
 いな(名) 村醜、野醜、いなかづくりのさけ
 いな(名) 稲垣(氏)
 いな(名) 村儒、村夫子、いなかがくしや
 いな(名) 田舎人、村裏人、田舎漢、鄙人、いなかうど、
 田夫、僮夫

いつしやう 一生生涯、よにあるかぎり
 いつしやう 一章書籍の一段落をいふ
 いつしやう 一唱ひととなへ
 いつしやう 一升(一合を十わはせたる者)
 いつしやう 逸性、氣樂、のんき、さらくのたち
 いつしやう 逸性、氣樂、のんき、さらくのたち
 いつしやうが い 一生、いのちのかぎり、よにあるかぎり
 いつしやうけんめい 一生懸命、いのちがけ、ちからをつ
 くして
 いつしやうふばん(形) 一生不犯(生涯交合せぬをいふ)
 いつしやうさんたん 一唱三嘆、ひとたびとなへみたび
 なげく(詩文章をはむる詞)
 いつしやく 一尺、ひとさし(十寸をいふ)
 いつしやく 一灼、ひとひ(二火)
 いつしやく 一勾、十抄をいふ
 いつしやく 一酌、ひとつき(酒をいふ)
 いつしやく 一色(氏)
 いつしやく 一首、ひとうた(歌一つ)
 いつしやく 一株、ひとかぶ
 いつしやく 一鉢、一朱に同じ六錢二厘五毛
 いつしやく 一種、ひとくさ、ひとつのだぐみ
 「SC(しゆ)」
 いつしゆん 一瞬、ひとまばたき
 いつしゆん 一旬、十日を云ふ
 いつしん 一新、舊をそめて新しくするをいふ
 いつしん 一心、ひとつこころ
 いつしん 一身、ひとつみ、わがみ

いつじん 一尋、ひとひろ
 いつじん 逸人(世をさけて隠れたる人)逸士、いんし
 いつじんふらん 一心不亂、こりかたまりて、わきめもふ
 らず、ひとむき
 いつねい 一英、ひとふさ(花をいふ)
 いつねつ(形) 汨越(ひかりかがやく貌)
 いつねう(形) 汨遙(はげしく流るる貌)
 いつねふ 一葉、ひとひら、ひとは
 いつひ 一匕、ひとそくひ、ひとさし
 いつひ(名) 溢美、はめすぎ、過譽
 いつびやく 一百、ひとをいふ
 いつびき 一匹、牛馬等の一箇をいふ。一疋、布帛二反を云
 ふ)
 いつひんこう(名) 一品紅、せうせう(植物)
 いつも(副) 何時、居常、毎常、毎度、つねに
 いづも 出雲、山陰道の國名
 いつもながら 乍、毎度、乍例
 いつせ 一畝、三十歩を云ふ
 いつせい 一世、ひとよ
 いつせい「に」(副) 一齊、ひとしく、うちそろひて
 いつせい 一聲、ひとこゑ
 いつせい 一世紀、一百年を云ふ
 いつせつ(副) 一切、そのしも、一向、とんと、さらば
 いつせつ 一説、あるはあし、ひとつのでせつ
 いつせう 一笑、ひとわらひ
 いつせき 一昔、ひとむかし
 いつせき 一石、圍碁のあそびに云ふ)

いつせき 一夕、ひとよ、いちや
 いつせん「する」 一洗、ひとわらひする
 いつせん 一戦、ひといくさ
 いつせん 一錢、十厘をいふ。又、いちもんめ
 いつせん 一千、十百をいふ
 いつする(自) 逸、にげさる、かけいだす(馬などの走りさ
 るを謂ふ)。又、ひきたつ
 いつすん 一寸、ひとさ十分をいふ
 いつすんばし「俗」(名) 侏儒、せびく、ひき、ちさど
 い(名) 稻、こめのなるくさ、しね、せちごめ、稊、嘉穀、嘉
 禾、嘉蔬(植物)
 いねばたけ(名) 稻畦、た(田)、いねつくるはたけ
 いねる(自) 寢寐、いぬる、ねる(床にゐる或は臥するを謂
 ふ)
 いねかほ(名) 排、いなほ(稻穂)
 いねかり 稻刈、納稼、穫稻
 いねかぬる 難寐、ねられぬ、ねむられぬ
 いねかけ(名) 喬杆
 いねがてぬ 難寐、いねがたし(古語)
 いねつきむし(名) 蟻、蟻、蟻(動物)
 いねつきうた(名) 稻香歌(大嘗會などに稻をつくととき唱
 へし歌)
 いねつきこまう(名) 蟻、はたをりむし、蟻、蟻(動物)
 いねむり(名) 居眠、坐睡、坐寝、居睡、すわりながらねむる
 こと
 むねう「する」(他) 圍繞、めぐりかこむ
 むねう(名) 遺尿、いばりたれ、遺溺、ねせうべん、よつぱり

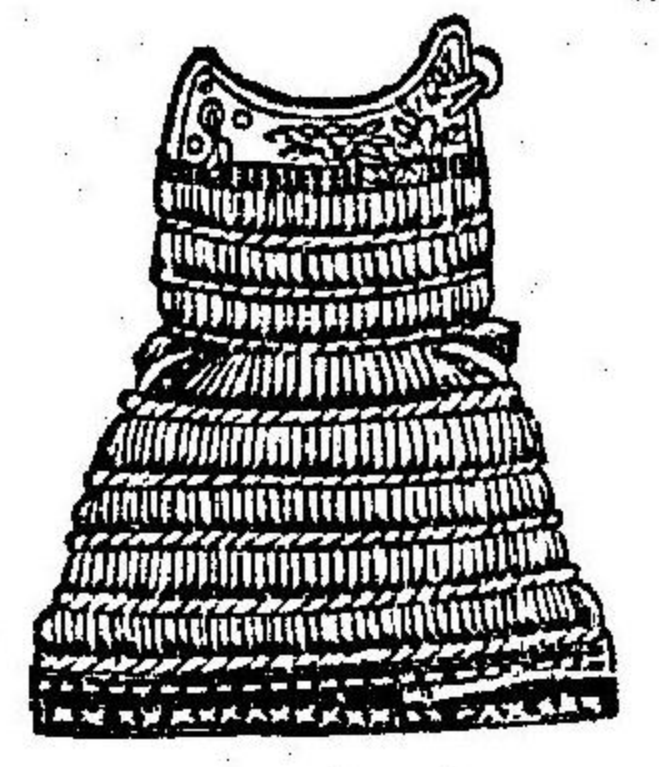
いねうちば(名) 打禾場、穀場、こくうちば
 いねん 意念、たもひ、こころ
 いねん(名) 遺念、たもひのこし
 いな 伊奈氏
 いな(名) 鯀魚、ぼらのこ、撥尾魚、鰻(動物)
 いな(副) 否、不、しからず、不諾、不肯
 いな 維那氏
 いな(副) 以内、これよりうち、このうち
 いなば 因幡山陰道の國名
 いなば 稻葉氏
 いなば(名) 稻堆、いなむら(をみよ)
 いなば(名) 葉、排、禾穂、いねのは
 いなば(自) 居直、すわりなほる
 いなとみ 稻葉氏
 いなり 稻荷、狐神(宇賀の御魂を祭る)
 いなほせせどり(名) 稻負鳥、にはくなぶり(動物)
 むなか(名) 田舎、ひな、鄙、村落、鄉村、むらざと
 むなかば 村嬢、むなかのとしよりをんな
 むなかぢぢ 村翁、むなかのとしよりをどこ
 いなか(名) 稻株、いねのかぶ
 むなかふう 田舎風、野様、ひなぶり、むなかざま
 むなかことば 田舎語、郷談、ひなことば
 むなかざけ 村醜、野醜、むなかづくりのざけ
 いながき 稻垣氏
 むなかじゆしや 村儒、村夫子、むなかかくしや
 むなかもの(名) 田舎人、村裏人、田舎漢、鄙人、むなかうど、
 田夫、傭夫

いなだ 稲田、いなうゑたるた、いなばたけ、又(氏)
 いなだ(名) 鰈、海鰻魚(動物)
 いなたば(名) 稲束、稲把、いなねのたば
 いなだね(名) 稲種、いなねのたね
 いなだま(名) 電、いなづま(同上)
 いなだき(名) 頂、いただき(頭の上の方)
 いなれる(自) 居馴、居昵、すみなれる
 いなれる(自) 去、さりゆく、はなれる
 いなづ 朴津、いなづ(氏)
 いなつる(自) 稲交、いなづま(稲の實る頃光る電)
 いなつか(名) 稲堆、いなづみ、いなむら
 いなづか(名) 稲束、いなたば、いなねのつかねたば
 いなづま(名) 稲妻、電、列缺、掣電、いなびかり
 いなづまがた(名) 列缺形、いなびかりのかたち
 いなつ(名) 稲粒、米粒
 いなつきがた(名) 蟻、ちひさきかに(動物)
 いななく(自) 嘶喝、馬鳴、うまがなく、いばふ
 いなむら(自) 居列、列坐、ならびすわる
 いなむ(他) 固辭、推辭、辭謝、謝絶、辭退、ことわる
 いなむら(名) 稲邑、稲村、いなつか、かわらつか、いなねを(稲を高く積たる者)
 いなむし(名) 稲蟲、螟、蝗、いなご、蟻、蛄、蝻(動物)
 いなう 諾否、いやれう
 いなう(名) 衣囊、かくし(衣服のものいれところ)
 いなめ(名) 凌晨、しのめ、あけぼの、ひきあけ、曙、天明、早晨
 いなぐら(名) 稲廩、いなごや、又禾堆、いなむら

いなや(名) 諾否、いやれう、又(副)ひとしく、ただちに
 いなげ 稻毛(氏)
 いなふ 稻生(氏)
 いなふち 南淵、みなふち(氏)
 いなふね(名) 稻舟、いなつむふね
 いなご(名) 蝗、蚱、いなねにつくむし(動物)
 いなごまろ(名) 蚱、いなごの別名(動物)
 いなざ(名) 異風、たつみかせ(東南風)
 いなき 稻置、いなかけぎ(稲を掛て乾す爲に設けたる組たて木、たま氏)
 いなみ 印南、井南(氏)
 いなみばし(名) 牽牛星、いぬかひほし
 いなむ(自) 居染、ぬなれる
 いなびかり(名) 稲光、電、霹靂、紫電、電鞭、天閃、電光、列缺、閃電、電火、いなづま(電氣の發して光る者)
 いなせ(名) 否應、いやれう、諾否
 「いなん」 伊南、いなみ(氏)
 いら(名) 荊、とげ、はり、刺(植物)
 いら(名) 緯羅、かやち
 いら(名) 鮎、あめ
 いら[する]自 依頼、倚頼、よりたのむ、たのむ
 いら[る]副 已來、以來、このかた、已降
 いら[ら]俗形 苛苛、ちくちく(痛む貌)
 いら(名) 應唯、答唯、こたへ、へんど
 いらか(名) 葦屋上の瓦を云ふ、かはらやね
 いらたか(形) 高平、高殿、たかくたひらかなる
 いらだつ(他) 苛立、刻急、いらつ、いからせる(氣を、いら

いらする
 いらつ(他) 苛焦、燥、いらだつ、ぢらそ、ぢれる
 いらつ(自) 苛着、ちくちくする
 いらつ(名) 郎子、年わかきをとこの美稱(古語)
 いらつめ(名) 郎女、年わかき女の美稱(古語)
 いらつひめ(名) 郎女、いらつめ(古語)
 いらつ(自) 荒立、ぢらつ、ぢらつ、ひくひくする。ひくひくする。駁家、あれる(寒さ等にて皮膚が)
 いらつ(名) 鬼桃草、羊桃、蔓楚、楊桃(植物)
 いらむし(名) 蛄、蝻、毛蟲、けむし(その巢房を雀糞即ち「すずめのもたひ」云ふ)楊桐子
 いらら(名) 一する(他) 慰勞、いたはり、ねぎらひ、いたはる、ねぎらふ
 いらく(名) 葦麻、苛草、からむしの類の植物
 いらく(名) 葦麻織、いらくにてれりたるぬの
 いらひ(名) 俗形 苛酷、刻急、きびしき、こくなる
 いらむ(他) 禁忌、あしとする、避嫌、さらふ、諱、かくす
 いらむ(他) 忌部、いみべ(氏)
 いらむけ(名) 射向袖
 (鎧の左の袖、是圖なるは山城國鞍馬寺所藏にて義經の所用)
 むむしろ(名) 蒲席(備後)
 まて製するたたまれ
 もて等をいふ、びんご
 れもて
 いむび(名) 齋火、きよ

(圖)のでそのけむし



めび、聖淨火
 いら(或)ら(名) 莠、のこら、はぐさ(植物)
 いら(名) 幽憂、きのむすばれ、うれへ
 いら(名) 優遊、たのしみあそび、なぐさみあそび
 いら(副) 猶、悠、ゆつたり、ながなが
 いら(副) 悠、悠、ゆるゆる、のどやか、融融、又うれはしき、かなしき
 いら(名) 優遊、不斷、いづれともさだめずためらふこと、せぬこと
 いら(名) 誘引、さそふ、いざなふ、そびく
 いら(名) 油馬、かすげうま(動物)
 いら(名) 由跋、ねははんげ、むさしあぶみ(植物)
 いら(名) 悠遊、はるはる、とほき、遼遠
 いら(名) 一する(自) 遊歩、あそびあそぶ、散步、散策、なぐさみあそぶ
 いら(名) 猷謀、はかりごと
 いら(名) 騎、騎、がさみ(動物)
 いら(名) 遊牧、牧畜を業とする人民の如く水草を追て移るを謂ふ
 いら(名) 幽閉、れしこむる(人を室内等)
 いら(名) 遊兵、てあきのぐんせい、ひかへのつはもの、豫備兵
 いら(名) 柚米、たいとうごめ
 いら(名) 遊冬、にがき(植物)
 いら(名) 有徳、とくある(德行或善徳を具ふる)
 いら(名) 誘致、さそふ、いざなふ
 いら(名) 遊女、たはれめ、うかれめ、娼妓、遊君、婬子、あ

そびめ
 いうちよや(名) 遊女屋、青樓、女郎屋
 いうちやう(形) 優長、ながたらしき、きなが(氣長)
 いうちやう(名) 遊場、あそびば、あそびどころ
 いうり(名) 遊里、いうまち、いうざと、女郎町、くるわ、北里
 いうりよ[する]自 憂慮、れもひわづらふ、きよもむ、うれ
 ぶる
 いうりよう(名) 遊龍、けたで(植物)
 いうりきしや(名) 有力者、ちからあるもの(富る者、權勢あ
 る者などを謂ふ)
 いうりん 幽林、しづかなるはやし(山間等の)
 いうたん(名) 優恩、あつきめぐみ
 いうかい[する]自 誘拐、かどわかす、あざむきてつれゆ
 く
 いうかりじゆ(名)
 有加利樹(其成
 長迅速にして
 薪木材木に適
 するのみなら
 ず又蜜蜂をも
 飼ひ得べき樹
 なり)
 (圖のゆ
 いうかう(名) 一す
 る自 遊行、あそびあるき、遊歴、たびあるき、ゆきめ
 ぐる
 いうがう[する] 遊遊、なぐさみにあるく、散策、つるをひ
 く、あそぶ、をこる



いうかく(名) 遊客、たびあるきするひと、へんれきしや、
 遊行者、又あそびて
 いうかく(名) 幽窓、ふかきたに
 いうかく[する] 遊學、ゆきてまなぶ、つきてまなぶ(師等
 に)
 いうかん(形) 幽閑、ものしづか、幽靜
 いうがん(名) 疣眼、うをのめ、いば
 いうがん 優顔、みやびがは、やさしきかほ
 いうよ(形名) 有餘、あまりのこり
 いうよ(名) 一する(他) 猶豫、うらねもひ、ためらひ、又のば
 し、又ためらふのばす、ゆるやかにする
 いうよく(名) 一する(他) 右翼、みぎつばさ、又たすくる
 いうだ(形) 遊惰、なまけ、れたる、懶惰
 いうたい(名) 一する(他) 優待、あつきあしらひ、厚待、て
 あつくあしらふ
 いうた(名) 遊蕩、みちあしきこと、あそび、放蕩
 いうだ(名) 一する(他) 誘導、みちびき案内、すすめみち
 びく
 いうだ(形) 有道、みちある、ただしき、君王に云ふ
 いうた(形) 遊蕩、兒、うはさきもの、だうらくもの
 いうたん 優譚、うちとけたるものがたり、懇話
 いうれい(名) 幽靈、亡靈、死靈、ひとだま、幽鬼(死人の魂、
 ばけもの)
 いうれい 優禮、あつきもてなし
 いうれつ(名) 優劣、まさりれどり、贏輸勝敗
 いうれふ(名) 一する自 遊獵、かりあそび、あそびがりす
 る

いうれふち(名) 遊獵地、かりば(貴人等の)
 いうれき(名) 一する自 遊歴、へあるき、へめぐり(國等
 を)たびあるきする
 いうれきしや(名) 遊歴者、遊客、へめぐるもの、たびある
 きびと
 いうろう[する]自 郵送、郵便にて送くる
 いうそく 右側、みぎのかたはら、みぎのかた
 いうそく[する]自 游息、いこひやすむ
 いうづう(名) 一する(自他) 融通(金子の)、流通、めぐり、ま
 におはせる(金子を)、又かよはせもちふる、轉用
 いうねん 有年、としわり(豊年なるを謂ふ)
 いうなん(名) 憂難、うれへなやみ、わづらひ
 いうらく 憂樂、うれへ及たのしみ
 いうらく(名) 遊樂、ゆさん、あそびあるき(山野等の)、行樂
 いうらん[する]自 遊覽、あるきみる(名所等を)
 いうらん(名) 幽蘭、美さ花さく木(植物)
 いうらつ(名形) 幽鬱、きふさぎ、うれへ。又しげれる、繁茂
 いうらん(名) 油雲、あまぐも、あめをもてるくも、こきく
 も
 いうく(名) 憂懼、うれひれそれ、きづかひ
 いうく(名) 憂苦、うれひくるしみ
 いうくわ(形自) 融和、のどか、はるめきたる、とけあふ、ま
 じりあふ
 いうくわ 宥過、どがをゆるす
 いうくわい(名) 幽怪、ばけもの、幽靈
 いうくわう(名形) 幽荒、あびすぐみ、あれたる
 いうくわく(名) 遊郭、いうざと、くるわ

いうくわん(名) 憂患、うれひ
 いうくわん(形) 優寛、ゆるやか、寛大
 いうくわん[する] 遊觀、あるきみる(遊覽に同じ)
 いうく(名) 遊君、あそびめ、女郎
 いうぐん(名) 遊軍、豫備の軍兵といふ、てあきのつはも
 の(遊兵、同じ)
 いうや(形) 遊冶、みもちわるき、放蕩
 いうや(名) 遊治郎、うはさきもの、どうらくもの、をん
 なぐるひし
 いうまい(形) 幽昧、くらき、かすか
 いうま(形) 雄猛、つよくたけき
 いうげ(或いうぎ)(名) 遊戯、あそびたはむれ
 いうげい(名) 遊藝、琴三弦等の如きを善くする藝
 いうげん(名) 遊俠、うでだて、をこだて
 いうげき(形) 有隙、なかわしき
 いうげき(形) 幽閑、しづか、閑靜
 いうげきたい(名) 遊撃隊、援軍に豫備したる兵、遊軍
 いうげん(形) 幽玄、ねくふかさ、しりがたき、隱微
 いうふ[する]自 游浮、れよぎうかぶ
 いうふ(或うむ) 有無、あるなし
 いうふかん(名) 有夫妻(夫ありて他の男に通ずるを云
 ふ)、まをこ
 いうぶつ(名) 尤物、すぐれもの、なかなかもの
 いうぶく(形) 有福、かねもちなる、ふところのあたたかさ
 いうふん(名) 憂憤、うれひいさどほり
 いうこう(形) 優厚、てあつき
 いうこく(形) 憂國、くにをうれふる(國の爲に心を勞す

る(愛國) 幽谷ふかきたに
 いうこく(名) 幽魂なきたまじ靈(死者の魂魄)
 いうこんじよく(名) 油紺色、びろうとうらう
 いうてい(名) 遊偵、しのびうかがふ
 いうてい(名) 遊艇はしふね、あそびふね
 いうてい(名) 郵亭、しくば驛亭
 いうてい(名) 郵程、しくつぎのみちのり、驛程
 いうてん(名) 遊鳥、をどり、煤鳥
 いうてん(名) 幽蝶、げぢげぢむし、やまむかで(動物)
 いうでん(名) 郵傳、しくつぎ、驛傳
 いうでん(名) 遊田、けものがり
 いうあい(名) 友愛、ともものよしみ、友誼
 いうあう(形) 幽奥、わくまりたる、幽深、わくふかき、幽玄
 いうあく(形) 優渥、ゆたかにあつき、恩惠等の
 いうあく(形) 誘悪、あしきみちにいざなふ
 いうあん(形) 幽暗、くらき、黒暗
 いうざい(形) 宥罪、つみをゆるす
 いうざつ(名) 幽殺、かげぼし、ひかげぼし
 いうさう(名) 悠想、はるけきなほひ
 いうき(名) 有機、鳥獸の如く身體の構造に機關と具ふるを
 いうき(名) 愛喜、うれひとよろこび
 いうき(名) 遊戯、あそびたはむれ
 いうき(名) 遊嬉、あそびたのしむこと、たはむれあそびする

いうきとけい(名) 有期徒刑(年月の定めあるつみの名)
 いうきよ(形) 幽慮、かすか、むなしき
 いうきよう(名) 遊興、あそぶたのしみ、あそび、をどり
 いうきたい(名) 有機體、有機の身體(鳥獸等の如く機關を具ふる身體)
 いうさくわがく 有機化學(有機物を分析する學)
 いうさぶつ 有機物(機關を具ふる生物)
 いうざん(名) 遊銀、あそびがね、ねかしがね、ねがね
 いうゆ(形) 優裕、ゆたか、ゆつたりしたる
 いうめい(形) 有名、なだかき、なわら
 いうめい(名) 幽冥、やみ、くらき、陰府、よみ、くらき
 いうめいむじつ 有名無實、なわりてじつなき、なばかり
 の
 いうめん(名) 宥免、宥罪、寛恕、ゆるし(過罪等の赦免)
 いうめん(名) 遊民、あそぶひと、のらくらもの(職業に従事せぬ人をいふ)
 いうし(形) 有志、こころざしある、また志士
 いうし(名) 有司、やくにん、つかさびと、官吏
 いうし(名) 優姿、やさしきすがた(優美の容貌)
 いうし 幽姿、たをやかなるすがた、けだかきすがた
 いうし(名) 愛思、うれれもひ、うれへ、しんばい
 いうし(名) 遊士、たはれを、あそびをとこ(女郎買等に耽る人、標客「又遊子に同じ、下を見よ」)
 いうし(名) 遊子、たびびと、たびするひと、旅客
 いうし(名) 獮子、をひ(甥)

いうし(名) 郵子(宿次の人足)
 いうし(名) 遊絲、かげろふ、いとゆふ
 いうじよ(する) 宥怒、ゆるす(過失等を憐察して)
 いうじよ(する) 優怒、みのがす(過失等を)
 いうじようれつばい 優勝劣敗、まされるはかちれとれるはまける(適種生存の理)
 いうじよやすり(名) 疍乘、疍(工具)
 いうじよく(名) 黝色、ねすみいろ
 いうじよく(名) 遊食、あそびぐひ(無職業にて生活するを謂ふ)
 いうしう(名) 遊囚、ねしこめ、ねしこめる(牢獄等に)どらへれく
 いうしう(名) 憂愁、うれひ、なげき
 いうじう(形) 優柔、ものやはらか、はきはきせぬ、ぐづぐづ
 いうじうふだん(形) 優柔不斷、ぐづぐづしてきめぬ(不決斷を謂ふ)
 いうじやう(する) 遊賞(山水にあそびてその景色をよろこびほむる事)
 いうじやう 優賞、あつきはらび、厚賞
 いうじやう(形) 有情、こころあるもの(草木等の無情に對そ)
 いうしき(形) 有識、ものしり、有學
 いうしゆ(名) 右手、めて、みぎのて、たすけて、助手
 いうしゆ(名) 遊手、あそぶもの、のらくらもの、遊民
 いうじゆ(名) 遊樹、ついはり、さへ、つつばり、つつかひばう
 いうしゆつ(する) 誘出、さそひだす、をびさだす

いうしん(名) 愛心、うれへとこころ
 いうしん(形) 有身、はらめる、みもち
 いうじん(名) 遊人、あそぶひと、遊士
 いうじん(名) 友人、とも、朋友、ともだち
 いうじん(名) 幽人、隠者、かくれびと、いんとんとや
 いうしん(名) 宥心、ゆでがき(植物)
 いうい(名) 遊泳、たよぎ、たよぐ
 いうい(名) 遊泳場、すのれんば、たよぎば
 いうい(名) 郵驛、うまつぎ、しゆくつき
 いうい(形) 有益、ためよなる、いさある、やくまたつ(無益に對す)
 いういん(名) 遊宴、あそびざかもり
 いういん(形) 有縁、ういん、にににある、ちなみある
 いういん(名) 油縁、みるちや(染色)
 いういん(形) 優艶、やさしき、たをやか、優美
 いういん(形) 幽艶、ものしづかにみやびたる
 いういん(名) 遊園、公園、あそびずの
 いうい(形) 優美、みやびやか、やさしき
 いうい(名) 右筆、ものかきやく、書記
 いうい(名) 右衛門、にわら(寺門の)
 いういん(名) 遊牝、つるみ(獸が牝牡相つがふ事をいふ)つがふ
 いういん(名) 郵便、驛傳(書信等を速に運ぶ組織の名)
 いういん(名) 郵便配達人、帯信脚夫、てがみくばり
 いういん(名) 郵便局、書信等を郵送する官署
 いうせい(形) 幽靜、ものしづか、幽閑、しんとしたる

いせい 憂世、よをうれふる(愛國と同じ)
 いせい 幽栖、しづかなるさまひ
 いせい(名) 郵税郵便の切手料
 いせい[する]自 遊説、とさあるく、はんせつしまはる
 いせいかうじゆ(名) 槽青岡樹、こなら植物
 いせう 優詔、あつさみことのり
 いせう[する]自他 融消、とくる。とかす
 いせき(名) 憂戚、うれひ、かなしみ
 いせん(名) 郵船、ひさやくせん(飛脚船)定期航海船
 いせん(名) 遊船、ゆさんふね、あそびふね
 いせん(形副) 悠然、のどか、ゆつたり、さなが
 いせんちりめん(名) 友禪縮緬(西京にて織出す美はしき絹)
 いせんぞめ(名) 友禪染(京都にて染出す諸模様の染物を云ふ)
 いせんやど(名) 遊船宿、ゆさんふねや、ふなやど
 いせんあふぎ 友禪扇(扇の類にて書工友禪の製出せし者)
 いすい(形) 幽邃、ものしづか(山間の景色等の如きをいふ)
 いすい(名) 踏水、いしもち(動物)
 いすい(名) 遊水鳥、みづにあそぶとり
 いすい(名) 亥時、人定時、ひとさだまりとき、夜の十時
 いのち(名) 生命、壽命、よはひ、壽命
 いのち(形) 懸命、必死、決死、味死、味犯、しぬるかくてにて
 いのちかぎり 生涯、いのちのうち(一生をいふ)

いのち(名) 命代、賠命銀(死刑をわがなふ金)
 いのちながらへる 存命、いさながらふ、在世
 いのちながき(形) 長命、遐齡、壽齡、長生、壽考、長壽、ながくいさる
 いのち(名) 命乞、助命を願ふこと
 いのち(形) 短折、短命、夭折、はやくしぬる
 いのち(名) 呪殺、のろひころす
 いのち(名) 祈禱、ねがふ、また呪詛、のろふ
 いのち(名) 飯尾、いひを(氏)
 いのがひ(名) 淡菜、いがひ、にたりがひ、文囀、東海夫人(動物)
 いのう 伊能(氏)
 いのうへ 井上(氏)
 いのくち 井口(氏)
 いのまた 猪股(氏)
 いのこ(名) 豚、ぶた、豕、猪(動物)
 いのこ(名) 玄猪、舊曆十月の初亥の日を云ふ
 いのこ(名) 猪子(氏)
 いのこ(名) 牛膝草、牛蓼(植物)
 いのこ(名) 薺、せんまい、毛蕨、紫茸、迷蕨(植物)
 いのこ(名) 猪牙、いのししのきば
 いのめ 伊目(氏)
 いのしりく(名) 天名精、やぶたばこ、地菘、活鹿草、はま
 いのし(名) 猪、豕、のぶた、野猪、くさいなき(動物)
 いのし(名) 猪武者、むかふみすのいくさびと、あ
 らむしや

いのもの(名) 井底蛙、見識の狭き者にたとふ
 いのもの(名) 井口、透草(植物)
 いのん(名) 蒔蘿、つるくさ(植物)
 いの(名) 行、往、ゆく、まゐる
 いの(自) 生、いさる、いさてある
 いの(自) 鬻、いさる、いさてある(飯等が)
 いの(形) 显々、あきらか、かがやく
 いの(名) 莠、芋、植物
 いの(自) 鬻、いさる(他) 鬻、いさる、鬻賣
 いの(副) 幾許、幾多、幾何、なには
 いの(副) 無幾、まもなく、ほともあらせす
 いの(副) 幾程、なには
 いの(副) 幾重、ひたすら
 いの(副) 異口同音、もろとも(均しく言を發せるをいふ、一致のたとへ也)
 いのとせ 幾年、いくねん、いくそのとし
 いのち(俗) 意氣地、いさぢ、いぢ、こころね
 いのち(名) 黄鰐、黄鰐、さいろのさのこ、黄鰐頭(植物)
 いのち(名) 缺脣、兔脣、みつぐち
 いのち(名) 卑劣者、よわむし(氣力なき人)
 いのち(名) 郁李、にはうめ、さすもも(植物)
 いのち(名) 海底石、海の中にある岩石
 いのち(自) 生、活、存、いさながらへる、いのちをたもつ
 いのち(名) 繳、増繳、弋して鳥をとる事
 いのち(名) 黄花、こぶし(植物)

いくわい(名) 醫會、醫者の集會をいふ
 いぐわい(副) 以外、このほか
 いぐわい(形) 以外、もつてのほか
 いぐわい(形) 意外、おもひのほか、意表
 いぐわい(名) 威光、いきはひたふときありさま、威嚴
 いぐわい(名) 醫官、在官の醫者
 いぐわい(名) 衣冠、しやうやく、冠帯
 いぐわい(名) 移官、やくがへ、轉任
 いぐわい(副) 以還、このかた、以來、そののち
 いぐわい(名) 位官、くらゐつかさ(位階と官職)
 いぐわい(名) 胃脘、のぶくろ
 いぐわい(名) 胃管、のぶのくだ
 いぐわい(名) 衣冠之會、高貴の人の會合
 いぐわい(名) 幾日、いくひ、いくにち
 いぐわい(名) 幾夜、いくばん、いくよさ
 いぐわい(名) 幾世、いくだ、いくばくのよ
 いぐわい(名) 幾人、いくにん、いくばくのひと
 いぐわい(名) 幾度、幾回、幾番
 いぐわい(副) 幾何、いくばく、いくほど、いくら(古語)
 いぐわい(副) 幾個、いくら、なには
 いぐわい(名) 幾陣、いくならび(雁等に謂ふ)
 いぐわい(名) 幾月、いくげく、のつき
 いぐわい(副) 幾何、いくばく、なには
 いぐわい(名) 活産靈、神の名
 いぐわい(名) 生野(氏)
 いぐわい(名) 育花雨、はるさめ(春雨)
 いぐわい(名) 育養、そだてやしなふ

いくさ(名) 戦闘戦争、交干戈、兵革之事。また軍勢、軍師
 むくさ(名) 莞、心草、碧玉草(植物)
 いくさば(名) 軍場、戰場、たかひば(戦地、戦争地)
 いくさばた(名) 軍旗、軍隊の立る旗
 いくさをかへす 班軍兵をしりかへくる也
 いくさをひきさう 率師兵士を率ふる也
 いくさがみ(名) 軍神、闘戰神、ゆみやがみ
 いくさよば(名) 関さきのこ名、鯨波
 いくさつづみ(名) 鑿鼓金鼓、せめつづみ
 いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
 いくさのてがら 軍功、たかひのかうみやう
 いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
 いくさぐるま(名) 戰車、戎車、軍車、兵車、臨衝、轆、いくさに
 つかふくるま
 いくさぶね(名) 軍艦、艦、艦、艦、たかひぶね
 いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
 いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さもも(植物)
 いくし(名) 鬮子、やしなひひひ、養子
 いくし(名) 五十串(神前にそなる幣帛の棒)
 いくしむん(名) 育兒院(貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
 いくしま 生島氏
 むくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
 いくひたるひ 生日、足日、めでたきたとへにいふ
 いくひさしく(副) 幾久、としながく、ながらく
 いくせ 一宮善氏
 むくん(名) 偉勳、たはひあるいさほし、たはひなるてがら

むくん(名) 遺訓、のこせるをしへ(死人等の)
 いや(俗)(副形) 否いな
 いや(副) 彌、いよいよ
 むや(名) 幣、ささげもの。わくりもの、「いやしろ」の器(古語)
 むや(名) 禮、じぎ、禮儀、古語
 いやいとこ(名) 從祖兄弟、再從弟、またいとこ
 いやいや 否否、いないな
 いやはて(名形) 最後、いちばん、すゑ、をはり
 いやはし(名) 最端、端緒、いとち、はじめ
 いやち(名形) 灼然、あきらかに、著明、いちじるしき
 いやれう 否應、いなう、いなせ、諾否
 いやれひ(名) 彌生(草等が其上、上と重なり生ふを謂ふ)やよひ
 いやれひのつき(名) 三月、やよひ彌生
 いやがうへに(副) 彌上、そのうへ、そのうへとかさなるに
 いふ
 いやがき(名) 彌書、またがき
 いやつこ(名) 陪臣、またげらひ
 いやな(俗)(形) 否、可思、きはしき
 いやなき(形) 無禮、なめげなる、失禮(古語)
 いやらし(俗)(形) 可厭惡、このまじからぬ、また猥褻、みだらある
 いやう(する)(他) 頤養、やしなふ、そだてる
 いやう(名形) 異様、ことやう、ことば、ま
 むやう(俗)(名) 居様、すわりやう、むぎや
 いやく(名) 醫藥、くすり

いやく(名) 意譯、意味を取て翻譯するをいふ、義譯
 むやく(名) 違約、約定を破ること(破約)
 むやくさん(名) 違約金、くわたい、破約の罰金
 いややか(形) 蠶、いよやか
 いやまさる(自) 彌勝、いよよまさる
 いやまし(副) 彌増、いよよまして、ますます
 いやなき(名形) 最初、いやはじめ、極初
 いやき(俗)(名) 否氣、冷情(氣のすすまぬ事をいふ)、いやごころ
 いやめづらし(形) 彌珍、いよめづらしき(愈愛)
 いやみ(俗)(名) 否味、いやらしきごころ、また諷刺、めてこすり、きんく
 むやし(名) 禮物、わくりもの、むやしり
 むやし(名) 禮代、いやしろ、ささげもの、わくりもの(古語)
 いやしく(副) 苟、もし、かりにも
 いやし(形) 卑賤、賤陋、鄙野、寒族、孤陋、俚鄙、陋賤、ひくき、細
 いやしめる(他) 賤賤、視貌、みさげ、あなどる
 いやす(他) 療醫、治療、醫治、愈、痊、癒、なほす(病を)
 いま(副) 今、目今、如今、現今、目下、このとき
 むま(名) 居間、居室、便室、家族の常にをる室をいふ
 いまむ 今井氏
 いまうち(副) 今一度、再一次、なほひとたび
 いまらつみ 今泉氏
 いまらまじ(形) 忌忌敷、にくむべき。又はらたらし、残念

いまは(名) 末期、臨終、最後、死期、しぬるきは
 いまはし(形) 忌敷、にくむべき、いむべき(可忌)
 むまのつき 居待月(太陰曆十七夜の月)
 いまみやき 伊萬里陶(肥前國松浦郡より製出する陶器をいふ)
 いまがは 今川氏
 いまより 自今、以後、向後、後來、こののち
 いまだ 未、なほ何々せず又あらず、まだ
 いまやう(名) 今様、當世風、いまのはやり、いまのてぶり、また新曲の名、いろは即ち今様歌あり
 いままる(名) 今參、あらたにきたりてつかへるひと又そのこと、新參(奉公する者にいふ事にて今參日など云ふ)
 いまご(副) 今頃、いまじぶん、此時
 いまでがは 今出川氏
 いまでう 今條氏
 いまで(俗)(形) 新製、ちかごろつくりたる、たうせいづくり
 いまさら(俗)(副) 今更、ことわたらしく
 いまぎ 今城氏
 いまめかし(形) 今風、當世風、新様、いまはやるらしき
 いまし(名) 汝乃、爾、爾、卿、なんぢの古語
 いましがた(俗)(副) 今方、ただいま、いまよりすこしばき
 いましむぎ(名) 熟麥、うましたるむぎ
 いまし(新宿氏)
 いましめる(他) 戒禁、つつしませる。警箴、警戒、こころづ

ける。また叱責せめる。しかる。又しばる
 むます(自) 居在(をる)の尊語
 います(自) 今少なはそこしばかり
 むまん(名) 帷幔、まく、たれぬの
 いけ(名) 池沼、破、みづためばり
 いげ(名) 荆棘、いばら(植物)
 いげ(副) 以下(いか)した
 いげ(名) 飯氣、めしのいき、饈
 いけい(名) 盜刑(絞罪をいふ)くびりころすしれき
 むけい(自) 畏敬、れそれうやまふ
 むけい(名) 胃瘻、のふのひきつり、じやく
 むけい(名) 違警罪、警察規則を犯(罪)
 いけば(名) 活花、挿花(器にいけたる花)
 いけはぎ(名) 生剝(牛馬等を活る)またよ皮はぐをいふ
 いけに(名) 生贖、犧牲(生物を殺して神に獻ぐるをいふ)
 いけべ(池部氏)
 いけどる(他) 虜、俘擒、とりこにそる、活捉、生得、活捉、生捕、生擒、生俘、いかしとらへる、捕、逮捕、捕掌、からめとる(罪人などを)
 いける(他) 埋物並に火等を埋る、うつめる。又さす(花を花活に)挿
 いける(形) 活生、いきてをる、いのちある
 いけるもの(名) 生物、生類、いけるたぐひ、含靈
 いけがき(名) 生籬、翠籬、生垣(生る樹をもて作れる垣をいふ)
 いけん(名) 意見、みこみ、けんじより
 むけん(名) 威權、いきほひ、ちから、けんべい、權威、威力
 むげん(名) 遺言、死者がのこせることば、ゆゑごん
 むげん(名) 威嚴、りりしさ、いかめしさ、威光
 いけんがましき(俗) 形) 異見々間敷、いごめだてする、いけんだてする
 いけんだて(俗) 名) 異見立、いごめだて
 いふ(自) 依附、よりつく、君長などに、歸向
 いふ(名) 姨夫、ははかたのねばひこ
 いふ 異父、たねがはり母が同うして父に異なるをいふ
 いふ(他) 言、道、云、曰、謂、いひあらはす、かたる
 むふ(自) 他) 威怖、をぞす、たびやかす
 むふ(名) 威武、いきほひ、權勢
 いふいふ(形) 邑邑、愛ふる貌
 いふぼ(名) 邑籙、むらのちやうめん
 いふちやう(名) 邑長、むらをさ、村長
 いふり(名) 邑里、むら、むら
 いふり 膽振、北海道の國名
 いふり(名) 不忍、安忍、なげなきさま、無情
 いふりよ(名) 邑閭、むら
 いふる(自) 燻、けふる
 いふかる(自) 訝、怪訝、訝疑、あやしむ、ふしぎやおもふ
 いふかし(形) 僻、怪、いふせき、さかふさぐ、こころはれ
 やかならぬ
 いふかし(形) 不審、あやしき、げせぬ、わからぬ
 いふれい(名) 揖禮、禮儀、あいつ、いや
 いふれう(名) 痲痺、みづらみ(腫物の)

いけだ 池田(氏)
 むげた(名) 井桁、井欄、井幹、井垣、井牀、しかくのむどがは
 いけつ(自) 活殺、いかしたりころしたり
 いけづ(名) 生喫、頼朝公が佐々木高綱に與へし馬の名
 いけなし(俗) 不可行、あしし、不可
 いけう(名) 異教、外教、異端、外道をいふ
 むけう(名) 圮橋、どぼし、つちばし、はし
 いけうを 活魚、いけす等に活じたる魚
 いけのや 池谷(氏)
 いけま(名) 牛皮消、晁、薑(植物)
 むけげ(名) 蘭、檍、蘭金剛、むらうり、むてつ、くれるら
 むけふ(名) 韋篋、かはご、かはぶんこ
 むげふ 偉業、たほなるわざ、大業
 むげふ(名) 遺業(死者ののこせる財産事業等といふ)遺産
 いけふね(名) 活船、鮮蕃、いけす、魚をかこふ船
 いけぶくろ(名) 生袋、たかのるじきのふくろ
 いけわらひ(名) 校人、池沼を主る人
 いけみころし(名) 活洗、石炭にて物を洗ふ事
 いけび(名) 埋火、うつみび、いけたるひ
 いけもり(名) 活盛、なまさかな、或どり等のさしみ
 いけす(名) 生巢、魚、鯨、鱈、魚池、鰻、魚、塘、塘園(魚をいかしこかふ處あるひは具)
 いけん(名) 異見、ことなるかんがへ、異議、故障、忠告、諫言、いごめ

いけん(名) 意見、みこみ、けんじより
 むけん(名) 威權、いきほひ、ちから、けんべい、權威、威力
 むげん(名) 遺言、死者がのこせることば、ゆゑごん
 むげん(名) 威嚴、りりしさ、いかめしさ、威光
 いけんがましき(俗) 形) 異見々間敷、いごめだてする、いけんだてする
 いけんだて(俗) 名) 異見立、いごめだて
 いふ(自) 依附、よりつく、君長などに、歸向
 いふ(名) 姨夫、ははかたのねばひこ
 いふ 異父、たねがはり母が同うして父に異なるをいふ
 いふ(他) 言、道、云、曰、謂、いひあらはす、かたる
 むふ(自) 他) 威怖、をぞす、たびやかす
 むふ(名) 威武、いきほひ、權勢
 いふいふ(形) 邑邑、愛ふる貌
 いふぼ(名) 邑籙、むらのちやうめん
 いふちやう(名) 邑長、むらをさ、村長
 いふり(名) 邑里、むら、むら
 いふり 膽振、北海道の國名
 いふり(名) 不忍、安忍、なげなきさま、無情
 いふりよ(名) 邑閭、むら
 いふる(自) 燻、けふる
 いふかる(自) 訝、怪訝、訝疑、あやしむ、ふしぎやおもふ
 いふかし(形) 僻、怪、いふせき、さかふさぐ、こころはれ
 やかならぬ
 いふかし(形) 不審、あやしき、げせぬ、わからぬ
 いふれい(名) 揖禮、禮儀、あいつ、いや
 いふれう(名) 痲痺、みづらみ(腫物の)

いふつ 異物、めづらしきもの、又しぬるひと、死者
 むぶつ(名) 遺物、かたみ、ゆゑもの
 むぶつ(名) 遺物論(宇宙の萬有は皆物質にて成るといふ説)
 いふならく 説道、言ふなりの轉、いはく
 いふらう(名) 邑老、むらとしより、村老
 いふう(名) 異風、かはりたるふうつき
 むふう(名) 遺風、のこれるならはし、遺俗
 いふく(名) 衣服、ころも、きるもの
 いふく(形) 異腹、はらがはり、こはら(父が同うして母が異なるを謂ふ)
 むふく(自) 畏伏、畏服、たそれしたがふ
 むふく(名) 威福、威勢、威權、いきほひ、けんべい
 むふく(自) 他) 威逼、たどしせまる、たどしつける
 むふくろ(名) 胃腑、ののふ
 むふくし(名) 遺腹子、わすれがたみのこ
 いふさい(名) 邑宰、むらをさ、庄屋
 いふき(名) 伊吹木、柏、檜、柏、楡、柏、圓柏、栝、びやくしん(植物)
 いふき(名) 氣吹、いさふくこと、呼吸
 いふきばら(名) 邪蒿(植物)
 いふき(名) 拳參(植物)
 いふき(名) 九牛草、葶蒿(植物)
 いふき(名) 邑郷、むら
 いふきやう(名) 異父兄弟、たねがはりさやうだ
 いふき(自) 他) 挹汲、くみとる、水などを
 いふき(名) 唇形、一種ひやくりかう(植

いふしやすり(名) 燻薬、むしやすり
 いふしよ(名) 邑聚、むら(多人數が集めて村落を成すといふ) 部落

いふじん(名) 邑人、さとびと、村人

いふねう(形) 燿耀、かがやく、ひかる

いふせい(名) 邑正、むらをさなぬし、しやうや

いふせき(形) 鬱悒、愴憤、わびしき、きがひらけぬ

いふす(名) 草烏頭、鶯鶯菊、とりかぶと(植物)

いふん(名) 異聞、かはりたるはなし、又めづらしきはなし

いふん(名) 移文、回文、まはしふみ、遺稿

いふん(名) 遺文(死者の)のこせるふみ、遺稿

いふん(副) 以後、已後、こののち

いふん(名) 圍碁碁をかこむ事、ごうつわび

いふん(他) 射殺、いとめる

いふん(名) 坐行、むざり、むざる事

いふん(名) 遺骨、のこせるはね、死人をやきたる骨

いふん(名) 偉功、たはいなるてがら

いふん(名) 異國、異邦、外國、ことくに、とつぐに

いふん(名) 夷國、はびすぐに

いふん(名) 岐嶽、いこよか、たけたかし

いふん(名) 生駒(氏)

いふん(自) 憩、休息、休憩、歇、やすむ、こやすみする

いふん(名) 石胡荽、鷲不食草(植物)

いふん(名) 齋籠、ものいみごもり

いふん(名) 遺恨、うらみ、よくしみ

いふん(名) 位田(位に随つて領する田地といふ) 遺傳(子孫に遺りつたはる事をいふ)

いふん(名) 遺愛(死者が生前に愛したる人)

いふん(名) 居合、おちあふ、ともよあふ

いふん(他) 帷帳、まく、たれぬの

いふん(名) 射中、的中、いてあてる(矢などを)

いふん(名) 居合抜、刀剣はやぬきの術をいふ

いふん(名) 醫案、診斷書、診察書、しんさつがき

いふん(自) 猗嗟、あげあげ

いふん(名) 去來、卒、率、いで、いで、いで(發語の詞)

いふん(形副) 委細、つまびらか、こまやか、くはしく、委曲

いふん(形副) 逐一、詳細、委詳

いふん(俗) 居催促、立たらすしてはたるを謂ふ、そわりこみ、さそく

いふん(名) 去來去來、いびにねなじ

いふん(名) 彩葉、しばりのは、しまのは

いふん(名) 魚市、うをいち

いふん(名) 功、いさを、勳功、忠勤、忠節、功績、てがら

いふん(名) 犁底、どこのさき(農具)

いふん(名) 漁、漁獵、さきどり、潜水、かつぎ、もぐる事(水に)

いふん(形名) 蹇、あしなへ、蹇行、坐行、膝行(足たぬ事また人)

いふん(名) 漁舟、あまね、漁船、れうせん

いふん(名) 漁火、漁簞、漁燈、回島火、あさりび、れふしの、たくひ

いで(名) 射手、弓手、ゆみいるつはもの、ゆみいるひと

いで(名) 池、たみ、田の溝間をいふ

いで(名) 去來、いで、率(發語の詞)

いで(名) 井手、堰、堰(むせき)に同じ

いで(名) 井出(氏)

いで(名) 異體、かはれるかたち、ことやうのいでたち

いで(名) 出入、出納、ではいり

いで(名) 出榮、いでてはなばなしきこと

いで(名) 凍解、こほり、おけ

いで(名) 氷結、凍、堅凍、沍寒、こほる(冬よ水が)

いで(名) 服装、みなり、よそはひ、扮装、發装、打扮

いで(名) 出立、發足、でかける、しゆつたつする

いで(名) 爾乃、いざ、又、いかで

いで(名) 異朝、ことごとく、のみかど、又、ことごとく

いで(名) 率(發語の詞)、いで、いで

いで(名) 銀杏、鴨脚、ぎんなんのき、公孫樹(植物)

いで(名) 出逢、ふとあふ、又きたりあふ、いであひを

いで(名) 邂逅、ふとあふこと、またりあふこと

いで(名) 會合、密會、しのびあひ

いで(名) 噫、なげき、うれへ

いで(名) 夷狄、はびすぐに

いで(名) 温泉、をんせん、わき、いづるくすりゆ

いで(名) 滿潮、みちしほ

いで(名) 移轉、うつり、すまひがへ、ひきう

いで(名) 遺典、むかしもの、こりふみ

いで(名) 勇夫、いさまじきをこ、ますらを

いで(名) 功績、いさほしとみや

いで(名) 豪傑、とぐれたるひと、てがらあるひと

いで(名) 誼諱、諱、闘諱、爭論、口論、あらそひ

いで(名) 猶豫、ためらふ、うられもふ

いで(名) 徘徊、浪、潮の満干にて浪の狂ひあるく

いで(名) 十六夜、既望、哉、生魄、十六日の夜をいふ

いで(名) 鯨、くじら、勇魚、動物(古語)

いで(名) 誘、誘引、さそふ、倡引、をびく

いで(名) 鮪、動物

いで(名) 伊弉諾尊、天神第七代の男神

いで(名) 伊弉册尊、天神第七代の女神

いで(名) 衣箱、からひつ、箆筒、たんす

いで(名) 食客、寄食兒、かかりうど、やくかいもの

いで(名) 意、意外、おもひのはか

いで(名) 違作、不作、凶作、あしきでき(農産物の)

いで(名) 遺策(死者の)のこせし計策

いで(名) 葦簣、よしす

いさくさ(名) 口舌、舌論、いさかひ、ごたごた
いさふ(他) 叱、しかる、ののしる
いさふ(自) 競争、きそふ、あらしふ
いさぶ(名) 沙砂、すな、細沙、細沙、積、まさぶ
いさぶ(名) 鮫、鱈、動物
いさぶ(名) 鯨、少許、すこしばかり
いさぶ(副) 只暫、假、かりそめ、かりに、いづるか、
又白地、あからさまに
いさぶ(形) 潔清、明、廉、潔、白、清、淨、清潔、廉潔、雪白、
細屑、淨、潔、心、伯、さよさ、わだかまりなき
いさぶ(他) 諷、諷、諷、いけんする(重、目上の人に)
いさみ(形名) 俠客風、市虎、俠者、をこたえて
いさみ(形名) 勇悍、勇武、勇猛、いさましくつよき
いさみ(形名) 衣傘、さぬがさ
いさん(名) 遺産(死者の遺せる財産)
いさん(名) 違算、誤算、さんちがへ、かぞへあやまり
いさん(名) 易産、易、こやすが(動物)
いさ(自) 依歸、よる、よりたのむ、依附
いさ(名) 氣息、呼吸、いふき
いさ(名) 意氣、こころばへ、こころだて
いさ(名) 噫氣、あくひ
いさ(形) 依稀、さもよたる、彷彿、ぼんやりしたる
いさ 伊吉氏
いさ 壹岐、西海道の國名
いさ(名) 衣櫃、たんす、さものいれ
いさ(自) 遺棄、すてる、うちすてる
いさ(名) 位記、くらゐがき

いさ(自) 委棄、すてる
いさ(名) 畏怖、をしげ、をそれ
いさ(名) 異議、異論、故障、さはり
いさ(名) 居木、圍木、鞍、馬の鞍の前後の木を云ふ
いさ(名) 威儀、禮儀、儀式、さばふ、いやのみち
いさ(形) 活活、活潑、はきはき、いのちある
いさ(名) 活佛、有徳の高僧を稱す
いさ(名) 勢威、威權、威勢、威熾、勢威、勢力、權勢、けん
いさ(名) 憤、憤懣、憤慨、於邑、はらたつ
いさ(自) 憤懣、憤慨、於邑、はらたつ
いさ(自) 一切衆生、あらゆるいのちあるもの
いさ(名) 意氣地、意地、いくぢ、こんどやう
いさ(自) 行交、ゆきちがふ(の俗)
いさ(名) 生靈、いきてとる人の怨靈
いさ(名) 英吉利、斯、歐羅巴の強國の名
いさ(他) 射切、いてきる
いさ(名) 生別、いきながらわかれること(夫婦など)
いさ(名) 蘇生、甦、よみがへる、更生
いさ(自) 還生、いのちにかへす
いさ(俗) 行掛、ゆきみちにて
いさ(自) 夷踞、あぐらかく
いさ(名) 移居、やどがへ、轉居、やうつり
いさ(名) 衣魚、しみ、さものにたかるむし(動物)
いさ(名) 夷曲、ねびすうた、ひさぶり
いさ(副) 委曲、とほまはしむ、つまびらかに、こま
いさ(名) 意向、こころざし、こころむき
いさ(名) 異境、異國、ことなるくに
いさ(名) 異郷、他郷、ことなるくにどころ
いさ(名) 異形、ことやうなるなりかたち
いさ(名) 意氣揚揚、はこりか(得意の貌)
いさ(自) 遺却、わすれはてる、忘却
いさ(自) 畏却、れそれる
いさ(自) 鞫圍、せきこむ、いかる、いさせく、怒、悲、噴、
愠、最、發、憤
いさ(自) 嘘、うそ、うそ、ふく、嘘
いさ(名) 車螯、かひのな(動物)
いさ(俗) 意氣籠、氣象、こころざし、いさはひ(心
の)
いさ(自) 氣鬱、さかふ、さか
いさ(名) 呼吸、氣調、いささる、いささる、いささる、いささる、
息
いさ(自) 息絶、いさたねる、又いさせく
いさ(名) 息切、喘息、いさせわしむ
いさ(名) 生肝、活膽、とりたてのきも
いさ(名) 生御魂、活る人の魂、殊に己か父母の魂を
いふ
いさ(名) 威儀師、禮儀を主る人、しよれいのし
いさ(名) 生死、しやうし、いけるとしぬるとのふたつ
いさ(名) 生物、氣形、活物、いけるもの、動物
いさ(自) 喉急、息急、いきづかひはやる
いさ(名) 海髮、ふと、海菜、龍鬚、茶、植物
いさ(名) 窮鬼、生靈、いきりやう、いけるひとのれ

いさ(名) やか、くはしき、(名) なやみ、屈辱、(他) まげる(道理など)
いさ(名) 井北氏
いさ(形) 氣迫、喘息、煩悶、いさぐる、いさ
いさ(形) 貪眠、ねむがる、ねぎたなき、ねむりす
いさ(形) 威儀、堂堂、尊嚴、ある模様がらふ
いさ(名) 息絶、絶命、ことされる
いさ(名) 煩熱、むす、むしあつくある
いさ(名) 息遣、呼吸、いささし
いさ(名) 息杖、重荷を擔ふ時に支へにする棒
いさ(名) 治風、雅いなせな、あつさりした
いさ(名) 粗忽、なげやり、そさう
いさ(名) 生存、存命、生活する
いさ(自) 裏急、ちからをこむる
いさ(名) 生寫、活寫、真寫、そのままのかたち、いけ
いさ(名) 生理、いさしたなきながらうづむること、い
いさ(名) 生理、いさしたなきながらうづむること、い
いさ(名) 煩悶、いさづかひくる、いさ
いさ(名) 景天草、延命草、一本草、べんけいさう、ちど
いさ(名) ひきれこし、救火草、慎火草、火母草
(植物)
いさ(名) 息腐、口臭、くちくち、いさくちくち
いさ(名) 息臭、くちくち
いさ(名) 異香、いならぬにはひ、よさかきり

いさ(名) 意氣、こころばへ、こころだて
いさ(名) 噫氣、あくひ
いさ(形) 依稀、さもよたる、彷彿、ぼんやりしたる
いさ 伊吉氏
いさ 壹岐、西海道の國名
いさ(名) 衣櫃、たんす、さものいれ
いさ(自) 遺棄、すてる、うちすてる
いさ(名) 位記、くらゐがき

いさすき(俗形) 行過自慢、ですき、うぬばれしたる
いさん(副) 以近、このかた
いゆ(名) 械箭、かはや、雪隠、てうづば
いゆる(自) 愈全快、本復、治愈、なほる(病が)、瘰、平愈、瘰瘡
いゆう(形) 偉勇、たはいにいさまじき
いめい(名) 違命(命令に違ふ)、いひつけにそむく
いめい(名) 遺命(君父等の遺言をいふ)
いみ(名) 齋、ものいみ、さまより、齋戒
いみ(名) 忌、忌服、いみふく、ものさはり
いみ(名) 鷓鴣、どりのな(動物)
いみ 異味、ことやうなるあぢはひ
いみ(名) 意味、意義、こころ、わけ(文字文章などの)
いみはばかる(他) 忌憚、れそれつしむ
いみたけ(名) 忌竹、祭禮に立つる竹
いみづ(名) 井水、ぬど、ぬどみづ
いみな(名) 諱、實名、本名(常は憚りて呼す故に「いみさ」といふ也)
いみや(名) 齋屋、ものいみどの
いみやう(名) 異名、ほかのな、別名
いみふく(名) 忌服、いみ、ものさはり、ものえんりよ
いみことば(名) 忌詞(不浄と憚て神前よ言はぬ語にて僧を髪長と云ひ、死ぬるを直はると云ふの類)
いみどめん(名) 忌御免、忌服をゆるさるる事
いみわけ(名) 忌明、除服、服閑、もわけ、釋服、養喪
いみわひ(俗名) 意味合、意義、わけわひ
いみき 忌す(氏)

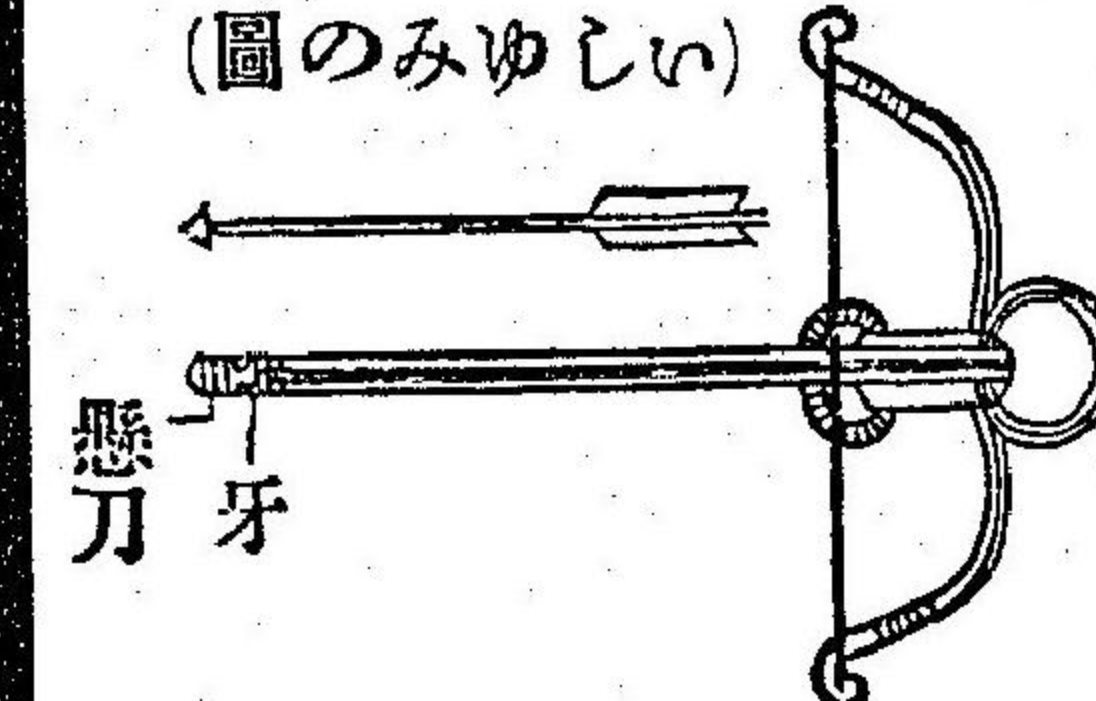
いみきらふ(他) 嫌忌、いやがる、にくむ
いみじく(副) 粗大、はなはだしき、又妙、かんしんに
いみじき(形) 粗大、はなはだしく、又あつばれ
いみもの(名) 忌物、禁物、たちもの
いし(名) 醫師、醫者、くすし、國手
いし(する) 自) 移徙、ひきうつる、うつる、移轉
いし(名) 石頭、山骨、地骨、雲根、礫、ちひささいは(土が鎔けて堅まりし者にて地の中山の中などに多し、土質の堅塊)
いし(名) 帷子、かたびら
いし(名) 意思、おもひ、こころ
いし(名) 意志、こころばせ、こころざし
いし 異志、こころなるこころざし、反心、そむくこころ、不忠之心
いし(する) 他) 頤指、あごよてさしづする
いし 異嗜、いかものすき、めづらしものすき
いし 違旨、天子の命またがふこと
いし(名) 遺志、のこせるこころざし(死者が)
いし(名) 遺矢、ぬぐそ、寐て大便する事
いし(名) 遺事、のこせること(古代の風俗などの)
いし(名) 遺兒、のこせること(死者が)、わすれがたみ
いし(る) 石井、いはまのぬど、また(氏)
いし(る) 石針、いしのはり
いしがみ 石神(氏)
いしがし(名) 石槿(植物)
いしよ(名) 醫書、方書、醫道の書籍
いしよ 異書、奇書、さいなるふみ
いしよ(名) 遺書、ゆゑしよ、遺言の書
いしよ(名) 蜈蚣、をむむし、ねづみのめ、わらじむし(動物)
いしよ(する) 畏承、かここまる、れそれうけたまはる
いしよ(名) 怡色、よろこびのいろ、喜色
いしよ(する) 他) 移植、うつしうゑる、うゑかへる
いしよく 衣食、さものくひもの
いしだ 石田(氏)
いしたたき(名) 鶺鴒、せきれい、よはたたき、とつぎをしへどり、むぎまさどり、鶺鴒鳥(動物)
いしたたみ(名) 石壘、贅、頑、しきいし。又(一種の壘み物)
いしたけ(名) 石竹、とこなつ(植物)
いしだん(名) 石壇、石階、いしのかざはし、石磴、巖、いし
いしだん(名) ざか(山へのぼる)
いしだん(名) 饅頭石、いしまんぢう
いしつ(する) 他) 遺失、とりねとす、うちわすれる
いしつ 石津(氏)
いしづくり(形名) 石造、家屋等の石にて造れるを謂ふ
いしづき(名) 石衝、鑄、鐵(やり等のもとの端をいふ)、やりのもと
いしなげ(名) 投石、ふりづんばひ、礮、落
いしらい 石來(氏)
いしらす(他) 射破、いやぶる(敵を)、いちらす
いしうち(のそや) 石打、征矢、鷹の羽にて作れる矢)

いしはら(名) 石原、礪、礪(小石の多くある地を謂ふ)
いしばし(名) 石橋、懸、磴、梁、石、梁、いしづくりのはし
いしはじかみ(名) 骨碎補、石毛、蕨、猴、姜、植物
いしはじき(名) 檜、砲、彈、棋、いしをとばすうつは
いしばひ(名) 厩炭、石灰、灰、石、堊、石、炭、石、の酸化してなれる物
いしばひいし(名) 石灰石、石炭の出来る石
いしばひやき(名) 石灰、焼、焼、灰、者、いしばひつくるひと
いしばとけ(名) 石像、石佛、いしよてつくれるはとけ
いしどうろう(名) 石燈籠、石燈樓、いしよてつくれるとうろう
いしぢ(名) 石地、礪、礪、礪、石、田、不毛之地、やせぢ(石がちの堅き地)
いしぢりだす(他) 擗出、いしめだす(人を)
いしを 石尾(氏)
いしわりせつた(名) 石割、雪踏、はきものたぐひ
いしわた(名) 石綿、石絨、冷滑石(一種奇代の鑛物にて之を以て火にやけぬ衣などを作る)
いしわたり(名) 石渡(氏)
いしわた(る)も(名) 火洗布、ひねずみのかは(る)も(石絨にて造れる衣よて汚れたる時は火にいろれば再びきよくなる、故に此名あり)
いしがに(名) 石蟹、蚌、虹(動物)
いしがかり 石狩(北海道の國名)
いしがや 石谷(氏)
いしがき(名) 石垣、石壁、牆壁、いしよてつくれるかき
いしがめ(名) 石龜、秦龜、水龜(動物)

いしがみ 石神(氏)
いしがし(名) 石槿(植物)
いしよ(名) 醫書、方書、醫道の書籍
いしよ 異書、奇書、さいなるふみ
いしよ(名) 遺書、ゆゑしよ、遺言の書
いしよ(名) 蜈蚣、をむむし、ねづみのめ、わらじむし(動物)
いしよ(する) 畏承、かここまる、れそれうけたまはる
いしよ(名) 怡色、よろこびのいろ、喜色
いしよ(する) 他) 移植、うつしうゑる、うゑかへる
いしよく 衣食、さものくひもの
いしだ 石田(氏)
いしたたき(名) 鶺鴒、せきれい、よはたたき、とつぎをしへどり、むぎまさどり、鶺鴒鳥(動物)
いしたたみ(名) 石壘、贅、頑、しきいし。又(一種の壘み物)
いしたけ(名) 石竹、とこなつ(植物)
いしだん(名) 石壇、石階、いしのかざはし、石磴、巖、いし
いしだん(名) ざか(山へのぼる)
いしだん(名) 饅頭石、いしまんぢう
いしつ(する) 他) 遺失、とりねとす、うちわすれる
いしつ 石津(氏)
いしづくり(形名) 石造、家屋等の石にて造れるを謂ふ
いしづき(名) 石衝、鑄、鐵(やり等のもとの端をいふ)、やりのもと
いしなげ(名) 投石、ふりづんばひ、礮、落
いしらい 石來(氏)
いしらす(他) 射破、いやぶる(敵を)、いちらす
いしうち(のそや) 石打、征矢、鷹の羽にて作れる矢)

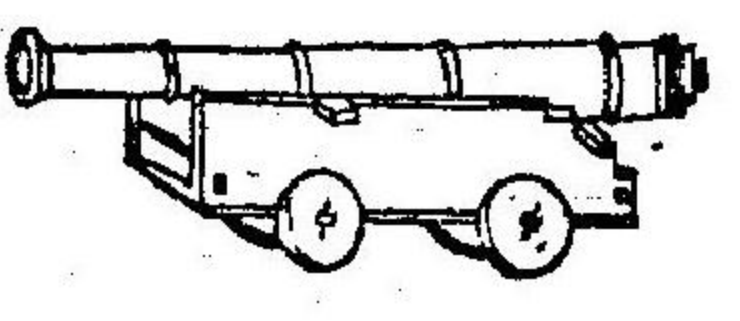
いしうら 石占氏
 いしうす(名) 石臼、石磨、石碓、磨盤、碾磑、すりうす
 いしのち(名) 石鐘乳、つらら
 いしのた(名) 石帯、装束に用ふる飾帯
 いしのきざはし(名) 石階、いしだん
 いしのみ(名) 蟹、いしきりのみだがね
 いしく(名) 石工、いしきり、いしや
 むしく(名) 畏縮、畏慄、たそれちぢむ、ちぢかまる
 むしくする(自) 萎縮、ちぢむ、しじまる
 いしぐるま(名) 石車、花車、いしのかくるま
 いしくれ(名) 磔、こいし、つぶて
 いしぐら(名) 石倉、石庫、いしづくりのくら
 いしくも(副) 善よくも
 いしや(名) 醫者、醫師、醫官、醫伯、醫生、醫員、くもし、やま
 ひなほす(自) 遺寫、かきたとす
 むしや(他) 遺寫、かきたとす
 いしやう(名) 意匠、こころづもり、こころだくみ、經營
 いしやう(名) 衣裳、ころも、衣服
 いしやう(名) 異象、ことなるあらはれ、まぼろし(夢などに見る不思議の示現)
 むしやう(形副) 委細、委細、くはしき、つまひらかに
 いじやう(形) 異常、よのつねならぬ非常
 いじやう 以上、これよりかみ(書簡の結語にも用ふる)然る時は上の人に奉るといふ意味となる)
 むじやう 圍城、ころをとりかこむ
 むじやく(名) 胃腸、胃のよわさやまひを云ふ、不消化、こなれぬやまひ

いしやま(名) 石山、いはやま
 いしまる 石丸氏
 いしまき 石巻氏
 いじける(自) 小縮のびられぬ、のびぬ
 むしふ(する)自) 蠟集、よりあつまる
 いじふぬん 伊集院氏
 いじふみ(名) 碑、碣、石碑、墓碑、墓碣、墓誌、墓表(石の表に文字を彫刻して紀念の爲に立たる者)
 いしふし(名) 石斑魚、鮠、やまめ(動物)
 いしこ(名) 石子、磔、こいし、つぶて
 いしこづめ(名) 石子、磔(石にて押し殺す事)
 いしごひ(名) 石鱗、鯉(穿山甲、せんざんかふの下に圖あり)(動物)
 いしあやめ(名) 石蕘、せきしやう(植物)
 いしざか 石坂氏
 いしざか(名) 石坂、磔路、いしだんを見よ
 むしき(形) 違式、法則に背く
 むしき(名) 醫、おさらひ、しり
 むしきばす(名) 懸壺、醫懸、しりばす、しりばれもの
 いしきり(名) 石工、石匠、いしく、いしや
 いしゆ(名) 意趣、たもむき、又うらみ、いこん
 いじゆつ(名) 醫術、醫道、いしやのみち
 むしゆく(名) 胃宿、いさへばし(胃を見よ)
 いしゆみ(名) 弩、いしはじくゆみ(往古)



の戦に用ひしもの)
 いしめ(名) 石目、いしのあや、彫刻物に云ふ
 いじめる(俗)他) 磨折、なやます、いびる
 いじめて(俗)名) 磨折者、いじめるもの
 いしみ(名) 筒籠、かご、かたま(古語)
 いしみ(名) 蹴、ゆがみ
 いしみかは(名) 杠板、板植物
 いしびや(名) 石火矢、石炮、銅發煩、大發炮、礮子、たほづつ、たぐひ
 いしもち(名) 石首魚、躑水魚、鯨鱈、鰻、動物
 いしもち(名) 石首魚、躑水魚、鯨鱈、鰻、動物
 いしもち(名) 茅膏菜、石龍牙、草植物
 いしずり(名) 石摺、摺本、墨本、石刻、石刊(石に刻して紙に印したる者)
 いしずみ(名) 石炭、地中より掘出す堅き炭)
 いしづる(名) 礎、碣、石礎、とだい、もとの、基礎
 むしん 委身、みをゆだね
 むしん 維新(百事面目を一新するを謂ふ)
 いじん(名) 夷人、いびす
 いじん(名) 異人、ことさまなるひと(仙人の如き者をいふ)
 いしんでんしん 以心傳心、心より心に傳ふる、いはずに
 しらせ 愈、痊、なほる(病が)、本復、全快、平愈、痊愈、よく
 いえる(自) 愈、痊、なほる(病が)、本復、全快、平愈、痊愈、よく
 なる
 いわかぬる 難愈、難治、なほりがたくある重病にいふ
 いはつ(する)自) 怡悦、よろこぶ、歡喜

(圖のやびしい)



いおき(する)自) 移易、うつりかはる、變易
 いおき(する)自) 怡憚、よろこぶ、たのしみ
 むおき(名) 胃液、胃中の汁にして消化を助くる者
 いおすけう 耶穌教、基督教(キリスト教)
 いひ(名) 飯、めし、食物、饗、饗、饋、かて、たもの
 むひ(する)自) 恭靡、たどろへる、ちからなくある、ふるはぬ、しほむ、なねる
 いび 揖斐氏
 いひいれる(他) 言入、まうしこむ、いひこむ
 いひはる(他) 言張、強言、いひつもの、主張
 いひはつ(他) 言外、いひあてぬ
 いひはなす(他) 言放、いひさる、はつさりいふ、ことわる、斷言する
 いひはぐらす(他)自) 言他、轉言、いひまきらす、ごまかす
 いひはやす(他) 言唯、はめそやす、いひふらす
 いひにく(形) 言惡、いふにかたき、いふあしき
 いひぼ(名) 飯粒、めしつぶ
 いひぼ(名) 耽、うをのめ、いぼの古体
 いひはとく(他) 言解、いひとく、辨解、いひひらく
 いひとほす(他) 言透、いひつらぬく
 いひとよ(名) 鶴、鶴、茅鴟、怪鴟(動物)
 いひとよ(名) 飯、豊天皇(清寧天皇の後に即位し給ふ女帝)
 いひとける 言透、いひれはせる
 むひとみ 飯、富、れ、氏
 いひちがひ(名) 言違、いひそこない、失言
 いひちらす(他) 言散、みだりにいふ、放言

いひぬける(他自) 言脱、推誘、いひのがれる
いひを(飯尾氏)
いひたはせる 言果、いひどげる
いひねく(他) 言置、いひのこす、ことばよのこしてかへる
いひわたす(他) 言渡、宣告、いひきかせる
いひわけ(名) 言譯、辨解、まうしわけ、分疏、分
解、疏解、まうしひらく
いひかはす(他) 言交、ことばをつがへる、やくそくする
いひかへる(他) 言替、いひなはず、改言
いひかへす(他) 言反、ことばをかへす
いひかぬる(他) 言兼、いひえぬ
いひかた(名) 語法、語路、ことばづかひ
いひかたむる(他) 言堅、かたくいふ、かたくやくそくする
いひがたき(形) 言難、いひにくき
いひかたつ(他) 言勝、説伏、いひふせる
いひかくす(他) 言隠、いひつつむ
いひかけ(名) 誣、いひがかり、難題
いひかける(他) 誣、しゆる、言始、いひはじむる
いひかひ(名) 飯匙、しやくし、飯杓子、めしもの
いひかひなき(形) 無云、甲斐、たのもしからぬ、無益
いひかすめる(他) 言掠、いひあざむく
いひよる(自) 言寄、くそく
いひよう(する)自) 依憑、たよる、もとづく
いひだ(飯田氏)
いひたふす(他) 言倒、いひまかせ、辨倒
いひだこ(名) 望潮魚、飯爪、蜘蛛、くもだこ(動物)

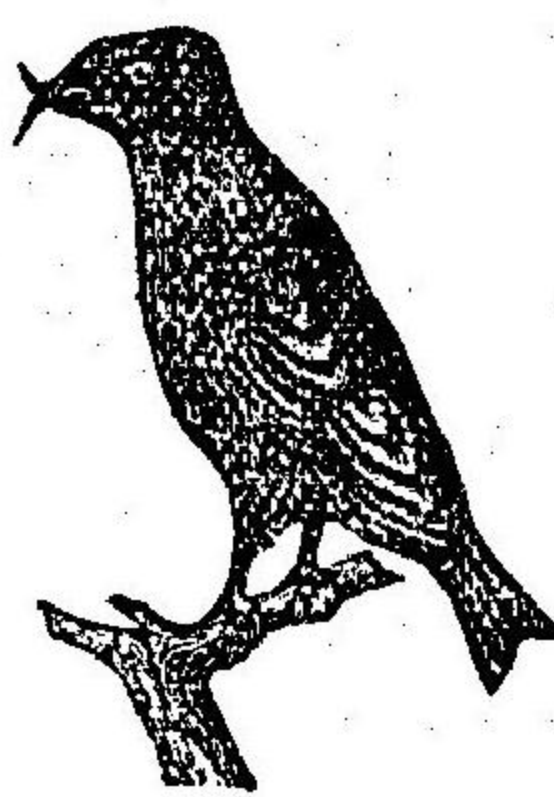
いひたてる(他) 言立、いひならべる、開陳
いひだす(他) 言出、いひのべる、陳述
いひそこなふ(他) 言損、いひちがふ
いひそめる 言初、いひはじめる
いひそびれる(自) 言損、いひそこなふ
いひつ(俗)形) 歪、長圓ゆがめる
いひつかはす(他) 言遣、いひねくる、いひれこそ
いひつたへる(他) 言傳、いひふらす
いひつなり(俗)名) 飯櫃形、なかめきたるまるがた
いひつのも(他) 言募、いひはる、しゆちやうする
いひつぐ(他) 言接、いひつたへる、とりつぐ
いひつけ(名) 命令、れはせ、まうしつけ
いひなづけ(名) 許嫁、定親、挿釵、ふうふやくそく(多くは
親がそる事)
いひならはし(名) 謂慣、いひくせ、いひなれ
いひのとりゆ(名) 炊湯、れもゆ、めしものうへのねねば
いひくろめる(他) 言瞞、いひつくらふ
いびやう(名) 異病、かはりたるやまひ
いびやぶる(他) 胃病、のよはきやまひ、不消化
いひまぎらす(他) 辯破、いひまかせ、辨倒
いひひけす(他) 言消、いひつふす、いひかへる
いひふらす(他) 流言、いひつたへる
いひふくめる(他) 言含、いひきかせる、囁、ふきこむ
いひふせる(他) 言伏、いひまかせ、辯折、いひかた
いひふせ(他) 言防、いひこぼむ
いひぶん(名) 言分、まうしぶん、争論等のこじやう

いひこらす(他) 懲戒、しかる、いましめる、叱責
いひこめる(他) 言籠、説服、いひふせる、いひやぶる
いひおはせる(自) 言合、あひはかる、かたらふ、協議、通謀、
共謀、勾結、勾當
いひあり(名) 赤蟻、あかあり(小き赤き蟻)(動物)
いひあかす(他) 言明、かたりあかす(夜を)。又いひあらは
す(心の中を)
いひあやまる(他) 言誤、いひそこなふ、失言
いひあてる(他) 言當、言中、いひてさす、いひてあはせる
いひあひ(俗)名) 言合、ことばあらし、いひさかひ、辯争
いひさき(名) 言様、いひやう、語法、いひかた、ことばづか
いひさまたげる(他) 言妨、いひさまたへる
いひさます(他) 言冷、くさす、れとしめる
いひさす(他) 言差、いひかける、なかばいふ
いひさ(名) 鼻、鼻息、睡息、れとたかきはないき(睡りゐ
て)
いひきはめる(他) 言究、講究、いひしらべる
いひきる(他) 斷言、いひはなつ、きつぱりいふ、確言
いひきかく(自) 鼻、發鼻息、れとたかくはないきする(睡
眠中に)
いひきかせる(他) 論どきしめす、教誨、説論、訓諭
いひしづめる(他) 言鎮、いひなだめる(怒れる人等を)
いひびつ(名) 飯櫃、めしびつ、めしつぎ、ねはち
いひひらく(他) 言開、いひとく、分疏、辨解、いひわけする
いひひらき(名) 言啓、辨解、まうしひらき、訴白、いひわけ
いひす(自) 言過、過言、いひすぎる、あまりにいふ
いひすてる(他) 言捨、いひはなしにする、いひてさる(只

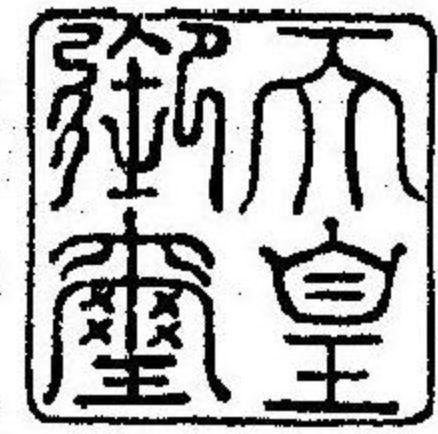
言ひて而して去るを謂ふ)
いひすぎ(他) 言過、いひすぎ、過言
いひも(名) 芋、土芝、さといも、紫芋、たうのいも(植物)
いひも(名) 痘癩、あばた、はうさうのあと、痘痕、トヤンて
いひも(名) 妹、いもど、いもろうと。はしづま(情婦)、こひをん
な
いもばたけ(名) 芋畑、芋田、芋圃、いもつくるはたけ
いもど(名) 妹、姉、女弟、いもろうと、いもど
いもどむ(名) 妹婿、いもどのとつと(妹の夫)
いもどぶん(名) 義妹、(眞の妹に非ずして妹と呼ぶ者)、ぎ
りあるいもど
いもどんぐり(名) 薯蓣(植物)
いもり(名) 井守、螻蛄、龍盤魚、みづとかけ(動物)
いもがり(名) 妹許、をんなのもど(情婦の處)
いもがら(名) 芋梗、芋黄、すいき、萩、いものくきがら
いもがさ(名) 痘瘡、はうさう、まめがさ、もがさ
いもがゆ(名) 薯蓣粥(芋と米にてつくれる粥)
いもがしら(名) 芋魁、芋栗、いものねや、たうのいも
いもむし(名) 芋蠅、烏蠅、あをむし(動物)
いもの(名) 鑄物、いたるもの、いてつくるれるかなもの
いものくき 芋莖、芋莖、すいき
いものこ(名) 芋子、芋蒴、薊子、露根、いものこね(植物)
いものし(名) 鑄物師、鑄工、冶工、鍛工、いもじ、いものする
いと
いもじ(名) 鑄鑄者、いものし、冶金者、いものしをみや
いもじ(名) 褌、ゆもト(婦人の下帯)、をんなのこしまさ
いもじる(名) 薯蓣汁、とろろ

いもひ(名) 齋忌ものいみ精進しやうらん
 いもひのには(名) 齋場ものいみばまつりのには
 いもせ(名) 妹脊、妹兄つまといふ夫婦、とつとつま
 いもせどり(名) 杜鰐、はととぎす(動物)
 いもん(名) 衣紋(えもん)きもの、いしやう
 いもん(名) 一する(他) 慰問、とむらひ。なぐさめ(人を訪ひ
 慰むる事)とふらふ
 いせ 伊勢(東海道の國名)
 いせい 異聲、つくりごゑ、ことなるこゑ
 いせい(名) 醫生、醫者、くすし、い
 むせい(名) 威勢、威權、いきほひ、けんべい
 むせい(名) 遺制、遺法、のこれるねきて、のこれるのり(前
 代の法の遺れる者)
 むせい(名) 遺精、まうごう、夢遺、夢中に精液を洩らす事)
 いせい 異姓(姓氏の異なる人また事)
 いせばうふう(名) 防葵(植物)
 いせる(他) 頤、ぬひちぢめる、ひだとる
 いせれんごう(名) 伊勢音頭(又伊勢踊と云ふ伊勢にはや
 る歌舞の名)
 いせつ 異説、ことなるかんがへ、異議、又ことなるはなし
 いせつばき(名) 石榴(莢植物)
 いせな(名) 水草、みつな(植物)
 むせう(名) 遺詔(天子の御遺言をいふ)
 いせごひ(名) 鱈魚、はらふと、くちめ、なよし(動物)
 いせざらし(名) 伊勢晒(織麻布の名)
 いせき(名) 醫籍(醫者の人別帳)いしやのなかま
 むせき(名) 遺跡、のこれるあと、古迹

むせき(名) 委積、つみかさねる。つもる(いしと
 よむと正とす)
 むせき 偉績、すぐれたるいさほし大功
 むせき 井關氏
 いせき(名) 井堰、水柵、堰埭、みづせき、みづせくもの
 いせにび(名) 海蝦、うみねび、かまくらえび、蝦魁、龍蝦(動
 物)
 いせん(名) 意鏡、おないち(小兒の游戲)
 いせん(副形) 依然、もとのまま、あひかはらず
 いせん(副) 以前、さきに、まへかた、従前
 いす(名) 柞、蚊母樹、ひよんのき(植物)
 いす(名) 椅子、こしかけ(圓椅、方椅等あり)
 むすい(名) 恭鞋、あまごころ(植物)
 いすばにあ 伊西巴尼亞(歐羅巴洲中の國名)
 いする(他) 據ゆする、ふりうごかす
 むすわ(名) 鵜、ひれくひだか、
 いすか(名) 交喙(鵜嘴(動物))
 いすかのはし 鵜嘴(もの)
 いすらにる 以色列(猶太國)
 の名) (圖のかすい)
 いす(他) 洗、すすぐ、そそぐ、あらふ、洒濯
 むすくまる(自) 坐縮、すわりちぢまる、ちぢかむ
 いすくめる(他) 射避、いしらます、いなびける
 むすま(自) 居住、すまひする、をる、すむ
 むすま(俗) 居角力、すわりすまふ



ゐすまひ(名) 居住、すまひ、むごころ
 いすぶとん(名) 椅子蒲團、いすじき、いすにしくふとん
 いん(名) 印、は
 ん、いんぎ
 やう、れし
 で(甲圖は
 天平勝寶八
 年七月八日
 及天平寶字四年七月廿三日勅書に用ひし者、乙圖は
 天永元年七月廿八日教王護國寺扉に用ひし者、丙圖
 は豐臣秀吉公の用ひし者)
 いん(名) 印、まじなひのしるし、法印(法師山伏等が祈禱
 する時に手にて作る種々の形)
 いん(他) 印、たす判をたす也。又いんさつする(板
 木活版などを以て)
 むん(名) 韻、韻(詩脚の音の一致をいふ)韻脚
 いん(名) 因位(佛書よ出る詞)もとのくらゐ、もとのさ
 ま
 いん(名) 陰痿、なへ(陰莖の勃起せざるをいふ)
 いんいつ(名) 淫佚、淫逸、たのしみ、ごり、遊興
 いんいつ(自) 隱逸、世をのがるるを謂ふ、隱遯
 いんいつ(名) 寅酉、あけくれ、朝夕
 いんいつ(他) 引誘、さそう、いざなふ、つれだす
 いんいつ(名) 淫遊、たはれあそび、淫樂
 いんろ(名) 引路、みちびくこと、みちしるべ
 いんろう(名) 印籠、藥籠、くすりさげ(印藥などを入れて
 帶る具)



いんば(名) 駟馬、かすげうま(動物)
 いんば 印旛氏
 いんばい(名) 隱賣、かくしあきなひ、密賣、ばはん
 いんばい(名) 隱賣女、かくしばいぢよ、ぢごく、みつ
 ばいぢよ
 いんばつ(自) 引拔、ひきぬく、ぬきとる
 いんばう(形) 淫放、はしりまま、みだりなる、いろにくる
 ふ
 いんばう(名) 關堡、城の升形、ますがたといふ
 いんばう(名) 音貌、こわいろ、こわね
 いんばく(名) 陰魄、かつらをとこ(月を謂ふ)
 いんばこ(名) 印筥、はんばこ
 いんばん(名) 印板、印版、板木(木版をいふ)、わりいたはり
 いた
 いんばんや(名) 印板屋、はんぎや、いんばんし(下を見よ)
 いんばんし(名) 印板師、彫刻師、鑄工、篆刻師、印工、はりも
 のし、はんぎや
 いんにく(名) 印肉、印形の肉をいふ、はんのすみ
 いんにく(名) 印池、池邊、にくつばはんのよくいれ
 いんにく(他) 引入、ひきいれる、注入
 むんぼつ(自) 殞没、湮没、はろびうせる、しやうせ
 る、ぼつらくする
 いんぼう(名) 隱謀、密謀、ひそかなるはかりごと、ひはん
 「いんぼう」 印牧、かねまさ(氏)
 いんばん(名) 印本、板本版でれたる書物といふ
 いんばん(形名) 淫奔、いたづら、しりがるなる、みだらな
 ること(重よ女子の)

いんべ 齋部忌部(氏)「いみべ」の轉
 いんべい「する」(他) 隠蔽かくしれはふ、つつみかくす
 いんぞ 印度(西)の古國即ち天竺をいふ、身毒(西域)
 いんぞう 印東(氏)
 いんぞく(名) 陰徳密かに爲す善行といふ
 いんぞく「する」(他) 隠匿かくす
 いんぞく(名) 隠匿かくれたるあしきこと、隠悪
 いんぞくやうはう 陰徳陽報(密かに爲せる善行には明かに善き報あり)
 いんぞやう(名) 印度洋(印度國の南面の大なる海をいふ)
 いんぞん「する」(自) 隠通、よをのがれる、よをすてる
 いんぞんじや(名) 隠遁者よすてびと、隠者
 いんち「する」(他) 引致、つれゆく、こういん「拘引」する
 (警察署などに)
 いんち(名) 因位(因位に同上)
 むんち(名) 韻致、たもむき、風韻、みやびたるさま
 いんぢ(名) 印地(印地打を見よ)
 いんぢう(名) 隱衷、心中、こころのうち
 いんぢう(名) 胤胄、苗裔、たね、すえ、しをん
 いんぢう(名) 院中、仙洞御所、太上皇の御居宅を謂ふ
 いんぢう(名) 印地打(端午の日小兒の遊戯とする石投)
 いんぢう、いしなげあそび
 いんぢやう(名) 隱聴、ぬすみぎき、たちぎき
 いんぢけつ(名) 印地、隸、はなわらび、なつのはなわらび、ふゆわらび、ひかげわらび(植物)
 いんぢん(名) 茵陳、ねずみよもぎ、よがら(植物)
 いんぢんかう(名) 茵陳蒿、いぬよもぎ、かはらよもぎ(植物)
 いんよく(名) 淫欲、淫念、いろごころ、いろのよく(男女の相慕ふ心)、色情
 いんたい「する」(自) 隠退、かくれしりぞく
 いんたい(自) 引退、ひきしりぞく
 いんだい(名) 隱題、かくしだの(詩歌の其句の中に題の語を入れてよむ事に云ふ)
 いんだり(名) 引足すごつかへ
 いんたう(形) 允當、穩當、ただやか、よろしき、妥貼
 いんたう(名) 陰道、ぬけみち、かくれみち
 いんたう(名) 引導、みちびき、みちびくこと(死者埋葬の時、和尙が宣る語を常にしか言ふ)、はうむるわざ
 いんたく(名) 隱宅、いんさきや、かくれが
 いんたん「する」(自) 淫耽、すぎふける、こりすぎる
 いんたん(名) 般嘆、浩嘆、太息、たはなげき、たははき、といさき
 いんれう(名) 飲料、のみもの、のみれう
 いんそつ「する」(他) 引卒、ひきぬる(軍兵にいふ)、率
 いんそく「する」(他) 湮塞、うづめる、ふさふさ(穴川等を)
 いんそく(名) 音息、消息、たより、たどづれ
 いんぞく(名) 姻屬、いんじや、いんるゐ、みより
 いんそん(名) 胤孫、子孫、すえ、ばつそん
 いんねん(名) 淫念、いろごころ、いろけ、春心、春情
 いんなう(名) 陰囊、ふたり、さんたま
 いんなみ 印南、いなみ(氏)
 いんらい(名) 般雷、ごろつくいかつち、ごころごろごろがみなり、たはいかつち
 いんらく(名) 淫樂、みだらなるたのしみ(酒色の樂)

いんりよ(名) 隱侶、隠者よすてびと、いんとんじや
 いんりよく(名) 引力、ひくちから、重力、地球などの
 いんりつ(名) 音律、音樂の調子を云ふ
 いんりやう(名) 隱梁、下水樋、うめみぞ
 むんをふむ 押韻詩脚に同韻の字と列するをいふ、いん
 とわはせる
 むんをさぐる 探韻詩を作らんとするを言ふ
 いんか(名) 淫歌、みだりがはしきうた、こうた、淫聲、鄭聲
 いんか「する」(他) 允可、ゆるむ、よしとする、許可
 いんかう(名) 咽吭、のどぶね
 いんかう(名) 音耗、息耗、音信、たより、たどづれ
 いんかう(名) 咽哽、むせかへり、泣くに云ふ、むせび
 いんかう(名) 淫行、みだらなるたのしみ(色事にいふ)
 いんかう(名) 蟻、げじげじ(動物)
 いんかく(名) 飲客、のみて、酒客、さけのみ
 いんかく(名) 陰核、きんたま、陰囊中の堅き物、又さね
 いんかく(名) 淫學、無用華浮の學文をいふ
 いんかん(名) 印鑑、鑑札、しるしのふだ、ゆるしふだ
 いんかん(名) 陰乾、かげぼし、ひかげぼし
 いんかう「する」(他) 引用、ひきもちふ、古語等を我文中に挿入するをいふ、ひく、微引、ひきこじにする
 いんかう(名) 音容、こゑかたち、人の音聲と容貌、すがた
 いんかう「する」(他) 允容、許容、ゆるす、よしとする、かどする
 むんらく「する」(自) 墮落、たつる、墜落、墮落
 いんらん(形) 淫亂、いろぐるひ、いろずき
 いんらん(名) 淫雨、霖雨、ながあめ、じたじたあめ
 いんらん(名) 茵芋、みやまじきみ、につつじ、もんたちばな(植物)
 いんらん(形) 陰鬱、さのふさぐ、しげる
 いんらん(名) 氤氳、めでたき、天地の和氣にして萬物を發生せしむる者、また靄然、和氣の充る貌
 いんのつまみ 印鈕、いんぎやうのとつて、鼻鈕
 むんのごしよ(名) 院御所、仙洞、太上皇の御殿をいふ
 「いんぐ」 印具、れしかみ(氏)
 いんぐ(名) 飲具、盃茶碗の類を云ふ、のむうつは、のみだ
 うぐ
 いんくわ(名) 引火、はくち、又ひをうちだす
 いんくわ(名) 印顛、いん、いんぎやう
 いんくわ(名) 陰火、鬼火、たにび、きつねび
 いんぐわ 因果、原因と結果、また「俗」(名) 結果、むくい、應報
 いんくわつ(他) 引括、ひきくくる、ひとまとめにする
 いんくわふ(名) 印華布、さらさ(織物の名)、はなれしぬの
 いんくわし(名) 印華紙、さらさがみ、はなれしがみ
 いんぐらん(名) 英蘭、大英國をいふ
 いんやう(名) 陰陽、男性と女性の二氣を云ふ、めを
 いんやうかく(名) 淫羊藿、いかりさう(植物)
 いんやうのじん 陰陽二神(伊弉諾伊弉册の二尊を云ふ)
 むんげ(名) 院家、官の名

いんけい 隠計、ひそかなるはかりごと、密計
 いんけい(名) 筒撃、よきかとり、よきにはひ
 いんけつ(名) 殷血、のり(刀よりしたたる)
 いんげつ(名) 隱月、琵琶の納撥の所をいふ
 いんけん(名) 引見、ひきみる(帝王等が外臣等を
 いんけん形) 陰險、わるがしこさ
 いんけん 陰顯、かくれたりあらはれたり。みながくれ
 いんげん(名) 陰言、かげごと、かげりしり
 いんげんは 隱元派(隱元和尚の弘めたる法教)
 いんげんまめ(名) 隱元豆、茶豆、眉見豆、菘豆、まめのな(植
 物)
 いんふ(名) 陰符、まじなひがき。まよげふだ
 いんふ(名) 陰府、よみ、よもつくに、黄泉、冥府(死人の靈魂
 の行く地)
 いんふ(形) 殷富、とみさかへたる、豊富
 いんふ(名) 印譜、印を押たる書をいふ
 いんぶ(名) 淫婦、姪婦、たはれめ、いたづらをんな、しりの
 はやいをんな、みだらなをんな
 いんぶ(名) 陰部、かくしどころ、男女の陰物をいふ
 いんぶく(名) 隱伏、かくれふす。まぢぶせする
 いんこ(名) 鵝哥、鵝鵲(動物)
 いんこ(名) 陰戸、陰門、まへ(婦人の前陰を謂ふ)、をんなの
 かくしどころ
 いんこ(する) 他) 淫蟲、だまじこむ、蠱惑
 いんご(名) 隱語、かくしことば、なぞ、ふてふ
 いんこう(名) 陰口、玉門(女陰をいふ)
 いんこく(する) 他) 印刻、彫鏤、はりものする、ちりばめ
 いんきよ(名) 隠染、かげみぞ、うめみぞ、げするひ
 いんきよ(名) 允許、許可、ゆるし、免許
 いんぎよ(名) 印魚、こばんぎよ(動物)
 いんぎよ(する) 允恭天皇(人皇第二十代の帝)
 いんぎよ(くわ) 陰虛火動(心經衰へて逆上するを云
 ふ)
 いんきよ(や) 隠居屋、いんたく、いんきよ(下を見
 よ)
 いんきよ(よ) 隠居處、よをのがれるところ、いんき
 よ(や)
 いんき(う) 陰麻、こかげ、ひかげ
 いんき(や) 淫狂、いろぐるひ、姪亂
 いんき(や) 隱郷、かくれざと
 いんき(や) 陰莖、男根、とばしら(男の生殖器)、まら
 いんき(や) 印形、じるしのかた、印、はん、わしで
 いんき(や) 姪虐、淫亂、いろぐるひ
 いんきて(う) 隱起彫、たきあげばり、うきあげばり(少
 しく高く彫り上げたる彫物)
 いんさん(名) 印金、織布の名
 いんざん(形) 慇懃、ねんごろ。ていねい
 むんめい 殞命、いのちをうしなふ
 いんめつ(する) 自) 湮滅、はろぶ、さほうせる、滅亡
 いんみつ(形) 隱密、れんみつ、ひそか
 いんし(形) 淫肆、いろごと。又はしいまま、みだらな
 いんし(名) 印紙、賣買貸借等に貼用する政府の印紙紙
 いんし(名) 茵芝、つりがねくさ(植物)
 いんし(名) 淫祀、みだりにかみをまつること(祀るべき理

いんご(名) 因業、因果果報、ひくい(前世の業の)
 いんてい(名) 陰挺、角なすび(婦人生殖器の變相)、なすび
 つび、まへだれつび
 いんわ(名) 姻婭、兄弟姉妹の妻夫を云ふ、あひむこ、あひ
 よめ
 いんわい(形) 隱竊、かすみこめたる、くもれる
 いんわく(名) 隱慙、かくれたるあくどいんどく
 いんわじや(名) 瘡腫者、れし、たふし、ものいへぬひと
 いんざ(名) 隱喉、かげしやくり、しりれし、ひそかにそそ
 のかすこと
 いんざい(名) 允裁、裁可、よしとすること、ゆるし(官府な
 どの)
 いんざい 印材(印をはる材料)、印石
 いんざつ(名) 一する(他) 印刷、印行、すりたてる(活版など
 に云ふ)、はんにする
 いんざつ(き) 印器、活版すりたての器
 いんざん(名) 往時、むかし、さきのひ
 いんざん(する) 自) 隱蹟、にげかくれる、ひそむ
 いんざん(名) 墨汁、すみ、英語
 いんざん(俗) 名形) 陰氣、さふさふかたち、うすぐらくわ
 る。ものしづか
 いんざ(する) 他) 隱諱、かくしむ、あらはにいはぬ
 いんざ(名) 隱几、脇息、けふそく、よりかかるだい
 いんざ(名) 姪戯、ちわぐるひ(男女の相戯る事)
 いんざよ(名) 一する(自) 隱居、告老、退隱、よをしりぞくこ
 と、よをゆづる(子などに)
 由なき神を祀る事)
 いんし(名) 禮祀、まつり(神をまつる事)
 いんし(名) 隱士、かくれびと、逸士、よをのがれたるひと
 いんし(形) 隱私、ひそやか、かくし
 むんし(する) 自) 殞死、たふれしぬる
 いんし(名) 隱事、かくしごと、密事、ひみつ
 いんし(名) 印璽、れしで、いんぎやう、いん
 いんし(名) 淫辭、たはれことば、みだらなことば
 むんし(名) 韻字、詩脚に用ふる押韻の字
 いんし(し) 往年、さきのとし、むかし
 いんし(よ) 音書、信書、てがみ、れとづれぶみ
 いんし(よ) 淫書、いろふみ、ちわぶみ
 いんし(よ) 陰所、かくしどころ(男女の)
 いんし(よ) 陰松、めまつ(植物)
 知
 いんし(よ) 引證、ひきてあかしする(古語他書
 などと引て證據をたつるを謂ふ)
 いんじ(よ) 因乘、かけること、算術の語、かけざん
 いんじ(よ) 因仍、よりもとづく(従前の事に)
 よる
 いんじ(よ) 淫色、いろにれぼれる
 いんじ(よ) 飲食、のみくひ、のみくひする
 いんじ(よ) 飲食店、れうりや、めしや、にうりや
 いんじ(よ) 陰蝕瘡、ちやく、下疳瘡、げかんさう、
 いんじ(よ) 陰疾、かくれやまひ(外部に見ぬ病と云

いんけい 隠計、ひそかなるはかりごと、密計
 いんけい(名) 筒撃、よきかとり、よきにはひ
 いんけつ(名) 殷血、のり(刀よりしたたる)
 いんげつ(名) 隱月、琵琶の納撥の所をいふ
 いんけん(名) 引見、ひきみる(帝王等が外臣等を
 いんけん形) 陰險、わるがしこさ
 いんけん 陰顯、かくれたりあらはれたり。みながくれ
 いんげん(名) 陰言、かげごと、かげりしり
 いんげんは 隱元派(隱元和尚の弘めたる法教)
 いんげんまめ(名) 隱元豆、茶豆、眉見豆、菘豆、まめのな(植
 物)
 いんふ(名) 陰符、まじなひがき。まよげふだ
 いんふ(名) 陰府、よみ、よもつくに、黄泉、冥府(死人の靈魂
 の行く地)
 いんふ(形) 殷富、とみさかへたる、豊富
 いんふ(名) 印譜、印を押たる書をいふ
 いんぶ(名) 淫婦、姪婦、たはれめ、いたづらをんな、しりの
 はやいをんな、みだらなをんな
 いんぶ(名) 陰部、かくしどころ、男女の陰物をいふ
 いんぶく(名) 隱伏、かくれふす。まぢぶせする
 いんこ(名) 鵝哥、鵝鵲(動物)
 いんこ(名) 陰戸、陰門、まへ(婦人の前陰を謂ふ)、をんなの
 かくしどころ
 いんこ(する) 他) 淫蟲、だまじこむ、蠱惑
 いんご(名) 隱語、かくしことば、なぞ、ふてふ
 いんこう(名) 陰口、玉門(女陰をいふ)
 いんこく(する) 他) 印刻、彫鏤、はりものする、ちりばめ
 いんきよ(名) 隠染、かげみぞ、うめみぞ、げするひ
 いんきよ(名) 允許、許可、ゆるし、免許
 いんぎよ(名) 印魚、こばんぎよ(動物)
 いんぎよ(する) 允恭天皇(人皇第二十代の帝)
 いんぎよ(くわ) 陰虛火動(心經衰へて逆上するを云
 ふ)
 いんきよ(や) 隠居屋、いんたく、いんきよ(下を見
 よ)
 いんきよ(よ) 隠居處、よをのがれるところ、いんき
 よ(や)
 いんき(う) 陰麻、こかげ、ひかげ
 いんき(や) 淫狂、いろぐるひ、姪亂
 いんき(や) 隱郷、かくれざと
 いんき(や) 陰莖、男根、とばしら(男の生殖器)、まら
 いんき(や) 印形、じるしのかた、印、はん、わしで
 いんき(や) 姪虐、淫亂、いろぐるひ
 いんきて(う) 隱起彫、たきあげばり、うきあげばり(少
 しく高く彫り上げたる彫物)
 いんさん(名) 印金、織布の名
 いんざん(形) 慇懃、ねんごろ。ていねい
 むんめい 殞命、いのちをうしなふ
 いんめつ(する) 自) 湮滅、はろぶ、さほうせる、滅亡
 いんみつ(形) 隱密、れんみつ、ひそか
 いんし(形) 淫肆、いろごと。又はしいまま、みだらな
 いんし(名) 印紙、賣買貸借等に貼用する政府の印紙紙
 いんし(名) 茵芝、つりがねくさ(植物)
 いんし(名) 淫祀、みだりにかみをまつること(祀るべき理

いんご(名) 因業、因果果報、ひくい(前世の業の)
 いんてい(名) 陰挺、角なすび(婦人生殖器の變相)、なすび
 つび、まへだれつび
 いんわ(名) 姻婭、兄弟姉妹の妻夫を云ふ、あひむこ、あひ
 よめ
 いんわい(形) 隱竊、かすみこめたる、くもれる
 いんわく(名) 隱慙、かくれたるあくどいんどく
 いんわじや(名) 瘡腫者、れし、たふし、ものいへぬひと
 いんざ(名) 隱喉、かげしやくり、しりれし、ひそかにそそ
 のかすこと
 いんざい(名) 允裁、裁可、よしとすること、ゆるし(官府な
 どの)
 いんざい 印材(印をはる材料)、印石
 いんざつ(名) 一する(他) 印刷、印行、すりたてる(活版など
 に云ふ)、はんにする
 いんざつ(き) 印器、活版すりたての器
 いんざん(名) 往時、むかし、さきのひ
 いんざん(する) 自) 隱蹟、にげかくれる、ひそむ
 いんざん(名) 墨汁、すみ、英語
 いんざん(俗) 名形) 陰氣、さふさふかたち、うすぐらくわ
 る。ものしづか
 いんざ(する) 他) 隱諱、かくしむ、あらはにいはぬ
 いんざ(名) 隱几、脇息、けふそく、よりかかるだい
 いんざ(名) 姪戯、ちわぐるひ(男女の相戯る事)
 いんざよ(名) 一する(自) 隱居、告老、退隱、よをしりぞくこ
 と、よをゆづる(子などに)
 由なき神を祀る事)
 いんし(名) 禮祀、まつり(神をまつる事)
 いんし(名) 隱士、かくれびと、逸士、よをのがれたるひと
 いんし(形) 隱私、ひそやか、かくし
 むんし(する) 自) 殞死、たふれしぬる
 いんし(名) 隱事、かくしごと、密事、ひみつ
 いんし(名) 印璽、れしで、いんぎやう、いん
 いんし(名) 淫辭、たはれことば、みだらなことば
 むんし(名) 韻字、詩脚に用ふる押韻の字
 いんし(し) 往年、さきのとし、むかし
 いんし(よ) 音書、信書、てがみ、れとづれぶみ
 いんし(よ) 淫書、いろふみ、ちわぶみ
 いんし(よ) 陰所、かくしどころ(男女の)
 いんし(よ) 陰松、めまつ(植物)
 知
 いんし(よ) 引證、ひきてあかしする(古語他書
 などと引て證據をたつるを謂ふ)
 いんじ(よ) 因乘、かけること、算術の語、かけざん
 いんじ(よ) 因仍、よりもとづく(従前の事に)
 よる
 いんじ(よ) 淫色、いろにれぼれる
 いんじ(よ) 飲食、のみくひ、のみくひする
 いんじ(よ) 飲食店、れうりや、めしや、にうりや
 いんじ(よ) 陰蝕瘡、ちやく、下疳瘡、げかんさう、
 いんじ(よ) 陰疾、かくれやまひ(外部に見ぬ病と云

いんじつ(名) 陰陽陰徳(密かにする善き行ひ)かくれたるよきわざ

いんじつ(形) 淫濕、しめりたる、しめりけある、ぬれたる

いんじや(名) 瘡者、いはす、たし、たふし

いんじや(名) 鬪圍城の升形を謂ふ

いんじや(名) 淫者、いたづらもの、いろごのみするひと

いんじや(名) 隠者逸民、幽人高士、いんとんじや、よすて

いんじや(名) 隠債うちばでつくのふこと、内濟

いんじや(名) 陰症、内攻病が内に籠るをいふ

いんじや(名) 印章、しるし、いんぎやう、こつくい(刻印)

いんじや(名) 因襲、よりつぐ、因循(従前の事に従ひ

来るをいふ)

いんじゆ(名) 殷朱、あかきすみうづみしゆ

いんじゆ(名) 飲酒、さけのみこと

いんじゆ(名) 院主、一寺の住職を云ふ、てらのをしやう

いんじゆ(名) 因循(従前の事によりしたがつて改め

進まぬをいふ)因襲

いんじん(名) 胭脂、しもごけ(植物)

いんじん(形) 殷賑、さかんににぎはふ、にぎやか(都會等

が)

いんじん(名) 音信、たとつれ、しらせ、たより、息耗

いんじん(名) 印信、しるし、いんぎやう、符節

いんじん(名) 陰影、かげ、うつるかげ

いんじん(名) 陰噓、くもり、くもれる(天氣が)

いんじん(名) 印影、いんぎやうのかた、いんぎやうのあと

いんせき(名) 印斗、いんばこ、はんばこ(圖書匣

いんせん(名) 引薦、推擧、すすめあげる(人を官途

などに)

いんせん(名) 隠潜、かくれひそむ

いんせん(名) 飲饑、わかれのさかつきすること、はなむけ

さかもり

いんせん(名) 院宣(太上天皇の御命)ねりのみかどの

みことのり

いんす(名) 印子、いん、いんぎやう

いんす(名) 員數、かず、しなかず

いんす(名) 淫水、精液、交合の時男子が出す液

いんす(名) 陰水、つゆ(露)

いんす(名) 飲水、のみみづ、又のみみづ

いんす(名) 陰數、偶數、ちやうのかず(二四六八十の類を謂

ふ、奇數に對す)

ろ

ろ 呂、路 「る」の父音と「れ」の母韻を合して生ずる音

にして、五十韻の中にては第九行第五段に位す。此音

は純粹の日本語の語首に冠する事なし、「らりるれ」も

亦しかり。古へは歌などよて語數の足らぬ時などに

之を挿みて其不足を補ひし事あり、例へば「かなしき

ろかも」の如し

ろ(名) 艦(船の後部)とも、船尾、ふねのしりへ

ろ(名) 櫓、船、かひ(船をこぐ具)

ろ(名) 廬(小さな家)、いはり

いんじや(形) 姪、みめよき、うつくしき、ひとをまよは

そ(美女に云ふ)

いんじや(名) 陰液、つゆ(露)

いんじん(名) 貞潔、はひまをふまどひつく。よりす

がる

いんじん(名) 因縁、ちなみ、ねにし。かかはり、つなぎ、むす

いんじん(名) 飲宴、さかもり、ふるまひ、ちさう

いんじん(名) 陰謀、かげそしり、かげごと

いんじん(形) 隱微、しりがたき、げしよき、たたくふかき、幽

玄幽微

いんもん(名) 音物、たくりもの、禮物、つかひもの

いんもん(名) 淫目、いろめ、いろめくまなこ

いんもん(名) 音問、たとつれ、とひたづね(訪問)

いんもん(名) 陰門、牝戸(女陰といふ)、つび、をんなのかく

しどころ

いんせ(名) 印施書物を印行して廣く施すを謂ふ

いんせい 淫聲、みだらなるうた、いろをすすめるなりも

の、鄭聲

いんせい 陰聲、くもるはれる(天氣が)

いんせい 音聲、れんじやう或れんせい、こゑ

いんせい(名) 印稅、印紙に由て取たつる税金

いんせい(名) 音聲、樹、るんじゆ(植物)

いんせい(名) 引接、あひしらふ(客を)接待

いんせい(名) 姻戚、ねんるゐ、ねんじや、えんびき(婚嫁上

の親類)

いんせき(名) 隕石、天より降る石、ながればし

ろ(名) 廬(酒肆なり)、ろさかや、當廬

ろ(名) 爐、鑪、いろり、ひとこ(牀を切り火を焚く所)又かま

ろ(名) 羅、絹の紗の類

ろ(名) 驢、うさぎうま、驢馬(動

物)

ろい(名) 藍衣、あしのかは

ろい(名) 藍草、あし(植物)

ろい(名) 路遺、たくりもの、まひ (圖の驢)

ろいろ(名) 蠟色、漆塗の色にて

青黒くして光澤ある者

ろいん(名) 路引(あんないする)みちびく

ろば(名) 驢馬(驢を見よ)

ろば(名) 路傍、みちばた、みちのかたはら

ろば(名) 路傍説教、つとせつけう(路傍に立て説

教する事)

ろばん(名) 露盤、承露盤、つゆうけ

ろばん(名) 鹵簿、天子の行列儀仗を云ふ

ろぼ(名) 櫓、船、ろべ(船を承るもの、形骸に似たる

故にしかなく)ろぐひ

ろべ(名) 櫓、ろほ(ろを見よ)ろぐひ

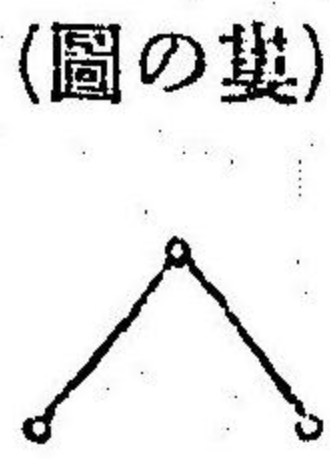
ろへん(名) 爐邊、いろりのそば

ろへん(名) 路邊、みちばた、路傍、みちのそば

ろとちう(名) 蘆、土はけつち、ばらばらするつち

ろとちう(名) 蘆、土、あし(むし動物)

ろとう(名) 路頭、みちべ、みちのはとり、途上
 ろとう(名) 槽豆、くろまめ(植物)
 ろとう(或ろづ)(名) 葦頭(葦のさきを謂ふ)
 ろとうくわ(名) 露兜花、たこのき、さあだん(植物)
 ろとご(名) 臙箱(臙をかくに用る臙)
 ろとし(名) 臙都子、ぐみ植物)
 ろとん(形) 魯鈍、にぶき、わろか愚鈍
 ろち(名) 廬地、露地、あらはのち
 ろち(名) 小門、閤門、小間、ちひさきでいりぐち
 ろちりめん(名) 絹縮緬(縮みたる絹の紗)、ちちめろろ
 ろちう 路中、たびちのうち、途中
 ろちく(名) 廬竹、なよたけ、たけのな(植物)
 ろちやうかん(名) 臙腸羹(食品の名)
 ろちやうこつ(名) 顛頂骨、あたまのはね、あたまのさら
 頭骨
 ろちん(する)(他) 臙陳、ならべつらねる、臙列
 ろりやう(名) 路糧、旅するに携ふる食物、たびいひ
 ろりやく(する)(他) 兩掠、うばひとる、かそめる
 ろをねす 邊棧、轉船、かひをもつてこく(船を)
 ろをかこむ 圍爐、擁爐、いろりのまはりよすわる
 ろをく(名) 露屋、屋根のなき家又あばらや
 ろか(名) 撥歌、ふなうた(水手の歌)、ろをねすときうた
 ろかく(名形) 兩境、あれち、あれたる田地にいふ
 ろかす(名) 密陀僧、みつだそう(藥材)
 ろかん(名) 鹵鹹、しほのかたまり、かたしほ
 ろがんの名(名) 蘆雁、繪蘆中より雁の飛たつ畫
 ろよう(俗)(名) 路用、たびのいりよう、たびのつひは、旅
 ろう(名) 婁、二十八宿の一にして南方に
 在り
 ろうろ(名) 漏蘆、くろくさ、さげてんのた
 ろうろ(形) 々々(植物)
 ろうろ(形) 臙臙、ねぼろ、うすぐらさ
 ろうは(名) 綠髮、皂髮、鐵の酸化物にて臭氣を止む
 ろうはい 弄牌、かるたをもてあそぶ
 ろうは(名) 壘圍、はたけ、田圍
 ろうは(名) 隴畝、たのうね、又はたけ
 ろうは(名) 漏崩、もりくづれる堤等が
 ろうほう(する)(自) 漏崩、もりくづれる堤等が
 ろうべ(名) 籠餅(饅頭の一名)
 ろうとう(形) 籠飼、ねろか、愚昧
 ろうとう(名) 漏斗、じやうこ、桶などの
 ろうとさい(名) 糲斗、茶をだまき植物)
 ろうをく 陋屋、いやしきいへ、みぐるしきいへ(重に謙辭
 に用ふ)
 ろうがい(名) 齧磔、もみすりうす
 ろうかう 陋巷、せまきよこまち、びんぼふまち、ちまた
 ろうかう 瞬吭、さひづる、さべつる
 ろうかく(名) 樓閣、たかどの、高き家屋、たかきや
 ろうかん(名) 籠檻、をり
 ろうたい(名) 陋態、いやしきいへ、みぐるしきいへ
 ろうたい(名) 樓臺、たかきいへ、にからしきいへ
 ろうだつ(名) 漏脱、漏れぬけ、ぬけぬけ、ぬけぬけ
 ろうだつ(名) 陋宅、いやしきいへ、陋屋
 ろうだん(する)(他) 蘄斷、かひしめる、ひとりにめする(又
 「りようだん」と讀む)



ろだい(名) 費路銀盤纏
 ろだい(名) 露臺(屋根を設けざる建物)、うてな(昔し禁裏
 に此の名を負へる處あり)
 ろたつ(する)(自) 漏達、もれきこゆる
 ろだつ(名) 漏脱、もれわたること、わたること、還
 漏、ぬける
 ろだふたい(名) 驢駝布袋、ろだはてい、うぐひすかぐら
 (植物)
 ろたん(名) 鑛炭、ゐろりのすみびろのすみ
 ろれつ(する)(他) 臙列、臙陳、つらねる、ならべる、ならぶ
 ろれつ(俗)(名) 呂律(音聲の調子)、くち
 ろぞく(名) 蘆粟(砂糖を製出
 する草)(植物)
 ろそん(名) 呂宋、るそん(馬來
 由群島の一名)
 ろづ(名) 蘆頭(ろとう)を見
 よ
 ろつぶ 六腑、むつのはらわ
 た(ろくふ)をみよ
 ろなは(名) 臙繩(臙を繫ぐ繩)、ろづな
 ろう(名) 樓、たかどの二階
 ろう(名) 權、とり獸をいれれく所、又をばしま、らんか
 ろう(する)(他) 弄、もてあそぶ、瞬、あざける、からかふ
 ろう(名) 漏、みづとけい(水時計)
 ろう(形) 壘、つんば、みみしひ
 ろう(或りよう)(名) 壘、をか、つか(高き所)
 ろうれい(形) 瓏玲、ちりんちりん(玉の鳴る音)、又すき
 とはる、きよらか(月等に謂ふ)
 ろうれつ(形) 籠劣、ねとれる、まける
 ろうそう(名) 櫛窓、れんじまき、かうじまき
 ろうぞく(名) 陋俗、いやしきならはし、卑俗、いやしきひ
 とびと
 ろうつう(名) 弄痛、あそびはら(病名)
 ろうら(形) 僂僂(事に堪へる、又膽畧あるをいふ)
 ろうらく(する)(他) 籠絡、いひくるめる、とりこめる、ひき
 こむ
 「ろらく」形 陋苦、むさくるしい、きたない
 ろうらく 弄瓦(女子を生むを謂ふ)
 ろうらくわい(する)(自) 漏潰、もりくづれる堤等が
 ろうらくわん(名) 樓觀、たかどの、樓閣、二階屋
 ろうらくつ(する)(自) 僂屈、かがむ、又かがめる
 ろうや 晝夜、ねぼろようす、あかるきよる
 ろうま 羅馬(伊太利の首府、又古代の一大國都)
 ろうまけう 羅馬教(天主教の一名)
 ろうまじ(名) 羅馬字、よこもじ、いざりすもじ
 ろうまじくわい 羅馬字會(羅馬字を以て日本語を書く
 事を弘むる會)
 ろうますうじ 羅馬數字 I II III IV V VI VII VIII
 IX X XI XII XIII XIV XV XVI XVII XVIII
 ろうけつ(名) 漏缺、もれかけること、ろだつ
 ろうけつ(名) 漏血(血の漏る病)、ちろう
 ろうげつ 朧月、ねぼろつき、うすぐらつき、淡月
 ろうけう(名) 蔓藺、いぶきよもぎ(植物)



(圖の粟)

ろうけん(形) 陋狭、いやしくせまきいふせき(家)云ふ
 ろうげん(名) 弄絃、ひきならす(琴等を)
 ろうげん(名) 弄言、しやべること、多言
 ろうふう(名) 陋風、いやしくならはし、陋俗
 ろうぶん(する)(自) 漏聞、もれさこゆる
 ろう(名) 蝮、けし(動物)

ろうこうさう(名) 龍葦草、はけたで(植物)
 ろうこく(名) 漏刻、刻漏、浮漏、更漏、みづどけい(水を盛り
 て其垂れ下るに因りて時を量る具)
 ろうこく(名) 蝸蝓、蛙、かへる(動物)

ろうてい(名) 樓梯、にかいばしど
 ろうてう(名) 籠鳥、かごのとおり、かごよいれたるとり
 ろうてふ(名) 樓、こぶね
 ろうでん(名) 籠田、たはた(田畑、はたけ)

ろうさいばら(名) 茶藨花、繚絡花、たらんだいはら(植物)
 ろうさう(名) 線衫、六衫、六位の人の着たる袍の名、う
 はぎのたぐひ

ろうさん(名) 醜産、みにくきをんな、醜女
 ろうき(名) 螺、ありのたぐひ(動物)
 ろうきよ(名) 陋居、いやしくせまき陋屋
 ろうきよ(俗)(自) 籠居、ひきこみをる、こもりをる、塾居
 ろうめん(名) 螺、つんばみみ
 ろうじ(名) 陋姿、いやしくすかた
 ろうじ(名) 聾耳、つんばみ

ろうじつ(名) 陋質、いやしくすかた
 ろのま(名) 爐間、茶の湯座敷を云ふ
 ろく(名) 祿、扶持してきて、俸祿、君主などより賜はる
 ろく(名) 助、わばら
 ろく(形) 平、たひら、ひらたき

ろく(名) 平座、录、したにすわること、ひらたくすわること
 ろく(名) 平坐、安坐するを云ふ、すわること
 ろく(する)(他) 録、しるす、かさしるす、記録
 ろく(名) 六位、正從六階の位を云ふ
 ろく(名) 轆轤、絞車、鍬車、輪車、陶車、陶鈞、運鈞、規車、旋
 盤、旋床、又せみ、井車、くるまざり

ろく(名) 轆轤(軍車の名)
 ろく(名) 轆轤(工匠の器械)
 ろく(形) 漉、漉(血流る貌)
 ろく(形) 碌碌、無智の貌、また爲ること無き貌
 ろく(形) 轆轤、斷じざる貌、ひきつづく

ろく(名) 六六、魚鱗の一名
 ろく(名) 轆轤、飛頭、また飛頭、飛頭、戸頭、變
 落頭、民、飛頭老、ぬけくひ
 ろく(名) 轆轤、細工人、旋盤匠、ちくろし
 ろく(名) 轆轤、まひきり、牽鑽、車鑽
 ろく(名) 九足、八鳥、伊勢三重郡に在る地の名
 ろく(名) 六婆、牙婆、媒婆、師婆、婆、度婆、穩婆、むつのたぐ
 ひのをんな

ろく(名) 六波羅、密布、持戒、忍辱、精進、靜慮、智慧
 ろく(名) 六度、むつのすくひのみち(佛語)

ろうじつ(名) 陋室、せまきいふせき
 ろうじつ(名) 漏失、遺精、妄想、夢に精を洩す事
 ろうじう(名) 樓舟、樓船、やかたふね、やねふね
 ろうじく(名) 菓宿、たらばらばら(二十八宿の「菓」を見よ)

ろうしや(名) 蝮者、つんばみのひと、みみしひ
 ろうしや(する)(自) 籠舎、こもりをる
 ろうしや(名) 弄璋、男子を生むを謂ふ
 ろうしや(名) 籠城、しろまたてこもる、守城、嬰城

ろうしや(名) 陋習、いやしくならはし、弊習、惡風
 ろうしや(名) 樓子葱、てんじやうねふと(植物)
 ろうしや(名) 漏出、もりいづる、もる
 ろうしや(名) 弄臣、そばつかひ、さんじゆ
 ろうしん(名) 儻身、ねこせ、せむし、駝背、曲背、儻背
 ろうしん(名) 他、自、漏泄、漏洩、もらす、もれいづる

ろうしん(名) 漏瀝、たばら、あきらかならぬ
 ろうしん(名) 樓門、二階ある門、よかいもん
 ろうしん(名) 漏聲、水時計の音
 ろうせい(名) 弄晴、好天氣の日遊びにでかける事
 ろうせい(名) 弄晴、好天氣の日遊びにでかける事
 ろうせい(名) 漏泄、もりいづる、もる、もらす、らう

ろうせい(名) 弄晴、好天氣の日遊びにでかける事
 ろうせい(名) 弄晴、好天氣の日遊びにでかける事
 ろうせい(名) 弄晴、好天氣の日遊びにでかける事

ろうせい(名) 弄晴、好天氣の日遊びにでかける事
 ろうせい(名) 弄晴、好天氣の日遊びにでかける事
 ろうせい(名) 弄晴、好天氣の日遊びにでかける事

ろうせい(名) 弄晴、好天氣の日遊びにでかける事
 ろうせい(名) 弄晴、好天氣の日遊びにでかける事
 ろうせい(名) 弄晴、好天氣の日遊びにでかける事

ろうせい(名) 弄晴、好天氣の日遊びにでかける事
 ろうせい(名) 弄晴、好天氣の日遊びにでかける事
 ろうせい(名) 弄晴、好天氣の日遊びにでかける事

ろく(名) 鹿、かしら(動物)
 ろく(名) 六、博、さいのめ
 ろく(名) 緣、うは、見よ
 ろく(名) 直居、安坐するを云ふ、平坐、すわる
 ろく(名) 直臥、安臥を云ふ、平臥、ひらたくす
 ろく(名) 六母、嫡、繼、慈、養、庶、乳、むつのたぐひのはは
 ろく(名) 六本、身を立るには孝を以て本を爲す、喪紀に
 は哀を以て本を爲す、戰陣には勇を以て本を爲す、政
 治には農を以て本を爲す、國に居ては嗣を以て本を
 爲す、財を生ずるには力を以て本を爲す

ろく(名) 六、度、布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧、六波羅密
 (佛語)
 ろく(名) 絡頭繩、馬具の名
 ろく(名) 六、徳、自在、熾盛、端嚴、名稱、吉祥、尊智
 ろく(名) 勤、腹、巾、は、ら、れ、び(馬などの)

ろく(名) 平地、ひらち、たひらち
 ろく(名) 六畜、むつのけたもの(馬、牛、羊、鶏、犬、豕)
 ろく(名) 六地、藏、延、命、寶、處、寶、手、持、地、寶、印、堅、固、意、の
 六、菩、薩
 ろく(名) 六、鹿、色、聲、香、味、觸、法、六、法(佛語)
 ろく(名) 鹿、梨、ありのみ、な、し(植物)
 ろく(名) 祿、盜、戸、位、職、務、を、盡、さ、す、して、徒、に、素、殮
 する、輩、を、云、ふ
 ろく(名) 澹、過、こ、も、こ、し、と、は、す(水等を)

ろくわ(名) 蘆花よしのはな
 ろくわ(自) 露臥野宿をこにふす
 ろくわい(名) 蘆薈植物また其液汁の堅まりし者
 ろくわん(名) 蘆管よしくた
 ろくがい 六骸首、身、左右手足
 ろくがう(名) 六郷氏また河名
 ろくかく 六角(近江源氏佐々木の姓)
 ろくかく(名) 鹿角、しかのつ
 ろくかくさい(名) 鹿角茸、さかもぎ、鹿薬
 ろくかくさい(名) 鹿角菜、ひトキ、ラミダサのな植物
 ろくかふちう(名) 鹿甲蟲、くはがたむし(動物)
 ろくかせん 六歌仙在原業平、僧正遍昭、小野小町、喜撰法師、大伴黒主、文室康秀
 ろくがんさう(名) 鹿銜草(植物)
 ろくよく 六慾、六種の世慾をいふ、六塵と見よ
 ろくよくてん 六欲天(佛説にて欲界の六天四王、忉利、夜摩、兜率、樂變化、他化自在をいふ)
 ろくだい(名) 爐工臺竈の臺を云ふ
 ろくだう 六道(佛語にて人の輪廻する處、即ち天上、人間、修羅、畜生、餓鬼、地獄をいふ)
 ろくだうせん 六道鏡、紙鏡、楮鏡、瘞鏡、昏寓鏡、死人の棺の中にいれて葬る鏡にて死人が三途川を渡るよはらふ者といふ
 ろくそ(名) 鹿葱、なつすむせん(植物)
 ろくぞんせい(名) 祿存星(星の名)
 ろくつう 六通(佛語にて天眼、天耳、他心、宿命、神魂、漏盡の六通力をいふ)

ろくでうてんわう 六條天皇(人皇第八十代目の帝)
 ろくさい(名) 鹿茸、さかもぎ、鹿角茸に同ト
 ろくさい(名) 六齋日(六度の齋戒日、又月に六度の日を謂ふ)
 ろくさい(名) 鹿妻草、かのつまぐさ(植物)
 ろくさい(名) 鹿索、しばりとること、ねしどりする(官吏などが)
 ろくさん(名) 緑衫、ろうさう(舊六位の人などの着たる緑色の衣)
 ろくさん(名) 白蘆、ふなばら(草の一種)(植物)
 ろくさん(名) 鹿記、かきしるす
 ろくさん(名) 鱧、鱧魚、らんちう(金魚の名)
 ろくさん(名) 鱧魚、水鮮時魚に似たる魚
 ろくさう 六畜(ろくちく)を見よ
 ろくさう(名) 鹿菲草(植物)
 ろくさう(名) 鹿鷲、かがし、案山子の類なり
 ろくさん 六禽(鷹、鷓鴣、雉、鳩、又鳥、雁、雉、鷓鴣)
 ろくゆ 六輪(釋教中に云ふ所の夢、幻、泡、影、電、露)
 ろくめい(名) 鹿鳴草、しかなまき(植物)
 ろくみ 六味(五味に淡を加へて云ふ)
 ろくみやく 六脈浮、沈、遲、數、虛、實の六様の脈の鼓動を言ふ
 ろくし 勒師(兵士を募るをいふ)
 ろくし 六繫(諸侯は皮帛、卿は羊、大夫は雁、士は雉、庶人は鷺、工商は鶏の六種の准物をいふ)
 ろくじ 六時(晨朝、日中、日没、初夜、中夜、後夜)、むつのとき(晝夜の)

ろくろ(名) 路隅、みちのすみ、みちのかたはとり
 ろくろ 六具(鏡、籠、小旗、鞭、鞍、扇の六戦具)
 ろくろくわ(自) 他 渡過、こす、渡過を見よ、こしとほす
 ろくろくわつ 六月、みなづき(第六の月)
 ろくろくわん(名) 鹿薈、いぬふん(植物)
 ろくろくわんれん 六觀音(千手觀音、正觀音、馬頭觀音、十一面觀音、准胝觀音、如意輪觀音をいふ)
 ろくろくわん 六軍(天子の軍旅と云ふ)
 ろくろくわん(名) 鹿野苑(釋迦の始て法を説きし所)
 ろくろくわん(名) 鹿藥、ゆきさ(植物)
 ろくろくわん(名) 鹿茸、うしば(動物)
 ろくろくわん(名) 助膜、あばらのうすかは
 ろくろくわん(名) 助膜炎(病名)、あばらのうすかはのきんじよう
 ろくろくわん 六藝(禮、樂、射、御、書、數、むつのげいご)
 ろくろくわん(名) 祿券、俸祿の証券を云ふ
 ろくろくわん(名) 勞算草、ひゆき(植物)
 ろくろくわん 六府(六衛府と同ト)
 ろくろくわん 六腑(大腸、小腸、胃、膽、膀胱、三焦、むつのごうふ)
 ろくろくわん(名) 六部(靈場を巡拜する佛教信者を謂ふ)
 ろくろくわん(名) 六奉行(武者奉行、旗奉行、長柄奉行各二員故に然か云ふ)
 ろくろくわん(名) 助骨、わさばね、あばらばね、脇骨
 ろくろくわん 六穀(稻、梁、菽、麥、黍、稷、むつのたなつもの)
 ろくろくわん 六根(佛語にて眼、耳、鼻、舌、心、意を謂ふ)、六處
 ろくろくわん(名) 鹿蹄草、いぢやく(植物)
 ろくろくわん(名) 直無、不良人、よからぬひと、わるもの

ろくじ(名) 録事、かきしるせること、かきたて。又かきものやく
 ろくじ(名) 鹿茸、しかのふくろつ
 ろくじ(名) 六勝寺(尊勝寺、圓勝寺、成勝寺、延勝寺、最勝寺、法勝寺を云ふ)
 ろくじ(名) 六戎(饒夷、戎、夷、老白、耆美、鼻息、天剛の六夷狄)
 ろくじ(名) 六獸(麋、鹿、狼、麝、兔、野豕、むつのけもの)
 ろくじ(名) 六情(喜、怒、哀、樂、愛、惡)
 ろくじ(名) 六醜(酒家の奴、さかやのはたらきびと)
 ろくじ(名) 六尺(大名のかどかき、其長高きを選びし故に斯くいへる也) 轎夫、昇夫
 ろくじ(名) 六邪臣(具臣、諛臣、姦臣、讒臣、賊臣、亡國臣を云ふ)
 ろくじ(名) 六極(六道に同ト)
 ろくじ(名) 六種力(小兒は啼を以て力と爲す、女人は瞋を以て力と爲す、沙門は忍辱を以て力と爲す、國王は驕傲を以て力と爲す、羅漢は精進を以て力と爲す、諸佛は大慈を以て力と爲す)
 ろくじ(名) 六順(君義、臣行、父慈、子孝、兄愛、弟敬)
 ろくじ(名) 六親(六種の親戚即ち父子、兄弟、姉妹、舅姑、婚媾、姻婭)
 ろくじ(名) 鹿心柿、ふでがき、かきのたぐひ(植物)
 ろくじ(名) 六衛府、ろくろのつかさ(左右近衛、左右衛門、左

右兵衛

ろぐひ(名) 機臍(ろはぎ)に同ト
 ろくびさう(名) 鹿尾草、鹿角菜、ひトキ(植物)
 ろくも(名) 勒母(貝母に同ト)(植物)
 ろくせき 六威(父母、兄弟、妻子)
 ろくせん 六膳(牛、羊、豕、犬、馬、魚、むつのうまさものろくすぬなう(名) 澆水、澆水(すすま)みづこしぶくろくすみ(名) 直線墨、すみなは(大工が用ふる)ろや(名) 船屋(船のつくる人)
 ろまう(形) 雨蔭(やりのばなし)なげやり、みだりなるろげ(名) 露芽(茶の若芽を然か呼ぶ)
 ろけい(名) 魯鷄(たうまる(動物))
 ろげき(名) 露椒(むきだし)のつげふみ、ふうせぬしらせふみ
 ろけんする(自) 露顯(あらはる、しれる、發覺、發露)
 ろけん(名) 顯卷(はちまき、かしらづつみ)
 ろふ(名) 蘿蔔(らふく)はね、だいのこん(植物)
 ろふ(名) 船楫(るべと、ろはぎ、ろふひ)
 ろふする(他) 露布(しらせ、ふれる、ははやけにするろふち(名) 爐縁、爐廓(ろりのふち)
 ろこ(名) 蘆虎(ささぎ、黃鼠、鳥(動物))
 ろこつ(名) 顯骨(かしらぼね、あたまのはね、頭骨)
 ろこう(名) 鑪缸(るつば、かねどかすうつは)
 ろこんらん(名) 露根(蘭ね、ざらしらん(植物))
 ろてい(名) 路程(みちのり、みち、里程)
 ろていする(他) 露呈(あらはす、しめす)
 ろてん(名) 露店(はしみせ、干店、てんとぼし)

ろし(名) 鷓鴣(う、うのとりの動物)
 ろし(名) 鷺鷥(しまつどり(動物))
 ろじ(名) 露次(のト、野宿)
 ろじ(名副) 路次、道次(みちのついで、みちすがら途上、路上)
 ろじう(名) 蘆洲(あしのはねたるす、あしはら)
 ろじや(名) 蘆車(かせぐるま、いととくるまのな)
 ろじやう(名) 鑪匠(いものし、いもト)
 ろしわ 露西亞(歐羅巴、西亞、跨れる大國の名)
 ろしゆ(名) 魯酒(うそきさけ(疎惡酒))
 ろしゆつ(自) 露出(あらはれでる、あらはになる)
 ろじゆん(名) 蘆荷(あしのわかばね)
 ろしん(名) 路寢(天子の居室を謂ふ)、正寢
 ろじん(名) 露刃(ぬきみじらは白刃)
 ろじん(名) 路人(みちゆくひと(行路人)、行人)
 ろい(名) 露營(のちん野陣)
 ろひ(名) 路費(路銀と見よ)、たびのいりよう
 ろひさう(名) 鷺飛草(ささぎさう(植物))
 ろせい 櫓聲(ろのれと、かぢれと)
 ろせい 盧生(唐の開元中、邯鄲の里に旅枕して人間の虚榮を夢みし人の名)
 ろせき(形) 鹵瘡(いしぢなる、やせたる(土地にいよ))
 ろせん(名) 廬船(やかたぶね)
 ろす(名) 露水(つゆ)
 ろん(名) 論(自) 論(あらそひ、あげつらひ、議論、いひあらそふ)
 ろんば(自) 論破(いひやぶる、いひふせる)

ろざ(する)名) 露坐(そとにすわる、つちのうへよす)

ろざい(名) 囉齋(ものもらひ、ものごひ、乞丐、乞食)

ろざう(名) 魯菜(本清國の産にして我邦に傳へしは明治八年なり、魯兒を飼養するに最も利有り云ふ)

ろぎよ(名) 鱈魚(すずき(動物))

ろぎよ 魯魚(相似たる文字の例に用ふ下を見よ)

ろぎよのあやまり 魯魚誤(文字を寫す時の書誤りを謂ふ)

ろさつ(名) 盧橘(たちばな、枇杷菓(植物))

ろぎつ(名) 路岐痛(いぬご筋をひきて他處が傷む事)

ろさう(名) 盧弓(くろぬりのゆみ)

ろさじゆん(名) 露葵(純ぬなは植物)

ろざん(名) 路銀(路用、たびのつひに路錢、路費、たびのいりよう)

ろきんねり(名) 絹金織(織物の名)

ろめい(名) 露命(つゆのいのち、はかなきいのち、わづかのいのち)

ろし(名) 鱈子(せいご(動物))

ろし(名) 露齒(では突出たる前齒)

ろんばく(する)他) 論駁(いひなとる、辨駁(人の説をろんばく(名) 論法(論理法を云ふ)、わけつらひかた、ろんトかた)

ろんばん(する)他) 論判(論ト判つを謂ふ)、また議論、いひあらそふ

ろんべん(名) 論辯(いひあらそふこと、ぎろんする)

ろんぞん 倫敦(英國の首府の名、又龍敦と書く)

ろんり(名) 論理(議論の法則を謂ふ)

ろんりがく(名) 論理學(議論の法則を論ずる學)

ろんかく(名) 論客(ろんするひと、いひあらそふひと、論者)

ろんだん(する)他) 論斷(ろんトさだめる、論定、いひきめ)

ろんだん(名) 論壇(議論する場所、また文壇)

ろんだん(名) 論(自) 論(あらそふこと、議論、わけつらふ)

ろんぞう(する)他) 論奏(帝王に意見を吐露するを謂ふ)

ろんなく(副) 無論(いふまでもなく、むろん)

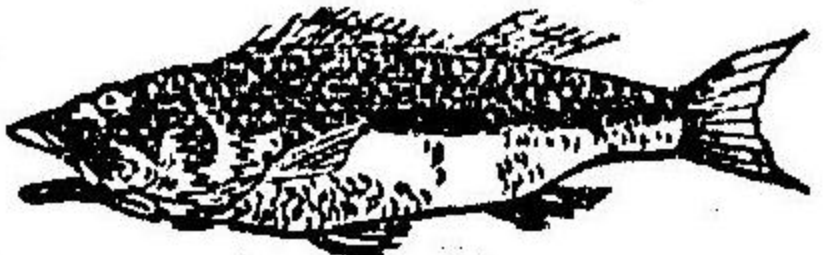
ろんなん(する)他) 論難(議論をもて言詰る、いひとがめ)

ろんけつ(する)他) 論決(議り定むる、あげつらひさだめる)

ろんぶん(名) 論文(議論の文章)

ろんご 論語(四書の一、孔子の語録)

ろんざう(する)自) 論争(いひあらそふ、ぎろんする、議論ろんざ(する)他) 議論(ろんトあらそふ)



ろんきう「する」自 論究、たしきはひる、たづねきはひる
 ろんじよう「する」他 論所、おろそふかど、論點
 ろんじや「名」論者、議論する人、論客、あげつらふひと
 ろんじゆ「名」論主、議論する人、論者
 ろんじん「名」論人、議論の主、論者、論客
 ろんせつ「名」論説、議論の詞、あげつらふことば、また論文

は

は 破、波葉 是は、ふの父音と、あゝの母韻を合して生ずる音にして五十韻中なる第六行第一段より位す、又てはをばとして用ふる時は主格を表するの働きを爲す(但してはをばの時は常にわをひびくなり)

は(名) 歯、牙口の肉よ在て物を噛む骨質の器
 は(名) 派、わかれ、はだ、支流、また宗派
 は(名) 葉、このは、さのは

は(する)「他」破いひやぶる、論破
 は(名) 羽、はねつばさ、又鳥の数をかぞふる詞
 は(名) 把、わをひびく、たば、たばね
 は(名) 鉦、まぐは

は(名) 刃、かたなのは、きれもの、のさるるところ、刀口
 は(名) 場、ところ、ばしよ
 は(する)「他」廢、やめる、みわはする、廢止
 は(副) 唯、答ていらへする詞、へい
 は(名) 肺、ふくふくし、肺臟、呼吸を主とする腑

は(名) 稗、ひに(植物)
 は(する)「他」拜、をがむ、禮拜
 は(する)「自」頗、倚、かたよる、偏倚
 は(名) 盃、杯、さかづき、猪口
 は(する)「自」敗、やぶれる(戰爭にて)敗北
 は(名) 裝背、うらうち
 は(する)「他」配、めあはす、あはせる(夫婦等に言ふ)
 は(名) 馬醫、馬の醫者、即ち所謂伯樂といふ、うまくす

ば(名) 梅、うめ(植物)
 ば(名) 陀螺、ぶしやうごま(小兒遊戯の具)
 ば(名) 枚、夜撃等の時口に銜み暗器を止る具
 ば(形)「する」自 倍、ふたかさ、ひとかさ、はいはなる
 ばい 海螺、甲螺、小甲香、へなたり、つ(動物)
 ばい(う)名 俳優、わざをき、やくしや(芝居の)、梨園子弟
 ばい(う)名 俳友、はいかいともだち
 ばい(ん)名 賈淫、ひそかにいろをひそぐこと、ぢごく、密賣淫

ばい(する)「他」擺、ねしりぞける
 ばい(ばい)名 賈買、うりかひ、あきなひ、しやうばい
 ばい(ばら)名 榛原、榛原、地原、氏
 ばい(ばう)「する」自 敗亡、やぶれはるゝる、はいはく
 ばいはく「する」拜白、つつしみまうしあげる
 ばいはん「する」背叛、そむく、うらがへる
 ばいはん(名) 牌版、かんばん、いた、看板
 ばいはん 廢藩、大名の諸藩を廢せし事をいふ
 ばいはん 盃盤、さかづき及さらはち

ばい(ん)俗「名」賣人、うりて、又くらうと
 ばいば 拜墓、はかにまゐる、はかまゐり
 ばい(ば)「する」陪輔、たすくる、補助
 ばい(ばく)「する」自 敗北、まげにぐる、やぶれる(戰爭に)
 ばい(ばく)「する」他 排拊、うちたふそ、わたしたふす
 ばい(ばく)「名」賣下、うらなひ、占考
 ばい(ばく)「名」賣下者、うらなひし、卜者
 ばい(へい) 配兵、つはものをくばる
 ばい(へん)「する」他 買辦、かひととのふ、かひをなへる
 ばい(と)「名」隼人、たけきひと、上古薩摩より出し朝廷の成衛兵、はやとばやひと

ばい(と) 培土、つちかふ、つちをもる、木の根よ
 ばい(とう)「名」佩刀、こしがたな、ねぶる、かたな
 ばい(とう)「名」梅豆、なつたまめ(植物)
 ばい(とく)「する」拜讀、つつしんでよむ
 ばい(とく)「名」買得、かひまうけ、利分、まうけ、り
 ばい(とく)「名」黴毒、かき病名
 ばい(とく)「名」黴毒検査、かきしらべ(娼妓の)
 ばい(とく)「名」敗毒菜、うしのした(植物)
 ばい(とく)「名」賣奴小屋、奴欄、やつこや
 ばい(ち)「名」配置、くばりたき、てわけしてれく(兵卒などを)

ばい(ち)「名」賣女、娼妓、あそびめ、ねやまぢようろ
 ばい(ち)「名」敗家、ふるつか、やぶればか
 ばい(ち)「名」輩、はうばい、ともがら
 ばい(ち)「名」敗明、いしくやぶれる、まける
 ばい(ち)「名」拜聽、謹聽、つつしんでまぐ

ばい(り)「名」賣利、まうけ、うりあげまうけ、ばいとく
 ばい(り)「名」配慮、心配、こころづかひ
 ばい(り)「名」或はいる「名」配流、遠嶋、しまながし(刑名)
 ばい(り)「名」廢立帝王を立たり廢したりする事
 ばい(る)「名」配流、しまながし、はいらう(をみよ)
 ばい(る)「自」這入、いる、いりきたる、入
 ばい(を) 敗屋、あばらや、敗宅
 ばい(か)「する」他 佩荷、ありがたくねもふ
 ばい(か)「名」配下、こした、旗下、はたした
 ばい(か)「する」拜賀、奏慶、つつしみいはふ、よろこびをまうしあぐる(朝廷へ)

ばい(か)「する」自 他 倍加、ばいにます、ばいする
 ばい(かい)「名」俳諧、十七文字の歌
 ばい(かい)「形」沛艾、うるはしき(花などの)さかりなる
 ばい(かい)「名」媒介、なかだち、媒妁、なかうど
 ばい(か)「名」敗禍、やぶれぎもの、弊衣
 ばい(かう)「名」背向、うしろむき、逆面
 ばい(かう)「名」佩香、にほひのたまにほひぶくろ
 ばい(かう)「する」陪行、したかひゆく、ともする
 ばい(が)「名」廢學、學問をやむるを謂ふ
 ばい(が)「名」配合、めあはす、あはせる
 ばい(が)「名」媒合、とりもつ、なかだちする(男女等を)

ばい(か)「名」敗家子、だうらくむすこ
 ばい(か)「名」肺肝、肺臟と肝臟、はらのうち、心中、はらわた

はいかん 拜顔、ためよかか、拜講、まみゆる。
はいかん(名) 梅干、うめぼし、乾梅。
はいかんをくだく 摧肺肝、こころをこらす、こころをくだく、きをもむ。

はいよう(名) 胎孕、はらむこと、みもち。はらむ、こをやぐす。
はいよう(名) 胎孕、はらむこと、みもち。はらむ、こをやぐす。

はいよう(名) 肺癰(肺の中に生ずる悪腫物)。
はいた(名) 賣女、娼妓、ぢようろ、ねやま。

はいたい(名) 拜戴、いたたく、たしいただく。
はいたい(名) 拜戴、いたたく、たしいただく。

はいだ(名) 敗第、ふるいへ、やぶれいへ、敗宅。
はいだ(名) 敗第、ふるいへ、やぶれいへ、敗宅。

はいたか(名) 鷓鴣、負雀、めだか(雄を、このりといふ動物)。
はいたか(名) 鷓鴣、負雀、めだか(雄を、このりといふ動物)。

はいたつ(名) 配達、くばり、くばる、新聞紙郵便等々。
はいたつ(名) 配達、くばり、くばる、新聞紙郵便等々。

はいたつにん(名) 配達人、くばりて(郵便物などの)。
はいたつにん(名) 配達人、くばりて(郵便物などの)。

はいたう(名) 配賦、配當、わりわたへること、わりわたへる、配賦。
はいたう(名) 配賦、配當、わりわたへること、わりわたへる、配賦。

ばいたう(名) 梅桃、桃櫻樹、ゆもらうめ(植物)。
ばいたう(名) 梅桃、桃櫻樹、ゆもらうめ(植物)。

はいたく 敗宅、おばらや、やぶれいへ、ふるいへ。
はいたく 敗宅、おばらや、やぶれいへ、ふるいへ。

はいたく(名) 配講、くだしうつすこと、官吏を罰する爲に他處へ、又しまながし。
はいたく(名) 配講、くだしうつすこと、官吏を罰する爲に他處へ、又しまながし。

はいたて(名) 佩楯、腰楯、前に垂る。
はいたて(名) 佩楯、腰楯、前に垂る。

はいらん(名) 拜覽、拜見、つつしんでみる。
はいらん(名) 拜覽、拜見、つつしんでみる。

はいらう(名) 沛雨、たはあめ、大雨。
はいらう(名) 沛雨、たはあめ、大雨。

ばいのふた(名) 脣へたなり。
ばいのふた(名) 脣へたなり。

ばいのざう(名) 肺臟、ふくふくし(左右兩部に分れて互に空氣の呼吸を主とする機關)。
ばいのざう(名) 肺臟、ふくふくし(左右兩部に分れて互に空氣の呼吸を主とする機關)。



(圖の楯佩)



(圖の臟肺)

はいたみ(名) 齒痛、はのいたみ、むしばのやまひ。
はいたん(名) 敗端、やぶれのはし、やぶれいどぐち。

はいたん(名) 廢炭、ガス(石炭の屑より取る者)。
はいたん(名) 廢炭、ガス(石炭の屑より取る者)。

はいだん(名) 俳談、たどしばなし。
はいだん(名) 俳談、たどしばなし。

はいだん(名) 賠談、つくひばなし、償金談。
はいだん(名) 賠談、つくひばなし、償金談。

はいれい(名) 拜禮、をがみ、又じぎ、わいさつ。
はいれい(名) 拜禮、をがみ、又じぎ、わいさつ。

はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。
はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。

はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。
はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。

はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。
はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。

はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。
はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。

はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。
はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。

はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。
はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。

はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。
はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。

はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。
はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。

はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。
はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。

はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。
はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。

はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。
はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。

はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。
はいれい(名) 陪隸、しもべ、こもの、とも。

ばいふんする 培糞、こやしする
 はいこ名 癩瘡、かたはやまひ、からだのきかぬやまひ
 ばいご名 賠語、賠談をみよ
 はいこう名 廢溝、ふるばり、つぶれみず、すたりたるは
 り

はいこう 廢興、そたりたこり、盛衰
 ばいこく名 貝殼、かひがら、かひがち
 はいこんする 自 胚渾、くぐもる、溟
 はいていする 拜呈、つつしみてたてまつる、さしわけ
 る、ささげる
 はいてう名 廢朝、輟朝、不幸の事によりて暫く朝政を執
 る事を止るを謂ふ

ばいてう名 媒鳥、をどり
 はいてん 廢典、すたれおきて、すたりたるれきて
 はいでん名 拜殿、神宮の前殿をいふ
 ばいてん名 梅天、さみだれのそら、さつきそら
 はいわう名 杯蓋、さかづき、さけのむらうつは
 はいざい名 一する 他 配劑、もりおはせ(薬品の)。もる
 (薬を)

はいざつ 廢札、ふだくばり、くばりふだ
 はいざう名 微瀝、かさばいとく
 はいざん名 杯蓋、さかづき、酒盃
 はいさする 自 他 敗毀、やぶれる、おれる、やぶりこぼつ
 はいさ名 俳戯、たはむれ、たどけ、しばぬ
 はいさする 廢棄、すてる、のぞく、しりぞける
 はいさする 自 拜跪、ひざまづく、をがむ
 はいさ名 黷氣、かさげ、かさのさみ

ばいしする 自 倍蓰、二つ増を倍といひ、五つ増を菑と
 云ふ
 ばいし名 蓰芝、をみなへし(植物)
 ばいし名 賣子、まいそ
 ばいし名 貝子、貝齒、こやすがひ、からがひ(動物)
 ばいしぼく名 賣子木、さんだんくわ(植物)
 はいしよ名 配所、るざいしよ、請所、しまながしにせら
 れたるどころ
 ばいじよする 他 媒助、たすけなす、なかだちする
 はいじよする 拜承、つつしみうけたまはる
 ばいじよ名 一する 自 陪乘(貴人の馬車に同乗する
 を謂ふ)

はいじよく名 敗色、まけいろ
 ばいじよく名 一する 自 陪食(貴人の食事に相伴する
 を謂ふ)
 はいしつ名 癩疾、かたは跛躄替などの不具をいふ
 ばいじう名 一する 自 陪従、したがふ、扈従、ともする
 はいしや名 齒醫者、齒醫、齒科醫、齒の療治をする醫
 者

はいしや名 廢舎、すたれや、廢屋、おぼらや
 はいしやする 拜謝、つつしみてありかたさをいふ、れ
 いをまつす
 はいしやう名 俳倡、狂言師、じやうるりやくしや
 はいじやうする 拜上、つつしんでたてまつる、拜呈
 ばいしやう名 一する 他 賠償、つくのひ、つくのふ(金を
 出して)

はいしやく名 杯酌、さかもり、酒宴

はいさよする 他 廢去、すてざる、すてる
 ばいさよする 他 枚擧、かぞふる、かぞへあぐる
 ばいさうする 他 買求、かひもどめる、かひどる
 はいさやくする 他 廢却、すてしりぞける
 ばいさやくする 他 賣却、うりはらふ
 ばいさせい名 煤氣井、火井、ひのもゆるるど(越後等に
 ある)

はいざんする 拜吟、つつしみよむ、拜誦
 はいめいする 拜命、官職を受けるを謂ふ
 はいめい名 俳名、うたな(俳諧師の號)
 はいめつ名 一する 自 廢滅、すたれること、すたり。すた
 る、やぶれすたる(法律風俗等が)

はいめん 拜面、拜顔に同ト
 はいめん名 背面、そびら、そとも、うしろむら。うしろの
 かた
 はいみやう名 俳名、はいめい(をみよ)
 はいしする 配祀、他神を合祀するを謂ふ、おはせまつ
 る、ひとつにまつる
 はいし名 一する 他 廢止、やめ、すつること、すつる、は
 いする、廢弛

はいし名 一する 他 廢弛、すつること、すたれること、すて
 るやめる(廢止に同ト)
 はいし名 背子、からぎぬ、婦人の着たる短衣
 はいしする 配賜、わかちたまふ、くばりわたへる
 はいし名 稗史、くさざうし、小説、せうせつ
 はいし 廢寺、ふるでら、やぶれでら
 はいしする 拜辭、いとまごひする。つつしんでいなむ

はいしやくする 拜借、かりる(丁寧の語)
 はいしやく名 一する 他 媒妁、なかだち、なかうど、なか
 だちする、どりもつ
 はいしき名 拜式、禮拜の法式
 はいじゆする 他 配授、わりわたす
 はいじゆする 拜誦、つつしみよむ、拜讀
 はいじゆする 拜受、つつしみてうける、頂戴、いたたく
 ばいじゆ名 酷酒、もちみさけ
 ばいじゆ名 買主、かひぬし、かひて

ばいじゆする 他 買取、かひどる、かひうける
 はいじゆつする 他 擺出、ふりだそ、はらひいだす
 はいじゆつする 輩出、つつきでる、ねはくれこる(人物
 などが)
 ばいじゆけい名 梅首、鶏ぼん、どりのな動物
 はいじん 拜神、かみををがむ、かみをまつる

はいじん名 癩人、すたれびと、かたはもの
 ばいじん名 陪臣、またもの、またげらい
 ばいしんちよ名 賈新女、くちぎうりめ、たきぎうりめ
 ばいしんくわん名 陪審官、たちあひしらべやく(裁判に
 たちあふ人々)
 はいそする 自 敗壞、やぶれる、こはれる
 はいせいする 自 排泄、はいせつ(をみよ)

はいねん 肺炎、肺癆(病名)、はいのやまひ
 はいねん 廢機、やぶれびと(敗宅にいと)
 はいねん(形副) 沛焉、たはいなるゆたかに(雨等にいと)

沛然 はいひ「する」拜披、つつしみひらく(人の書簡等を)
 はいひつ(名) 敗筆、ふるふで、ちびふで
 ばいも(名) 貝母、ははくり植物
 はいもん「する」拜聞(拜聴、同じ)
 はいせい(名) 彗星、ははきばし、彗星、蓬星、光世大にして長
 く尾をひく星
 はいせつ「する」(他) 擺設、擺布、つらねならぶ、排設
 はいせつ「する」(自) 敗折、まげくじける、やぶれる、敗削
 (戦争に)
 はいせつ「する」(自他) 排泄(はいせい)、くだる、もれいづ
 る、排洩、くだす(吐瀉病の人などが身より物を出すな
 どに云ふ)
 はいせつ(名) 稗説、小説(せうせつ)、くさざうしばなし
 はいせつ「する」(自他) 廢絶、やみすたる、やめすたる、たつ
 はいせき「する」(自) 敗績、敗軍、まげつひゆる(戦争よ)敗
 北
 はいせき「する」(他) 排斥、しりぞける、ひなんする、うつ
 ばいせきはんじ(名) 陪席判事、たちあひさいばんくわん
 はいせん(名) 盃洗、さかつきあらい(飲酒の具)
 はいせん(名) 廢墮、ふるぼり、からぼり、つぶれぼり(城の)
 はいせん(形副) 沛然、ゆたか、たはく、たはいなる(大雨の)
 ふる貌また大なる貌
 ばいせん「する」(他) 買占、かひしめる、ひとりにてかふ
 ばいせん(俗) 賈冊、うりふね、うるふね
 はいせん(名) 配膳人、せんをくばるひと、給仕人
 ばいする「する」(自) 陪隨、ともする、したがふ

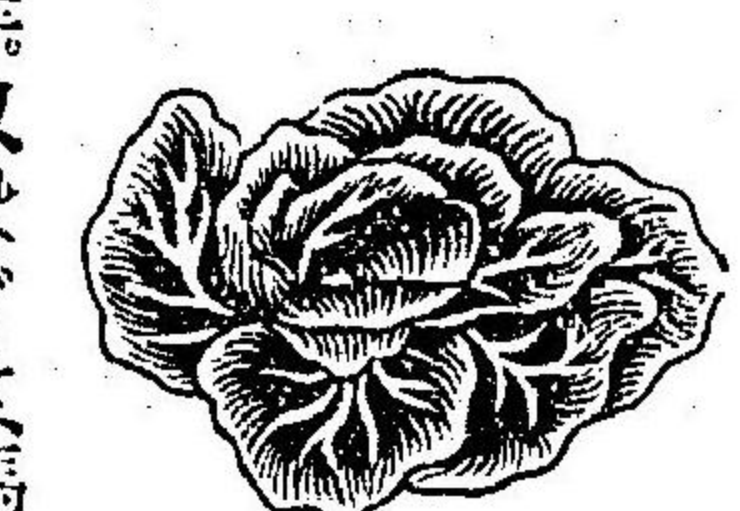
はいするはふ 排水法、みづはき(水を流し落す法)
 はいするのちん 背水之陣、みづをうしろにしたるそな
 (必死を期して勝利を僥倖する陣法)
 はいする(他) 廢やめる、すてる、よす
 はいする「する」 拜趨(長者の處に参るなどに言ふ)、うか
 がふ
 ばいん(名) 馬陰(馬の陰莖)
 はろう「する」(他) 簸弄、もてあそぶ、なぶる、ちやかす
 はろう(名) 蒺藜草、はうれんさう(植物)
 ばろう(名) 馬勒、くつわ、馬銜(馬具)
 はは(名) 母、北堂、母堂、をんなをや、たらちね、いらね、は
 はびと
 はば(名) 幅、よこのひろさ、幅員、ひろさ
 ばは(名) 馬肥、まぐわ、まんぐわ
 ばば(名) 祖母、ねやのはは、また老婆、としよりをんな、ば
 あさん
 ばば(名) 馬場、うまかけば、乗馬場、うまのりば、調馬場
 ばば(名) 羽箆、鳥の羽にて作れるははき
 ははとじ(名) 母刀自、家慈、ははきみ、ははびと、慈母
 はばり(名) 刃針、醫者が用ふる小刀の類
 ははれや(名) 母親、をんななれや
 ははか(名) 朱櫻、櫻桃、にはざくら(植物)
 ははかべ 伯伯部(氏)
 ははかへす(自) 再發、癩(病の重ねて發するをいふ)、ぶり
 かへす
 はばかる(自) 憚れ、それる、いひ忌憚
 ははかた 母方、外戚、ははれやのみより

ははかたのばば 母方祖母、外祖母、ははかやのかたのば
 ば
 ははかたのをば 母方叔伯母、姨(母の姉妹)
 ははかたのをち 母方叔伯父、外舅、母の兄弟をいふ
 はばた 馬喰田(氏)
 はばたき(名) 一する(自) 鼓翼、はうつこと(鳥の)、はねを
 たたく
 ははそ(名) 柞櫛才、こならがし(植物)
 ははそたけ(名) 柳茸(植物)
 ばばなん(名) 婆婆納、いぬふぐり(植物)
 はばむ(他) 沮、こぼむ、おしとどめる
 ばぼう(名) 馬房、うまや、廐
 ははくる(名) 黒子、痔、はくろ、あざ(古語)
 ははくり(名) 貝母(はいも)(植物)
 ははくひどり(名) 鼻、ふくろ(動物)
 はばやき(形) 刺、かがやく
 ははふ(名) 霸法、霸王の政をいふ、武斷政治
 ははこ(名) 母公、ははれや、ははきみ(ははをみよ)
 ははこく(名) 母子草、鼠麴草、鼠耳、香茅、茅膏菜、米麴、曲
 節草(植物)
 ははてう(名) 喇叭鳥、鸚鵡、八哥、寒卓、鴛鴦(動物)
 ははき 帚、帚、はうき、はくうつは
 はばき(名) 脛巾、裏脚、行膝、脛衣、織脚布、脚絆
 はばき(名) 鋼刀、劍の鍔元に巻きたる環
 ははきばし(名) 彗星、彗星、檜、長尾星、わざはひばし、は
 せい(をみよ)
 はばきがさ(名) 脛膝瘡、すねがさ(俗に雁瘡、かながさ)と

いはふ
 ははきたけ(名) 帚茸(帚の形の
 菌)
 ははきぐさ(名) 地膚、白地草、涎
 衣草、地麥、掃帚草、藜藿、玉
 茸(圖の茸) 茸
 慧、地葵、ははきぎ、よはくさ
 (植物)
 ははきぎ(名) 帚木(植物)
 ははじやひと(名) 母者人、ははこ、ははれや、はは
 ははびと(名) 母、ははれや、ははこ、はは
 ははん(名) 八幡、奔帆、海賊、昔し海賊を然か呼べり
 ははん(名) 一する(他) 密輸入出、かくしつみいれ、或つみ
 だし(海關税を出さずにする)、潜商、密商、かくしあき
 なひそる
 ばはん(名) 馬盤、ばだらひ、うまあらふたらひ
 ばはんもの(名) 密輸入出物、かくしつみいれ、或つみだし
 もの
 はに(名) 埴黏土、へなつち、ねばつち
 ばにとらうふう 馬耳東風、ききてもわからぬたとへ、又き
 きそてにする
 はにわ(名) 埴輪、土偶、土人形、つちにてつくれるひとが
 た
 はにわり(名) 半月、ふたなり、をどこをんな、半陰陽
 はにかむ(自) 羞恥、はづかしがる
 はにつち(名) 埴土、ねばつち、はに
 はにく(名) 齒肉、はのにく、齧肉
 ばにく(名) 馬肉、うまのにく

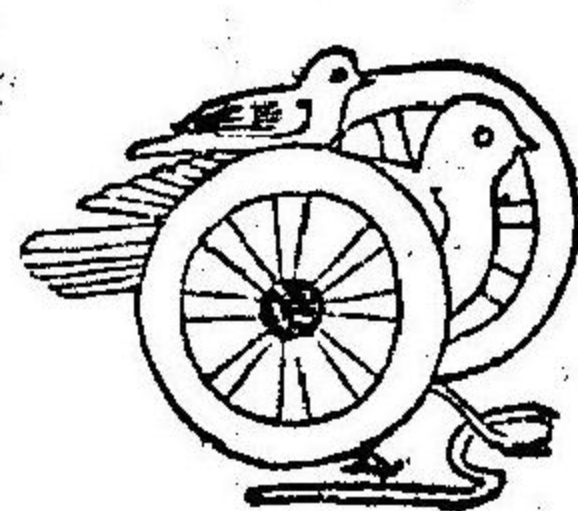


はにやま(名) 肥はげやま、禿山
 はにふ(名) 地生、はにつちとこ、はよつちのあるところ
 はにふのこや(名) 黄土小屋、赤土小屋、地生小屋、賤民の
 居る小さな家にて地などを以て塗れる者
 はにし(名) 土師、にんぎやうつくり、また(氏)
 はばたん(名) 甘藍、包菜、キャベツの
 類にて人の食料となる
 はばそ(名) 膽入樹、しいとぎ、ぶくの
 き(植物)
 はばつ(名) 馬勃、みみつぶし、つちか
 せ、きつねのちやぶくろ、まぐそ
 だけ、まぐそかつら、はこりたけ、
 めつぶれだけ、木にふすべ、牛屎菰、南星、又まぐそ、馬
 糞
 (圖のんたばは)



はどり(名) 服部、はたれり、又はたれるわざ(古語)
 はとむね(名) 鳩胸、龜胸、でむね、つさいでたるむね
 はとむぎ(名) 鳩麥(薔苳仁の如き者或は云ふ同一物なり
 と、肺病より功ありと云ふ)
 「はとう」(名) 巴豆、ばう(植物)
 ばとう(名) 馬刀、まて、からすがひ、みづがひ(動物)
 ばとう(名) 馬鏡、わぶみ
 ばとうぢやう(名) 馬頭娘、かひこ、おこさま(動物)
 ばとうれい(名) 馬兜鈴、うまのすすくさ、うまのそすかけ
 (植物)
 はとうこん(名) 烏糞(植物)
 はとうさう(名) 馬刀瘡、瘰癧病の一種
 はどのつゑ 鳩杖(鳩の形をさざみたる杖)
 はどのくるま(名) 鳩車(小兒の
 戯具)
 はどのふん(名) 鳩糞、左盤籠、
 の糞は左盤するが故にい
 ふ)
 はどのみね 鳩峯(山城の男山
 の一名)
 はとくさ(名) 大青(植物)
 はち(名) 顛頭、顛蓋、あたまのはち
 はち(名) 鉢(僧徒の用ふる糧器、または通例の皿、並に
 大なる水盤をいふ)
 はち(名) 蜂くまばち、トがばち、みつばち等あり、夫夫の
 語に就て見よ、蠶、蠟、蜂(動物)

(圖の車鳩)



はぢ(名) 恥、耻、羞、慚、慚愧、かはをわからむることさき
 と
 ばち(名) 撥、梓、枹、楨(大鼓などを打つ棒また三絃琴など
 を弾く具)
 ばち(名) 罰(天の刑罰をいふ)
 はちいん 八音、金石、絲竹、匏土、革、木の八音をいふ)
 ばちばち(副) 剝剝(物の火に焼けなとする音)
 はちばん 八蠻(八種の外夷をいふ)
 はちにんげい(名) 八人藝、象戲(多人數の真似を一人にて
 する藝また之とする人)
 はちへいじ 八平氏(坂東の八平千葉、上總、三浦、土肥、秩
 父、大庭、梶原、長尾の八姓なり)
 はちぢやうつむぎ(名) 八丈緇(絹織物の名)
 はちぢやううじま 八丈嶋(伊豆の沖の大洋にあり)
 はちぢん 八陣(天、地、風、雲、龍、虎、鳥、蛇よして陣法にい
 ふ)
 はぢをすすぐ 雪恥、あだとかへず、又あかりとたてる
 はぢかみ(名) 生薑、生姜、しやうが(植物)
 はちだい(名) 鉢蓋、盆架、はちをのぞるだい
 はちだいちぢく 八大地獄(等活、黒繩、衆合、叫喚、大叫喚、
 焦熱、大焦熱、無間の八地獄をいふ)
 はちだいらうわう 八大龍王(難陀、跋難陀、娑竭羅、和修
 吉德叉迦、阿那婆達多、摩那斯、優鉢羅の八龍をいふ)
 はちだいにし 八代史、晋書、宋書、齊書、梁書、陳書、周書、隋書、

唐書
 はちだいにしふ 八代集(古今、後撰、拾遺、後拾遺、詞花、金葉、
 千載、新古今の歌集をいふ)
 はちたたき(名) 鉢敲(鉢を叩いてもらひあるく乞食僧と
 いふ)
 はちだう 八道(五畿内の外、東海、東山、北陸、北海、山陰、山
 陽、南海、西海の八道をいふ。朝鮮にも亦八道あり)
 はちつけのいた(自) 顛附板(兜の頭につけたる具)
 はちらふ(自) 合羞、はづかしがるはづる
 はちのき(名) 鉢之樹、盆樹、はちうゑのき、盆栽樹
 はちのす(名) 蜂窠、露蜂房、蜂窠、蜂房、はちのいへ
 はちく(名) 淡竹、こまただけ、まただけ、くろだけ(植物)
 はちく 破竹、たけをわる。たけわり、勢の鋭きたとふ
 はちく(他) 彈、打、ゆびにてはねる。とばす
 はちぐわつ(名) 八月、はづき、第八の月)
 はちくま(名) 鴛(鴛の類)(動物)
 はちまき(名) 鉢巻、顛卷、髮帽、髮帽、鉢額、かしらにまける
 の
 はちまんざ(名) 八幡座、神宿兜の頂をいふ)
 はちける(自) 鉢發、破裂、われる、あみわれる
 はちふく(自) 蜂吹、いみさくる、わつばらふ(好まぬ人を)
 はちでう 八條(氏)
 はちめん 八面、やも、八方
 はちめん(名) 撥面、ばちのあたるところ(琵琶などに云
 ふ)
 はちみつ(名) 蜂蜜
 はちしらふ(自) 羞、潮紅、はづかしがる、はにかむ

はちじのまゆ 八字眉、愁眉、うれへのまゆ
はぢしめる(他) 令羞、辱、誣辱、凌辱、羞殺はぢかかせる、は
づかしめる

はちねふぐるま(名) 八葉車(車駕の名)

はちひらき(名) 鉢披(名、食をいふ)

はちびやう 八病(和歌の八病即ち同心、亂思、惛蹠、緒鴻、
花橘、老楓、中絶、後悔)

はちもらひ(名) 化飯道人、はちばうず、ものもらひばうず

はちもじ 八文字、八といふ字の形をいふ

はちす 蜂巢(氏)

はちす(名) 蓮はす、芙蓉、芙蓉、また蓮花(植物)

はちすばな(名) 蓮花はすのはな

はちすか 蜂須賀(氏)

はちすのつばみ 蓮苔、菌苔、またひらかぬはすのはな

はちすのうてな(名) 蓮臺はとけのすはるぎ

はちすぎ(名) 蓮樹はすのき、蓮の如き樹の名

はり(名) 針、鍼、いとつけてぬふもの

はり(名) 榎梁、榎、うつばり

はり(名) 玻璃、玻璃、頗梨がらす、ぎやまん、びいどろ

はり(名) 刺、刺、とげ、草木の刺をいふ、えら

はり(名) 刺、刺、蜂針、蜂等の尻にある針状の者

はり(名) 罵、罵、罵、ののしり、ののしる、わるくい

ばり(名) 尿、小便、いばり

ばり(名) 針、針、はりくすし

ばり(名) 張板、洗ひたる布帛をはりつくる板

ばり(名) 針入、はりばこ(針箱)

だ

はりあふ(自) 張合、競争、きそふ、せりあふ

はりさば 棒澤、はんざは(氏)

はりさける(自) 脹裂、ふくれやぶれる

はりさし(名) 針床、針簿、はりさすうつは

ばり(名) 馬力(馬一匹の力を以て一馬力とを即ち一
分時間に二萬四千九百五十六斤以上の重量を一尺ば
かり地より上ぐる力と謂ふ)

はりきやう(名) 玻璃鏡、びいどろかみ、がらすかみ

はりゆみ(名) 張弓、はりたるゆみ、また懸聲、ゆみはるう
つは

はりめ(名) 貼目(紙布等の)

はりめ(名) 針女、裁縫女、はり、きぬぬひめ

はりめ(名) 針目、綜紐、ぬひめ、いとめ

はりめぎぬ(名) 針目衣、つぎきぬ、ぬひつぎきぬ

はりみち(名) 聖道、新道、あらたにひらけるみち

はりし(名) 針工、はりつくり、はりすり、はりや

はりねにした(名) 刺鷹爪、きのな(植物)

はりねひ(名) 鮪魚、うをのな

(動物)

はりひぢ(名) 攘臂、ひぢをい

からそること

はりもの(名) 張物、はるも

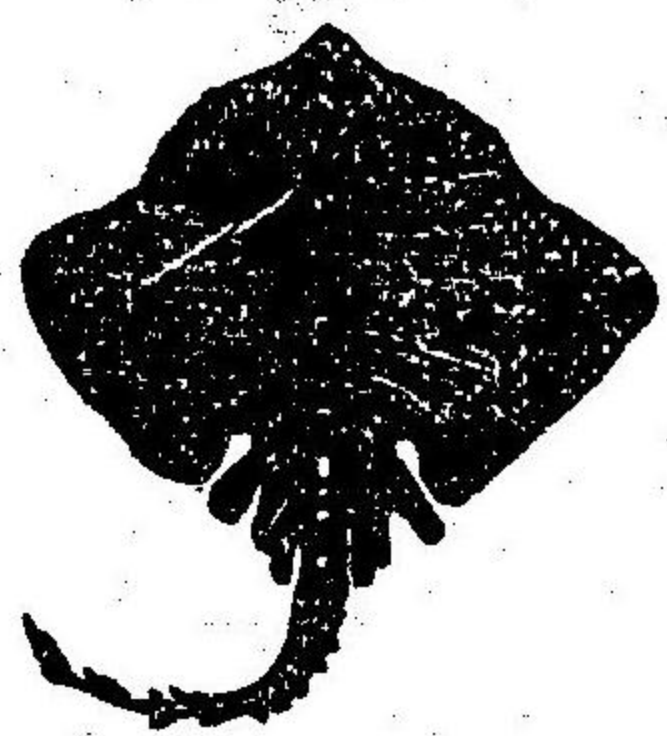
の、又はること

はりせんぼん(名) 魚虎、から

だにはりればさうを動物)

ばりす(名) 巴黎斯(佛蘭西の首府)

(圖のひねりは)



はりばこ(名) 針箱、女の手箱の類

はりぬき形(名) 貼板、紙にてはりどほしたるを謂ふ

はりかた(名) 陰相(男根に換ゆる具)

はりかね(名) 針金、線金、銅線、鐵線

はりかねかづら(名) 針金、石南科に屬する者

はりかねひき(名) 銅線工、拉線者、はりかねつくるひと

はりかみ(名) 張紙、附箋、浮貼、貼紙、貼帖、はりつくるかみ

はりたけ(名) 針簾、針背、きのこのな(植物)

はりだす(他) 張出、貼示、はりかかける(廣告などを)

はりづつ(名) 針管、はりをいれるつつ(器具)

はりつけ(名) 磔木、上に掛て下より槍にて衝く刑罰

はりつけばしら(名) 磔柱、十字架

はりつける(他) 貼附、紙等を、はる

はりねずみ(名) 猬、毛刺、箭猪、けはりねずみ、はりねずみ、
くさふ(動物)

はりのき(名) 橙、はんのき、播赤揚橙(植物)

はりく(名) 馬陸、はんざむし、やすでむし、くさむし(動物)

はりま 播磨(山陽道の國名)

はりまち(名) 鰓、ばまち(魚の名)(動物)

はりけん(名) 洋鴨、鴨、香鴨、どりのな(動物)

はりふか(名) 多刺、細魚、うをのな(動物)

はりふん(名) 張札、はりかみ、貼札、貼帖、はりつけふだ

はりこ(名) 張籠、張子、かみにてはれるもの

はりこむ(俗) 張込、齧、齧、ちからをいれる、ちからをい

はりすぢ(名) 針筋、針歩、ぬひすぢ、はりめ

はりすひいし(名) 吸針石、磁石、じしやく

ばりん(名) 馬蘭、かさつばた、ねじあやめ、旱蒲、馬薺(植物)

はぬけ形 齒脱、はのぬけたる、はかけ

はぬけどり(名) 羽拔鳥、はねのぬけたる、雞などをいふ、
羽脱鳥(動物)

はぬき(名) 齒拔、齒鉗、鉗牙者、齒をぬく醫者

はる(他) 墾、新開、あらたにひらく、さりひらく(新地など
を)

はる(他) 貼、物をのりにて、張、號(号)を、授、據(奉)を

はる(名) 春、華、節、淑、陽、春(二三四月といふ)

はる(自) 冰、凍、氷が水の上に生ずるを謂ふ

はるぬ(する) 自 波累、かかりあふ、まさごへになる

はるぼる(副) 遙遙、はるかに、とほどは、はるか(をみよ)

はるか(形副) 遼、香、藐、曠、遙、渺、悠、迢、緜、遼、遠、渺、渺、遼、平

悠悠、緜、邈、とほきはるけき、はるぼる

はるか(名) 春風、陽風、惠風、和風、柔風、條風、谷風、東風、
薰風、はるよくかせ

はるがすみ(名) 春霞、はるたつかすみ

はるたつひ 春立日、立春、はるのとつつき

はるな 榛名、氏、また上野の高山の名

はるのかみ(名) 東君、はるをつかさどるかみ、青皇

はるのよ 春夜、春宵、はるのゆふ

はるのうぐひす 春鶯、新鶯、はるくるうぐひす

はるのあけぼの 春曉、春曙、はるのよあけ

はるのみや(名) 春宮、東宮、みこのみや、皇太子をいふ

はるのひ 春日、春晝、春日

はるけき(形) 遙遠とほき、はるか
 はるげしき(名) 春景色、春光春色、はるのいろ、はるのわ
 りさま、韶光
 はるさめ(名) 春雨、育花雨、榆莢雨、はるのあめ、やよひあ
 め、膏雨

はるぎ(名) 春衣、春服、はるさるきもの
 はるめく(自) 發春色、有春光、はるらしくある
 はるび(名) 鞆、讓腹帶、はらび(馬の)
 はるび(名) 春日(はるのひをみよ)
 はるせみ(名) 蛴螬、蟬母、せみのたぐひ(動物)

はね(名) 羽音、はたたきするね(鳥の)
 はねり(名) 羽織、表衣
 はねる(他) 羽織、うちかける、うへにさる
 はをむく 齒剃、顯齒、はをむきだす、いがむ(犬にいふ)
 はをく 破屋、あばらや、こはれや
 はをくひしぼる 切齒、はをかたくわはせる、又はがみす

はねしろい(名) 輕粉、はらや、水銀粉
 はわいぼし(名) 室宿(二十八宿の一)として西方にあり
 はわいこく 布哇國、哈維國、さんどいちじま(太平洋中の
 島名)

はわかれ(名) 歴齒、はなみ、はならび、はのならべるさま
 はわうべん(名) 霸王鞭、さりんかく(植物)
 はわうじゆ(名) 霸王樹、しやぼてん、さざらざつほう(植
 物)
 はわけ(名) 葉分(草木の葉の分かる事)
 はわけ(名) 派分、にだわかれ、分派

はかり(名) 秤、はかりつくり、はかりつくるひと、又
 はかりや(名) 秤匠、はかりつくり、はかりつくるひと、又
 はかりうるひと
 はかりと(名) 謀、謀略、計畧、謀計、計策、籌策、たくみ、ひ
 とと(はかる)てだて

はかりざ(名) 秤、はかりのさし、はかりのぼう
 はかりざら(名) 天秤盤、はかりのさら、はかりにつけるさ
 ら
 はかりめ(名) 秤目、はかりのさし、又めかた
 はかりす(他) 秤過、おまひねはくはかる、はかりす
 はかる(他) 計量、圖謀、はかりごととめぐらそ、度、謀、揆、
 測、忖度、思量、揣摩、おもひはかる、ねしはかる

ばかわらひ(俗)(名) 痴笑、おはわらひ、しまりなきわらひ
 さま
 ばかがひ(名) 馬鹿蛤、痴蛤、かひのな(動物)
 はかた(名) 八角田、八角島氏
 はかた(名) 博多、筑前の地名、また同處より織出す絹の帯
 地の名

はかたれり(名) 博多織、筑前國博多より織出す帯地をい
 ふ、はかたぎぬ
 はかたゆり(名) 天香、ながきはなのゆり(植物)
 はかためもち(名) 齒固餅(正月の雑糰餅をいふ)
 はかたじま(名) 博多編、博多織の編地をいふ

はがね(名) 鋼鐵、切物の刃となる堅き鐵
 はがねぼ(名) 鋼刃、はがねのは
 はかなく(副) 無墓、無果、敢脆弱、もろく、たわいなく、あは
 れに

はか(名) 進歩、はかどり、とすみ、掛
 はか(名) 墓、墳墓、玄廬、長夜室、家塾、塾域、永宅、九原、つか、
 はうむりどころ
 はが 芳賀氏
 はが(名) 撲鳥を捕る具
 ばか(俗)(形) 馬鹿、おろか、白痴、痴漢、愚人、痴愚、呆痴、阿
 呆、かしこからぬ、ちるたらぬ

はかい(名) 破戒、いましめをやぶる佛法に云ふ
 ばかい(名) 馬介、うまつかひ、べつたう
 ばかい(名) 馬芥、からし(植物)
 ばかい(名) 馬蠶草、にしきぐさ(植物)

ばか(名) 墓場、墓所、墓地、はかどころ、はうむりどころ
 ばか(名) 墓場、馬鹿敷、おろかなる、くだらぬ
 ばかはら(名) 墓原、九原、堤隆、はかみち
 ばかばやし(名) 馬鹿噺(祭禮の時の噺にする音楽をいふ)
 ばかどり(名) 信天翁、おはうどり(動物)

ばかどる(自) 抄取、進歩、はやくはこぶ、はやくすすむ
 はかどころ(名) 墓所、はかはら、厩所、九原
 はかり(名) 秤、秤、銚、等子、衡平、權衡、度量衡、ものをはか
 るうつは、めかたはかり

はかりべり(他) 秤耗、めり、めかたのへり
 はかりなほす 復測、再測、ふたたびはかる
 はかりむし(名) 尺蠖、しやくどりむし、蠟(動物)
 はかりのを 秤索、秤繩、はかりのひも、さげを
 はかりのねもり 稱錘、秤鉈、はかりにつけたるおもきも
 の、ふんどう

はかりのかぎ 秤鉤、はかりにつけるかぎ
 はかなき(形) 墓無、無果敢、もろき、よわき、あはれなる
 ばから(名) 馬珂螺、くつはがひ(動物)
 はから(自) 謀議、量計、畫、はかる、かんがへまはせ、又處
 辨、とりまかなふ、とりさばく

ばからし(俗)(形) 馬鹿敷、おろからしき、くだらぬ
 はからず(副) 不圖、不慮、不意、おもひもよらず
 ばかうぎ(名) 馬鮫魚、さばらうをのな(動物)
 はかく(名) 破格詩文の法に協はぬを謂ふ

ばかやつこ 癡者頭、愚物、鈍物、おろかなるやつ
 はかま(名) 袴、腰下にはく廣き裳、袴、執袴
 はかま(名) 芭蕉、莖衣、白膜、うすかは(花や種等の周圍に
 蒙れる薄き皮)

はかま(名) 笠、へりあるかま(周邊に)
 はかま(名) 墓、拜墓、詣、はかまうで
 はかま(名) 袴地、はかまにつくるべきたりのもの
 はかま(名) 鬼見愁、鱗甲花、つるぐさのな(植物)

はかま(名) 袴、はかまといれるま(ま)をみよ
 はかまのひだ 袴襷、袴襷、はかまのをりかさね(ひだ)を
 見よ
 はかま(名) 袴着、小兒が三歳か五歳に成りし時に始て
 袴を着する祝の名

はか(名) 齒落、齒脫、はがぬける、はがぬける
 ばか(名) 被魅、狐狸等、おどろかせる、はか(名) ばか(名) ばか(名)
 はか(名) 葉書、端書、一片の書信紙を謂ふ
 はか(名) 齒齧、もどかしき、じれつたい
 はか(名) 齒咬、切齒、怒つて齒をかむを云ふ、齧齒、はき

はか(名) 齒齧、もどかしき、じれつたい
 はか(名) 齒咬、切齒、怒つて齒をかむを云ふ、齧齒、はき

はたけがさ(名) 疥癩(はたけ)に同じ
 はたけつくり(名) 圃人、畦丁、作男、たつくりをよこ
 はたけな(名) 松、なのたぐひ(植物)
 はたけむしろ(名) 半邊蓮、くさのな(植物)
 はたけやま 島山(氏)
 はたけもの(名) 陸田作物、をかもの、はたけよつくりうる
 もの
 はたけせり(名) 早芹菜、せりのたぐひ(植物)
 はたご(名) 笈(馬に草飼ふ籠)
 はたごや(名) 旅籠屋、旅籠、旅舎、歌、たひや、やどや
 はたて(名) 漕、はて、はし(雲などの)、又旗手、雲の棚引る有
 様なりとも云ふ
 はたあし(名) 旗脚、旗、はたのすゑのかた
 はたぎ(名) 南芥菜、くさのな(植物)
 はたぎを(名) 旗竿、幡柱、幡竿、はたたてるぼう
 はたさく(名) 畑作、陸田産、はたけのつくりもの、をかも
 の
 はたさし(名) 旗差、旗手、はたもち
 はたぎ(名) 肌着、膚衫、汗衫、中單、襦袢、差袒、汗襦、汗衣、お
 せとり、じゆばん、はたつけ
 はためく(自) 根、磯、磯、ころころ音するをいふ、ころつ
 や、なりとどろく
 はたみ(名) 肌身、からだ、身体、み
 はたし(名) 旗匠、はたこしらへ、はたつくり
 はたし(名形) 徒跣、すわし、たひはかぬ
 はたじる(名) 旗號、旗の文をいふ、又旗幟、幟、標、のぼ
 り、はたがしもの

はれがましく(副) 時間敷はれはれしき貌
 はれつ(する)自 破裂やぶれさける。さけいづる
 はれつたま(名) 破裂丸、破裂彈、爆裂する鐵砲丸
 はれら(名) 馬藜、いぬのはなひげ、あつたで、ねまりたで、
 はなたで、いぬたで、葎草、水製(植物)
 はれやか(形) 晴晴明、快爽はれはれしき、はあやか
 はれやまひ(名) 水腫、みづぶくれ、病にいふ
 はれま(名) 晴間、とざれま(雨の)、をやみ
 はれふじよう(名) 馬藜、うなひまつ(植物)
 はれあがる(自) 腫起、ふくれあがる(腫物等が)
 はれぎ(名) 公服、はれのきもの、はれいしやう、又、うるは
 じききもの、よききもの、はれぎぬ
 はれぎぬ(名) 禮服、公服、公表、はれのきもの。美服、よきき
 もの
 はれきじん(名) 馬藜神、うまやのかみ
 はれもの(名) 腫物、しゆもつ、腫瘍、癰、できもの
 はれん(する)自 波連、かかりあひになる、まきぞひにな
 る、連累
 はれん(名) 輻連、芭連、連輻
 (馬印の類にして)の
 火消人等の持歩く
 はれんち(名) 破廉耻はづべきわざ、ふさはしからぬしわ
 者
 はそく(名) 把束、たば、つかね、束
 はそく(する)自 頰側、かたよる、よこになる
 はそめ(名) 齒染粉、ふち、はやくのこな



はたした(名) 旗下、幕下(服従して下風に立つ人)
 はたしまり(名) 赤脚參、跣足にて宮寺へ參詣する事
 はたして(副) 果、たもひしごとく、まことよ、たがはず
 はたしあひ(名) 果合、決死、決闘、比闘、ころしあひ、真劍勝
 負
 はたじゆばん(名) 肌襦半、はたき、はたつけ
 はたゑ(名) 書稿、したかきのゑ
 はたひろ 廿尋(二十ひろ)
 はたもと(名) 旗本、旗下、握奇(將軍家直參の臣といふ、其
 祿は一萬石以下に定まれり)
 はたもち(名) 旗手、はたさし(戰場等にて旗を持つ人)
 はたせうま(名) 裸脊馬、驕はたからまくらねかぬうま
 はたす(他) 果成就しとける、しおほせる
 はたん(俗)名 破談(相談のまごまらぬ事)はなしのやぶ
 れ
 はたんきやう(名) 巴旦杏、あめんどう(植物)
 はた(名形) 晴澄朗、晃朗、鮮晴、開朗、半晴、晴、以上天氣
 にいふ、華美、壯飾、きかざり、はあやか、りつば(衣服に
 いふ)
 ばれい(名) 馬隸、まご、うまかた、馬奴
 ばれいしよ(名) 馬鈴薯、じやがたらいも、じやがいも(植
 物)
 はればれしい(形) 晴々敷、はまれある。りつばある、はな
 やかなる、盛壯
 はれる(自) 腫、ふくれる、脹、隆起、もちあがる
 はれる(自) 晴、くもきりをさます、きよくある(天氣が)、晴
 あめやじ

はそん(名) 一する(自) 破損、やぶれ、いたみ、やぶれる、い
 たひこはれる
 はつ(名形) 初、はな、はじめ、はつめての、第一
 はつ(自) 果、はてる、をはる
 はつ(名) 巴豆、巴菽、老陽子(植物)
 はつ 箆、はす(見よ)
 はつ(名) 跋(書籍の後に題する文)、後序、わくがき
 はつ(形名) 末、すゑ、をはり
 はつ(名) 一する(他) 罰、刑罰、つみなふこと、うちこらし、
 つみとる
 はつ(名) 馬爪、うまのつめ(鼈甲の代りに用ふ)
 はつ(名) 發意、はつい、おもひたち、もくろみ
 はついた(名) 馬爪板、はつにてつくれるいた
 はついつのまひ(名) 八佾舞、やつらのまひ、はちにんをど
 り(孔子の故事にて論語に見ゆ)
 はついく(名) 一する(自) 發育、そだち、そだつこと、成長、
 おほきくなる、そだつ
 はついん 八音、はつちん(金石、絲竹、匏土、革、木の八音
 樂)
 はついん(名) 一する 發音、よびこゑ、おん、よびこゑだす、
 よむ、ひびかす
 はついん(名) 未胤、未裔、すゑ、たね、後胤、子孫、末葉
 はつろ(する)自 發露、あらはれる、ちけんする、しれる
 はつばい(名) 一する(他) 發賣、うる、こと、うり、いだすこと、
 ちりだす、ちりさばく
 はつばい(名) 罰盃、宴席にて負たる者、強ふる盃
 はのはる(名) 初春、早春、壬春、肇春、はるのはじめ

はつはつ(副) 鐵鑊びちびち(魚のはねる貌)
はつはつ(副) 端端いつばいにわづかに、かすかに、僅
はつばう(名) 發砲つばうをばなつ

はつばう(名) 八方(東西南北を其間の四維をいふ)やも
はつばう(名) 發泡身體に貼りて膨れしむる膏藥

はつばう(名) 髮帽はちまきばうし
はつはん(名) 發煩はめくはとぼる煩熱

はつはん(名) 發反はねかへる(魚などか)
はつはん(名) 初穂初實初實初果新米はじめておれるい
ねのは、又はじめてむすべるくだものな

はつはうちん(名) 八峯棒、やつをのつばき植物
はつはく(名) 伐木、きをきる

はつべう(名) 發表、あらはる、あせいづる、又しめ
す、表示布告(ふこくする)

はつべう(名) 抜錨、いかりをぬく、ともづなととく、解
纜、ふなです

はつべう(名) 發表劑、發汗藥、あせとるくすり、かざ
ぐすり(藥)

はつべう(名) 法度、法律、法令、禁制、制度
はつべう(名) 發途、たひだち、かどで、かしまだち、發足

はつべう(名) 漠然、曠漠、とりとめなく、かぎりめなく、
わいせいと

はつべう(名) 服部(氏)
はつべう(名) 法度書、教條、おきてがき

はつべう(名) 發動、うごく、運動、又たこる
はつべう(名) 罰討、つみしうつ、征伐、征討、うちき
ためる、せめうつ

はつべう(名) 發發、あはれる、あせいづる、又しめ
す、表示布告(ふこくする)

はつべう(名) 抜錨、いかりをぬく、ともづなととく、解
纜、ふなです

はつべう(名) 發表劑、發汗藥、あせとるくすり、かざ
ぐすり(藥)

はつべう(名) 法度、法律、法令、禁制、制度
はつべう(名) 發途、たひだち、かどで、かしまだち、發足

はつべう(名) 漠然、曠漠、とりとめなく、かぎりめなく、
わいせいと

はつべう(名) 服部(氏)
はつべう(名) 法度書、教條、おきてがき

はつべう(名) 發動、うごく、運動、又たこる
はつべう(名) 罰討、つみしうつ、征伐、征討、うちき
ためる、せめうつ

はつべう(名) 發發、あはれる、あせいづる、又しめ
す、表示布告(ふこくする)

はつべう(名) 抜錨、いかりをぬく、ともづなととく、解
纜、ふなです

はつべう(名) 發表劑、發汗藥、あせとるくすり、かざ
ぐすり(藥)

はつべう(名) 法度、法律、法令、禁制、制度
はつべう(名) 發途、たひだち、かどで、かしまだち、發足

はつべう(名) 漠然、曠漠、とりとめなく、かぎりめなく、
わいせいと

はつべう(名) 服部(氏)
はつべう(名) 法度書、教條、おきてがき

はつべう(名) 發動、うごく、運動、又たこる
はつべう(名) 罰討、つみしうつ、征伐、征討、うちき
ためる、せめうつ

はつべう(名) 發發、あはれる、あせいづる、又しめ
す、表示布告(ふこくする)

はつべう(名) 抜錨、いかりをぬく、ともづなととく、解
纜、ふなです

はつとく(名) 八德仁、義、禮、智、忠、信、孝、悌

はつち(名) 襪襦きぬのももひき(商人等が重に穿く者)
はつち(名) 唐土、たうのつち、おしろいすな、白粉

はつちん(名) 八珍、淳熬、淳母、炮豚、炮脾、炮珍、煎、熬、肝、管、或
は龍肝、鳳髓、兔胎、熊掌、鴉炙、豹蹄、狸腎、鯉尾の八味を
いふ

はつりう(名) 未流、すゑのながれ、はわかれ、ながれ(流義
に云ふ)、また子孫、すゑ

はつる(他) 斫(物の端を斬りおとすをいふ)、けづりおと
す

はつる(自) 果終、畢、をはる、なくなる
はつる(他自) 耻、慙、羞、愧、羞、惡、恥、辱、愧、赧、汗、顔、慙、愧、忸、怩、
赧、顏、慙、愧、赤、面、わからむ、はぢをいふ、たぐ

はつる(名) 末尾、翹、すゑの、(雉の尾にあるながき毛を
いふ)、なきと、をふ

はつを(名) 初毫、秤子の第一の紐
はつれん(名) 發音、はつりんをみよ

はつわ(名) 發話、はなしかける
はつか(或はくか)(名) 薄荷、からきくさ(植物)、また藥材

はつか(名) 廿日、二十日
はつが(名) 發芽、めざし、めく、めをいふ、だすこと

はつかり(名) 新鴈、初雁、はじめてきたるかりがね
はつかつ(名) 發歇、おこりさめ

はつかつ(名) 發歇、おこりさめ
はつかつ(名) 發歇、おこりさめ
はつかつ(名) 發歇、おこりさめ

はつかつ(名) 發歇、おこりさめ
はつかつ(名) 發歇、おこりさめ
はつかつ(名) 發歇、おこりさめ

はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など
はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など

はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など
はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など

はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など
はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など

はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など
はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など

はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など
はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など

はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など
はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など

はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など
はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など

はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など
はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など

はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など
はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など

はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など
はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など

はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など
はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など

はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など
はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など

はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など
はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など

はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など
はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など

はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など
はつた(名) 發達、ひらける、發育、開發、智力など

あまくちねずみ(動物)
はつかう(名) 醜、醜、むれる、わきあがる、あわたつ
(酒類等にいと醜)

はつかう(名) 發向、いでむかふ、おもむく
はつかう(名) 發航、出帆、ふなでとる、はじりだす

はつかう(名) 發行、ねはやけにする、發發、出版、新
聞などを

はつかう(名) 八講會、法華經を講する集會をいふ
はつかく(名) 發覺、あはれる、露顯、罪惡などか)

はつかく(名) 八蔓梅、やつふさのうめ(植物)
はつかく(名) 八角楓、うりのき(植物)

はつかく(名) 廿日草、牡丹、なとりぐさ、ふかみぐさ(植
物)

はつかく(名) 八角兒、おにむし、つのもし(動物)
はつかし(名) 羞、恥、含羞、はぢらふ、はづかしくねも
ふ

はづかし(名) 耻、羞、忸、愧、可羞、慙、愧、はづる、をみよ
はづかし(名) 辱、侮、辱、凌辱、詭譎、はぢしめる、はぢか
かせる

はづかひ(名) 振羽、鳥の羽を振ふ事、はたたき
はづかひ(名) 發汗、あせがでる、あせかく

はづかひ(名) 發刊、出版、上梓、上木、すりだす、
はづかひ(名) 發物、なご

はづかひ(名) 發編、ふうじをひらく、ふうをきる
はづかひ(名) 八田(氏)

はづかひ(名) 發發、出版して發賣するを謂ふ、う
りだす、發行

はづかひ(名) 發發、出版して發賣するを謂ふ、う
りだす、發行

はづかひ(名) 發發、出版して發賣するを謂ふ、う
りだす、發行

はづかひ(名) 發發、出版して發賣するを謂ふ、う
りだす、發行

はづかひ(名) 發發、出版して發賣するを謂ふ、う
りだす、發行

はつは 八區四方四隅をいふ、八方
 はつは 八苦生、老、病、死、哀、別、離、怨、憎、會、求、不得、五、盛、陰
 はつは 理羽、翕羽、整羽、はねをかいつくろふこと(鳥の毛を理ると謂ふ)
 はつは 八功德水澄淨、清冷、甘美、馨香、柔軟、安和、除飢餓、除疾病の八の功ある水よて極樂に在りとぞ

はつは 發火ひもいづる、ひをはなつ、又名はくち
 はつは 八荒東、西、南、北、乾、坤、艮、巽の八方をいふ
 はつは 發掘、わばく(墓等を)、ほりいたす(石炭等を)

はつは 拔萃、すぐれたる、ぬきんでたる
 はつは 最初、一番、先登(最初は敵陣にきりこむ事)
 はつは 拔麻、ぬきぬき

はつは 八景、やつのおとれたるけしき、近江、明石、南都、金澤、嵯峨、伏見等皆八景の勝地あり

はつは 發顯、あらはれる、露顯、しれる
 はつは 發遣、やる、つかはす、かくりやる、派遣

はつは 發見、みいだす、みつける、發明
 はつは 法養、僧家の弟子をいふ
 はつは 發言、ことばをいだし、いひだす

はつは 髮鬘、かみのけ及はだへ
 はつは 撥掉子、かざめ(動物)
 はつは 撥擻、ぬきあげる、登庸、採用(官吏などに)

はつは 八天狗、愛宕、比良、大山、大峯、鞍馬、飯繩、彦山、白峯にある八箇の天狗

はつは 初秋、はじめのあき、あきのはじめ、孟秋
 はつは 發案、動議、まうしだし、はつぎ

はつは 未座、未席、するのざ
 はつは 伐採、きりとる、樹木を

はつは 髮取、かみさし、かうがい
 はつは 罰札、罪状をしるしたる札

はつは 八相住胎、嬰孩、愛欲、樂苦行、降魔、成道、轉法輪、入滅よて釋迦の生涯の變遷をいふ

はつは 八朔、舊曆八月朔日をいふ
 はつは 發作、はつさ、れこる、又れこす

はつは 伐斬、きる、きりとる(木などを)
 はつは 八算見、一和算の詞にして十位以下

の除算を八算といひ、十位以上を見一といふ
 はつは 發軌、はじきがね

はつは 發起、れこる、れこす(はつき)をもみよ
 はつは 發揮、あらはす(蘊奥などを)、はげます、ひきたす、ふるはす

はつは 葉月、八月陰曆八月の異名
 はつは 發議、はつき、動議、まうしだし、いひたてる(議場などよて)

はつは 判然、明瞭、あきらか、了然、較著、明白、分

はつは 搏擻、樂器
 はつは 發布、ふれ
 はつは 撥附、まいば、か
 はつは 瑟布、柔かき膏
 はつは 題鐵、頼にあつる鐵板、ひたひがね
 はつは 八風、炎風、條風、景風、巨風、京風、膠風、麗風、塞風
 はつは 八福田(曠路の義井、水路の橋梁、險路の平治、父母に孝順、沙門に供養、病人に給事、危厄の救助、無遮會の設立をいふ)
 はつは 發憤、奮發、やつきとなる、いきどほりをおこす、はげむ
 はつは 跋文、書物の終に書そへる文、はつ、しりがき
 はつは 初子、首生兒、うひとはトめてのこと
 はつは 跋扈、はしいまます、るばる、強梁、ふみはだかる
 はつは 八絃、あめがした、天下
 はつは 髪工、かみゆひ、とこや、理髮者
 はつは 八穀、黍、稷、稻、粱、禾、麻、菽、麥をいふ
 はつは 雀牌、射とさらん(植物)
 はつは 末弟、するのれとうと、すゑのてし
 はつは 八鳥、ろみ、勢州三重郡にある地の名
 はつは 發條、せんまい(時計などの)



はつは 搏擻、樂器
 はつは 發布、ふれ
 はつは 撥附、まいば、か
 はつは 瑟布、柔かき膏
 はつは 題鐵、頼にあつる鐵板、ひたひがね
 はつは 八風、炎風、條風、景風、巨風、京風、膠風、麗風、塞風
 はつは 八福田(曠路の義井、水路の橋梁、險路の平治、父母に孝順、沙門に供養、病人に給事、危厄の救助、無遮會の設立をいふ)
 はつは 發憤、奮發、やつきとなる、いきどほりをおこす、はげむ
 はつは 跋文、書物の終に書そへる文、はつ、しりがき
 はつは 初子、首生兒、うひとはトめてのこと
 はつは 跋扈、はしいまます、るばる、強梁、ふみはだかる
 はつは 八絃、あめがした、天下
 はつは 髪工、かみゆひ、とこや、理髮者
 はつは 八穀、黍、稷、稻、粱、禾、麻、菽、麥をいふ
 はつは 雀牌、射とさらん(植物)
 はつは 末弟、するのれとうと、すゑのてし
 はつは 八鳥、ろみ、勢州三重郡にある地の名
 はつは 發條、せんまい(時計などの)

はつは 八極、北、良、東、巽、南、坤、西、乾の八方をいふ
 はつは 發京、みやこをいふたつ
 はつは 八境、界、抑、揚、褒、貶、擒、縱、與、奪、文辭の法をいふ
 はつは 罰金、罪の贖ひ金、罰銀、くわれう
 はつは 巴豆油、巴豆よりとりたる油
 はつは 初百合、早蕪、蕪、具(植物)
 はつは 初雪、早雪、新雪、はじめてふるゆき
 はつは 初夢、新年初めてみる夢
 はつは 發明、かんがへだす、さとする、(また俗に形容詞を用ふ即ち利口、聰明、鋭敏の意)
 はつは 機、をり、きくわい(機會)
 はつは 跳躍、はねかへること、又御利馬の、却合、はつひこと(はつむをみよ)
 はつは 末子、するこ、季子、末男、れとこ
 はつは 八所御靈、早良親王、伊豫親王、藤原吉子、吉備大臣、文室宮田丸、橘逸勢、藤原廣嗣、火雷天神をいふ
 はつは 發燭、つけぎ「下を見よ」
 はつは 發燭兒、ゆわうぎ、つけぎ
 はつは 八宗、律、俱舍、成實、法相、三論、天台、花嚴、真言の八宗
 はつは 八咫鳥、やたがらす(古事記に見ゆる大鳥)
 はつは 八州、關東、八州、武藏、相摸、安房、上總、下總、常陸、上野、下野

はつは 八極、北、良、東、巽、南、坤、西、乾の八方をいふ
 はつは 發京、みやこをいふたつ
 はつは 八境、界、抑、揚、褒、貶、擒、縱、與、奪、文辭の法をいふ
 はつは 罰金、罪の贖ひ金、罰銀、くわれう
 はつは 巴豆油、巴豆よりとりたる油
 はつは 初百合、早蕪、蕪、具(植物)
 はつは 初雪、早雪、新雪、はじめてふるゆき
 はつは 初夢、新年初めてみる夢
 はつは 發明、かんがへだす、さとする、(また俗に形容詞を用ふ即ち利口、聰明、鋭敏の意)
 はつは 機、をり、きくわい(機會)
 はつは 跳躍、はねかへること、又御利馬の、却合、はつひこと(はつむをみよ)
 はつは 末子、するこ、季子、末男、れとこ
 はつは 八所御靈、早良親王、伊豫親王、藤原吉子、吉備大臣、文室宮田丸、橘逸勢、藤原廣嗣、火雷天神をいふ
 はつは 發燭、つけぎ「下を見よ」
 はつは 發燭兒、ゆわうぎ、つけぎ
 はつは 八宗、律、俱舍、成實、法相、三論、天台、花嚴、真言の八宗
 はつは 八咫鳥、やたがらす(古事記に見ゆる大鳥)
 はつは 八州、關東、八州、武藏、相摸、安房、上總、下總、常陸、上野、下野

はつは 八極、北、良、東、巽、南、坤、西、乾の八方をいふ
 はつは 發京、みやこをいふたつ
 はつは 八境、界、抑、揚、褒、貶、擒、縱、與、奪、文辭の法をいふ
 はつは 罰金、罪の贖ひ金、罰銀、くわれう
 はつは 巴豆油、巴豆よりとりたる油
 はつは 初百合、早蕪、蕪、具(植物)
 はつは 初雪、早雪、新雪、はじめてふるゆき
 はつは 初夢、新年初めてみる夢
 はつは 發明、かんがへだす、さとする、(また俗に形容詞を用ふ即ち利口、聰明、鋭敏の意)
 はつは 機、をり、きくわい(機會)
 はつは 跳躍、はねかへること、又御利馬の、却合、はつひこと(はつむをみよ)
 はつは 末子、するこ、季子、末男、れとこ
 はつは 八所御靈、早良親王、伊豫親王、藤原吉子、吉備大臣、文室宮田丸、橘逸勢、藤原廣嗣、火雷天神をいふ
 はつは 發燭、つけぎ「下を見よ」
 はつは 發燭兒、ゆわうぎ、つけぎ
 はつは 八宗、律、俱舍、成實、法相、三論、天台、花嚴、真言の八宗
 はつは 八咫鳥、やたがらす(古事記に見ゆる大鳥)
 はつは 八州、關東、八州、武藏、相摸、安房、上總、下總、常陸、上野、下野

はつじや(名) 發車、出車、くるまのこと。又でぐるま

はつじや(他) 拔捨、ぬきすてる

はつじやう(名) 八省、やつのつかさ(即ち中務、式部、兵部、治

部、刑部、民部、大藏、宮内の八官署)

はつじやう(名) 八將神、大藏神、太陰神、歲破神、黃幡神、

大將軍、歲刑神、歲殺神、豹尾神の八神

はつじやう(名) 黎豆、てんぢくまめ(植物)

はつじやう(名) 初霜、早霜、はじめてふるしも

はつじやう(名) 發疹、ふきでする(はしか等の如くに)

はつじやう(名) 發信、たよりをいだし、ねとづれをする(音信を

發するを謂ふ)

はつじやう(名) 發軔、いでたち、いでまし、貴人にいふ、かど

はつじやう(名) 發疹、空扶私(六種傳染病の一)ふきです

はつじやう(名) 發疹、空扶私(六種傳染病の一)ふきです

はつじやう(名) 發疹、空扶私(六種傳染病の一)ふきです

はつじやう(名) 發疹、空扶私(六種傳染病の一)ふきです

はつじやう(名) 發疹、空扶私(六種傳染病の一)ふきです

はつじやう(名) 發疹、空扶私(六種傳染病の一)ふきです

はつじやう(名) 發疹、空扶私(六種傳染病の一)ふきです

はつじやう(名) 發疹、空扶私(六種傳染病の一)ふきです

はつじやう(名) 發疹、空扶私(六種傳染病の一)ふきです

はつじやう(名) 發疹、空扶私(六種傳染病の一)ふきです

はつじやう(名) 發疹、空扶私(六種傳染病の一)ふきです

はつじやう(名) 發疹、空扶私(六種傳染病の一)ふきです

はつじやう(名) 發疹、空扶私(六種傳染病の一)ふきです

はつじやう(名) 發疹、空扶私(六種傳染病の一)ふきです

はつじやう(名) 發疹、空扶私(六種傳染病の一)ふきです

はつじやう(名) 發疹、空扶私(六種傳染病の一)ふきです

はつじやう(名) 發疹、空扶私(六種傳染病の一)ふきです

はつじやう(名) 發疹、空扶私(六種傳染病の一)ふきです

はつじやう(名) 魎病、ねとみづはり(再妊の徵候)繼病

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 初物、はじめてのもの、さばめてあたらしき

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

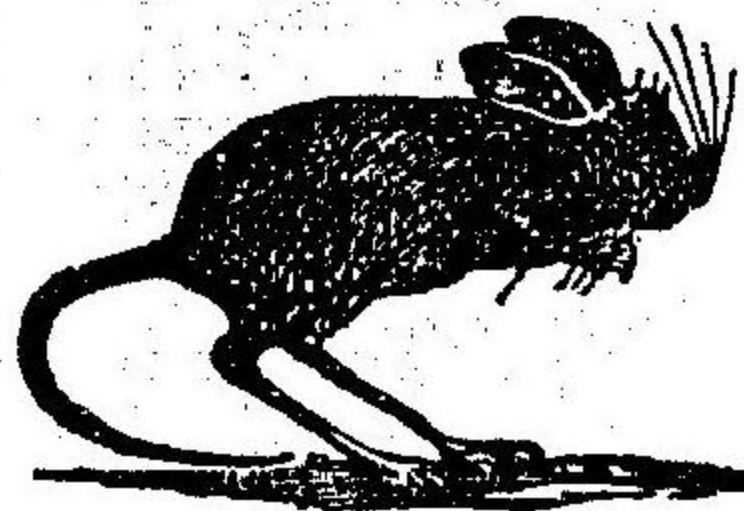
はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)

はつじやう(名) 撥尾魚、ねぼこいな(動物)



跳鼠の圖

はなろくしやう(名) 花緑青(染料の名)

はなは 塙氏

はなはぼたん(名) 花甜菜、花柳菜、なのたぐひ(植物)

はなはかま(名) 裏包、かか花の下部を包める皮

はなはだ(副) 甚、太、甚、孔、醋、藉甚、たはいに、いたく、い

はなばたけ(名) 花園、花塙(花卉を作り養ふ所)、花塙はな

のには

はなはだしき(形) 甚敷、藉甚、非常(はなはだをみよ)、た

はいなる

はなばなしき(形) 花多數華麗、煥然、有光榮、はなはだ、か

がやく、りつば、てがらなる

はなばさみ(名) 花鋏、花剪、はなをさるはさみ、又いけば

なのはさみ

はなばしら(名) 鼻柱、鼻梁骨、鼻莖、鼻灌、頰はさす、はな

のみね

はなにくづく(名) 萱花、花にくづくのはな(植物)

はなぢ(名) 鼻血、翻はなよりいづるち

はなぢわう(名) 胡面、華せんり(植物)

はなぢたふさ(名) 放髪、俗にいふ茶釜鬚(なり)

はなり(名) 放髪、ふりわけがみのをんな(髪を左右へ振り

分けたる童女をいふ)

はなる(自) 離、離別、離隔、班、訣別、わかれる、分解、脱と

れる

はなを(名) 鼻緒、向繩、下駄等の緒を謂ふ

はなれち(名) 花落所、花跼環(菓實の花のつきたる處)、へ

た

はなたば(名) 鼻烟、かぎたばこ、はなにてかぐたばこ

はなたちば(名) 百兩金、珠砂根、ひめたちば(植物)

はなたか(形) 鼻高、はなのたかさ

はなたか(名) 鼻高靴、どかりばなのくつ、さきのたかさく

つ

はなたかき(形) 鼻高、降進、はなたかくある。又ほこらし

き、ほまれなる

はなたれ(形) 涕垂、鼻汁の流るるを云ふ

はなたけ(名) 鼻茸、はなのできもの、はなのはれもの

はなたで(名) 馬鬚、くさのな(植物)

はなれる(名) 離、わかれる、そばをさる、分離、べつになる

はなれうま 班馬、あそびうま、つるみうま、遊牝の馬

はなれうま(名) 放馬、綱を切たる馬

はなれうし 風牛、あそびうし、つるみうし(交尾の牛)

はなれや(名) 離屋、孤屋、孤家、ひとつや

はなれとま(名) 放駒、つなかりたるこま、つなつけぬこま

はなれしま(名) 離島、孤島、孤立島、ひとつしま

はなぞの(名) 花園、花苑、はなをうゑたるその。には、庭、庭

園、はなばたけ

はなそぐ 鼻殺、はなをさりとぐ、劊支那、往古の刑罰

はなつ(他) 發、舍、矢をはなつ、縦、放(牛馬、又は火等を)、は

なす、開放、釋(籠囚と釋す)、にがす

はなづな(名) 鼻拳、牛麩牛の鼻を穿つ所の繩、はながい

はなづら(俗)(名) 鼻面、端面、めさき、眼前(めのまへ)

はなづの(名) 奴角(犀の鼻の角)

はなつくり(名) 花師、花人、はなをこしらへるもの。又、に

はつくり、にはしうさきや

はなをれだ(名) 黄櫨魚、うをのな(動物)

はなをすれ(名) 鼻緒摺、嵌甲、瘡履物の緒にて磨れて起れ

る傷

はなわ(名) 鼻輪、鼻にをはす飾り物。又はながい(牛の)

はなわらび(名) 陰地蔵、ひかげわらび、ふゆわらび(植物)

はながい(名) 鼻繩、牛鼻環(牛の鼻に通す綱)、はなき

はながは(名) 靶、條鞭、雜車(馬の鼻にあつる皮具)

はながへり(名) 花返、花色のさめたるを謂ふ

はながた(名) 痘痕、あばた、もがさあど、いも、じやんこ

はながたみ(名) 花筐、はなかど、はなをいれるかど、花籃

はなかつら(名) 花鬟、花冠、はなのかぶりもの

はながつみ(名) 滯黄、菰米、はなあやめ、がまのはな、かつ

み(植物)

はなかひ 撈摺、はなをかひ、はきをふきてさる

はなかうじ(名) 花柑子、みかんのたぐひ(植物)

はなかど(名) 花籃、はながたみ、花筐

はながさ(名) 花織花を粧ひたる傘、また(植物)

はながき(名) 花壇、花にて作れる垣根

はながめ(名) 花瓶、くわびん、はなはいけびん

はながみ(名) 鼻紙、鼻かひ紙、または懐中用紙を謂ふ

はながみいれ(名) 鼻紙入、算袋、算騰、方便囊、かねいれ財

布

はながみぶくろ(名) 鼻紙袋、挾囊、はながみいれ

はなかせ(名) 鼻邪、はなみづのいづるひさかせ

はなよめ(名) 花婦、新嫁娘、にひよめ

はなだ(形名) 縹、はなだいろなる、はないろ

はなだいろ(名) 縹色、はないろ、こきそらいろ

はなづ(名) 花妻、いろとんな、かりのつま

はなな 花椰菜(此圖は食

用に供すべき部分なる

花苞を示す)

はなむけ(名) 餞(酒食を以

て旅行く人を送ること)

と、臘(財貨を以て同上

を送ること)、餞別、祖饗、

祖宴、送別會

はなむ(名) 花婿、新郎、にひむこ、あたらしくつまをひ

かへたるひと

はなむしろ(名) 花席、花氈、はなごさ、かたあなるむしろ

はなうた(名) 鼻歌、こうた、はなにてうたうた(卑俗の

謠歌)

はなうそやぐ(自) 鼻動、はなうそく(喜笑の時などに)

はなのほぞわた(名) 花咭衣、はなばかま、はなのもとのう

すかは

はなのちまた(名) 花街、花衢、くるわ、いろざと、北里

はなのれとど(名) 菊さかむさ(植物)

はなのかほばせ 花顔(美人の面をいふ)

はなのつぼみ 花蕾、蓓、まだひらかぬはな

はなのくわい(名) 花露、香水の名)

はなのくさどか(名) 花塙、花壇(花卉を植たる一段高き

地、花畦)

はなのくさむら 花叢、はなやぶ、はなのうゑとみ



(圖) 菜椰花

はなのくき 花蒂花脚へたはなれち
 はなのころ 花時、はなのとき、はなさくころ花辰
 はなのさき(名) 鼻頭、はなのあたま、また鼻前、目前、め
 まへ

はなのゆふばは 花夕榮(晩景に諸花の一層美色を呈す
 るをいふ)

はなのみやこ(名) 花洛、洛陽、帝都、みやこ、きやう
 はなのしべ 葉(花の外を葎といひ内を葉といふ)、葎、蕊、
 すゐ、はなのしん

はなのしやうじ 鼻孔隔、鼻障子、はなのなかのへだて
 はなのけ 花枝(花みちたる枝)
 はなのもののかうし(名) 花下好士(連歌師を云ふ)

はなのすがた 花姿、美容、美貌、艶姿、うつくしきすがた
 はなくだし(名) 花麝(麝の具)
 はなくと(名) 鼻垢、鼻渣、はなのあか

はなくぎ(名) 花釘、かざりびやう、びやうくぎのたぐひ
 はなくき(名) 鼻莖、はなばしら、鼻梁
 はなくもり(名) 花曇、輕雲、養花天(陽春百花の候の曇天
 を然か名く)

はなや(名) 賣花商、はなうり、はなうるわきうど
 はなやり(名) 最初鎗、一番鎗、先登、さきがげにゐるやり
 はなやか(形) 華美、美麗、華麗、うるはしき、めだたしき、り
 つば

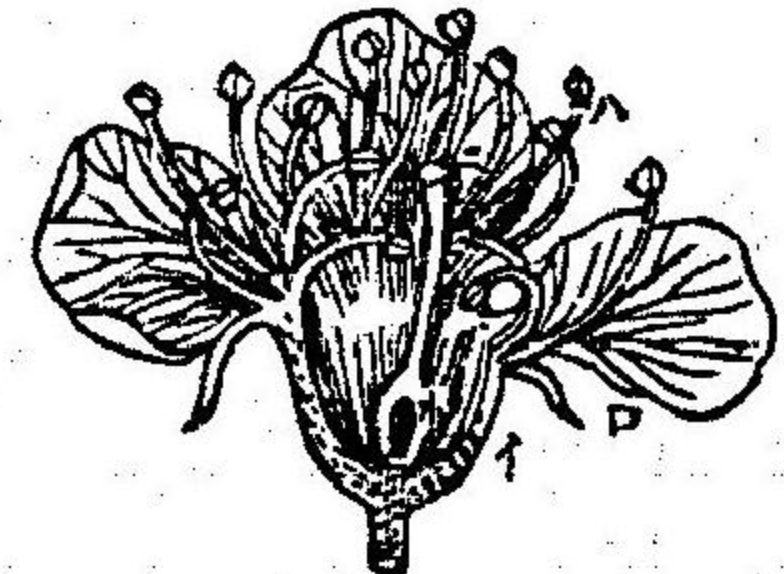
はなやしき(名) 花屋敷、花莊、花園、はなどの、はなをつく
 れるには
 はなやすり(名) 瓶爾小草、くさのな(植物)
 はなげ(名) 鼻毛、はなのなかのけ

はなみがてら 花見隨、はなみついで、はなみるととも
 「に」

はなみぞ(名) 鼻溝、人中(鼻の下の溝筋をいふ)
 はなみづ(名) 鼻涕、はなじる、うすきはな
 はなみね(名) 鼻梁、はなばしら、はなぐき、はなのあたま
 はなみやうが(名) 山薑(植物)

はなし(名) 嘸咄話、談話、ものがたり、談合、かたらひ、
 さうだん
 はなしろむ(自) 憚、羞愧、赧、されくれする、れくする、はづ
 る

はなしべ 花葎(植物は多く一花に
 て雌雄の兩葎を備ふ。此圖は櫻
 花を真中より切斷し太く畫き
 (イ)は花の外葎を示し(ロ)は花瓣
 を顯し(ハ)は數多の雄葎(ニ)は一
 個の雌葎にて(ホ)を子宮と云ふ)



はなしべた(形) 話下手、拙談、訥辯
 (談話に巧ならぬ)
 はなしる(名) 鼻涕、洩瀉、はなみづ、涕、涕酒
 はなしか(俗) 落語家(講談師の類)、はなしをなりはひ
 とするひと

はなしかめる 鼻蹙、鼻に縮よせる
 はなしがひ(名) 放牧(牛馬等を山野に放ちて畜ふこと)
 のがひ

はなしくち(名) 言緒、談緒、はなしかた、はなしぶり
 はなしあふ 談合、さうだんする、かたりあふ
 はなしじやうづ(形) 話上手、善談、能辯(談話に巧なる)

はなげぬき(名) 鼻鏡、鏡子(鼻毛をぬく器)
 はなふさ 花房(氏)
 はなふさ(名) 英華、榮、はかのりん、はな
 はなふさがり(名) 鼻塞、鼽、鼻孔閉塞、はなのあなのと
 はらぬこと

はなふさぢ(名) 鼻拭地、はなふさぎぬ、はんけち
 はなごころ(名) 花心、春心、いろけ、あだごころ、いろごこ
 ろ

はなごさ(名) 花葎、花筵、花紋席、佳文席、模樣席、もやうご
 ざ(名) はなむしろ
 はなこんじやう(名) 花紺青(染料)

はなわかす 隙空、だしぬく(人を)
 はなわらし(名) 鼻嵐(鼻息を強く吹くこと、馬等にいふ)
 はなわやめ(名) 蕪蕪、玉蠟花、あやめ(植物)

はなわふひ(名) 蜀葵、たちあふひ(植物)
 はなざと(名) 芳郊、花郊、芳村(花の多くあるむらごさ)
 はなざる(名) 鼻猴、はなながざる(動物)

はなざかり(名) 花盛、満開(百花咲き亂れたる時をいふ)
 はなざくろ(名) 石葉榴(花のみにて實のらざるもの)(植
 物)

はなざき(名) 鼻前、鼻頭、はなのさき(をみよ)
 はなざ(名) 鼻木、はななはをとほすき(牛などの)
 はなぎぬ(名) 花布(花形を染たる織物)、印花布、さらさ

はなゆ(名) 香橙、暹柚、はなかうじ(植物)
 はなみ(名) 花見、觀花、はなをながむること
 はなみ(名) 葉並、はならび、葉列、きのはのならびかた
 はなみ(名) 齒並、はならび齒列、はわけ

はなしずき(形) 話好、好話、好談(談話を好む)
 はなるみ(名) 花咲、はなさくこと、はなわらふこと
 はなひ(名) 花火、花炮、煙火、揚火、火戯、浪火、そらにうちあ
 げるひ

はなひりのき(名) 木藜蘆、きのな(植物)
 はなひりぐさ(名) 石胡荽、鷲不食草、いはさぐさ(植物)
 はなひる(自) 嘖、嘖鼻、くさめする、鼾

はなひら(名) 花片、葩、花瓣、花葩、花の組立つ所の片片を
 いふ、はなのひとひらひとひら
 はなひゆ(名) 五色草(植物)

はなひしげ(形) 鼻低下、鼻匾、はなつふれ、ししはな
 はなもとゆひ(名) 花元結、いろつかけもとゆひ
 はなもり(名) 花守、はなもり、はなのばんにん

はなもつやく(名) 紫鐘、くさのな(植物)
 はなす(他) 放脱、開放、はなちやる、また弛張(弓の弦にい
 ふ)

はなす(他自) 咄、嘸咄、談話、説、かたる、いひのぶる
 はなすわう(名) 紫荆、滿條香、くさのな(植物)
 はなすげ(名) 知母、莎蒲、媿醜(植物)

はなすすき(名) 花芒、くさのな(植物)
 はら(名) 原、平原、曠原、原野、のはら、のら
 はら(原) 氏

はら(名) 腹、肚腹、腹部、臟腑の在る處、腔、丹田、氣海、ねな
 か
 はら(俗) 零乱、錢ばらせん、ばらばらせに、はしたせに
 ばら(名) 薔薇、うるはしきはなさくき、茨、荆棘、いはら、ね
 ぞろ(植物)

ばら 曹價等(人稱)の複数を作る語(どもらばらいたみ(名) 腹痛、肚痛、腹疾、肚脾痛はらのいたむこ

ばらいつばい 満腹食物が腹に満るなどを云ふ

ばらばら(副) 漢漢靈靈、班班(雨霰等の落る音)また扶疏、まばらばらり、疎鬆疎なる貌

ばらばら(自) 腹這、匍匐(腹にてはひあるく)腹行、跛行、爬行、匍匐(此は動物にのみ用ふ)

ばらり(副) 破落離陸離、ばらばら

ばらをかかへる(他) 捧腹大笑する事

ばらび(名) 勒肚巾はらまさ腹帯、いはたをび

ばらわた(名) 腸、大小腸(腹内の臓腑)

ばらわたをたつ 斷腸(かなしき又あはれなる譬)はらわたをさく、さをもみく、又こころをさく

ばらか(名) 鱒、ます、又にきつたひ(動物)

ばらがり(形) 異腹、異母(母異に父同き兄弟姉妹よいふ)

ばらかん(名) 叭喇呪佛狼機鳥銃の一種

ばらだ 原田(氏)

ばらたかき(形) 腹高はらたはさある。はらみたる

ばらどもり(形名) 胎孕、はらみ、妊娠、有身、胎胎、はらみ

ばらあて(名) 腹當、心衣、袂社

ばらあて(名) 腹當、心衣、袂社

ばらあて(名) 腹當、心衣、袂社

ばらあて(名) 腹當、心衣、袂社

ばらあて(名) 腹當、心衣、袂社

ばらあて(名) 腹當、心衣、袂社

ばらあて(名) 腹當、心衣、袂社

ばらあて(名) 腹當、心衣、袂社

はらたつ(俗) 腹立、いかる、憤怒發怒發憤、むつかる

はらつづみ(名) 鼓腹、はらなること(太平の象、また狸の業にいと)

はらら(名) 鯛、鮭子、甘子、筋子、魚卵、魚子、うをのたまご(動物)

はらむ(他) 孕、腹妊、妊娠、有身、腹胎、胎胞、みもちにな

はらむ(自) 孕、腹妊、妊娠、有身、腹胎、胎胞、みもちにな

はらむ(名) 腹蟲、蛇蟲、腹中にたかる虫(動物)

はらう(名) 破牢、らうやぶり、破獄

はらう(名) 波浪、なみ、れはなみ、波濤、波瀾

はらう(名) 破浪魚、すばしり、鱚、撥尾魚、いなばら(動物)

はらう(名) 波浪神、ふねの魔れどし、ふねのかみ

はらう(名) 腹中、腹内、心中、心内、胸間、胸中、胸裏、むねの

はらう(名) うち、こころのうち

はらね(名) 腹帯、孕帯、勒肚巾(凡て腹にしむるたをいふ)

はらぐ(形) 腹黒、悪心なるをいふ、むねあじき

はらく(名) 腹黒、悪心なるをいふ、むねあじき

はらく(名) 腹黒、悪心なるをいふ、むねあじき

はらく(名) 腹黒、悪心なるをいふ、むねあじき

はらく(名) 腹黒、悪心なるをいふ、むねあじき

はらく(名) 腹黒、悪心なるをいふ、むねあじき

はらく(名) 腹黒、悪心なるをいふ、むねあじき

はらく(名) 腹黒、悪心なるをいふ、むねあじき

はらく(名) 腹黒、悪心なるをいふ、むねあじき

はらく(名) 腹黒、悪心なるをいふ、むねあじき

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

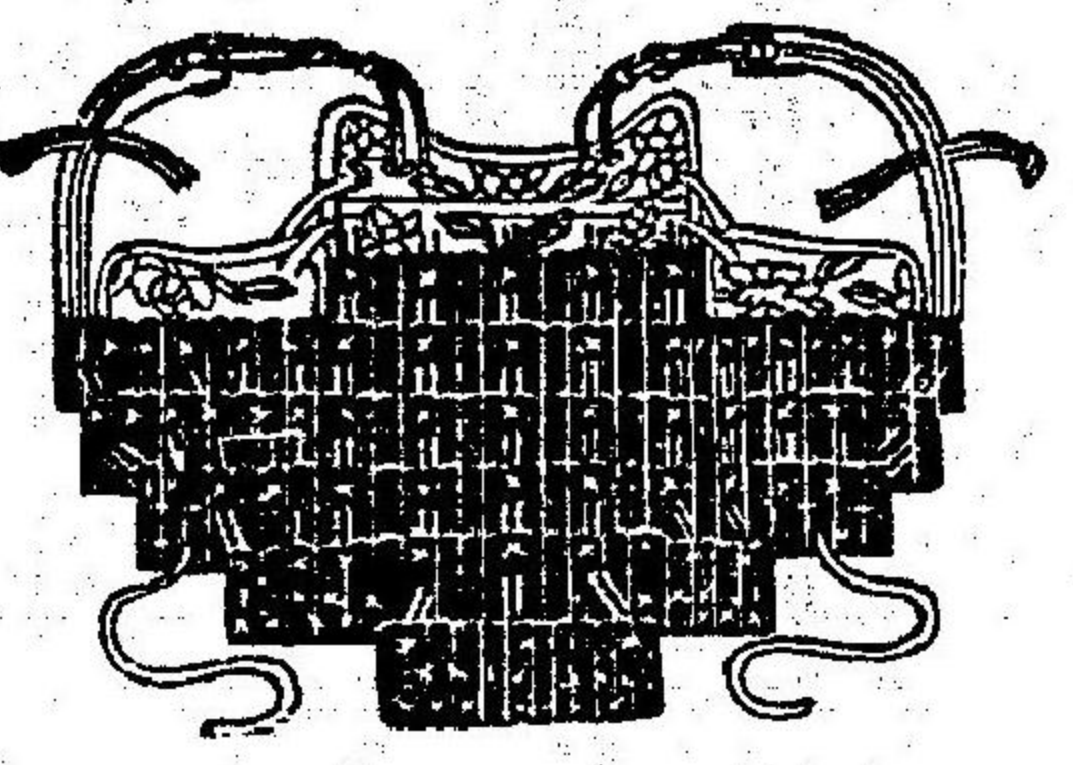
はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

(圖のてあらは)



はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

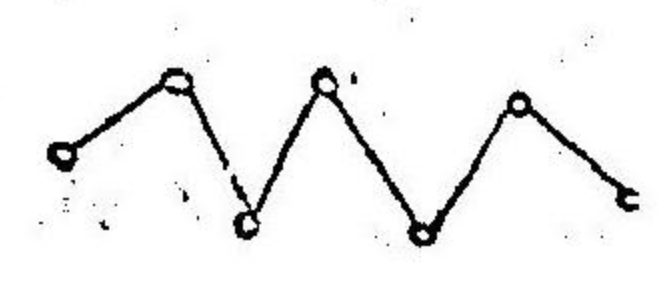
はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

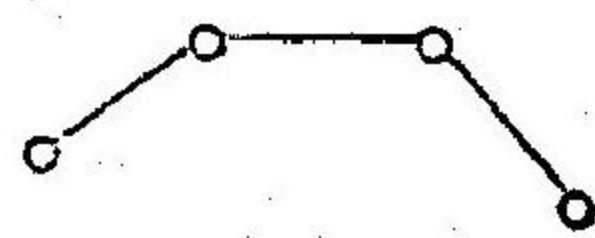
はらみつ(名) 波羅密(梵語にて度即ち「わたす」といふ意

(圖の鼻)



ばう(名) 房二十八宿の一にして
 東方に位す
 ばう(名) 帽、かぶりもの(西洋風
 の)しやつば
 ばう(名) 房、へや、ねや、室間ま
 ばう(名) 養、八十九の老人をいふ
 ばう(名) 望、もちづき(舊十五夜の月)満月
 ばう(名) 鏗、しのぎ、さつさきとがり、はり(虫の)
 はうい(名) 芳意、他人の心意を美稱する詞
 はうい(名) 胞衣、えな小兒の蒙りて生るる者
 はうい(名) 實位、天子の位をいふ、實祚
 はうい(名) 方位、方角、四方八方などの
 ばうい(名) 暴夷、あらねびす、やばんじん
 ばうい(名) 防已、あらつつら、はすかつら(植物)
 ばうい(名) 暴威、暴虐の威權、あらあらしきいさはひ
 はうい(名) 放逸、放佚、ほしほしまま、あそびたのしむ
 はうい(名) のたたかひ、蚌、蚌之闘、はまぐりとしぎのたた
 かひ(諺)

(圖の房)



はうい(名) 他、保有、たまつ、もつ、とる
 はうい(名) 他、包有、ふくむ、かねる、つつむ、包含、包
 括
 ばうい(名) 忘憂草、萱草、うれへわすれぐさ(植物)
 はうい(名) 砂鍋、土製のいりなべ、つちなべ
 はうい(名) 搗馬、かすげう(動物)
 はうい(名) 砲背、えびごし、まがりごし
 はうい(名) 砲牌、はうびのしるし、賞牌

ばうば(形副) 茫邈、とほくはるかなる、ぼつとしてをる
 はうは(名) 方法、しかた、てだて、手段
 ばうは(名) 忙煩、いそがはしさ
 ばうに(名) 傍若無人、人の前を憚らず我が思
 ふ事をいひ及するをいふ、遠慮會釋なき
 はうに(名) 保人、保證人、うけにん
 はうに(名) 他、放任、かけかまはぬ、すてねく、うちま
 かする
 ばうに(名) 防人、さきもり、らみべをかためたるつはも
 の
 ばうに(名) 冒認、人の物を我が物とする
 はうに(名) 放任主義、かかはらぬしゆぎ、かんせふ
 せぬまつりごと
 ばうぼ(名) 亡母、なきはは死たる母
 はうぼく(名) 芳墨、人より來れる手紙を尊びいふ語
 はうぼん(名) 方盆、しかくのぼん、折敷をしき
 はうへい(名) 砲兵、大砲方の軍兵、大砲方、砲手
 ばうへい(名) 防兵、ふせぎのつはもの
 はうへい(名) 砲兵本廠、陸軍砲兵の官署
 はうへい(名) 砲兵科、陸軍分科大砲手
 はうへい(名) 砲標、たかふだ、勝示、ふだじるし
 ばうへい(名) 防壁、かべしろ
 はうへん(名) 寝賤、はめ及ねとしめ、毀譽
 はうべん(名) 方便、てだて、手段、方畧、權道
 はうと(名) 蚌、さくひむし(動物)
 はうと(名) 邦土、くに、國土

はうはい(形副) 滂沱、ゆたか(雨)又恩澤にいふ、たくさん
 はうはい(名) 澎湃、水漲がり逆まく貌
 はうはい(名) 傍輩、ともだち、朋輩、なかま
 はうはち(名) 忘八、くつは、ちようちやのぬし、せげん
 はうばり(名) 方針、羅經、羅針盤、海上、滋石
 はうはつ(名) 自、砲發、はつばう(發砲)、うちだし、
 うちだす
 はうはつ(名) 自、萌發、めざす、めぐむ(草木が春に芽を
 出すをいふ)、又さす
 ばうはつ(名) 自、爆發、はくはつ(破裂、彈丸等の)
 やぶれさける
 ばうはつ(名) 自、暴發、おれおれこる、みだれこる
 はうはう(名) 自、砰磅、なりひびく(音響にいふ)
 「はうはう」(名) 膨脹、ふくらむ(割烹の語)、ふくらかにに
 ること
 はうぼう(名) 寶坊、寺宇を云ふ、てら
 はうぼう(名) 魴、鱈、竹筴魚、うをのな(動物)
 はうぼう(名) 俗、副、方方、諸方、ところどころ、あまねく
 ばうぼう(形副) 唯唯、言葉亂雑にしてかまびすしき貌
 ばうぼう(形副) 茫茫、廣大無邊の貌、海洋山野等にいふ
 はうはう(名) 敗北、體、はふはふのてい、敗北屈辱せら
 れし貌、よわりさつたるすがた
 はうぼう(名) 放節者、ねどけもの、じやれもの
 はうはく(形副) 自、旁禿、(充塞の貌)、みちみちる、
 みちわたる
 はうはく(名) 邦伯、くにのかみ、知事、府君、つかさ
 はうばく(名) 他、綁縛、しばる、ゆはひる
 はうと(名) 報土、むくいによりてうまるところ(佛語)、
 びくらく
 ばうと(名) 暴徒、亂暴なる者ども、亂賊、亂暴者、亂逆人、一
 揆
 ばうと(名) 自、暴怒、はげしくいかる
 はうと(名) 自、電突、たはね(植物)
 ばうとう(名) 冒頭、かきはじめ、發端、起首、開卷、はじめ
 ばうとう(名) 暴動、亂、一揆、騷擾、騷動、おれみだれ
 はうとう(名) 方頭魚、かながしら、あまたひ(動物)
 はうとく(名) 他、誇語、のしりけがす(神等を)
 ばうとく(名) 他、冒瀆、けがす、をかす(貴人に對して卑
 下して言ふ詞)
 はうとん(名) 砲墩、だいば、砲臺
 はうち(名) 自、他、報知、さた、しらせ、しらせる、報道
 はうち(名) 他、放置、すてねく、かまはずにねく
 はうち(名) 他、保持、たもつ、ささへる、保守
 はうち(名) 他、抱持、いだきもつ、たもつ
 はうち(名) 羽團扇、鳥の翅にて造りたるうちば
 はうち(名) 榜女、をんなのかこ(女水手)、ふねこぐをん
 な
 はうち(名) 庖厨、くりや、だいと、ころ、たさごころ
 はうち(名) 方柱、四角の柱、かくばしら
 はうち(名) 庖厨人、くりやびと、れうりにん
 はうち(名) 爆竹、はくちく、はちばちはなび(支那人が
 好む)
 はうち(名) 他、放逐、たひはらふ
 はうち(名) 庖丁料理に用ふるさくもの

ほうちやう(名) 方丈(佛寺職住の居室を云ふ又寺の長たる僧)

ほうちやう(名) 傍聴(はたき)はたき(はたき)する

ほうちやう(名) 膨脹(ふくれ)ふくれ(ふくれ)る

ほうちやう(名) 暴漲(みなぎる)水(水)が(さ)かん(に)ま

ほうちやう(名) 傍聴人(はたき)する(ひと)かたはら

ほうちやう(名) 抱着(いだき)つ

ほうちやう(名) 方鏡(一方の總督府)鏡臺

ほうちやう(名) 方里(一里四方を云ふ)

ほうちやう(名) 芭履(あしはき)もの(やれ)つ

ほうちやう(名) 旁里近在(ちかひ)な

ほうちやう(名) 芳慮(人の思想を尊稱する詞)ねんねもん

ほうちやう(名) 放慮(かけかまはぬ)き(に)かけぬ

ほうちやう(名) 汎龍舟(水調の樂の名)

ほうちやう(名) 方量(いり)かた

ほうちやう(名) 方畧(て)だて(し)かた(方便)

ほうちやう(名) 茅屋(こや)みせ(もの)こや(さ)じき

ほうちやう(名) 茅屋(蓬戸)蝸廬(桑戸)蓬廬(かや)くづや

ほうちやう(名) 報恩(めぐみ)に(む)くゆる(ねん)をかへす

ほうちやう(名) 報恩(わ)かけ(わ)めぐみ(他人に對していふ)

ほうちやう(名) 棚架(たな)ど(たな)

ほうちやう(名) 包含(ふく)む(こめる)いれる(含有)包

ほうちやう(名) 芳顔(はな)のかほ(ほ)せ(うる)は(し)き(か)ほ

ほうちやう(名) 暴悍(わ)る(き)悪逆

ほうちやう(名) 褒譽(ほめ)ほまれ(賞美)

ほうちやう(名) 芳容(う)る(は)し(き)か(た)ち

ほうちやう(名) 放鷹(た)か(がり)た(か)を(つか)ふ(こ)と

ほうちやう(名) 放鷹場(た)か(は)な(し)ば

ほうちやう(名) 端唄(俗間に謠ふ今様風の歌)

ほうちやう(名) 滂沱(ゆた)か(大雨又は涙の多く降るにいふ)

ほうか(名) 放下(なげ)す(てる)うち(す)て(れ)く

ほうが(名) 萌芽(め)ぐ(し)さ(さ)す(め)ぐ(す)め(ぐ)す

ほうがい(名) 實蓋(天蓋をいふ)

ほうがい(形副) 碾礮(なり)ひ(び)く(が)ら(が)ら(なる)

ほうがい(名) 妨害(さ)また(げ)さ(また)げ(る)

ほうかう(名) 芳香(かう)ば(し)さ(か)は(し)さ(よ)き(に)は

ほうかう(名) 方向(む)き(め)わ(て)目(的)目(途)

ほうかう(名) 芳郊(は)な(ざ)と

ほうかう(名) 膨脹(は)ら(ふ)く(れ)は(ら)は(る)

ほうかう(名) 暴行(て)わ(ら)さ(し)わ(ざ)亂(暴)の(行)

ほうかう(名) 芳香鐵酒(藥名)

ほうかう(名) 芽膏菜(い)も(ち)そ(う)(植物)

ほうかう(名) 芳香精(藥名)

ほうかう(名) 方角(方位)四(方)の(方)角(を)い(ふ)よ(も)

ほうかう(名) 芒角(は)り(の)ぎ(つ)の(ぐ)み(め)ざ(し)

ほうかう(名) 暴客(亂)暴(人)あ(ば)れ(る)もの

ほうかう(名) 蚌蛤(は)ま(ぐり)(動物)

ほうかう(名) 抱合(混)和(和)合(化)學(上)に(重)

ほうかう(名) 放暇(日)休(日)やす(み)び

ほうかう(名) 方鑑(藥)方(類)聚(調)劑(の)書

ほうかう(名) 寶鑑(か)が(み)(書)物(の)表(題)等(に)い(ふ)

ほうかう(名) 芳翰(人)より(遣)せる(書)状(を)尊(び)て(し)か(い)ふ

ほうかう(名) 報問(報)問(俗)に(い)ふ(太)鼓(持)たい(こ)もち

ほうたん(名) 胃食(む)さ(ぼ)り(ど)ん(よく)

ほうらい(名) 邦令(くに)の(さ)だ(め)國(法)

ほうらい(名) 亡靈(な)きた(ま)亡(魂)

ほうらい(形) 暴戾(と)む(き)も(と)る(み)ち(なら)ぬ(よ)こ(し)ま

ほうれい(形) らん(ばう)

ほうれい(形) 暴烈(て)わ(ら)き(わ)ら(わ)ら(し)き

ほうた(名) 寶塔(佛塔をいふ)

ほうた(名) 奉答(こた)へ(た)て(ま)つ(る)

ほうた(名) 報答(へん)じ(こた)へ

ほうた(名) 方立(振)門(の)兩(方)の(柱)門(柱)は(こ)だ(て)は(こ)

ほうた(名) 寶丹(有)名(の)賣(藥)

ほうた(名) 放蕩(は)し(い)ま(ま)だ(う)ら(く)う(は)き(な)る(み)

ほうた(名) 放逸(無)賴

ほうた(名) 報知(し)ら(せ)し(ら)せ(る)報(知)

ほうた(名) 報知(へん)じ(こた)へ

ほうた(名) 方立(振)門(の)兩(方)の(柱)門(柱)は(こ)だ(て)は(こ)た(ち)

はうらう(名) 芳馨、よきさけ、かうばしきさけ
 ばうらう 暴浪、おらなみ、狂浪、激浪
 はうらん(名) 堡監、たまよけ(竹東の類)
 はうむる(或はうぶる)(他) 葬、うづめる(死人を)、埋葬の
 べたくりする

ばうら 暴雨、はやさめ、よわかあめ、おらし
 はうくわ(する)(他) 包裹、つむ、くるむ、ねほふ
 はうくわ(名) 一する(他) 放火、つけび、ひつけ、ひをはな
 つ、ひをつける

はうくわ(名) 匏瓜、すみとりふくべ、ひさご、ふくべ(植物)
 はうくわ(する)(他) 放過、ききながす、きにとめぬ
 ばうくわ(名) 茅花、つばな、かやのはな
 ばうくわ(する) 旁臥、よこにふす、ねころぶ

はうぐわい 方外、世外(世間の外をいふ)、外物
 はうくわ(に)(名) 放火人、ひつけ、ひをはなてるひと
 はうくわ(する)(他) 包括、かねいる、ひさくるめる
 ばうくわ(形) 嘘話、かまひすしき、やかまし
 はうくわ(する)(自) 彷徨、たちもとほる、たちやすらふ、
 徘徊

はうくわ(形) 放曠、しまりなき、ひろくむなしき
 「はうくわ(名形) 萌黄、もねぎ、もよぎ(色の名)
 ばうくわ(名) 膀胱、ゆぼりぶくろ(小便器)
 はうくわ(名) 抱關、もんぼんぼんにん、看門
 はうくわ(名) 傍官、あひやく、同僚
 はうくわ(名) 砲丸、鐵砲のたま、銃丸、彈
 はうくわ(名) 判官、はんぐわん(檢非違使の官名)
 ばうくわ(する)(他) 傍觀、はたでみる、かたはらよりみ

はうけい(名) 芳契、よきまじはり
 はうけい(名) 芳惠、めぐみ、なまき(人の)
 はうけい(名) 方形、かく(四角の形)
 はうけい(し)(名) 保惠師、なかとりもち、とりなして、仲人
 はうけつ 放血、ちをとる、ちをいだし
 はうげつ(名) 萌蘗、めばね、ひこばね(木の)
 ばうげつ(名) 望月、もちづき、満月(陰曆十五夜の月をい
 ふ)

はうけつき(名) 放血器、ちをとるうつは、すひふくべ
 ばうけう(名) 芒屨、草履または草鞋の類
 はうげき(名) 一する(他) 砲撃、大砲にてうつ事、うつ
 はうけん(名) 邦憲、くよのり、國法
 はうけん(名) 寶劍、たからのつるぎ、たふとぎたち
 はうけん(する)(他) 奉獻、ささげる、をさめたてまつる(神
 に)

はうげん(名) 一言、大言、おほいなることをい
 ふ
 はうげん(名) 方言、くになまり、くにことば
 ばうげん(名形) 冒險、あやうきををかすこと、行險
 ばうげん(名) 妄言、みだりなることば、いつはり、妄語
 ばうげん(名) 暴言、亂暴不禮の言語、なめげなることば
 はうふ(名) 抱負、知識學問などをいふ
 「はうふ(自) 抱附、だきつく、いだきつく
 はうふ(名) 抱傅、だきもり、ださうば
 はうふ(名) 傍夫、そばを、まをまご、密夫
 はうふ(名) 傍婦、そばめ、めかけ、侍妾
 ばうふ 亡父、なきちち(死たる父)、先考

はうふ(名) 暴富、暴富者、できぶげん、にはかがねもち
 はうふ(する)(自) 泡沸、あわだつ、つぶだつ
 はうふ(形) 髣髴、彷彿、ほのか、ほのめく、それかあらぬ
 か、さもにたり
 はうぶつ(名) 方物、くじのなりいでもの、國産
 ばうぶら(名) 南瓜、かぼちゃ、たうなす(植物)
 ばうふう(名) 防風、はまあふひ(植物)
 ばうふう(名) 暴風、にはかかせ、大風、狂風、あらしかせ、は
 やて
 はうふく(する) 抱腹、はらをかかへる、はらをとる(大笑
 の貌)
 はうふく(名) 包袱、たかふだ、布告文などをいふ
 はうふやく(名) 防腐藥、くさりどめ(藥品)
 はうふん(形名) 芳芬、かうばしき、よほひよき、かぐはし
 さ

はうぶん(名) 榜文、たかふだ、布告文などをいふ
 はうて 咆虎、はゆるとら
 はうて(名) 抱鼓、たいこのぼち
 はうて(する)(他) 保護、ほご、まもる、かばふ、守護
 はうて(形) 旁午、いりみだれたる、たてよこなる
 ばうて(名) 妄語、まうご、いつはり、うそ
 はうてつ(名) 蟻蟻、蟻、ごろがに、あしはらがに(動物)
 ばうてつ(形副) 忙忽、いそがしき貌
 はうこう(名) 蚌、いしがに(動物)
 はうこう(名) 傍卷、よこまち、ちまた、しんみち
 ばうこう(する)(他) 望候、まちうくる、まちのぞむ
 ばうこうなん(名) 望江南、はぶさう(植物)

はうくわ(に)(名) 坊官、舊皇族或は僧家の従者
 ばうぐわん(名) 望願、のぞみ、ねがひ願望
 ばうくわんにん(名) 傍觀人、はたでみるもの、かたはらに
 てみるひと
 はうくわんげきたく 抱關擊柝、もんぼんよまはり即ち
 看門夜警者
 ばうくわんざし 傍觀坐視、かたはらみすわりてみてを
 る(食着せぬをいふ)
 はうく(に)(名) 傍訓、漢文の傍に施せる訓、ふりがな
 ばうく(に)(名) 暴君、あしきさま、虐主
 ばうく(に)(名) 亡君、なきさま、先君、しにたるさま
 はうやう(する)(他) 褒揚、ほめる、ほめそやす、讚譽
 はうやう(名) 一する(他) 保養、なぐさみ、やしなひ、やしな
 ふ(身体と)

はうやう(する)(自) 彷徨、たちやすらふ、たちもとほる、徘
 徊
 ばうやう(形副) 茫洋、大洋の廣きが如きにいふ、漂渺
 ばうま(する)(自) 胃味、(死を胃す)、味死、いのちをかけ
 る(君を諫るなどに)
 はうまつ(名) 泡沫、あわ(水の)、あわつぶ
 はうまじゆ(名) 報馬、樹はせのき(植物)
 はうまん(する)(自) 飽滿、あきたる、あきみちる
 ばうげ(名) 妨礙、はうがい、さまたげ、さはり
 はうけい(名) 方針、ただて、ばかりごと、計畧
 はうけい(名) 旁系、わきのすぢ、ねだわかれ、分支(系譜に
 いふ)

はうふ(名) 暴富、暴富者、できぶげん、にはかがねもち
 はうふ(する)(自) 泡沸、あわだつ、つぶだつ
 はうふ(形) 髣髴、彷彿、ほのか、ほのめく、それかあらぬ
 か、さもにたり
 はうぶつ(名) 方物、くじのなりいでもの、國産
 ばうぶら(名) 南瓜、かぼちゃ、たうなす(植物)
 ばうふう(名) 防風、はまあふひ(植物)
 ばうふう(名) 暴風、にはかかせ、大風、狂風、あらしかせ、は
 やて
 はうふく(する) 抱腹、はらをかかへる、はらをとる(大笑
 の貌)
 はうふく(名) 包袱、たかふだ、布告文などをいふ
 はうふやく(名) 防腐藥、くさりどめ(藥品)
 はうふん(形名) 芳芬、かうばしき、よほひよき、かぐはし
 さ

はうぶん(名) 榜文、たかふだ、布告文などをいふ
 はうて 咆虎、はゆるとら
 はうて(名) 抱鼓、たいこのぼち
 はうて(する)(他) 保護、ほご、まもる、かばふ、守護
 はうて(形) 旁午、いりみだれたる、たてよこなる
 ばうて(名) 妄語、まうご、いつはり、うそ
 はうてつ(名) 蟻蟻、蟻、ごろがに、あしはらがに(動物)
 ばうてつ(形副) 忙忽、いそがしき貌
 はうこう(名) 蚌、いしがに(動物)
 はうこう(名) 傍卷、よこまち、ちまた、しんみち
 ばうこう(する)(他) 望候、まちうくる、まちのぞむ
 ばうこうなん(名) 望江南、はぶさう(植物)

ほうこく(名) 一する(他) 報告、しらせ、報道、つげる、報知
 ほうこく 報國(國の恩に報ゆる)愛國
 ほうこく(名) 邦國、くに
 ほうこく 亡國、くにをはるぼす
 ほうこくじんちふ 報國盡忠(國恩に報い君王に忠義と盡す)
 ほうこひようか 暴虎馮河、むかふみずのわざ、いのちしらずのわざ
 ほうこん(名) 方今、ただいま、目今、現今
 ほうこん 報恨、うらみをむくいる
 ほうこん(名) 暴恨、われもどること、よこしま
 ほうこん(名) 亡魂、なきたま、死人の靈魂
 ほうてい(名) 妄聽、そらぎき、そらみみ
 ほうてい(名) 房艇、やかたぶね
 ほうてい(名) 萌兆、さざし、めぐみ、しるし
 ほうてう(名) 茅蚰、ひぐらし(動物)
 ほうてう(名) 貌鳥、かほどり(動物)
 ほうてう(名) 望潮魚、いひだこ(動物)
 ほうてき(名) 一する(他) 放擲、なげうつ、すてやく、放下
 ほうでん(名) 寶殿、拜殿、神殿、やしらのをがみどころ、みや
 ほうあい(名) 芒鞋、わらじ、びらり
 ほうあつ(名) 一する(他) 防遏、ふせぎとどめる、防止
 ほうあう(名) 保壘、うば、かしづきめ、だきうば
 ほうあく(名) 暴悪、あらび、いとあしきわざ
 ほうあん 保安(國の安寧を保つ)
 ほうあん(名) 方案、しくみ、かんがへ、もくろみ

ほうあん(名) 保安條例(國安を害すると思ふ者を退去せしむる法律)
 ほうざい(名) 病者(びやうしや)病人(古語)患者
 ほうざい(名) 堡壘、とりで、たいば、堡壘
 ほうざい(名) 報賽、れいまゐり、ぐわんはとき、還願
 ほうざい(名) 厄幸、れうりにん、くりやびと
 ほうざい(名) 傍妻、めかけ、そばめ、妾
 ほうざい(名) 泡劑、ふりだしぐすり
 ほうざい(名) 方劑、調合藥、あはせぐすり、また藥方
 ほうざい(名) 亡妻、なきつまつたにたるつま、先妻
 ほうざう(名) 泡瘡、もがさ、腫瘡、痘瘡(病名)
 ほうざう(名) 砲箭、つっぱうき、大砲を掃除する具
 ほうざう(名) 一する(他) 包裝、つつむ、くるむ
 ほうざう(名) 寶藏、かねぐら、寶庫、たからのくら
 ほうざう(名) 貌裝、よそはひ、みなり
 ほうざう(名) 泡瘡痕、痘痕、いもあばた
 ほうざう(名) 方策、はかりごと、方畧、また記録
 ほうざん(名) 寶算(天子の御年齢)聖壽、獻算、萬壽
 ほうざん(名) 一する(他) 抱起、だされこす
 ほうざん(名) 箒、はきはき、はきはきとみよ
 ほうざん(名) 寶器、たからもの、たつとさうつはもの
 ほうざん(名) 放氣、のんき、氣樂(さらく)
 ほうざん(名) 一する(他) 拋棄、すてる、なげうつ
 ほうざん(名) 耄期、たいぼれとき
 ほうざん(名) 防葵、いせばうふう、ばたんになんじん(植物)

ほうざん(名) 帽子、かぶりのもの
 ほうざん(名) 茅茨、かやじり、かやのさき
 ほうざん(名) 芒刺、のぎ、とげ(草木の)
 ほうざん(名) 亡子(死にたる子)なきこ
 ほうざん(名) 妄視、そらめつかひ
 ほうざん(名) 一する(自) 望視、のぞみみる、ながめる
 ほうざん(名) 勝示、榜示、制札、揭示、たかふだ、はりだし
 ほうざん(名) 房事、ねやごと、いろごと、交合
 ほうざん(名) 鴨蹄草、つゆくさ(植物)
 ほうざん(名) 帽子刷、帽子をはらふブラシの類
 ほうざん(名) 旁死、魄死、魄に同じ
 ほうざん(名) 紡絲虫、はたかりむし(動物)
 ほうざん(名) 帽子架、ぼうしかけもの、シヤツポかけ
 ほうざん(名) 苞苴、にへ、たくりもの、まひなひ
 ほうざん(名) 芳書、かうばしきてがみ(他人の書状を尊稱する詞)芳翰
 ほうざん(名) 方諸、みづとるたま(月に向て水をよぶ玉、すゐしやう)
 ほうざん(名) 方所(東西南北などの方を謂ふ)
 ほうざん(名) 胃翼、わたばうし
 ほうざん(名) 或はしやう(名) 一する(他) 保護、うけあひ、うけあふ
 ほうざん(名) 放縱、ほしいまさま、さまさま、放肄、恣
 ほうざん(名) 芒種、二十四節の一にして六月にあり
 ほうざん(名) 妄證、いつはりのあかし、偽證
 ほうざん(名) 一する(他) 飽食、あくまでくらふ、くらひあく
 ほうざん(名) 一する(自) 暴食、たばぐひ、ねばぐらひす

ほうざん(名) 抱莖葉、くさをいだくは草などの
 ほうざん(名) 忘却、わすれる、わすれはてる
 ほうざん(名) 暴逆、暴虐、あくぎやく(悪逆)むはん
 ほうざん(名) 帚鞘、しりぞや(刀の)
 ほうざん(名) 澎蜞、菊くまのぎく(植物)
 ほうざん(名) 芳名、かうばしきな、よきな、美名
 ほうざん(名) 保命酒(さけの名)
 ほうざん(名) 一する(他) 放逐、ゆるし、ゆるす(罪人など)
 ほうざん(形) 放恣、放肆、ほしいまさま、さまさま
 ほうざん(名) 芳志、他人の親切心を尊稱する詞
 ほうざん(名) 方士、方術を行ふ人、仙家、また魔術士
 ほうざん(名) 寶璽、天子の御印章をいふ
 ほうざん(名) 茅鷗、いひとよ、どりのな(動物)

ぼうしつ「する」他 忘失、わすれる、失念、遺忘

ぼうじつ「名」望日(陰曆の十五日をいふ)

はうしう「名」一する他 報酬、むくい、むくいる(善き意に用ふ)

はうしう「名」舫舟、もやひふね

はうしう 放囚罪人をゆるしはなつ

はうしう「名」報讎、おだかへし、いしゆがへし、復讐、かたきうち

はうじやくひ「名」勝示杭、ふだぐひ(各處に設けて宿より宿の里程を書し又は掲示をなしなどしたる者。たかふだ)

はうじやく「名」紡車、いととりぐるま

はうじやく「名」柵車、屋臺祭禮の

はうじやく「名」報謝、むくい、禮謝

はうじやく「名」礮砂(藥材)、礮酸曹達

はうじやく「名」暴瀉、たてくだし、ねはくだし(腹の)

はうじやく「名」亡者、まうじやく、なきひと、死者、黄泉客

はうじやく「名」坊舎、てら、いはり、あん、僧庵

はうじやく「名」防遮、ふせぐ、さへぐる

はうじやく「名」茅舎、まがや、かや、かやふさや、いはり、こや

はうじやく「名」褒賞、はうびをあたへる、はめる

はうじやく「名」堡障、こじろ、とりで、要害

はうじやく「名」芳情、他人の親切を尊稱する詞

はうじやく「名」帽章、ぼうしおのしるし、かぶりものしるし

はうじやく「名」坊城氏

はうじやく「名」放生會、いさものをたすけはなすあつ

はうじん「する」他 報親、ひいきする、たすける、愛顧

はうじん「する」他 訪尋、とひたづねる(人を)

はうじん「名」榜人、さをと(船の)ふなびと、ふねこぐひ

はうじん「名」方人、ひとをくらべみる、ひとをたくらべる

はうじん「名」庖人、れうりにん、くりやびと

はうじん「名」茅葺、かはたけ、さのこのな植物

はうじん「名」茅針、つばな、かやのはな植物

はうじん「名」亡親、あされや、しにたるおや

はうじん「する」暴進、むかふみすすすむ

はうじん「名」亡人、なきひと、死人

はうじん「名」防人、さきもり

はうじん「名」暴人、らんぼうもの

はうい 泡影、水のあわ物のかげの義にして世間のはかなきにたとふ

はうゑい「する」他 防衛、ふせぎまもる

はうゑん「名」芳園、はなばたけ、はなぞの

はうゑん 方圓(四角と丸をまた碁をいふ)

はうゑん「名」茅檐、かやがのきば、わらぶきやね

はうゑん「名」茅薺、かやむしろ

はうゑん「形」茫遠、はるかばはき

はうゑん「くわう」名 方鉛鏡、りうくわねん

はうゑん「くわう」名 望遠鏡、とほめがね、千里鏡

はうひ「形」芳菲、かうばしき、よほひよき

はうひ「名」放屁、へひること

はうひ「形」澎湃、はげしく水の鳴る貌、澎湃

はうひ「名」褒美、むくいのためもの、はめてたまふもの、

まり(佛法の會)

はうじやく「名」保釋、はしやく、やどあづけ(保證金を取

て未決囚をやどあづけにする事)

「はうじやく」名 膨雀、ふくらすずめ

はうじやく「名」傍若無人、かたはらにひとなきがごと

とさ、はしひまなる

はうじやく「する」他 傲習、ならひまねる

はうじやく「名」煮汁、つゆ、にじる

はうじやく「名」紡絲機械、いととりしかけ、いととらう

つは

はうじやく「名」寶珠、たふときたま

はうじやく「名」鮑珠、真珠をいふ、あはびだま

はうじやく「名」電酒、あられざけ、さけのたぐひ

はうじやく「する」他 保守、たもちまもる(重に舊法古風等をいふ)

はうじやく「する」他 防守、ふせぎまもる

はうじやく「名」芒種、ぼうしう、をみや

はうじやく「名」保守黨、舊風を保持する政黨、守舊黨

はうじやく「名」砲術、鉄砲を用ふる術

はうじやく「形」髦俊、すぐれたる、ぬきんでたる

はうじやく「名」矛楯、むじゆん、前後撞着、あ

とささあはぬ

はうじん「名」抱羶、ならたけ、さのこのたぐひ(植物)

はうじん「名」放心、うしなひたるころ(放逸の心。また

亂心、さちがひ

はうじん「名」傍親、はだしんるる

賞賜物

はうひそく「名」旁皮鯉、まるぶな、ぶなのたぐひ(動物)

はうひきん「名」褒美金、賞金、賞譽金、はうびにあたる

かね

はうひせう「名」鳳尾蕉、蘇鐵(そてつ)(植物)

はうもり「名」坊守、てらまもるひと、てらもり

はうもつ「名」寶物、たからもの

はうもく「名」方目、ほんどり、鵝(動物)

はうもん「名」砲門、大砲を打出す口、又たいは

はうもん「する」他 訪問、とひたづねる(人を)

はうもん 芳問(他人の來訪をいふ詞)

はうもん 坊門(氏)

はうせい「形」方正、ただしき、正直

はうせい「名」邦政、くにのまつりごと

はうせい「名」邦制、くにのしくみ、くにのなりたち、國體

はうせい「する」自 萌生、ささす、めさす

はうせい 暴政、あしさまつりごと、むごさまつりごと、苛

政、虐政

はうせう「名」保哨ものみのつはものをとるところ、とほ

みばんじよ

はうせう「名」芒硝(天然の硝石)

はうせき「名」一する(他) 紡績、うみつむぎ、つむぐ、うむ

(糸と)

はうせき「名」礫石、いしびや

はうせき 亡迹、なきあと(人の死後をいふ)

はうせき「くわう」名 紡績娘、くつむし(動物)

はうせん「名」湧泉、はしりる

はうせん(名) 報船(はやふね)
 はうせん(名) 寶前(神の前をいふ)ひろまへ
 はうせん(する)他 保全(まつたくしてたもつ)保存
 ぼうせん(する)自 防戦(ふせぎ)たかふ
 ぼうせん(名) 房簾(やちん)屋簾(たなちん)
 ぼうせん(副形) 忙然(あざれたる)呆然(だうぜん)若(あつけに)られたる
 ぼうせん(副形) 惘然(きぬけして)ほれぼれしたる(志を失ふたる貌)
 はうす(他) 報(しら)せる(報知)報道(また報酬)むくゆる
 ぼうす(名) 坊主(僧)法師(よすて)びと
 はうす(名) 紡錘(つむ)いととるうつは
 はうす(名) 方錐(よつめぎ)
 はうす(名) 滂水(はしりぬ)わきみづ
 はうす(名) 放水(みづぬき)のひせき
 はうす(名) 放水溝(みづはき)みづおとし
 ぼうす(名) 反初僧(げんぞく)そう(げんぞく)したる(ぼうす)
 ぼうす(名) 和尙(魚)動物
 ぼうす(名) 秃筆(ちび)ふで(され)ふで(やれ)ふで
 はうす(名) 方寸(心)をいふ
 はうす(名) 方寸(心)の中(むね)のうち(心中)
 はく(名) 伯(つか)さ(を)さ(長官)といふ(また五等爵の第三等をいふ)
 はく(名) 駁(う)つ(人の言論)と(辯駁)攻撃(なん)する
 はく(名) 鳥(き)ぬ(もの)の(きぬ)
 はく(他) 敷(い)き(ふ)く(氣吹)噴(水)などを吐(き)出す



(圖のくば)

はく(他) 吐(は)く(嘔吐)吐(は)く(吐露)食物(を)口(より)吐(く)また言(を)發(す)
 はく(他) 掃(は)く(塵)等(と)帚(にて)はく(き)よ(む)る(はら)ふ
 はく(他) 着(は)く(履)穿(つ)ける(き)る(う)が(つ)番(など)を
 はく(他) 佩(は)く(帶)ね(ぶ)る(刀)を(こ)し(に)つ(ける)
 はく(名) 箔(金箔)銀箔(等を)云(ふ)
 はく(他) 剝(は)く(撒)襪(ひく)う(ば)ふ(襪)官位(等に)重(に)用(ふ)
 はく(他) 補(は)く(綴)衣(等)の破(れたる)に(つ)ぎ(た)し(を)する(い)ふ
 はく(他) つぎ(た)す(つ)く(ろ)ふ
 はく(他) 作(は)く(板)を(け)つ(る)
 はく(名) 猓(白豹)しろなかつかみ
 はく(名) 麥(俗)又(夢)食(ふ)獸(といふ)
 はく(名) 麥(むぎ)こ(む)ぎ(ね)ほ(む)ぎ(植物)
 はく(名) 馬具(うまの)う(つ)は
 はく(名) 白衣(棉衣)ぬ(の)こ(も) (圖のくば)
 はく(名) めん(ぎ)もの(賤)人(の)稱
 はく(名) 海(た)ぬ(し)あ(は)せ(不)運
 はく(名) 幕友(地方官)などの私(し)の秘書(官)幕(賓)
 はく(名) 白(飲)さ(ゆ)た(だ)の(ゆ)
 はく(名) 白(鷺)しろ(さ)ぎ(動物)
 はく(名) 白(露)しろ(つ)ゆ(しろ)く(み)ゆる(つ)ゆ(つ)ゆ(た)ま
 はく(名) 檣(旗)ひ(ち)ぎ
 はく(名) 齒(黒)鐵(漿)か(ね)齒(を)を(む)る(料)
 はく(名) 鷄(腸)茶(繁)織(は)こ(べ)ら(植物)
 はく(名) 幕(標)ま(く)く(し)
 はく(名) 白(菟)なん(さん)う(さ)ぎ(動物)
 はく(名) 博(徒)ば(く)ち(う)ち(さ)ろ(つ)き
 はく(名) 麥(斗)む(ぎ)と(ろ)麥(の)と(ろ)ろ(飯)を(い)ふ
 はく(名) 麥(奴)む(ぎ)の(く)ろ(ば)麥(の)黒(穗)
 はく(名) 柏(頭)い(ぶ)き(檜)栢(び)や(く)し(ん)植物
 はく(名) 白(豆)しろ(ま)め(植物)
 はく(名) 白(藤)しろ(ふ)じ(植物)
 はく(名) 白(銅)しろ(り)銅(鑼)の(類)又(かね)の(な)
 はく(名) 白(頭)翁(おきな)な(な)さ(ね)こ(さ)し(や)ぐ(ま)さい(植物)
 はく(名) 白(頭)翁(むく)どり(し)じ(う)か(ら)動(物)
 はく(名) 白(頭)鳥(ひ)よ(どり)こ(む)く(動(物))
 はく(名) 白(頭)近(近)刺(か)ら(み)み(ず)動(物)
 はく(名) 薄(德)徳(行)の(少)き(を)い(ふ)非(徳)
 はく(名) 白(雉)しろ(さ)じ(狀)雉(よ)し
 はく(名) 白(地)あ(か)ら(ま)ま
 はく(名) 白(痴)ふ(ぬ)け(た)ら(ず)ば
 はく(名) 博(奕)袁(玄)道(と)ば(く)か(け)か(阿)房
 はく(名) 博(奕)場(賭)場(と)ば(く)ち(う)つ(と)ころ
 はく(名) 博(奕)場(賭)場(と)ば(く)ち(う)つ(と)ころ

はく(名) 伯(樂)う(まい)し(や)又(う)ま(あ)き(び)と
 はく(名) 九(頭)師(子)草(植物)
 はく(名) 白(波)しろ(な)み(又)ぬ(す)び(と)
 はく(名) 白(馬)しろ(う)ま(動(物))
 はく(名) 駁(馬)ま(だ)ら(う)ま(ぶ)ち(う)ま(動(物))
 はく(名) 白(梅)しろ(む)め(植(物))
 はく(名) 白(髮)しろ(が)鶴(髪)
 はく(名) 白(牝)しろ(ま)動(物)
 はく(名) 白(旄)しろ(さ)大(將)の指(揮)に用(ふる)者
 はく(名) 白(馬)節(會)あ(を)う(ま)の(せ)ち(る)古(へ)に(あ)り(し)正(月)七(日)の宴(會)に(て)此(日)天子(白)馬(と)御(覽)せ(り)因(て)か(く)い(ふ)
 はく(名) 寔(實)し(づ)か(もの)し(づ)か(寂)寂
 はく(名) 白(飯)さ(め)し(菜)肴(なし)の(飯)す(め)し
 はく(名) 白(鑿)藥(品)
 はく(名) 拍(板)へ(う)し(ぎ)拍(子)木
 はく(名) 麥(飯)む(ぎ)め(し)
 はく(名) 白(斑)風(白)癩(しろ)な(ま)づ(病)名
 はく(名) 伯(母)を(ば)叔(母)
 はく(名) 薄(暮)ゆ(ぐ)れ(くれ)が(た)た(そ)が(れ)ひ(ぐ)れ(い)り(あ)ひ(黃)昏(昏)暮
 はく(名) 薄(俵)薄(給)俵(給)の(少)き(を)い(ふ)
 はく(名) 白(墨)しろ(ず)み(又)じ(け)し
 はく(名) 霰(深)こ(さ)め(さ)り(さ)め(細)雨
 はく(名) 槩(木)さ(は)だ(黃)檨(植(物))
 はく(名) 白(萍)か(は)く(さ)の(た)ぐ(ひ)植(物)



(圖の雉白)

はくちりつ(名) 白地栗くわむ(植物)

はくちよ(名) 白楮(白紙をいふ)

はくちよ(名) 白楮(しらかし、かしのたぐひ(植物))

はくちう(名) 伯仲、まけずむとらまにむる

はくちう(名) 白晝(日中をいふ)、まひるな

はくちう(名) 博奕打、遊賭子、かけごとし、ころつき、な

がわきざし

はくちのかり 賭債、はくちにてかりたるかね

はくちく(名) 爆竹(左義長と同じ、正月十五日に焚きて遊

ぶもの又今支那人が祝日にあぐるばちばち烟花をい

ふ)

はくちやぎ(名) 博奕宿賭房、かけごとやど

はくちやう(名) 白張、しらはり(公卿の奴僕などの服また

葬式の時などに奴僕に着る者)

はくちやう(名) 白丁香、すずめゆめゆめ

はくちやう(名) 白頂花、白頭花、天満星(植物)

はくちやう(名) 葉朽肥、樹木の落葉の朽て肥料となる者

はくちさう(名) 白地草、はくちさ(植物)

はくちさう(名) 白地蔵、かくれあそび、かくれんぼ

はくちさう(名) 白痢、なめはら、くだりはら(病名)

はくちり(名) 麥李、さもも(植物)

はくちり(名) 幕吏、將軍家の官人

はくちり(名) 瀑流、はやきながれ、急流、激流

はくちり(名) 博陸、舊關白を然か稱ふ)

はくちり(名) 白鷗、しろかもめ(動物)

はくちり(名) 白屋、いやしきいへ、陋室

はくちり(名) 白、破潰つひえるやぶれる

はくちり(名) 薄荷圓(藥品)、はくかのけつしやうせるもの

はくか(名) 薄荷水(藥品)、みづはくか

はくか(名) 白鷗、白鷗、かのこぞ

はくか(名) 白、毛色殊に麗しく肉

頗る美味なる鳥)

はくか(名) 薄寒、うすさむ(春寒の如

きをいふ)

はくか(名) 白雁、しろかり(動物)

はくか(名) 白眼、しらまなこ、にらま

へるめつき、又とんちやくせぬ

まなこ

はくか(名) 薄待、うわしらひする、あしくあつか

らげる

はくか(名) 暴乾、ひからびる、かわく

はくか(名) 麥稈、むぎわら、むぎのから

はくか(名) 白甜瓜、ぼんでんうり(植物)

ばぐだ 馬喰田(氏)

はくたい(名) 白帶(直衣の類)

はくたい(名) 薄待、うわしらひする、あしくあつか

ふ

はくたい(名) 白苔、しらこけ(植物)

はくたい(名) 白癩、しらち(婦人病)

はくたい(形) 莫大、はなはだれはいなる、いとれはき

はくたい(形) 剝奪、はぎとる、褫奪、うばふ

はくたい(名) 薄刀、うすば

はくたい(名) 白湯、さゆ、だだのゆ

はくたい(名) 白桃、しらもも(植物)

はくたい(名) 白桃、しらもも(植物)

はくたい(名) 白桃、しらもも(植物)

はくたい(名) 白桃、しらもも(植物)

はくたい(名) 白桃、しらもも(植物)

はくたい(名) 白桃、しらもも(植物)

はくたい(名) 白桃、しらもも(植物)

はくたい(名) 白桃、しらもも(植物)

はくたい(名) 白桃、しらもも(植物)

はくたい(名) 白桃、しらもも(植物)

はくたい(名) 白桃、しらもも(植物)

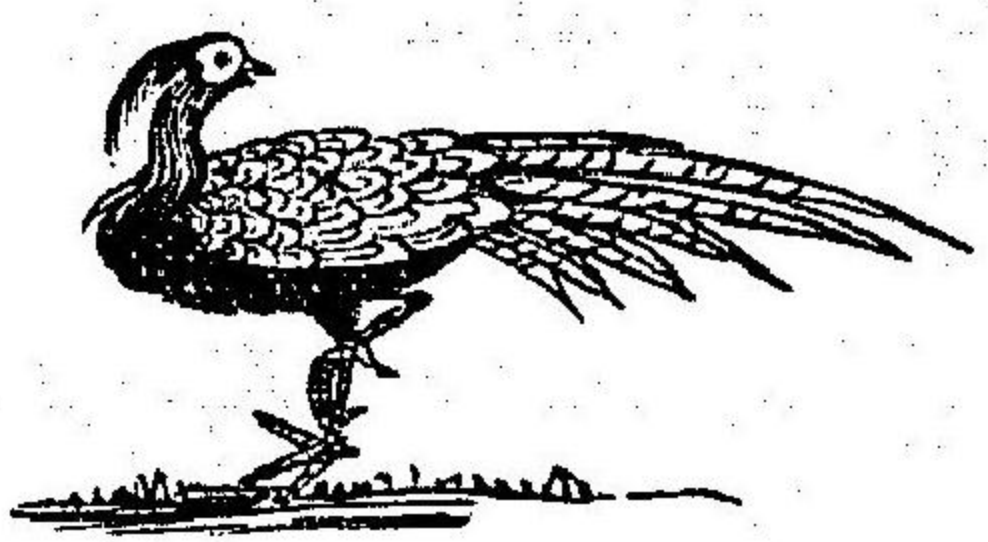
はくたい(名) 白桃、しらもも(植物)

はくたい(名) 白桃、しらもも(植物)

はくたい(名) 白桃、しらもも(植物)

はくたい(名) 白桃、しらもも(植物)

(圖のんかくは)



はくわい(する) 他) 破壊、うちやぶる、こぼつ

はくわい(名) 馬薙、馬鬮(植物)

はくわい(名) 馬鬮、むしのな(動物)

はくわい(名) 破瓜年(女

子可嫁の年即ち十五

六歳)

はくか(名) 白洲、しろな

はくか(名) 白蝦、しらにび(動物)

はくか(名) 薄荷、薄荷、みづたばこ(植物また其草より取

れる精にして辛き者)

はくか(形) 博雅(廣く諸學に通じたるをいふ)、博識、博覽

はくか(名) 幕下、旗下、はたした、また將軍の尊號

はくか(名) 白芥、たうがらし(植物)

はくか(名) 追害、せめなやますこと、くるし

める、宗教上に重にいふ、窘迫

はくかう(名) 白苔、あさぎりさう、のらよもぎ(植物)

はくかう(名) 薄行、不實の行爲をいふ)

はくかう(名) 薄幸、ふしあはせ、薄命

はくかう(名) 白膠木、ぬるで(植物)

はくかう(名) 栢香木、にはひよききのな(植物)

はくかう(名) 白降承、水銀製の藥品)

はくかう(形) 博學、ひろくまなびたる、博識、博通

はくかう(名) 白角豆、しろささげ(植物)

はくかう(名) 白鶴仙、さばうし(植物)

はくかう(形) 博浴、ひろくゆきわたれる、ひろくまなびた

る

はくたう(名) 麥湯、むぎゆ

はくたう(名) 麥桃、さもものたぐひ(植物)

はくたう(名) 白刀豆、なたまめ(植物)

はくたう(名) 剝啄、はとほと(門を叩くれと等をいふ)

はくたう(名) 白濁、淋病、りんじつ

はくたう(名) 白團、にはとりのたまご

はくたう(名) 爆彈、はせだま、破裂丸、大砲の)

はくたう(名) 白醜、しろざけ

はくたう(名) 逸、相失、みうしなふ、うせる

はくたう(名) 爆裂、破裂、われる、はせる、ぼんとわ

れる

はくたう(名) 爆裂彈、破裂する砲丸、はせだま

はくたう(名) 齒尿、齒にたまるかす、はがすみ

はくたう(名) 白鼠、しろねずみ(動物)

はくたう(名) 麥葱、あさづき(植物)

はくたう(名) 白蘇草、荏胡麻、はごま(植物)

はくたう(名) 白内障、しろそこひ(眼病)、青盲

はくたう(形) 舶來、わたりにきたれる(外國より)、輸入

はくたう(名) 令逸、みうしなはせる、まく(人を)

はくたう(名) 白醜、ねりざけ、しろざけ

はくたう(名) 白浪、しらなみ

はくたう(名) 伯勞、もす、鳩どりのな(動物)

はくたう(名) 博勞、伯勞、うまわさうど、又うまいしや

はくたう(名) 伯樂、馬を見るに名人なりし漢土の人、ま

た馬醫

(圖の荷薄)



はくらん(名) 白鐵(びやくらん)しろうみ
 はくらん(形) 博覽(ひろくみ)たる博學
 はくらん(名) 博覽會(物品を陳列して縦覽に供する處)
 はくらん(名) 白芋(はすい)もさといものたぐひ(植物)
 はくらん(名) 白羽(しらば)しろうきはね
 はくらん(名) 白雨(しらさめ)ゆふだちにはかあめ
 はくらん(名) 露雨(こさめ)きりさめ
 はくらん(名) 麥雨(さみだれ)さつきあめ五月雨
 はくらん(名) 箔打(はくや)金銀を打延す工人
 はくらん(名) 薄雲(うそぐも)
 はくらん(名) 白雲(しらくも)むらくも
 はくらん(名) 白雲木(玉鈴花(植物))
 はくらん(名) 白雲石(鐵物)
 はくらん(名) 薄濃(うすさき)濃淡(厚薄)
 はくらん(名) 狛狗(こまいぬ(動物))
 はくらん(名) 白駒(しろこま)日にたると光陰(ひかげ)
 はくらん(名) 船貨(たうふつ)わたりもの外國品(舶來品)
 はくらん(名) 白花米(はせごめ)はせ
 はくらん(名) 白花香(をこめし(植物))
 はくらん(名) 白花鷹(しらふだか(動物))
 はくらん(名) 白花蛇(よこわへ(動物))
 はくらん(名) 發黃熱體の黃色になる病
 はくらん(名) 白黃麻(天子の御給旨)
 はくらん(名) 白花菜(やうかくさう(植物))
 はくらん(名) 白環草(かがみくさ)白藪(植物)
 はくらん(名) 白屈菜(くさのわら(植物))

はぐく(他) 育養育(やしなひ)をだてる
 はぐく(名) 箔匠(金銀等の箔を作り賣る者)
 はぐく(名) 莫邪(漢土の名劍の名)又その作者
 はぐく(名) 馬具屋(ばぐつくるい)
 はぐく(名) 白楊(はくやう)をかやなぎはこやなぎ(植物)
 はぐく(名) 白蔞(いちび(植物))
 はぐく(名) 白牦牛(牦牛)犏牛(うしろ)のたぐひ(白熊(しろくま(動物))
 はぐく(名) 白米(つきごめ)しらげよね
 はぐく(名) 麥芽(もやし)むぎもやし(植物)
 はぐく(名) 伯兄(あに)はあに
 はぐく(名) 縛繫(しばりつなぐ)
 はぐく(名) 白騰(むしくひたか(動物))
 はぐく(名) 駁撃(うつ)他人の論説を非難するを
 はぐく(名) 搏擊(うつ)たたく
 はぐく(名) 莫逆(ねんご)懇親
 はぐく(名) 莫逆交(格別懇親なる交際をいふ)
 はぐく(名) 白父(おぢ)
 はぐく(名) 白布(さらば)しろうぬの
 はぐく(名) 溲布(たき)漉水

はくふ(名) 幕府(本は將軍の陣營を云ふ)柳營(將軍家)
 はくふ(名) 白葡葡酒(しろぶどうざけ)
 はくふ(名) 博物學(鳥獸等を研究する學を云ふ)
 はくふ(名) 博物館(各種の物を陳列して縦覽せしむる建物)
 はくふ(名) 薄福(ふしわ)はせ(薄命)
 はくふ(名) 白粉(しろこ)れしろうい
 はくふ(名) 白文(無點の漢文をいふ)
 はくふ(名) 博聞(ひろく)さきたる博識(ものしり)
 はくふ(名) 白文印(はりこ)みのいん(文字をほり窪めたる印)
 はくふ(名) 遯乎(はるか)とほをば(遯焉)
 はくふ(名) 白骨(されぼね)雨にさらしたる骨
 はくふ(名) 薄厚(うそさか)わつき
 はくふ(名) 白黒(しろくろ)又あやめ
 はくふ(名) 白蠟(しろろう)植物
 はくふ(名) 幕庭(天幕の前庭を云ふ)
 はくふ(名) 白鐵(びやく)舶來の薄金物板
 はくふ(名) 白鳥(しろとり)のとり
 はくふ(名) 薄田(うそでん)下田(みのり)あしき田
 はくふ(名) 白堊(しらつち)白土
 はくふ(名) 博愛(汎く人を愛すること)
 はくふ(名) 牙疳(はぐさ)がさ(膿瘡)
 はくふ(名) 白沙(しろすな)しろうさな(又し

はぐさ(名) 莠雜草(あしきくさ(植物))
 はぐさ(名) 白茶(にがな(植物))
 はぐさ(名) 薄才(才智のたらし事)うすさちる
 はぐさ(名) 地花菜(さんれい)くわ(植物)
 はぐさ(名) 迫殺(せめころす)
 はぐさ(名) 駁雜(ごたま)せいろ(まじり)たる
 はぐさ(名) 縛繫(くくる)しぼる(ゆは)ひる
 はぐさ(名) 白沙魚(しらうか)さめのたぐひ(動物)
 はぐさ(名) 堅茨樹(植物)
 はぐさ(名) 白蒿(あさぎり)さう(植物)
 はぐさ(名) 白蟻(しらあり(動物))
 はぐさ(名) 博識(ひろく)さう(こと)
 はぐさ(名) 鰓(齒根の肉)鰓肉
 はぐさ(名) 毛管(鳥翼の羽莖)はねぐさ
 はぐさ(名) 博識(博奕)ばくち(かけご)
 はぐさ(名) 白莖(あまぢ)さ(たうち)さ(植物)
 はぐさ(名) 白魚(しらう)を(たち)が(う)を(に)こ(び)し(み)ま
 はぐさ(名) 麥魚(めだか(動物))
 はぐさ(名) 白魚(あらかん)のたぐひ(菓子)の名
 はぐさ(名) 璞玉(あらたま)未だ(琢磨)せざる(寶石)
 はぐさ(名) 駁牛(まだらう)し(動物)
 はぐさ(名) 白及(甘根)連及草(植物)
 はぐさ(名) 白金(至て)堅き(金の名)プラチナム
 はぐさ(名) 膊巾(かたかけ)肩巾
 はぐさ(名) 白銀(しろかね)ぎん

(圖の鳥白)



ばくせん(名) 麥蘭しよらう、きのこのな(植物)
はくゆう(名) 白熊はぐま(動物)
はくめい(形名) 薄命、ふしおはせ、薄福

はくめい(名) 薄明、うすあかるさ、よわげ、おけぼの
はくめい(名) 薄明、うすあかるさ、よわげ、おけぼの
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ

はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ

はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ

はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ

はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ

はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ

はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ
はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ

はくめん(形) 白面、年わかく経験なきをいふ

ひあかす
はくしやうけん(名) 白生絹、まぎぬ、ねらぬきぬ
はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等

はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等
はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等
はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等

はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等
はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等
はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等

はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等
はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等
はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等

はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等
はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等
はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等

はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等
はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等
はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等

はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等
はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等
はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等

はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等
はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等
はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等

はくしやく(名) 伯爵、爵位の第三等

はやる(自) 速逸、いそぐ、せく
 はやと(名) 早緒、船綱、ちつな(船の綱にぐる繩)
 はやたけ(名) 早桶、棺桶(死人をいれる櫃)
 はやれき(名) 早起、蚤起、晨起(はやくたくること)
 はやわざ(名) 早業、手練、叱法、弄法、弄把戲
 はやかは(名) 早川(氏)
 はやがね(名) 早鐘、警鐘(出火其他の時の急を告る鐘の聲)
 はやがけ(名) 疾走、はやばしり
 はやがき(名) 早書、疾書、はじりがき
 はやだより(名) 早便、はやされとづれ。急便、いそぎのたより

はやなは(名) 早繩(犯罪者を縛る捕繩)とりなは
 はやなみ(名) 急波、激浪、鯨波、怒浪、怒濤、奔濤、奔潮、れはなみ
 はやうち(名) 駟馬、はやびさやく、急使、はや
 はやうちかた(名) 急擊、肩病名、疔癖の強き如き者
 はやうた(名) 早歌、はやくうたふうた
 はやうま(名) 逸馬、駿馬、驕驪、とさうま(動物)
 はやうま(名) 急馬、はやびさやく、はや
 はやくち(名) 快口、快嘴、はやくものいふこと。辯口、くちまめ、くちたつしや
 はやくさ(名) 丹毒、病名
 はやま(名) 端山、ふもとのやま
 はやまる(自) 失急、爲大早計、いそぎてあやまつ、いそぎすぎる

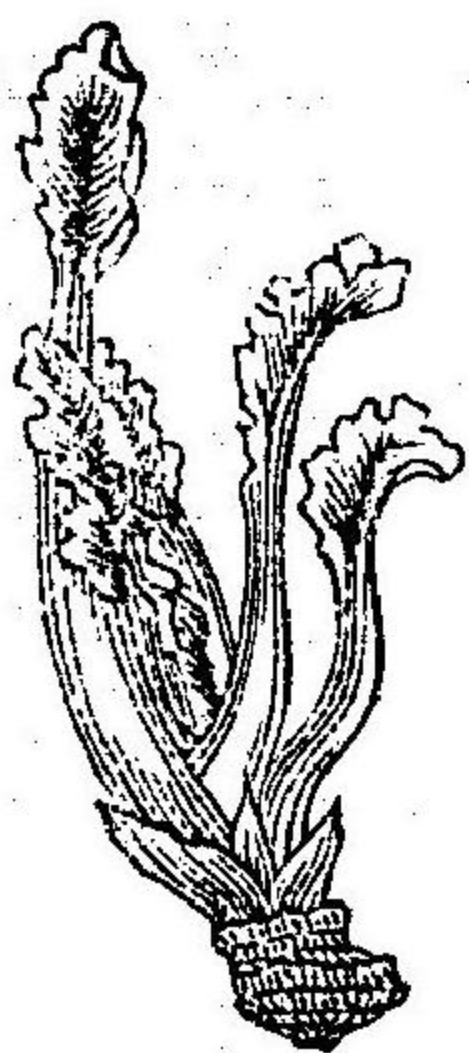
はやますみれ(名) 起頭菜(植物)

はやぶね(名) 早船、快船、快艇、船艇、いそぎぶね
 はやぶさ(名) 鶺鴒、隼、晨風(たかの一種)(動物)
 はやぶされと(名) 鶺鴒、たかのとくうつこと
 はやふう(名) 紙筒、砲囊、銃砲の彈藥の一宛の包
 はやて(名) 暴風、疾風、迅風、はやち
 はやわし(名) 疾足、快步、はやあるき
 はやさめ(名) 急雨、暴雨、はかあめ、ゆふだち、驟雨
 はやさ(形) 早速、快、疾、蚤、捷、迅、すみやかなる、神速、迅速

はやされそぎ 迅速、駛徐、緩急
 はやめ(名) 催産、出産を促がすこと又その藥
 はやめる(他) 早疾、はやくする、驅(馬を)かる
 はやめくすり(名) 催生、藥、出産を促がす藥
 はやみ(名) 早見、速見、速水、頓宮(氏)
 はやみち(名) 捷徑、ちかみち
 はやし(名) 林密林、山林、林落、樹木の叢生する所、もり、森、森林、また(氏)

はやし(名) 囃、拍子(音樂にてはきはすこと)
 はやし(名) 隼人、はやと(はいと)をみよ
 はやしとく(名) 鼓子花、天劍草、ひるがほ(植物)
 はやしなは(名) 急火引、ひなはのたぐひ
 はやしきやく(名) 早飛脚、傳騎、急使、はや、駟所
 はやせ(名) 急瀨、迅瀨、急流、激流、急湍、湍(川水の流れ早き所)
 はやす(他) 令生、はやしむる
 はやす(他) 細割、細切、片割、こまかにきる
 はやす(他) 囃にきはす、はやしする、はやしをみよ。は

はまら(名) 濱菜(其味獨活に似て其色白し西洋にて日常の食用に供す、わらうど(植物) 列當(植物))
 はまぐり(名) 蛤、蚌、蟻、合漿(動物)
 はまく(名) 鹹黃(植物)
 はまくさ(名) 腐婢(植物)
 はままつ(名) 濱松(地名)
 はままつ(名) 黑珊瑚(黒き珊瑚にて即ち動物の作る所の者)



めそやす
 はま(名) 碁子、ごいし(碁石)
 はま(名) 濱、瀨、うみべ、さし、海岸
 はまばら(名) 黃蘗(植物)
 はまにがな(名) 濱苦菜、煎刀股(植物)
 はまにれ(名) 堯花(植物)
 はまにじ(名) 紅苺、苺子(植物)
 はまにんじん(名) 蛇狀子、はませり(植物)
 はまへ(名) 濱邊、はまをみよ
 はまら(名) 洞庭藍(植物)
 はまら(名) 鯽、うをの(動物)
 はまぢどり(名) 濱千鳥、呼湖、みづとりの(動物)
 はまぢりめん(名) 濱縮緬、絹物の名
 はまる(自) 陥込、澤落、はまりこむ、れちいる
 はまる(自) 合、あふ、あてはまる、嵌、はめこまれる
 はまをぎ(名) 濱萩、萩をぎ、あし(植物)
 はまねもと(名) 濱木綿、文珠蘭、はまゆふ(植物)
 はまがら(名) 莖、荊、はましきみ(植物)
 はまたかな(名) 天名精、活鹿草、地菘、のしりぐさ(植物)
 はまつばき(名) 蔓荊、はまがら(植物)
 はまな(名) 濱名(氏また地名)
 はまな(名) 番杏、つるな(植物)
 はまなつとう(名) 濱納豆(食品)
 はまなし(名) 疾梨(植物)
 はまなす(名) 玫瑰、枚瓊、あかばら(植物)
 はまむぎ(名) 篩草、こうばふむぎ(植物)

はまじをん(名) 金盞菜、うらぎ(植物)
 はましきみ(名) 濱密、法實、はまがら(植物)
 はまゑんどう(名) 野豌豆(植物)
 はまひとくさ(名) 大戟草(植物)
 はまひるがほ(名) 旋花(植物)
 はまあか(名) 濱手、はまべ、うみべ
 はまあか(名) 野灰菜(植物)
 はまあふひ(名) 防風、ぼうふう(植物)
 はまざさげ(名) 雲實、天豆、羊石子、粘刺草(植物)
 はまきく(名) 佛頭菊(植物)
 はまゆり(名) 文珠蘭(植物)
 はまゆふ(名) 濱木綿、はまをもと、文珠蘭(植物)
 はまゆみ(名) 破魔弓(惡魔を逐ふ弓、また年始に小兒の用る遊戯の具)
 はましをん(名) 金盞菜、うらぎ(植物)
 はましきみ(名) 濱密、法實、はまがら(植物)
 はまゑんどう(名) 野豌豆(植物)
 はまひとくさ(名) 大戟草(植物)
 はまひるがほ(名) 旋花(植物)

はぶくろ(名) 別刀、はるこがたな

はふまう(名) 法網(法律の綱)、わきてのあみ

はふけい(名) 法兄、あにでし僧徒(いふ)

はふげん(名) 法眼(僧都相當の僧位)

はふげん(名) 法言、のりのことば、道話

はふふく(名) 法服(僧侶の衣を云ふ)

はふこ(名) 這兒(這ふ形せる人形をいふ)、はひこ、又只はふこども

はふこ(名) 法語(佛法の言語)、法語、また法律語

はふてい(名) 法庭、裁判所、しらすばきどころ

はふでう(名) 法條、わきて、のり、法例

はふてこぶら(名) 梓あづさ、ささげ(植物)

はふてすま(名) 洗禮、浸禮、耶蘇信者が受る洗淨の禮式

はふさう(名) 婆娑草、ほごづら(植物)

はふき(名) 法規、のり、わきて、法則、さだめ

はふき(名) 法譯、戒名、法名、釋氏の諱名

はふき(名) 法規、法則、のり、さだめ

はふき(名) 法義、法理、わきてのすぢ

はふみやう(名) 法名、法號、戒號、戒名、かみやう

はふみやう(名) 法脈、佛祖の道の相續をいふ

はふし(名) 法師、のりのし、佛僧の稱

はふし(名) 法事(祖先を吊ふ佛事)

はふし(名) 八分字(書法に言ふ)

はふし(名) 鬮、節、はのね

はふし(名) 喉代(氏)

はふし(名) 法實(除算の除する者と除せらるる者)、わるも

はふし(名) 法實(除算の除する者と除せらるる者)、わるも

はふし(名) 法實(除算の除する者と除せらるる者)、わるも

はふし(名) 法實(除算の除する者と除せらるる者)、わるも

はふし(名) 法實(除算の除する者と除せらるる者)、わるも

はふし(名) 法實(除算の除する者と除せらるる者)、わるも

はふし(名) 法實(除算の除する者と除せらるる者)、わるも

はふし(名) 法實(除算の除する者と除せらるる者)、わるも

はふし(名) 法實(除算の除する者と除せらるる者)、わるも

はふし(名) 法實(除算の除する者と除せらるる者)、わるも

はふし(名) 法實(除算の除する者と除せらるる者)、わるも

はふし(名) 法實(除算の除する者と除せらるる者)、わるも

はふし(名) 法實(除算の除する者と除せらるる者)、わるも

はふし(名) 法實(除算の除する者と除せらるる者)、わるも

はふし(名) 法實(除算の除する者と除せらるる者)、わるも

はふし(名) 法實(除算の除する者と除せらるる者)、わるも

はふし(名) 法實(除算の除する者と除せらるる者)、わるも

のわられるもの

はふじやう(名) 法戒(氏)

はふし(名) 法式、儀式、作法、さだめ、しかた

はふし(名) 法主、佛宗の主、本願寺の主の如き者

はふじゆつ(名) 法術、方術、魔術、まほう

はふしん(名) 法身(佛陀の體をいふ)、のりのみ

はふじん(名) 法人(市府會社など凡て法律にて一箇人と見做したる者)

はふじん(名) 方人、かたうど、かせい

はふじん(名) 法親王、落髮入道の皇子をいふ

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はふじん(名) 法會、佛事供養の會

はこべ(名) 破故紙、わらんだびゆ(植物)

はこたへ(名) 齒應、齒に當る事をいふ、はざはり

はこたへ(名) 箱館(渡島國龜田郡にある港にして五港の一あり)

はこね(名) 兩箇(相摸國にある上下八里の峠)

はこね(名) 佛桑花、ぶつせうけ(植物)

はこね(名) 十姉妹、錦帯花(植物)

はこね(名) 箱根草、石見、石長生、いはふやなぎ(相州箱根山に多く産する草、植物)

はこね(名) 馬口鐵(ブリキ)

はこね(名) 破獄、らうやぶり、破牢

はこね(名) 育ばくむやしのなひをだてる、養育

はこね(名) 藐姑射(仙人の居るといふ山の名)

はこね(名) 妓夫、回箱、はこまはし(紗妓に從ひて樂器を攜帶する僕)

はこね(名) 白楊、やなぎのたぐひ、ねははやなぎ(植物)

はこまはし(名) 回箱、はこや、妓夫

はこまはし(名) 運漕、運輸、運搬、もちかよはず、わぐる(貨物等を)

はこま(名) 運歩、あゆむ、あゆく

はこま(名) 箱匠、さしものし、はこづくり

はこま(名) 石長生、はこねやなぎをみよう(植物)

はこま(名) 箱崎、筑前箱屋郡にあり

はこま(名) 鋸沙魚、さめのたぐひ(動物)

はこま(名) 箱篋、はこがたちのみ

はこま(名) 箱篋、はこがたちのみ

はこま(名) 箱篋、はこがたちのみ

はこま(名) 箱篋、はこがたちのみ

はこし(名) 破胡紙、わらんだびゆ(植物)

はこし(名) 破故紙、いちびくさ(植物)

はこし(名) 箱火桶、火鉢の形の箱の如くなる者

はこび(名) 運夫、運搬夫、もちかはこぶひと、人足

はこび(名) 果極、終、端をわたり、はじ、かぎり、盡處

はこび(名) 華美、華麗、美麗、りつば、はなやか

はこび(名) 波底、なみそこ、海底

はこび(名) 爬泥、くさかき

はこび(名) 馬丁、べつたらう、うまをせわするしもべ

はこび(名) 馬亭、うまごや、厩、うまや

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

はこび(名) 馬蹄、ひづめ、うまのつめ

ばさばさする(自) 婆娑婆娑物の濕り氣なくなる貌
ばさつく(自) 婆娑然ばさばさする
ばさらふう(名) 抜折羅風、しまりなきありさま、みだりなるかたち

はさむ(他) 夾挿、挿挿、さしはさむ、おひだにいれる

ばさう(名) 馬槽、うまぶね、うまをけ

ばさま(名) 狭間銃眼、硝壁の銃砲うちだす孔、また氏間

はさま(名) 峽路、おはひ、かひ、やま、あひ、みち

はさまる(自) 介間接、おひだにはいる、なかにいる

はさませと(名) 間瀬戸、海峽海の狭き所

はさける(自) 婆娑ばさつく、みだれる(髪などが)

はさみ(名) 剪刀、夾剪、鈍刀、鈍もの、はさみきるうつは

はさみいれる(他) 挿入、はさみこむ

はさみばこ(名) 狭箱挿箱、他、旅行の時衣類其他をいれて肩にかつぐ箱

はさみばこ(名) 蝦蟇腫、耳の下の邊に生ずる腫物の名

はさみむし(名) 搜夾子、蠓、蚊、蚋、はさむむしのな動物

はさみうち(名) 狭撃、狭伐、両方或は前後より敵を攻撃すること

はさみきる(名) 狭切、前截、前断、はさみ等にてきる、はさみてきりとする

はさみしやうぎ(名) 夾將棊、はさみてかつしやうぎ、將棊の一戯

はさん(名) 破産、身代限、倒産、ふんさんする、つぶれる

はさ「する」(他) 破毀、破棄、こぼつ、くだく、やぶる、とりける

はさむ(他) 夾挿、挿挿、さしはさむ、おひだにいれる

はさう(名) 馬槽、うまぶね、うまをけ

はさま(名) 狭間銃眼、硝壁の銃砲うちだす孔、また氏間

はさま(名) 峽路、おはひ、かひ、やま、あひ、みち

はさまる(自) 介間接、おひだにはいる、なかにいる

はさませと(名) 間瀬戸、海峽海の狭き所

はさける(自) 婆娑ばさつく、みだれる(髪などが)

はさみ(名) 剪刀、夾剪、鈍刀、鈍もの、はさみきるうつは

はさみいれる(他) 挿入、はさみこむ

はさみばこ(名) 狭箱挿箱、他、旅行の時衣類其他をいれて肩にかつぐ箱

はさみばこ(名) 蝦蟇腫、耳の下の邊に生ずる腫物の名

はさみむし(名) 搜夾子、蠓、蚊、蚋、はさむむしのな動物

はさみうち(名) 狭撃、狭伐、両方或は前後より敵を攻撃すること

はさみきる(名) 狭切、前截、前断、はさみ等にてきる、はさみてきりとする

はさみしやうぎ(名) 夾將棊、はさみてかつしやうぎ、將棊の一戯

はさん(名) 破産、身代限、倒産、ふんさんする、つぶれる

はさ「する」(他) 破毀、破棄、こぼつ、くだく、やぶる、とりける

はさむ(他) 夾挿、挿挿、さしはさむ、おひだにいれる

はさう(名) 馬槽、うまぶね、うまをけ

はさま(名) 狭間銃眼、硝壁の銃砲うちだす孔、また氏間

はさま(名) 峽路、おはひ、かひ、やま、あひ、みち

はさまる(自) 介間接、おひだにはいる、なかにいる

はさませと(名) 間瀬戸、海峽海の狭き所

はさける(自) 婆娑ばさつく、みだれる(髪などが)

はさみ(名) 剪刀、夾剪、鈍刀、鈍もの、はさみきるうつは

はさみいれる(他) 挿入、はさみこむ

はさみばこ(名) 狭箱挿箱、他、旅行の時衣類其他をいれて肩にかつぐ箱

はさみばこ(名) 蝦蟇腫、耳の下の邊に生ずる腫物の名

はさみむし(名) 搜夾子、蠓、蚊、蚋、はさむむしのな動物

はさみうち(名) 狭撃、狭伐、両方或は前後より敵を攻撃すること

はさみきる(名) 狭切、前截、前断、はさみ等にてきる、はさみてきりとする

はさみしやうぎ(名) 夾將棊、はさみてかつしやうぎ、將棊の一戯

はさん(名) 破産、身代限、倒産、ふんさんする、つぶれる

はさ「する」(他) 破毀、破棄、こぼつ、くだく、やぶる、とりける

はさむ(他) 夾挿、挿挿、さしはさむ、おひだにいれる

はさう(名) 馬槽、うまぶね、うまをけ

はさま(名) 狭間銃眼、硝壁の銃砲うちだす孔、また氏間

はさま(名) 峽路、おはひ、かひ、やま、あひ、みち

はさまる(自) 介間接、おひだにはいる、なかにいる

はさませと(名) 間瀬戸、海峽海の狭き所

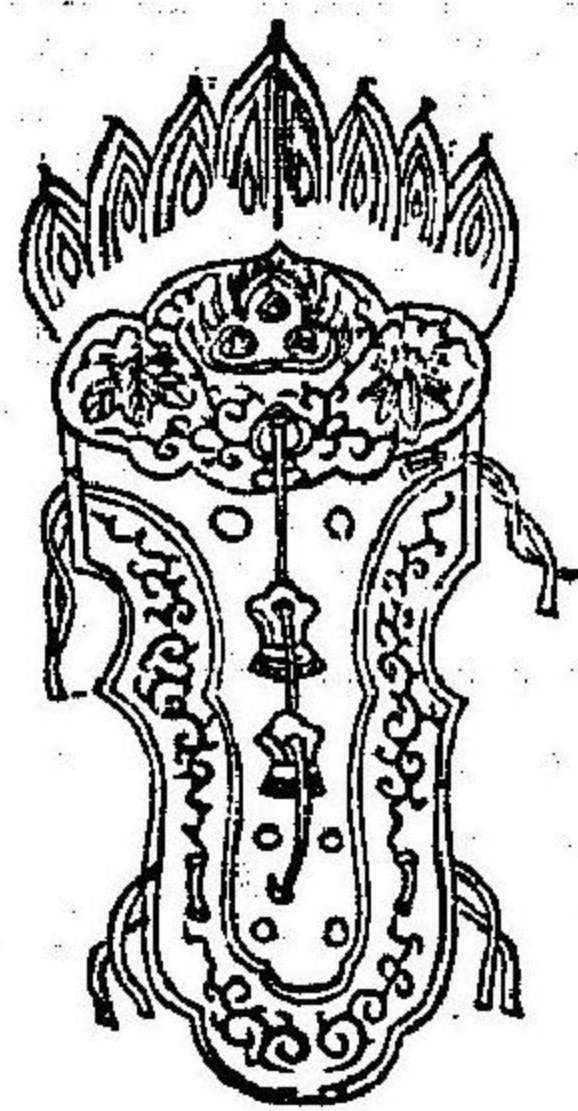
はさける(自) 婆娑ばさつく、みだれる(髪などが)

はさみ(名) 剪刀、夾剪、鈍刀、鈍もの、はさみきるうつは

はさみいれる(他) 挿入、はさみこむ

はさみばこ(名) 狭箱挿箱、他、旅行の時衣類其他をいれて肩にかつぐ箱

はぎ(名) 萩、宜草、胡枝子、隨軍茶、植物
はぎ(名) 脛、腋、膂、臑、腕、あし、ものした
はぎ(名) 馬蟻、うまひる(動物)
はぎ(名) 馬蟻、げじげじ(動物)
はぎはら 萩原氏
はぎはき(俗、副) 明白、明瞭、はつきり、また速速、はやく
はぎとる(他) 剝奪、うばひとる、わひはぎする
はぎり(名) 齒切、齧、はがみ、はぎしり
はぎぬ(名) 馬衣、褌、馬にかける衣
はぎよせる(他) 掃寄、はきあつめる
はぎだめ(俗) 掃溜、ごみため、ちりづか
はぎたしもの(名) 排泄物、吐瀉物、はきたるもの(病人など)
はきたす(他) 掃出、掃よてはきす、いだし
はきだす(他) 吐出、口中よりもどす
はきどへ(名) 帶副、わきざし、しざへ
はきど 萩園氏
はぎのち(名) 萩餅、はぎ、牡丹餅(食物)
はぎやばん(名) 薄伽梵、佛陀、はとけ、の「一稱」
はきやう 破鏡、かたわれづき、半小、又やぶれかかみ
はきやく(自) 他) 破却、やぶる、こぼつ
はきやく(自) 他) 破却、やぶる、こぼつ
はきやく(自) 他) 破却、やぶる、こぼつ
はきまく(自) 他) 波及、きたり、たつ、たつする、とどく
はきく(自) 他) 波及、きたり、たつ、たつする、とどく
はきしり(名) 切齒、齧齒、はをかみならず(眼中等に)
はみ(名) 蟻、蟻、まむし(古語、動物)
はみ(名) 稊、槽、かひ、をけ、馬等の
はみがき(名) 磨齒粉、はみがき
はみだす(自) 逼出、みちあがりてふきだす
はし形 愛、かはゆき(古語)
はし(名) 橋、梁、橋、水梁、河橋、河梁、龍腰(河に架する者)、
圮(土橋)
はし(名) 嘴、喙、味、くちばし(鳥の)
はし(名) 階、階、さざはし、段
はし(名) 箸、箸、匙、筋、飯、食、等、に用る二本の棒
はし(名) 跛子、ちんば、あしなへ
はし(名) 端、はた、端緒、さき、端末
はし 土師氏
はし 巴宇、ともあもじ
はし(名) 櫛、はじのき(植物)
はし(名) 馬齒、うまがは
はし(名) 馬士、まご、うまかた
はし(名) 媽兒、くわしや、いろごとのしんざう
はし(名) 端居、椽側、の隅、などを謂ふ、えんのかたすみ
はし(形) 羽白、はねのしろさ
はし(名) 羽柴氏、豊臣大問、秀吉、此姓をなれり
はし(名) 榛、かやのたぐひ(植物)
はし(名) 榛、かやのみ
はし(名) 四睡、よも、四境、よものさかひ
はし(名) 齒鹽(齒に堅くつく食物の鹽分)、はいたまる



馬の面部に裝する甲の類上

ばめん(名) 馬面、うまのめん(馬の面部に裝する)
ばめん(名) 馬面、うまのめん(馬の面部に裝する)
ばめん(名) 馬面、うまのめん(馬の面部に裝する)
ばめん(名) 馬面、うまのめん(馬の面部に裝する)
ばめん(名) 馬面、うまのめん(馬の面部に裝する)
ばめん(名) 馬面、うまのめん(馬の面部に裝する)
ばめん(名) 馬面、うまのめん(馬の面部に裝する)
ばめん(名) 馬面、うまのめん(馬の面部に裝する)
ばめん(名) 馬面、うまのめん(馬の面部に裝する)
ばめん(名) 馬面、うまのめん(馬の面部に裝する)
ばめん(名) 馬面、うまのめん(馬の面部に裝する)

ばめん(名) 馬面、うまのめん(馬の面部に裝する)

はじゆみ(名) 櫛弓はじゆみのきゆみ(古へ用ひし者)
 はじゆん(名) 波旬梵語にて惡魔をいふ
 はじめ(名) 始初昉創首甫肇元甲最初いやさき
 元始權輿濫觴草創はじまり嚆矢
 はじめをばり 首尾始終あそさき
 はじめのとし 元年初年

はじし(名) 鯢肉(ぎんにく)はぐきのにく
 はじもり(名) 橋吏橋番はしばん
 はしん(名) 把針はりしごとぬひはりねはり
 はえ(名) 榮映さかえかがやきうるはし
 はえ(名) 鱗鮫鮠鮠うをのな動物
 はえ(名) 暗礁亂礁危礁浮礁かくれいは
 はえ(名) 暗礁亂礁危礁浮礁かくれいは

はえさ(名) 破壞はくわい)やぶるこはすやぶれ
 はえる(自) 仄日蝕ひがつきにかげらされてくらくな
 るにつきよくになる
 はえる(自) 榮さかえるできはえある
 はえる(自) 生生出苗出生生めをたすしやうする
 はえなき(形) 無榮無映できはえなきさかえなき
 はえある(形) 有榮はまれあるさかえあるできばえあ
 る

はえさがる(自) 生下はえたれるにひさがる生垂
 はえさは(名) 髮際かみのけのはえさはけきは
 はえん(自) 把線するつかまるどりつく
 はひ(名) 蠅はへうじのくわしたるもの胡蠖動物
 はひ(名) 灰あくもねがら木などの
 はひ(名) 單日奇日はしたび一三五等の日をいふ

はひのぼらす(名) 伏牛花へびのぼらすどげあるきのな
 (植物)
 はひのこ(名) 蛆はひうじうじ動物
 はひのき(名) 山鑿植物
 はひくび(名) 奪頸うばひくび
 はひまつはる(自) 蔓葉からまる蔓纏匍絡蔓絡貫絡か
 らみつく
 はひまゆみ(名) 杜仲きのな植物
 はひげ(名) 獸毛淡黒毛はひいろのけ
 はひけし(名) 香鐵火鐵はひれし器具
 はひふう(名) 馬脾風(病名)
 はひふさ(名) 灰吹唾壺金餅すひがらはたきつばさす
 るうつは

はひふさ(名) 灰吹再煎銀中古通用せし貨幣の名
 はひこる(自) 横行たしあらく(盜賊等が)跋扈強梁むば
 る
 はひこる(自) 蔓延ふえひろがる
 はひこる(自) 漫漶彌漫ひろがる蔓延
 はひこむ(自) 這込匍入はひいる
 はひあがる(自) 這上はひのぼるよちのぼる
 はひあふ 奪合相奪うばひあふ
 はひし(名) 黄芩はひし(植物)
 はひし(名) 黄芩はひし(植物)
 はひし(名) 黄芩はひし(植物)

はひし(名) 黄芩はひし(植物)
 はひし(名) 黄芩はひし(植物)
 はひし(名) 黄芩はひし(植物)
 はひし(名) 黄芩はひし(植物)
 はひし(名) 黄芩はひし(植物)
 はひし(名) 黄芩はひし(植物)
 はひし(名) 黄芩はひし(植物)
 はひし(名) 黄芩はひし(植物)
 はひし(名) 黄芩はひし(植物)
 はひし(名) 黄芩はひし(植物)

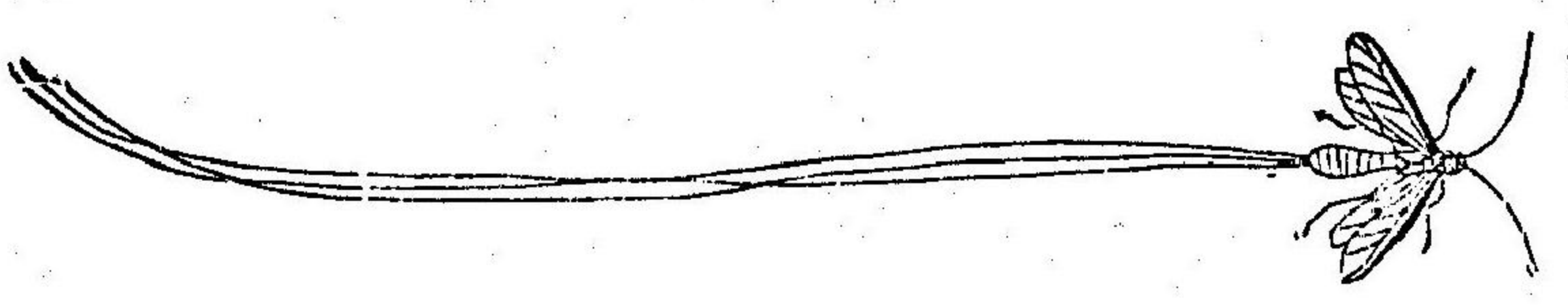
ばひ(名) 馬竅馬勃めつぶれだけ植物
 はひいろ(名) 灰色灰の如き色
 はひいでる(自) 這出匍匐出はひでる
 はひろん 巴比倫亞細亞の舊大國の名
 はひらひ(名) 蠅拂拂塵塵尾はつすのたぐひ
 ばひはう(名) 馬尾蜂の雌にして雄には尾な
 し
 はひべや(名) 灰屋はひいれごころ
 はひとりがち(俗) 奪取勝せりあ
 ひどり
 はひとりぐも(名) 蠅取蜘蛛蠅虎蠅豹
 (動物)
 はひとる(他) 奪取うばひとる
 はひちやう(名) 蠅帳碗碟櫃花漆は
 ひよけとだな

はひれどし(名) 灰承はひうけ
 はひれし(名) 香鐵火具はひならし
 はひわたる(自) 蔓延(蔓草が)はひの
 びる
 はひたたき(名) 蠅拍はひうちこころす
 うつは器の名
 はひならし(名) 灰均火鉢の具
 はひむし(名) 多はひむし昆蟲はふ
 もの
 ばひうん(名) 馬尾雲あまぐも(雨雲)
 はひのぼる(自) 這登跋登匍上はひ

はも(名) 鯢鯪鯪海鯪文魚うをのな動物
 はも(名) 齒根齒本はぐき鯪
 はもの(名) 刃物鉞されもの
 はものし(名) 刃物師されものづくりこがたなつくるひ
 と
 はもん(名) 一する(他) 破門師弟の縁をさるをいふ
 はもんする 破問れもひをやる(辭を散ずる)
 はせ 長谷(氏)
 はせ(名) 沙魚鯊沙鯊沙溝魚鯊虎魚(動物)
 はせ(名) 龍煎白花米稜いりごめ烘米糲熬粹糯米花
 はせ(名) 通泉草さきとけ植物
 はせい 霸政(頼朝の爲せし如き武門政治を云ふ又權道
 を行ふ政府)
 ばせい(名) 馬糞ひしご(蠃動物)
 はせべ 長谷部(氏)
 はせちがふ 馳達かけちがふ(兩騎馬武者等が)
 はせる(自) 馳騖駘駘驅かける(馬にて)
 はせる(自) 走奔かける(足にて)
 はせる(自) 爆ひらく(米等が火にて)爆發爆られる
 ばせを(名) 芭蕉ばせう(植物)
 はせがは 長谷川(氏)
 はせかへす(自) 馳返かけもぐる(馬にて)
 はせよる(自) 馳寄かけちかづく(馬にて)奔近
 はせたま(名) 爆彈破烈彈(大砲の)われるたま
 はせつく(自) 馳付かけつける(馬にて)奔向(足にて)
 はせむかふ(自) 馳向かけむかふ(馬にて)奔向(足にて)

はも(名) 鯢鯪鯪海鯪文魚うをのな動物
 はも(名) 齒根齒本はぐき鯪
 はもの(名) 刃物鉞されもの
 はものし(名) 刃物師されものづくりこがたなつくるひ
 と
 はもん(名) 一する(他) 破門師弟の縁をさるをいふ
 はもんする 破問れもひをやる(辭を散ずる)
 はせ 長谷(氏)
 はせ(名) 沙魚鯊沙鯊沙溝魚鯊虎魚(動物)
 はせ(名) 龍煎白花米稜いりごめ烘米糲熬粹糯米花
 はせ(名) 通泉草さきとけ植物
 はせい 霸政(頼朝の爲せし如き武門政治を云ふ又權道
 を行ふ政府)
 ばせい(名) 馬糞ひしご(蠃動物)
 はせべ 長谷部(氏)
 はせちがふ 馳達かけちがふ(兩騎馬武者等が)
 はせる(自) 馳騖駘駘驅かける(馬にて)
 はせる(自) 走奔かける(足にて)
 はせる(自) 爆ひらく(米等が火にて)爆發爆られる
 ばせを(名) 芭蕉ばせう(植物)
 はせがは 長谷川(氏)
 はせかへす(自) 馳返かけもぐる(馬にて)
 はせよる(自) 馳寄かけちかづく(馬にて)奔近
 はせたま(名) 爆彈破烈彈(大砲の)われるたま
 はせつく(自) 馳付かけつける(馬にて)奔向(足にて)
 はせむかふ(自) 馳向かけむかふ(馬にて)奔向(足にて)

(圖の蜂尾馬)



ばせう(名) 芭蕉、子仙、甘松、緑天、扇ばせを(植物)

つるとうくるところ

ばせう(名) 芭蕉布、蕉紗、蕉襦、ばせうぬの

はせのき(名) 報馬、樹黃、はせのき(植物)

はすの(名) 破水、さんのとあけ(産前に出る水)

はせぐさ(名) 穀精草、戴星草(植物)

はせまはる(自) 馳廻、馳回、かけめぐる馬にて

はせまはる(自) 馳集、かけよる、かけつぎふ、奔集

ばせき(俗) 場席、場所、へやま

はせきたる(自) 馳來、かけくる馬にて、奔來(足にて)

はせめぐる(自) 馳廻、はせまはる、走廻

はせひき(名) 磬控、馬の動止を云ふ

はせもの(名) 挾物、はさみもの

はせん(名) 蕨煎、はせ、いりごめ(煎米)

はせん(名) 波線、なみすぢ、波の動く形なる線

はせん(名) 破船、難船、難破船の海上に破るる

ばせん(名) 馬躰、しろなまづ

ばせん(名) 馬躰、馬躰、馬躰

したぐら、くらしき(此圖)

なるは尾張國熱田社師馬

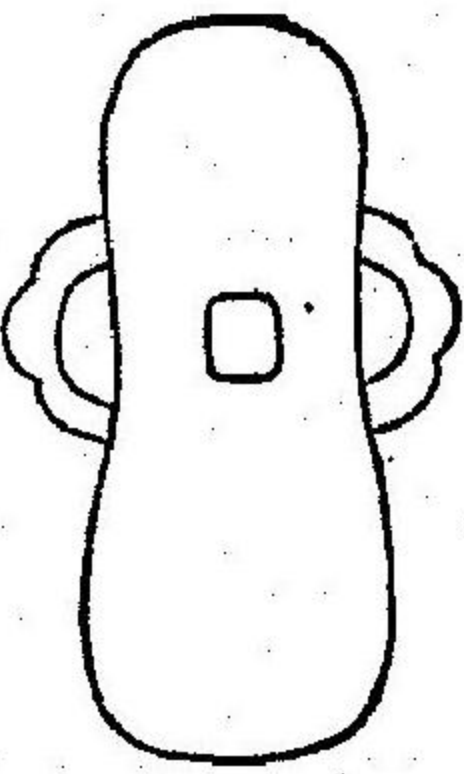
具

はす(名) 鯖鯖(動物)

はす(名) 蓮、はちす、荷、芙蓉

はす(名形) 斜、ななめ、よこすぢかひ

はす(名) 端括、月の縁かくる所、ゆはす、管、やはす、やの



(圖) 馬躰

はすめ(名) 荷葉飯、蓮芽に和したる食物

はすみ(名) 機、はづみに同じ

はん(俗) 名。一する(他) 判(印形を云ふ)、印、わかつ、分別

はん(名) 頬、わかつ、くばる

はん(名) 秤、こごめもち

はん(名) 畔、くろ、あせ、田界をいふ

はん(名) 婢、けがれをんな(月經の女)

はん(名) 反、そむく、叛、むはんする

はん(名形) 半、なかば、半分、奇、奇數をいふ

はん(名) 飯、めし(食物)

はん(名) 藩、諸侯大名をいふ、王室に藩屏たれば也

はん(名) 版(文字と刻みたる板)

はん(名) 麵包、白麵(麥粉をねりて焼たる者)(食物)

はん(名) 鶴、梅首鶴(ばいしゆ)

はん(名) 鶴、鶴(動物)

はん(名) 伴(氏)

はん(名) 盤、局(碁盤將碁盤の)

ばん(或まん) 萬、よろづ(十千)

ばん(名) 晩、日暮、ひくれ

はん(名) 範圍、かこひがき、區域、かぎり

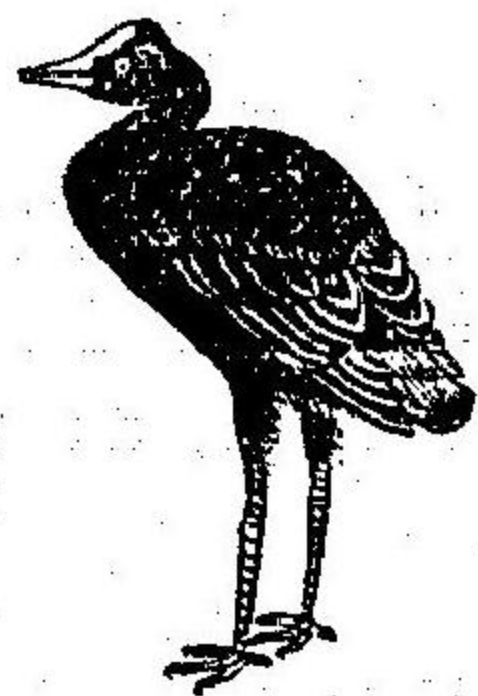
ばん(名) 蠻夷、はびす、夷狄

はん(名) 番犬、守犬、まもりいぬ

はん(名) 般逸、あそびどる、遊般

はん(名) 煩憂、もだへられふる

(圖) 鶴



はん(名) 汎、はし、いままにする、をこりにふ

はん(名) はん(名) 半陰陽、ふたなり、陰陽人、はにはり、を

とこをんな

はん(名) 斑、しまうま(亞非利加の産)(動物)

はん(名) 坂路、さかみち、坂

はん(名) 樊籠、かご、とりかご

はん(名) 絆籠、はだす、つなぐ、縛繫

はん(名) 半端、はした、なかば、半途

はん(名) 班馬、はなれうま

はん(名) 斑馬、ふちごま(動物)

はん(名) 販賣、うりひさぐ

はん(名) 半袴、肩衣の下に着る服、みじかばかま

はん(名) 斑髪、しらがまじりのかみ、しもふりがみ

はん(名) 藩閥、藩格の高き者を謂ふ

はん(名) 半烹、なまにえ

ばん(名) 萬方、よろづのかた

はん(名) 繁忙、いそがはしき、多忙

はん(名) 樂碁、あそび、あそび、碁坐

はん(名) 凡百、すべての、あべての、ねはよそ

はん(名) 反縛、うしろでにしばる

はん(名) 頭白、しらがまじり(頭髮の黑白相半するを

いふ)

はん(名) 絆縛、つなぎしばる

ばん(名) 番船、えびすふね、夷國船

ばん(名) 蠻貊、えびす、夷狄、野蠻

はんばくさう(名) 翻白草、委陵菜、かはらさいこ、みつば
 さいこうまのみつば(植物)
 はんはん(形) 髻髻たちもどはる貌、ゆきかふ
 はんはん(俗) 半半物の二つ割をいふ
 はんはん(形) 畔犯、わがままほしいまま
 はんはん(形) 翻翻鳥等のまひかける貌
 ばんばん(形) 萬般諸般、すべての、よろづの
 ばんばん(名) 晩飯、ゆふげ、ゆふめし
 ばんばん(形副) 番番たけき、いざまじき
 ばんばん(名) 婢蠻、けがれたるをんな、めぐりあるをんな、月経婦
 ばんばん(名) 萬萬數甚衆きをいふ、ちよろづ(副)なにどぞ、けつして
 はん(名) 半日(一日の半分)
 はん(名) 般若(梵語にて智慧の意)
 はん(名) 般若湯(僧家にて酒をしか名く)
 はん(名) 般若面(或髻女面と書く、能舞に用ふる者にて其形鬼に似たり)
 はん(名) 般若經(佛經の名)
 はん(名) 判人(保證人を云ふ、即ち判を押せし人の義)
 はん(名) 判任(官吏最下級の名)
 はん(名) 判人(工人の半日手間をいふ)
 ばん(名) 萬人、よろづのひと衆人、諸人
 ばん(名) 番人、看守、みはり、まもりて
 はん(名) 反哺(鳥が食物を親鳥に報い反へすをいふ)
 ばん(名) 蠻毒、ねらんだいち(植物)
 ばん(名) 晩暮、ひくれ、ゆふがた

ばんぼう(名) 萬邦、よろづのくに
 はんばく(名) 翻踏、ころぶ、たふる
 はんばく(名) 藩牧(一番の主をいふ、藩知事)
 はんばく(名) 板本、印本(梓に鐫めたる書籍、すりまき)
 はんばく(名) 翻本(ほりなほしぼん)、再板書
 はんばく(名) 藩屏、かき、いしがき(守護の意に用ふ)
 はんばく(名) 番兵、守兵、哨兵、まもりのつはもの
 はんばく(名) 侍陪、はべる、つかふる、さんらふ
 はんばく(名) 判別、わかつか、さばさわくる
 はんばく(名) 汎漂、うかひ、かるくながる
 はんばく(名) はんへん(名) 半邊蓮、はたけひしち、くさのな(植物)
 はんばく(名) はんへん(名) 半邊茶、かはちさくさのな(植物)
 はんばく(名) 半途、なかばみち、中途、なかごころ、中道
 はんばく(名) 版圖、みづちやう、版籍、戸籍簿、又りやうぶん、りやうち
 はんばく(名) 反吐、はきもどす、はきかへす
 はんばく(名) 攀土(藥品)
 ばんばく(名) 花盆、石盆、盆、磁斗、陶器、せきだい、うゑきば
 ち、裁盆
 ばんばく(名) 鷓鴣水、鷓鴣方目、雁奴、骨頂、紅冠、少甲鳥(動物)
 はんばく(名) 判取帳(商家にて取引先の印章を取る帳簿)
 はんばく(名) 反討、かへりうち、讎人を撃んとして反つて
 はんばく(名) 斑頭(黒白相半する頭髪)、しらがまじりのかしら
 はんばく(名) 斑豆、うづらまめ(植物)

はんどう(名) 盤銅、わかねだらひ
 はんどう(名) 反動、うごきかへし、ゆりかへし、ゆりかへす、うちかへす
 はんどう(名) 飯桶、めしをけ、めしびつ
 はんどう(名) 番頭、伴頭(商家の手代)
 はんどう(名) 晩冬、臘月(陰曆十二月をいふ)
 はんどう(名) 坂東、あつち、關東
 はんどう(名) 坂東打(關東にて作る打紐の名)
 はんどう(名) 槃特(釋迦の弟子にして最も愚なりし人)
 はんどう(名) 煩毒、なやみ、くるしみ
 はんどう(名) 班秩、つかさどらる、官位
 はんどう(名) 反患、かへりうち(主君に反きて敵に内應する事をいふ)
 はんちう(名) 醜注、こぼしそとく、そとぎかくる
 はんちう(名) 飯頭、佛家にて飯を主る者を云ふ
 はんちう(名) 斑竹、しまだけ(植物)
 はんちう(名) 番茶、あしきちや、柯茶、山茗、村茗(植物)
 はんちう(名) 番長、番兵の長官
 はんちう(名) 藩知事(舊大名諸藩の長官を然か呼べり)
 はんちう(名) 藩鐘、昔し大名を然かいへり
 はんちう(名) 藩籬、まがき、かきね、又まもり
 はんちう(名) 伴侶、とも、つれ、なかま
 はんちう(名) 蟠龍、わかまされるたつ
 はんちう(名) 半兩(貨幣の名)、また一兩の半(貨幣或は量目の)
 はんちう(名) 晩涼、ゆふすすみ、ゆふくれのすすしさ

はんりふ(名) 飯粒、いひぼ、めしつぶ
 はんりふ(名) 半輪、かたわれづき、半月
 はんりふ(名) 繁縷、ひめはこべ、はこべら(植物)
 はんりふ(名) 煩累、うるさきこと、わづらひ
 はんりふ(名) 伴類、つれ、とも、なかま
 はんりふ(名) 煩嘔、むかつく、むかむかする、むねわ
 るくわる、はきたくなる
 はんりふ(名) 反應、うらざり、かへりうち
 はんりふ(名) 半配(物を二つ分けにすること)
 はんりふ(名) 蘼蘭、薄荷、蒹蒹はくか(植物)
 はんりふ(名) 半價、はんね、半直、はんぶんのねだん
 はんりふ(名) 半可、なかばよき、かなりの
 はんりふ(名) 煩苛、わづらはしき
 はんりふ(名) 藩架、ませがき
 はんりふ(名) 晩霞、ゆふがすみ、くれあひのかすみ
 はんりふ(名) 蕃茄、あかなす(植物)
 はんりふ(名) 挽歌(柩を挽く時の歌)、喪歌、哀歌、のべたくりのうた、どむらひうた
 はんりふ(名) 晩夏(舊の六月)、なつのすゑ
 はんりふ(名) 半開(花或國の半ば開きたるを謂ふ)
 はんりふ(名) 番代、かはりがはり
 はんりふ(名) 匈牙利(歐羅巴洲の一國にして今は埃國と合併す)
 はんりふ(名) 半乾、なかばかわきたる、はんひ
 はんりふ(名) 半可通(稍粹なると謂ふ)、いくばくかひ
 はんりふ(名) 板行、版行、印行(出版するをいふ)

はんかう[する]他 頌行、わかつ(世の中に)

ばんかう(名) 萬考、いろいろかんがへる

ばんかう(名) 晩稔、わけて、わそいね(植物)

ばんかう(名) 番號、かすじるし

はんかうや(名) 版行屋、版木屋、はんはるいへ、彫刻師、はりものし

はんかく 半額、なかばのかさ、はんぶんのかさ

ばんがく(名) 晩學、年老て學問を始る事

はんかぎ 半跏坐(如來の如くにわぐらかきて坐するを云ふ)

ばんがしら(名) 番頭、昔の役名

はんかん(名) 藩干(かきになりてまもること)、藩屏、まもり

はんかん(名) 反問、まはしもの、離間策、てきをまどはす

はんかん(名) 反眼、めをむきだす(怒る貌)

はんかん(名) 板輿、いたこし

はんよう 繁用(用事の多き事)、多事、多用、多忙

はんよう(形) 凡庸、ぼんよう、なみなみ、よのつね(人に言ふ)

はんだ(形) 繁多(用の多き)、いそがしき

はんだ(名) 癩瘰、きづおと(腫物の痕)

はんだ(名) 徳、怪我人等をのする具、かご、徳輿

はんだ(名) 畔田(氏)

はんだ(名) 盤帯、かはたひ

はんだ(名) 反對、敵對、さからひ、うらうへ、さからふ、あひもどる

はんそう(名) 伴僧(下役の僧)

はんそく(名) [する]自 反側、ねがへり、うらがへり、ころげる、ねがへる、うらがへる

はんぞく(名) 叛賊、ひはんじん(謀叛人)

ばんづけ(名) 番附(番號の記載、また演劇、相摸等の役割書)

はんねつ(名) 煩熱、ほめき、ほとぼり、わづらひ

はんねん 翻念、おもひなほす、こころをひるがへす

はんねん(名) 煩念、おもひわづらひ

はんねん 半年、はんとし(一年の半分)

はんねん 晩年、老、ねひたること

はんねんくわ(名) 半年花、さるすべり(植物)

はんねんせい(名) 萬年青、おもど(植物)

はんながつ(名) 半長靴、腰なかば迄いたる靴

はんなんふ 半納、年貢等を半分納むるを謂ふ

はんなんくわ(名) 番南瓜、かぼちや(植物)

はんら(名) 飯籬、いかきめしる

はんらい(名) 晩來、くれがた

はんらう(名) 煩勞、繁勞、ほねをり、はたらき、苦勞

はんらう(形) 斑爛、まだら、ぶち

はんらん(形) 汎濫、あふれる

はんむ 繁務、煩務、しげきつとめ、多用

はんう(名) 盤紆、まはりまつはる

はんう(形) 煩鬱、むなぐるしき、ねぐるしき

はんのき(名) 橋檉、榛赤楊、はりのき(植物)

はんく 半工、大工の手に云ふ、半人

はんくわ(形) 繁華、にぎやか

はんだい(名) 飯臺、食臺、敷人相並んで食ふ可き長き食卓

ばんたい(名) 萬態、さまざまのかたち、いろいろのありさま

ばんたい(名) 番臺、みはりだい(浴室等の)

ばんたい(名) 番代(ばんがはり)、かはりがはり

ばんたい 萬代、よろづよ、萬世

ばんたい(名) 盤臺、あささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶様の器)

ばんたい(名) 盤臺、あささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶様の器)

ばんたい(名) 盤臺、あささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶様の器)

ばんたい(名) 盤臺、あささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶様の器)

ばんたい(名) 盤臺、あささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶様の器)

ばんたい(名) 盤臺、あささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶様の器)

ばんたい(名) 盤臺、あささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶様の器)

ばんたい(名) 盤臺、あささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶様の器)

ばんたい(名) 盤臺、あささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶様の器)

ばんたい(名) 盤臺、あささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶様の器)

ばんたい(名) 盤臺、あささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶様の器)

ばんたい(名) 盤臺、あささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶様の器)

ばんたい(名) 盤臺、あささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶様の器)

ばんたい(名) 盤臺、あささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶様の器)

ばんたい(名) 盤臺、あささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶様の器)

ばんたい(名) 盤臺、あささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶様の器)

ばんたい(名) 盤臺、あささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶様の器)

ばんたい(名) 盤臺、あささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶様の器)

ばんたい(名) 盤臺、あささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶様の器)

ばんぐわ(名) 葩瓦、かはら

ばんぐわ 晩花、ねそぎばな(草木の花の)

ばんぐわ 晩瓜、あをうり、れそり(植物)

ばんぐわ(名) 蠻瓜、へちま(植物)

ばんぐわい(名) 自 翻悔、くいあらためる、悔悟

ばんぐわい(名) 自 挽回、ひきかへす、ひきもどす(表運沈淪等を)

ばんぐわい(形) 番外(議會にて議員の番號の外の椅子に坐するを謂ふ、知事が府縣會に於て爲すが如し)

はんぐわん(形) 畔換、わがまま、ほしいさま

はんぐわん(名) 自 盤桓、たちもとほる

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんぐわん(名) 判官、裁判官、また昔の官名

はんげ(名) 半夏からすびしやく、ほそくみ、守田草、地衣(草植物)

はんけい(名) 反景、ゆふかげ、反響、にしび

はんけい(名) 万頃(田)の大なるをいふ形容の詞

はんけい(名) 晩景、ゆふかげ、ひぐれ、たそがれ、黄昏

はんけい(名) 晩風、ゆふかせ、よかせ

はんげつ(名) 半月、かたはればづき、ゆみはりづき、又ははにわり、ふたなり

はんげら(名) 反橋、そりはし、翻橋、はねかへれるはし

はんげさう(名) 三白草(植物)、半夏を見よ

はんげき(名) 反撃、かへりてうつこと、敵を打たんとして

はんげき(名) 反つて先きよ撃たるるが如き事をいふ

はんげき(形) 繁劇、せわしき、いそがはしき、多忙

はんげしやう(名) 三白草、かたしろぐさ(植物)

はんげしやう(名) 半夏生(夏月半夏の生ずる頃の時節を謂ふ)

はんけん(名) 頑厭、わけてささげ

はんけん(名) 範憲のり、たきてさだめ

はんけん(名) 版権、出版の特権

はんげん(名) 半減、なかばへること、或へらすこと

はんぶ(名) 犯婦、みだりなるをんな、まをどこするをんな

はんぶ(名) 帆布、はぬの、ほもめん(帆布綿)

はんぶ(名) 板附(貴紳等に親み依附するを謂ふ)

はんぶ(名) 斑布、さらや

はんぶ(形) 繁廬、しげき、いそがはしき

はんぶ(名) 萬物、よろづのもの、森羅萬象

はんぶ(名) 癩風、なまづ(病名)

はんぶ(名) 半風、風、しらみ(動物)

はんぶ(名) 半腹、半嶺、山腰、半山(山の傍の半をいふ)

はんぶ(名) 反復、反覆、うらがへり、ひるがへる、くりかへす

はんぶ(名) 萬福、多福、れはくのさいはひ

はんぶ(名) 萬夫無當、誰も敵對し得る者なきをいふ

はんぶ(名) 半分、なかば(物を二つ分ちたる其一半)

はんぶ(名) 半、踏、またがる、はたかる

はんぶ(名) 反顧、かへりみる

はんぶ(名) 反語、さかこと(言語を逆に遣ふ事)、又うらうら

はんぶ(名) 藩護、かきになりてまもる、藩屏

はんぶ(名) 伴護、つきそひまもる

はんぶ(名) 萬戸、よろづのいへ、萬家、また萬の戸數

はんぶ(名) 萬古、いくひさしき、永久

はんぶ(名) 帆柱、はげた(船の)

はんぶ(名) 攀紅、べにがらたんがら

はんぶ(名) 番紅花、さふらん、洎夫藍(植物)

はんぶ(名) 翻刻、再刻、ふたたびひる(版本に言ふ)

はんぶ(名) 反獄、らうやぶり、破獄

はんぶ(名) 晩刻、ゆふこく、ひぐれ

はんぶ(名) 萬國、よろづのくに、諸國

ばんこく(名) 蕃國、えびすくに

ばんこく(名) 萬國、公法(各國交渉を整理する一般の律法)

ばんこく(名) 番小屋、ばんや、守舎

ばんこく(名) 萬古、焼陶器の一種

ばんこく(名) 癩根、いきりくみたるね(樹木の)

ばんこく(名) 反魂草、劉寄奴草、たにのしこぐさ(植物)

ばんこく(名) 盤根、錯節、いきりくみたるね及くみあ

ばんこく(名) 番隊、番人、まもりて

ばんこく(名) 藩邸、舊大名のやしき

ばんこく(名) 半梯、はんばし(小梯の名)

ばんこく(名) 判定、わかちさだめる

ばんこく(名) 板梯、はこばし

ばんこく(名) 斑條、すぢ、衣服の縞等の、又ふ

ばんこく(名) 半疊、はんたみ

ばんこく(名) 半手袋、また半鞆

ばんこく(名) 半纏、半袴、短上衣

ばんこく(名) 半天、なかぞら、中天

ばんこく(名) 反轉、まうま、ひるがへる、そりかへる

ばんこく(名) 盤纏、ちよう、たびのつひえ

ばんこく(名) 盤點、しらべる

はんあ(名) 汎愛、ひろくいつくしむこと、博愛

はんあ(名) 煩懊、わづらひ、うれへもたへ

ばんあ(名) 晩櫻、れそぐくら(植物)

ばんあ(名) 翻案、ほんあん(をみよ)

ばんあ(名) 晩曇、ひぐれ、たそがれ、晩闇、ゆふまぐれ

ばんあ(形) 繁瑣、くだくだしき、わづらはしき

ばんあ(名) 盤査、しらべる

ばんあ(名) 半座、なかばのざ、はんぶん

ばんあ(名) 反坐、かへりつみせらる(人を告訴して自ら其罪に陥るを謂ふ)

ばんあ(名) 半齋、佛家の連夜を謂ふ

ばんあ(名) 燔祭、やきごなへもの(犠牲を火に焼て神に供ふる者)

ばんあ(名) 犯罪、つみ、とが

ばんあ(名) 坂西(關西に同じ)、西國

ばんあ(名) 萬歳、よろづとし、萬年

ばんあ(名) 呼萬歳(帝王などよ對して祝意を表する詞)

ばんあ(名) 萬歳旗、天子の即位にたつる旗をいふ

ばんあ(名) 班犀帶、いしのをび

ばんあ(名) 榛澤、はりさは、半澤(氏)

ばんあ(形) 繁雜、煩雜、いきりくみたる

ばんあ(名) 斑霜、はだれしも

ばんあ(名) 煩躁、もたへる、煩悶、むねくるしくた

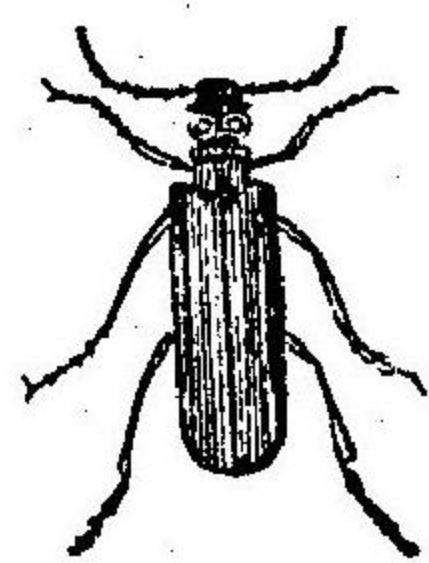
ばんあ(名) 絆創膏、きずよはるかうやく(藥名)

ばんあ(名) 盤錯、いきりくむ

ばんあ(名) 半揅、匣、揅、嗽口盃、たらひ

はんざし(名) 管刺(小刀を謂ふ)
 はんざん(名) 半産(胎兒が中途で流産すること、小産)
 はんざん(形副) 嬰姍はひもとほる。たちもとほる
 はんざん 半山、やまなかば、やまはんぶん
 ばんざん(名) 晚餐、ゆふめし、夕飯
 ばんざん(名) 晚餐、なつこ(動物)
 はんざ(名) 飯櫃、めしびつ、いひびつ
 はんざ(名) 搬機、ひきがね
 はんざ(名) 半期、半季(一期の半を云ふ)
 はんざ(名) 板木(字を刻める板)、梓木
 ばんざ 萬嬉、よろづのさいはひ、萬福
 ばんざ 萬機、よろづのことから、よろづのまつりごと
 はんざり(名) 半切、半桶、こだらひ。あさきをけ、はんざふ
 はんざ(名) 斑魚、とらふぐ(動物)
 はんざ(名) 斑魚、ひらめ(動物)
 はんざ(名) 反曲、こりまがる
 はんざ(名) 半切、矮紙、書簡紙をいふ、尺牘紙
 はんざ(名) 半球(地球の半分)
 はんざ(名) 半弓(半分の小弓)
 はんざ(名) 斑鳩、いかるが、じゆまかけばと、よそじば
 はんざ(名) 斑牛、まだらうし(動物)
 はんざ(名) 燻牛、あぶりうし、やきうし
 はんざ(名) 半球形、かたわなり、半圓形
 はんざ(名) 板木屋、彫工、印刷師
 はんざ(名) 判形、印影、いんぎやう
 はんざ(名) 帆脚、はわし

(斑猫の圖)



はんざ(名) 頑逆、むかつきはきけ
 はんざ(名) 叛逆(はんざやく)、反逆、むほん謀反、そ
 むき
 はんざ(名) 板木師、はんはり、彫刻師
 はんざ(名) 煩襟、ものねもひ、煩慮
 はんざ(名) 繁勤、しげきつとめ
 はんざ(名) 半金、金高の半額
 ばんざん(名副) 輓近、ちかごろ、近時
 ばんざん(名) 版金、こばん
 はんざ(名) 反命、かへりごとまをし、復命、へ
 んじをまうしあける
 はんざ(名) 斑猫、斑青、此蟲翼上
 に綠色の線有りて甚だ惡臭を
 帯び常に木葉を食とす
 ばんめし(俗名) 晩飯、ゆふめし、
 夕飯
 はんめん 半面、かたねもて
 はんめん(名) 半面之識、すこしのしりあひ
 はんみち 半里、一里の半、また半途、中途
 ばんみん 萬民、よろづのたみ、衆庶、庶民
 はん(名) 藩士(大名の家臣、藩臣、さむらひ
 はん(名) 飯筒、めしびつ、めしかご、飯櫃
 はん(名) 頑賜、わかちたまふ
 はん(名) 班師、いくさとかへす(軍勢を還し退る也)
 はん(名) 反齒、そつば、そりたるは
 はん(名) 板齒、むかば、まへば
 はん(名) 半紙(中形の紙の名)

はんし 半死、なかばしにたる、半生
 はんし(名) 半子、むこ、婿
 はんし(名) 半時、一時間の半即ち三十分、片時、かたとき
 はんし(名) 判事、さばきやく、裁判官、判官
 はんし 半字、一字の半分
 ばんし(名) 挽詩(送葬の詩)、挽歌、ひつぎうた
 ばんし(名) 盤梯、さんごじゆなすび(植物)
 ばんし 萬死(大危急を謂ふ)、九死
 ばんし 萬事、よろづのこと、諸事
 はんし(名) 半尻(狩衣を謂ふ)
 はんし(他) 判、かんがへわかつ(夢等を)、とく、かんがへ
 る
 はんじよ(形副) 班如(たちもとほりてすすまぬ貌)
 ばんじよ(名) 蕃薯、蕃薯、あかいも、さつまいも、からいも、
 りうきういも(植物)
 ばんじよ(名) 番所、みはりごころ、見番
 ばんじよ 萬緒、よろづのことから、萬端
 はんじよ(名) 半鐘、ちひさきつりがね
 はんじよ(名) 一する(他) 反證、反對の證據、同上する
 はんじよ(名) 絆繩、たづな、つなぎなは
 はんじよ(形) 繁冗、煩冗、わづらはしき、むだ
 はんじよ(名) 煩擾、みだれたること、混雜
 ばんじよ(名) 晩鐘、いりわひのかね
 ばんじよ 萬乘(車萬輛を備ふる國の意にて王國の體
 を指す)
 ばんじよ(名) 萬乘君(王者を謂ふ、萬乗を見よ)
 はんじよ(名) 一する(自) 繁殖、ふねまざり、ふねます

はんじよ(名) 斑色、ぶちいろ、まだら
 ばんじよ(名) 晩食、ゆふめし、夕飯
 ばんじよ(名) 伴食、しやうばん、陪食
 はんじた(俗名) 版下(版に刻るべき原稿)
 はんじた(名) 版下書(版下と書く人)
 はんじ(名) 名謎(隠語様の名)
 はんじ(名) 盤齋、いねつきむし(動物)
 ばんじ(名) 挽舟、ひきふね
 ばんじ(名) 晩秋(太陰曆にて九月の時を云ふ)、あきの
 くれ
 ばんじ(名) 番衆、番兵、番人の徒
 はんじく(名) 晩熟、たそくみのる(稻等の)、晩成
 はんじく(名) 斑枝花、ばんや(植物)
 はんじ(名) 反射、てりかへる(光線が)
 はんじ(名) 翻車、水車、みづぐるま
 はんじ(名) 幡車、まいは
 はんじ(名) 判者、事物の是非良否を判つ者、かんでいじや
 はんじ(名) 半生、氣息のたねだねなるを謂ふ、半死
 はんじ(名) 帆樫、はばしら(船の)
 はんじ(名) 反償、かへしつぐのふ
 はんじ(名) 反掌、たなごころをかへす(事の容易きを謂
 ふ)
 はんじ(名) 反狀、謀叛の摸樣
 はんじ(名) 凡常、なみなみの、よのつねなる
 はんじ(名) 繁昌、にぎはひ、さかえ、繁榮
 ばんじ(名) 番匠、大工、たくみ、いへづくり
 ばんじ(名) 萬狀、さまざまのかたち、千態

はんじやうてんわう 反正天皇(第十九代の帝)
 ばんじやく(名) 磐石、ちびきのいし、いはは、大石
 はんじやくよ(名) 翻車魚、うきき、まんぼう(動物)
 はんじやくやう(名) 反射鏡、てりかへしかがみ
 ばんじきてう(名) 盤渉調(音律の名にて輕標とその體とす)

はんじゆ 反首、かうべをめぐらす、回首、回顧
 はんじゆ(名) 藩主、藩守(一藩の主即ち諸侯をいふ)
 はんじゆ(名形) 判授判任に同じ
 ばんじゆ(形) 晩種、そまき、菜蔬等にいふ
 はんじゆく(形) 半熟、なまにね、なかばうみたる
 ばんじゆん 晩春(太陰曆にて三月の節を云ふ)
 はんじゆん(名) 判書、書謎、なぞ名(一見して其意を解す可らざる書の種類をいふ)

はんじもの(俗)(名) 判物、なぞ、謎
 はんしん(名) 反臣、叛臣、謀反する臣僕
 はんしん(名) 叛神、ことふれ
 はんしん(名) 反心、叛心、うらがへり、そむくこと
 はんしん 反唇、口と尖らし怒り或は罵るを謂ふ
 はんしん 翻身、みをひるがへす
 はんしん 半身、かたみ、半體

ばんしん(名) 番辛、たうがらし、番椒(植物)
 ばんじん(名) 番人、えびそ、夷人
 はんしんふすい(名) 半身不遂、はんしんかなはぬ、偏枯
 (身体がなかなばちうぶなる)
 ばんそ(名) 蠻繪(俗人の服にいふ)
 はんい(形名) 繁榮、にぎやか、さかば、繁昌

はんせい(する) 反省、かへりみる、反顧
 はんせい 反正、ただしきにかへす(天下を)平定
 ばんせい(名) 晩晴、ゆふべれ(天氣の)ゆふあがり、晩晴
 ばんせい 坂西(關西と同じ、足柄山より西方の諸國と物稱す)

ばんせい 萬世、よろづよ、萬代
 ばんせい(名) 萬姓、人民、物體といふ、百姓
 ばんせい 番勢、番卒、番兵、みはりばん
 ばんせい(の)ちちゅう 坂西七雄(昔の三好長慶、大内義隆、尾子晴久、島津義久、毛利元就、大友宗麟、長曾我部元親)

はんせつ(名) 半折紙形の名にて大唐紙半枚をいふ
 はんせつ(名) 斑雪、はだれゆき
 はんせつ 汎説(一般の説)、ひろくいふこと、概説
 はんせつ(名) 反切、かへし韻鏡學の語
 はんせつ(名) 反舌、よしむしり、けけれ(動物)
 ばんせつ(名) 晩節、晩年、老年をいふ、末路
 はんせつ(か)名 斑節蝦、くるまにび(動物)
 はんせう(名) 半霄、なかぞら、中天
 はんせう(名) 飯蛸、いひだこ(動物)
 はんせう(する)自 反照、てりかへる、いする、反射
 ばんせう(形) 晚咲、れそさき(花の)
 ばんせう(名) 蕃椒、たうがらし(植物)
 ばんせうちんき(名) 蕃椒丁、變たうがらしの精酒(藥品)
 はんせき(名) 版籍、戸籍簿、版圖(一藩の領分を謂ふ)
 はんせき(名) 叛跡、むほんのしるし(反逆の證)
 ばんせき(名) 磐石、みやうばん(藥品)

はんい(名) 反影、ゆふかげ、反響、ししび

はんわり(名) 半襟、褌(衣服の外襟)
 はんねだ 半朶、はんふさ、菓實などの
 はんねん(する)自 煩厭、いとふ、いやがる
 はんねん(する)自 蟠蜿、わだかまる(龍蛇等の)
 はんねん(する)自 繁衍、しげくふゆる(繁殖、人口等が)

はんび(形) 凡卑、いやしき、下賤
 はんび 半臂、かたひぢ、片腕
 はんび(名) 盤費、つひね、費用、いりよう
 はんび(名) 飯匙、いひがひ、しやもじ、しやくし
 はんび(名) 反鼻、へび(動物)
 ばんび(俗)(名) 番日、當直日、つとめび
 はんびつ 半櫃、こびつ
 はんびら(形) 半開、花が未だ開ききらぬを謂ふ、蓓蕾

はんびやく(形) 凡百、すべての
 ばんびん(名) 蠻質、えびすぐにのつかひ
 はんも(する)自 繁茂、たひしげる、しげる(草木が)
 はんもつ 判物、はんじもの、なぞ
 はんもつ 萬物、よろづのもの、萬象、諸物
 はんもく 反目、めをむきだしてあらそふ
 ばんもくべつ(名) 番木蹄、まらん、馬蹄子(藥材)
 はんもくのちがひ 輪半、ばんせきのかち(圍碁に云ふ)
 はんもん 半文、一文の半、さなか
 はんもん(名) 斑文、とらふ、ぶちのかた、ふ

はんもん(名) 一する(自) 煩悶、煩懣、いきどほり、もたへ、もたふる、おもひわづらふ
 はんせい(名) 繁盛、さかん、にぎはふ

ばんせき(名) 板石、いたいし、版石
 はんせん(名) 帆船、はふね、帆前船、蒸氣船に非ず、ほをもてはしるふね
 はんせん(する)自 盤旋、ゆきめぐる。とびまはる、周旋
 はんせん 半錢、一錢の半、貨幣或量目にいふ
 はんせん(名) 撥船、はしけふね
 はんせん(形副) 判然、はつきり、あきらか
 はんせん(形副) 翻然、ひるがへる(貌)

ばんせん(名) 晩蟬、ひぐらし、寒蟬(動物)
 はんせん(名) 半仙戯、ゆさはり
 ばんすい(名) 晩炊、ゆふだし(飯の)ゆふめし
 はんすり(名) 版摺、はんねすこと、印刷
 はんする(自) 反、叛、そむく(君主に)謀叛



に 二、丹、爾、「ぬ」の父音と「い」の母韻を合して生ずる音にして五十韻中なる第五行第二段に位す、其後置詞となる時は「わいて」「よつて」「むかつて」と「ため」「ついて」等の意義をあらはす
 に(形名) 二式、貳、ふたつ(是吳音也、漢音は「じ」といふ)
 に(名) 土、つち、丹土、あかつち(古語)
 に(名) 荷、になふべきもの、荷物
 に(後置詞) 於、于、わいて、へ
 に(俗)(名) 兄、舎兄、わに、「わに」の聲
 に(二位)(第二)の位階
 ぬいら(名) 木乃伊(乾屍即ち死人の乾枯したる者又蜜人)

と日ふみいちに同じ
 にいし(名) 緒石、ちかいたし(繪の具)
 にろくをどり(名) 二六踊、また鹿島躍(かこしやどり)
 にろくじ 二六時昔の時計の晝夜十二時を云ふ
 には 丹羽氏
 には(名) 庭邊、庭場いへのまはりのあきさち、その
 にははき(名) 庭掃庭を掃除する事又人
 にはどり(名) 庭鳥、鶏、翰音、司晨鳥、徳禽、うすべどり、か
 け、くだかけ、にはつどり(動物)
 にはどりのをす 雄雞をんどり(動物)
 にはどりのたまご 鶏卵、雞蛋、白團
 にはどりのめす 雌雞、牝雞、めんどり(動物)
 にはどこ(名) 接骨木、かんぼく、陸英、野黃梅、地黃、たづの
 き(植物)
 にはりんだう(名) 草龍膽(植物)
 にはか(形副) 俄倉卒造次、遽然、卒爾、急遽、倉黃、急卒、俄
 然、俄頃、驟頓、暴たちまち、さんに
 にはか(名) 俄躍、にはかをどり(舞臺と擔ぎあるきて)
 にはかかせ 暴風、あらし、はやて、颪、颪風、又のわき(秋の)
 にはかあめ(名) 驟雨、暴雨、疾雨、はやさめ、ゆふだち
 にはかじに(名) 俄死、卒死、頓死(どんじ)、即死、暴死
 にはた 庭田氏
 にはたたき(名) 鶴鶴、いしたたき、とつぎをしへどり、に
 はくなぶり(動物)
 にはたづみ(名) 濱濱、行潦、雨水の地にたまり流るるを云
 ふ
 にはそ(名) 甘遂、鬼醜草、なつとうだい(植物)

にはん(名) 二半(疑ひ迷ひて事を決せざる状を云ふ)
 には(名) 鵝鵝(鳥に似て小さく能く水を
 くぐる鳥)にはどり、鳩、鶴、鴉、かい
 つぶり(動物)
 にははす(他) 薫、にはひをはなたしめ
 る、暗示、ほのかにしらせる
 にはどり(名) 磯鶴、にはをみよ
 にはのうみ(名) 湖海、鳩海、みづうみ(近江の琵琶湖をい
 ふ)
 にはやか(形) 芬芳、馥郁、芬香、薫風、かうばしき
 にはふ(自) 匂、かをる、臭、くさくさある
 にはでり(或にははてる) 湖光、鶏照(日光の湖水に映す
 る輝きを言ふ者にて近江の湖水を指して用ふ)
 にはひ(名) 臭、鼻に感ずる所の氣、か、かをり、匂、馥、芬、薫
 馨香、香氣、かうばしき、かぐはしき、よきかをり、煮蒿
 煮肉を焼く臭氣
 にはひ(名) 脂刀、劔の刃元の光澤を言ふ
 にはひのたま(名) 佩香、にはひぶくろ
 にはひやか(形) 馥郁、かうばしくある、よきかをりある。
 きららか
 にはひぶくろ(名) 香囊、衣被香、膳、匂袋、かけかう
 にはひあぶら(名) 香油、爵金香、かうばしきあぶら
 にはひびん(名) 香瓶、香水を入れて嗅くに用ふる瓶
 にはん 二品、親王の爵位の第二
 にはん(名) 日本、やまと、ひのもと、につばん、ともいふ
 には(名) 贊、犠牲、となへもの(神に奉る)、いけにへ
 には(名) 鱧、石首魚、鱧、うそのな(動物)



(圖のはに)

にはつく(名) 地膽、蜆青子、つちまたらむし、つちはんめ
 う、わりのれやぢ(動物)
 にはつくり(名) 庭作、園戸、場師、園地工、にはし、うろさや
 にはな(名) 蕘花、蕘端、いれたてのちや、新泡茶
 にはうるし(名) 櫻、しんじゆ(植物)
 にはうめ(名) 郁李、棠、棣、金桃(植物)
 にはのり(名) 場騎、庭乗、庭にて馬に乗りはしらする事
 にはのをしへ 庭訓(父が子を教訓するを云ふ、伯魚の故
 事に依る)
 にはのれも(名) 庭面、にはもせ、にはれもて
 にはくなぶり(名) 鵝鵝、にはたたき(動物)
 にはくさ(名) 庭草、庭にははたる草
 にはくさ(名) 地膚、にはさくさ、ははさき、まきくさ、白地
 草(植物)
 にはやなぎ(名) 扁蓄、粉節草、道生草(植物)
 にはげた(名) 庭下駄、庭をはく木履
 にはふぢ(名) 胡豆、いはふぢ(植物)
 にはこ(名) 庭子、いへのこ
 にはざくら(名) 櫻桃、合桃、土帯花(植物)
 にはさき(名) 庭前、庭除、はんさき、れもてさき
 にはき(名) 水仙、雪中花(植物)
 にはき(名) 庭樹、にはのき
 にはみぐさ(名) 庭見草、をぎ(植物)
 にはび(名) 庭燎、庭にてたく火をいふ
 にはもも(名) 桜(植物)
 にはもせ(名) 庭追、にはもせまきはかりのありさま、また
 庭面、庭上、にはのれも、には

には(名) 鰻魚、鰻、鮓の氣胞「うきぶくろ」を以て製したる
 膠なるが故に然か謂ふ、魚膠、うをにかは
 にはどり(名) 鳩、にはどり(動物)にはを見よ
 にはどの(名) 贊殿、贊を置く殿と云ふ
 にはびと(名) 贊人、にへにするうをどりなどをとるひと
 にはべん 二便、大便、小便の二つをいふ
 にはど(副) 二度、ふたたび、二次、二回、再、再度
 にはど(名) 二度刈、再收(穀物を一年の中に再び刈取れ
 る者)
 にはやき(名) 復炕、やきなほし
 にはるき(名) 日域、ひのもと(日本をいふ)
 にはろく(名) 日録、につき(日記)、ひびのかきつけ
 にはにち(形副) 日日、まいにち、ひび
 にはにちかう(名) 雁來紅、はげいとう(植物)
 にはぼ(名副) 日暮、くれがた、ひくれ
 にはぼつ(名) 日没、いりあひ、ひくれ
 にはりん(名) 日輪、あまつひ、ひ、日天、太陽
 にはよう(名形) 日用、ひびのもちひ、ひびもちふる
 にはようひん 日用品、ひびにひるもの
 にはれん 日蓮(安房國小湊の産)三國氏、法華宗の開山祖
 師
 にはれんしう 日蓮宗(日蓮が創立せし宗門)
 にはう(形) 二重、ふたへ、ふたかさね
 にはうぼり 二重塹、重塹、ふたへぼり
 にはうべい 二重塹、重塹、ふたへべい
 にはくわ(名) 日課、日日、修學する所を云ふ
 にはちや 日夜、よるひる、晝夜

にちやにちや(俗)形) 粘着、ねばつく
 にちやこ(俗)名) 嚙紙、口中にかみたる紙)
 にちけい(名) 日計、ひびのかんぢやう
 にちげん(名) 日限、ひざり、期限、日期
 にちさん(名) 日參、ひまわり(宮寺への)
 にちき(名) 日期、ひざり、日限
 にちきやく(名) 日脚、ひあし、ひのかけ、日影
 にちじよく(名) 日蝕、日の月にねははるる事、日仄、につ
 そく、はね
 にちしん(形) 日新(につしん)、ひびよあらたなる
 にちい(名) 日影、ひのかけ、日晷
 にちえう(名) 日曜日(一週の初日)
 にちせん(副) 日前、いつぞや、日外
 にりん(名) 二倫兄弟朋友を云ふ
 にりん(名) 二輪車、ふたつわのくるま
 にぬく(俗)他) 煮熱、よくにる
 にぬし(名) 荷主、貨主(賣貨の所有人)
 にぬ(他) 煮烹、煎煮、餛飩(鍋に入れて火にて熟せ
 しむるをいふ)
 にる(自) 似、肖、類似、仿佛、たなじやうにある、につく
 にを(名) 稼、穀物の束と積める者、いなを、いなむら
 にをろし(名) 卸貨、にもつををろすこと
 にをれろす 卸荷、釋擔、にもつをとりをろす、解任、職務を
 やめるをいふ)
 にをけ(名) 荷桶、になひをけ
 にねひ(名) 荷負、にをれふこと、負擔
 にねひうま(名) 荷負馬、駄馬(にうまを見よ)

にねひびと(名) 荷負人、よをかつぐひと、人夫、擔夫
 にわ(名) 日和、ひより、ただやかさ(海上等にいふ)なぎ
 にわう 二王(寺の山門の兩傍に立れる守護神をいふ、左
 輔は密迹金剛、右彌は那羅延)
 にわうもん 二王門(二王を安置する寺門)
 にかい(名) 二階、樓、重屋、層樓、二層、ふたかさねなる
 にかいはし(名) 二階梯子、樓梯(にかいにあがるはし
 ごと)

にかいち(名) 懸鈎子(植物)
 にかは(名) 膠、のりのたぐひ(牛皮、魚膠等種種あり)阿
 膠を見よ)

にかはだ(名) 苦蘆、鼠等の生せぬ身体を謂ふ
 にかはづけ(形) 膠付、にかはよてつけたる
 にかはがし(名) 苦蘆、鼠、苦然、くるしき
 にかは(名) 似顔、肖像、にたるかほのゑ、或かたち、にせゑ
 にかり(名) 鹽膽、瀉汁、苦蘆、膽水、よがしは
 にかり(名) 苦蘆、瀉汁、苦蘆、膽水、よがしは
 にかり(副) 苦蘆、瀉汁、苦蘆、膽水、よがしは
 にかわら(名) 苦笑、冷笑、いやなわらひ、あざみわらひ
 にかた(名) 煮方、庖人、焔人、鹽部、割烹、法料理番、また物を
 煮る法)

にかたけ(名) 苦竹(植物)
 にかな(名) 苦菜、のげし、けしあざみ、茶、老鷓菜、黃花菜、白
 菜、羊角菜、苦苣、游冬(植物)
 にかなす(名) 苦加(植物)
 にかうり(名) 苦瓜、つるれいし(植物)
 にかぐち(名) 苦言、にくまれぐち
 にかて(名) 苦手、剛敵手、かちにくさあひて

にかぎ(名) 苦酒、にがさき、醜酢
 にかぎ(形) 苦(口にも心にも用ふ)、にがにがしき
 にかぎ(名) 黄棟樹、檳榔(植物)
 にかみ(名) 苦味、にがさきはひ
 にかみ(名) 膽水、にがしは
 にかし(名) 苦蘆、瀉汁、にがり、膽水、瀉水
 にかひ(名) 苦蘆、苦胡蘆、にがさゆふ、がは(植物)
 にかも(名) 苦桃、毛桃、けも(植物)
 にかす(他) 令逃、にげしむる、故意、或は不意に)
 にかい(名) 如意(僧徒の用
 ふる物)
 にかい(形) 如意、こころの
 まま、おもふごとく
 にかい(名) 如意 (圖の意如)
 にかい(名) 寶珠、まにしゆ(摩尼珠)、たふさきたま
 にかい(名) 女院、ねはさき、皇太后、また皇后、きさ
 き、ひめねはさき
 にかい(副) 如法、かたのごとく、如律令、又まつたく、ひ
 ごとく
 にかい(名) 如法、暗夜、まつくらやみ
 にかい(名) 女人、をんな、婦人
 にかい(名) 女犯、をんなをれかすこと
 にかい(名) 女東宮、ひつぎのひめみや、をんなたい
 し、皇太女
 にかい(名) 似寄、あひにたること、近似
 にかい(自) 似寄、相似、近似、やにる
 にかい(名) 女王、ひめねはさき、をんなぎみ、女帝



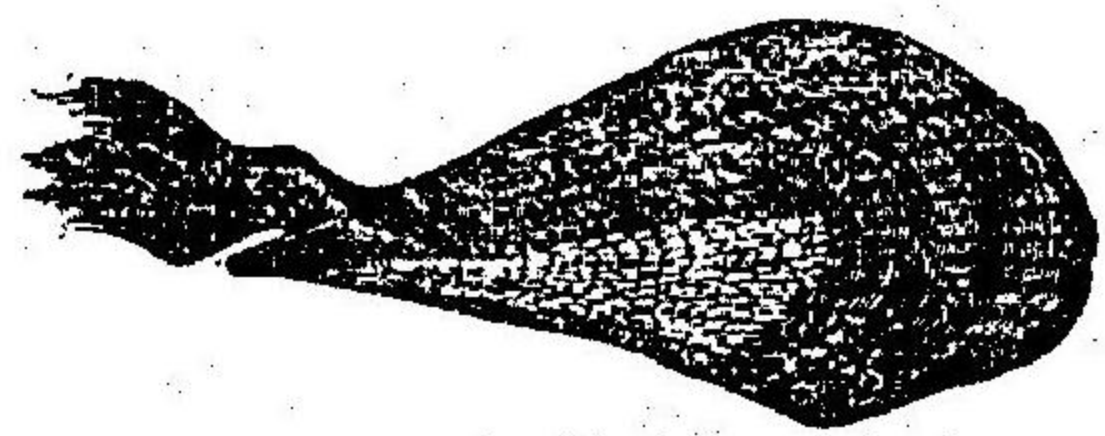
如意(圖の意如)

によつ(名) 兀突、兀兀、たかくぬきんでて
 によら(名) 如來佛の尊稱にて梵語恒多揭多、佛陀
 によら(名) 女房、つと妻、細君、内室、但し古は宮中女
 官をいへり、みやづかへををんな
 によら(名) 女御(帝王の嬖妾、また親王三公の中より入
 る)、みめ、妃嬪
 によら(名) 女御代(女御の代人として天子に侍す
 る女を謂ふ)
 によら(名) 女護島(をんなじま、女人ばかりの島國)
 によら(名) 女官、宮廷に仕ふる女ををんなはち宮女)
 によら(名) 呻吟、うなりごゑ
 によら(名) 女工、常にちよこつとよむ、をんなのてわ
 ぎ、又わざするをんな
 によら(名) 女帝、をんなのみかど、めぎみ、女王
 によら(名) 女技、をんなのげい
 によら(名) 如龜、如龜(たかくたてる貌)
 によら(名) 女子、をんなのこ、又をんな
 によら(名) 女兒、ちよこ、をんなのこ、めこ
 によら(名) 女壘、ひめがき
 によら(名) 女流、をんな、女流
 によら(名) 女嬋、宮女の官名
 によら(副) 如是、かくのごとく
 によら(名) 女性(男性に對する者にて文法などにも用
 ふ)
 によら(名) 女婿、むこ、むすめのをつと
 によら(名) 二諦、眞と俗の二道を云ふ佛語)

にたりがき(名) 甘熟柿赤くうめる柿、朱柿
 にたりぶね(名) 荷垂船にもつぶね
 にたる(形) 類似、たなじさまなる
 にたらがひ(名) 淡菜、いのかひ、いがひ
 (動物)

にたう 二島豊岐對島を云ふ
 にたう 二道文武を云ふ
 にたき(名) 煮餅、にやき、薪炊、れうり
 にだし(名) 煎汁、にじる(食物の)
 くれ(名) 榆きのな粉(植物)
 くれ(名) 反芻、にげ牛などが再び腹よ
 り出して嘔む草

(圖のひがらたに)



これかむ(自) 唎、ねりかむ、詰、暗嘴、反芻再嘴
 くれたけ(名) 榆茸きのこのたぐひ(植物)
 くれうめ(名) 榆梅きのな(植物)
 にそう(名) 尼僧、あま、比丘尼
 にそん 二尊釋尊慈尊また諾册二神を云ふ
 につばい(名) 日牌亡靈を供養する牌
 につばり 新堀(氏)
 につばり(名) 日暮里、ひぐらしのさと、東京上野の後の地
 につばん(名) 日本、やまと、ひのもとの、にはん
 につばんのさんけい 日本三景(松島、嚴島、天橋立)また弱
 浦千賀鹽竈、切度文珠
 につばんのじふけい 日本十二景(田子浦、松島、箱崎、天
 橋立、若浦、琵琶湖、嚴島、象潟、朝熊、松江、明石、金澤)
 につとう(名) 日東、日本の別名

につとの 入戸野(氏)
 につち(名) 丹土、緒、あかつち(赤土)
 につちう(名) 日中、ひなか、まひる、正午、亭午、卓午
 「につかう」日向、ひなた(氏)
 につかん 日間、ひるのうち
 につた 新田(氏)
 につたう(名) 日當、ひごとのてあて、日給
 につたう「する」入唐、唐土に往くを謂ふ
 につそく(名) 日仄、日蝕(につしよく)
 につつま 新妻、にひつま(氏)
 につつじ(名) 齒羊、みやましきみ(植物)
 につくり(名) 荷作、にもつをつくること、包装、網束
 につくわう(名) 日光、ひのひかり
 につくわうらん(名) 日光蘭、藜蘆(植物)
 につくわうさん 日光山(下野國河内郡に在る山にて徳
 川家の靈屋あり、其莊屋日本第一と稱す)
 につくわうさしやう 日光旗章、ひのまるのはた(我國旗
 なり)
 につくわうしだ(名) 日光齒朶、いはひとで(植物)
 につけい(名) 肉桂(藥材)、桂心、桂枝
 につこりわらふ 莞爾笑、にこにこわらふ
 につこう(名) 日工、ひようしごと、ひでま
 につさい 入西(氏)
 につさん(名) 日參、ひまゐり(宮寺への)
 につき 仁木(氏)
 につき(名) 日記、ひびのしるしがき、日録簿
 につきん(名) 日給、ひびのてあて、日當、ひびのさふきん

につきん(名) 日勤(ひびにい)でつとめること
 につめる(他) 煎詰、にてこくする、にへらす
 につし(名) 日誌、ひびのねぼけがき、日乗
 につし(名) 日子、ひ(日月の日をいふ)
 につし(形) 日次、ひなみ
 につしよく(名) 日蝕、日食、につそく(日仄)はね
 につしや(名) 日者、天文者(てんもんじや)
 につしやう(名) 入聲(平上去入の四聲の一)
 につしやうき(名) 日章旗、ひのまるのはた(我國旗)
 につしやびやう(名) 日射病、中暑、あつつけあたり
 につしゆつ(名) 日出、ひので、よあけ
 につしゆつさう(名) 日出草、あさしらげ(植物)
 につしん(形) 日新、ひびにあたら
 につせいさう(名) 日精草、かわらよもぎ(植物)
 にな(名) 蟻、みな、河貝子(動物)
 になは(名) 荷繩、ものをせれふなは
 にながは 蟻川(氏)、みながは(ともよむ)
 になふ(他) 荷擔、かつぐ、ねふ、負擔、責任、擔當
 になひぼう(名) 荷棒、あふこ、てんびんぼう、撥擔、掃擔棒
 匾擔、擔擔
 になひをけ(名) 擔桶、たご、かつぐをけ
 になひかご(名) 擔籠、になひあるくかご
 にな(名) 菲、にんにくの類、懶人菜、起陽草、ふたもじ(植
 物)
 にらむ(他) 白眼、睡毗、睚眦、疾視、瞋目、めをいからしてみ
 る、邪睨、ながしめみ
 にらのくき 菲莖、菲白、にらのしん

にらぐ(他) 焯、かたくする、きたへる(鐵等を)
 にらやま 菲山(氏)また地名、また仁羅山(氏)
 にらみつける(名) 睚眦、にらむ(見よ)
 にら(名) 鱗、ひび、ひびやき(陶器)
 にらう(名) 乳油、バタ、うしのちちのあぶら
 にらはち(名) 乳鉢(散藥を調ふる鉢)
 にらぼう(名) 乳房、ちぶさ、ちち(婦人の)
 にらぼう(名) 乳棒、散藥をこなす棒
 にらぼう(名) 乳母、うば、ねんば、ちうば、まま
 にらぼう(名) 乳木(護摩の薪、また植物の名)
 にらり(名) 乳梨、こがなし(植物)
 にらりや(俗) 名 養賣屋、食店にうりみせ、めしや
 にらりみせ(名) 烹賣店、にらりや、めしや
 にらわ(形) 柔和、にこやか、ものやわらか
 にらかう(名) 乳香、滴乳(木より出る香ばしき液汁)、くん
 ろくかう(薰陸香)
 にらかん(名) 乳柑、くねん皮(植物)
 にらがん(名) 乳岩、乳糖、ちばれもの(婦人病)
 にらがん(名) 乳眼、ちめ(め)のやまひ
 にらよるく 紐約爾、紐育、新約克(亞墨利加合衆國の一大
 都會の名)
 にらよう(名) 乳瀝、乳の腫を云ふ、ちばれもの、ちちのよ
 う
 にらないすすめ(名) 黃雀(動物)
 にらなん(形) 柔軟、やはらか
 にらなん(名) 乳雞(乳汁かたくしかりて不足なるを云ふ)
 にららく(名) 乳酪(牛乳よて調へたる食物)

にうう(名) 乳癰、うば、ねんば
 にうやう(する)(他) 乳養、ちちのませてやしなふ、はこく
 にうま(名) 荷馬、駄馬、こにだうま
 にうめ(名) 養梅(梅の養たる者)
 にうめい(名) 乳名をさなな、幼名
 にうみ(名) 乳味、ちちのあぢはひ
 にうし(名) 乳子、ちのみこ、乳兒
 にうじ(名) 乳兒、ちのみこ、乳子
 にうしう(名) 乳臭、ちちくさき、幼稚未熟の状をさげしむ
 語
 にうじやく(形) 柔弱、よわき、たよわ
 にうじん(名) 乳汁、ちしる、ちち
 にうび(名) 乳糜(體中の一液)
 にうびくわん(名) 乳糜管、乳糜のかよふ道
 にうせきはい(名) 乳石英(礦物)
 にのまる 二之丸(第二の城)
 にのまひ 二之舞、他人の覆轍をふむ事、或は真似する事
 にのわし 二足、ためらひ、踟躕、猶豫
 にく(名) 肉、しし、(動物の)
 にく(名) 羚羊、やまひつじ、かもしか(動物)
 にくいろ(名) 肉色、にくしよく、肉紅
 にくろめ(名) 烏銅、しやくどうのたぐひ
 にくは(名) 肉波、さしみ料理の名
 にくはく(する)(自) 肉薄、たしあふ、せまる
 にくにくし(名)(形) 惡惡敷、にくき、にくらしき
 にくべい(名) 肉餅、かまぼこ

にくへん(名) 肉片、ししびら、にくぎれ
 にくち(名) 肉池、にくつぼ、油盡、いんにくいれ
 にくりう(名) 肉癰、こぶ
 にくりん(名) 肉林(肴の澤山なるを形容する語)
 にくる(自) 逃、のがれゆく、北亡、逃亡、脱走
 にくるま(名) 荷車、にをつむくるま、棧車、役車、重車、輜車
 にくわつ 二月、きさらぎ
 にくがる(他) 憎、にくむ、嫌惡、いむ
 にくかう(名) 肉羹、あつもの、にくのつゆ、しる、ソップ
 にくよく(名) 肉慾、からだのこのみ、情慾(飲食男女の慾
 などを含む)
 にくたい(名) 肉體、にくなるからだ(靈體に對す)
 にくたん(する)(自) 肉袒、はだぬぐ、かたぬぐ
 にくづく(名) 肉苴、肉果(植物)
 にくつき(名) 肉附、にくわひ、ふどりかた、肥瘦
 にくら(名) 荷鞍、荷をつける馬の鞍
 にくらし(俗)(形) 惡敷、にくき、にくげなる
 にくわ(他) 憎、にくむ、惡、憎、嫉、憎、惡、嫉、醜、惡、怨、惡
 にくくわ(名) 肉果、にくづく(植物)
 にくくわい(名) 肉塊、にくひとぎれ、肉片
 にくや(名) 肉店、屠戸、ももんじや、にくるむらう、いへ
 にくやう(名) 肉養、かゆさ、かゆきところもち
 にくまれる 被憎、さらはれる、いまれる
 にくまれ(名) 惡童、あしきわらへ
 にくげ(名) 惡氣、にくらしきさま
 にくけい(名) 肉桂、桂心、桂枝(藥材)
 にくけい(名) 肉刑、斬絞等の死刑をいふ

にくてい(名) 肉弟、まことのねとど、實弟
 にくてい(名) 惡體、にくらしきすがた
 にくてき(名) 肉笛、くちぶね
 にくてん(名) 肉店、にくや、けものだな
 にくわひ(名) 肉合、にくつき、ふどりかげん
 にくわん(名) 肉案、まないた、俎
 にくさ(名) 肉叉、にくさし、肉鉤、食刃
 にくさう(俗)(形) 惡相、にくらしげ
 にくき(名) 肉机、まないた、肉案、俎
 にくき(形) 惡、憎、にくむべき、いやな
 にくきり(名) 截肉刀、肉切庖丁、にくきるはうちやう
 にくみ(名) 肉味、にくのあぢはひ
 にくし(名) 肉肆、けものだな、ももんじや、にくや
 にくじ(名) 肉汁、にくじと、あつもの、肉羹
 にくしよく(名) 肉食、肉をくらふ事
 にくしよくしや(名) 肉食者(肉を常食とするもの)、官人
 にくしよくせき(名) 肉色石、ちやうせき(礦物)
 にくじやう(名) 肉菘、さきのこのたぐひ(植物)
 にくじやう(名) 肉醬、ししびしは、じはから
 にくじやう(名) 肉情、ちすぢのなさけ、また肉慾
 にくじき(名) 肉食、にくしよくを見よ
 にくしん(名) 肉身、にくたいを見よ
 にくしん(名) 肉親、まことのれや、うみのれや
 にくしん(名) 肉羶、ひらたけ、きのこのな(植物)
 にくせん(名) 肉跣、すあし、はだし
 にくけたる(俗)(形) 纖弱、輕佻、いろをとこじみたる
 にまう(名) 二毛、しらがまじりのひと、斑白者

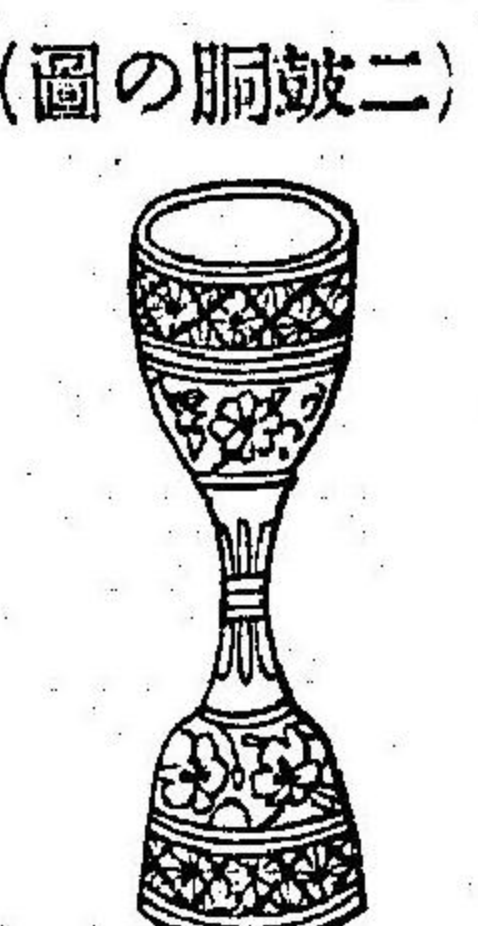
にまめ(名) 煮豆、にたるまめ
 にな(名) 反芻、にれ(にれ)をみよ
 にな(名) 逃走、出奔、のがれはしる
 にな(自) 逃散、ちりぢりに逃げゆく
 にな(自) 逃、のがれはしる、逃走、逐電、出奔、かけれちす
 る。亡命、脱走
 にな(自) 反芻、再嚼、にれかむ、ねりかむ
 にな(自) 逃匿、しのびゐる、ひそむ
 にな(自) 逃出、のがれでる
 にな(形) 無似氣、につかはしからぬ
 にな(自) 逃亡、逃走、逃げさる、のがれうせる
 にな(自) 二毛馬、れんせんあしげのうま、驢鼠毛馬
 にな(名) 逃足、逃げだすあしつき、逃げんとぞるあし
 つき
 にな(自) 逃去、のがれゆく
 にな(自) 逃遁、のがれるみち、血路、走路
 にな(自) 逃水(武藏野の深草の邊に立のぼる水氣を然
 か云へり是れ近づくまに見えずなりて又其ききに
 遠く同じき者が見ゆる故なり)
 にな(自) 逃支度、にげるようい
 にな(名) 二絃琴(樂器)
 器(此圖な琴絃)
 なるは山城の
 國妙覺寺藏(圖)
 長元許
 にな(名) 入(平上去入の四聲の一)、入聲
 にな(名) 丹生(氏)



にぶいろ(名) 鈍色(花田染を云ふ)こきねすみいろ
 にぶるん 入院(病院に入るを云ふ)
 にぶばい(名) 入梅、つゆのいり、黄梅、梅雨の時候
 にぶぼつ(名) 入没、しぬること、死没、みまがる
 にぶぢやう(名) 入定(生きながら墓中に入る事)
 にぶかう 入校(學校へはいる事)
 にぶかく(名) 入學(學校に入る事)いりてまなぶ、入校
 にぶよう(俗) 入用、いりよう、いりめ
 にぶだ(名) 荷札、にもつにつけるふだ、荷符
 にぶたう(俗) 入湯、ゆわみ、入浴(温泉又は風呂に浴する事)
 にぶだう(名) 入道、はどけのみちみいるもの、僧(古昔重
 又祝髪僧衣の俗佛者を然か呼べり)
 にぶだうかつら(名) 百稜藤(植物)
 にぶだうむし(名) 腹蜻、うむし、にしやどち、せみのまだ
 はねはねぬもの
 にぶつ(俗) 入津、船の港灣に入るを謂ふ
 にぶね(名) 荷船、にをつむぶね、貨船
 にぶらう 入牢、ひとやにいれる或はいる
 にぶくわん 入款、よしみをかよはす
 にぶふ 入府(諸侯等が己の領する國府に來住するを謂ふ)入國
 にぶふ(名) 入夫、いりむこを見よ
 にぶふ 入峯、山伏が高山にわけのぼるをいふ
 にぶぶつ(名) 入佛、佛像を寺に安置する事
 にぶふせい(名) 入府税、都府に來る貨物に課する税金

にぶこう 入港、みなと(り)船等にいふ、入津
 にぶこく(名) 入國(諸侯等が己の拜領地に移住するをいふ)入府
 にぶてう(する) 入朝、さんだいする、みかどれがみにく
 る、又わがくにきたる
 にぶさつ(俗) 入札、いれふだ、また投票
 にぶき(形) 鈍魯、鈍愚昧、とからぬ、れそき、れろか、するど
 からぬ
 にぶきん(名) 入金、いりがね、入銀
 にぶぎん(名) 入銀、いりがね、入金
 にぶきん(名) 二分金、徳川時代の半両金貨
 にぶめつ(名) 入滅、しぬること(釋迦の死に重に言ふ、入
 寂)
 にぶめん(名) 入麩、そうめんの煮たる者
 にぶめんらん(名) 屈子花、くさのな(植物)
 にぶしつ 入室、へやにいれる(興義を極めたる事にも喩へ
 用ふ)
 にぶじく 入塾、學塾に在ること、入校
 にぶじやう 入城、しろにうちいること
 にぶしゆ(する) 入手、てにいれる、落手
 にぶしん 入津、にぶつ、入港、みなと、いり
 にぶひ(俗) 入費、にぶよう、つひに、費用
 にぶもん(名) 入門、でし、いり、入學
 にぶせき 入籍、戸籍を入れる事、にんべつをいれる
 にぶせん(俗) 入船、いりふね、着船
 にぶそす(他) 煮殺、ゆでころす(湯油などにて)
 にこに(副) 莞爾、につこり、微笑、少く笑ふ貌

にこどう(名) 二鼓、胴(樂器)(大和國信貴山藏)
 にこり 濁、さよからぬこと
 にこりる(名) 濁井、よこりみづ
 のぬど
 にこりぐち(名) 船口(船中の荷物を置く處の入口)
 にこりこる(名) 濁音、だみこる
 にこりさけ(名) 濁酒、どぶろく、醜濁醜
 にこりみづ 濁水、汚水、さよからぬみづ
 にこる(自) 濁汗、濁渾濁、混よごれる、けがれる(水が)
 にこたへ(名) 和布、はそぬの(古語)總、縹、細布
 にこれる(形) 濁、さよからぬ、きたなき
 にこむ(俗) 煮込、いれてにる
 にこう(名) 尼公、あまきみ(比丘尼の貴女)
 にこやか(形) 和柔、やはらか、柔和、温和、綽約、暱暗
 にこけ(名) 養、柔細毛、やはらかきわたげ
 にこり(名) 養、凝、養汁の凝りかたまれる者
 にこみ(名) 煮込(鳥獸の肉を混へ煮る事)
 にこひ(或みこひ) 白魚、楚、鮮魚、鱈、魚、動物
 にこもの(名) 和物、やはらかなるもの(古語)
 にこす(俗) 令濁、にこらす
 にこん 二言、ふたこと、いひかへし、食言
 にて(後置詞) 於、れいて、干
 にてい(を) 二條、二庭、婦人の再嫁するを云ふ
 にてう 二條、氏、また地名
 にてひなるもの 似而非者、にせもの、えせもの、まやかし



二鼓(胴)の圖

もの、偽物
 にあはしからぬ(形) 不似合、不適應、ふにあひ、はつかぬ
 にあはしき(形) 似合、適應、につかはしき、ふさはしき
 にあげば(名) 埠頭、はとば、ものあげば(海岸の)あがりば
 にあふ(自) 似合、適應、恰當、ふさは、につく
 にさうばい 二相倍、二倍、ふたかさねはき
 にさます(他) 煮冷、煎冷、にてひやす
 にき 二氣、陰陽の二氣をいふ
 にきはし(副) 賑敷、さかて、さかんに、熾盛
 にきはしき(形) 賑敷、車馬絡絡、輻輳、さかぬ、繁華、豐盛
 にきはす(他) 賑、はどこしたすく(貧人を)、賑、饒、潤、賑、恤、
 賑、給
 にぎり(名) 拊、兜、ゆづか(月の握り所)
 にぎりか(俗) 握家、まひなひをとるひと
 にぎりこぶし(名) 握拳、捲手、にぎれるゆびのふし、げん
 こつ
 にぎりめし(名) 握飯、むすび、飯團
 にぎりしめる(他) 握緊、かたくつかむ
 にぎる(他) 握、把、掬、撿、扼、拵、拳、握、得、掌、とる、つかむ
 にぎたへ(名) 和栲、和布、(にこたへ)を見よ
 にぎやか(形) 賑、さかぬ、熱鬧、雜、選、さわがしき、にぎは
 しき
 にきやうでん 二頃田(二百畝に當るの田にて僅かなる
 を謂ふ)
 にぎて(名) 和幣、みてぐら、御幣、幣束、ぬさ、れんべい
 にぎめ(名) 和海藻、やはらかきこぶ(植物)

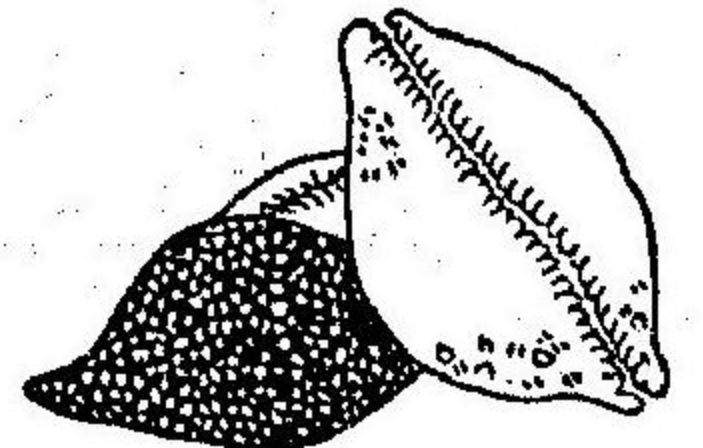
にきみ(名) 瘞、にきび(面上に出る腫物)
 にぎみたま 和魂、神道にて溫和の神靈をいふ
 にぎしね(名) 和稻、しらげたるいね、つきごめ、白米(古語)
 にきび(名) 而飽粉刺、瘞、顔のふきでを云ふ
 にきびばな(名) 披鼻、さくろばな、わかばな
 にし(名) 製螺、製螺辛螺、流螺、かひのな(動物)
 にし(名形) 西、西方、ひのいるかた、どりのかた
 にし(名) 虹、霓、蟠蜺、氣母、天弓、玉橋、天虹、雲霓、虹橋、虹蟠
 白虹、そらにはねるうるはしきあらはれ(太陽の光が
 水蒸氣に映じたる者)
 にしちん 西陣氏、また洛陽大宮西の地名
 にしぢんれり 西陣織、京都西陣より出る絹布の名
 にじりがき(名) 瀟書、まがりかき、よこなぐりがき、鈍書、
 横流書
 にしる(名) 煮汁、物を煮たる汁
 にじる(他) 蹂躪、ふみつける、ふみつぶす
 にしを 西尾(氏)
 にしねほち 西大路(氏)
 にしねほえだ 西大條(氏)
 にしわき 西脇(氏)
 にしかは 西川(氏)
 にしかせ 西風、泰風、にしよりふくかせ
 にしよふ(自) 呻、うめく
 にしだ 西田(氏)
 にしな 仁科(氏)
 にしむ(自) 鈍染、入染、墨等がちるをいふ、しみるつる
 にしむた 西牟田(氏)

にしむら 西村(氏)
 にしのふた 海螺、かひのふた、ばいのふた、曆甲香(動物)
 にしのとさん 尼寺、五山最愛、護念、檀林、慧林、通玄
 にしのあるじ(名) 西主、じやうどのあるじ(彌陀佛を云
 ふ)
 にしやどち(名) 腹疝(蟬の未だ羽を生せぬ者)、にふだう
 むし、うむし
 にしやう 二障、煩悩三昧を云ふ、ふたつのさはり
 にし(名形) 廿、二十、はたち
 にし(名) 廿一史、十七史に遼宋金元の四史を加へ
 て云ふ
 にしふはつてん 廿八天(欲界の六天、色界の十八天、無色
 界の四天を云ふ)
 にしふはつじやう 廿八將(徳川氏の功臣にして、日光山
 東照宮へ配祀する者、松平康忠、酒井忠次、井伊直政、柳
 原康政、大須賀康高、大久保忠教、伊奈忠俊、伊奈忠政、
 大久保忠世、内藤信成、酒井正親、内藤家長、大久保忠
 佐、米津浄心、平岩親吉、奥平信昌、本多忠勝、鳥居元忠、
 菅沼定盈、渡邊守綱、岡部長成、高木性順、蜂屋貞次、服
 部正綱、安藤直次、本多康高、松平伊忠、水野勝成の諸將
 を云ふ)
 にしふはつしゆく 廿八宿(恒星の名、即ち東は角、亢、氏、
 房、心、尾、箕、北は斗、牛、女、虚、危、室、壁、西は奎、婁、胃、昂、
 畢、觜、參、南は舛、鬼、柳、星、張、翼、轸を云ふ)
 にしふにじや 廿二社(伊勢、石清水、加茂、松尾、平野、大和、
 梅宮、稻荷、春日、大原野、石の上、廣瀬、龍田、住吉、日吉、
 吉田、廣田、北野、祇園、丹生、貴船、三輪を云ふ)

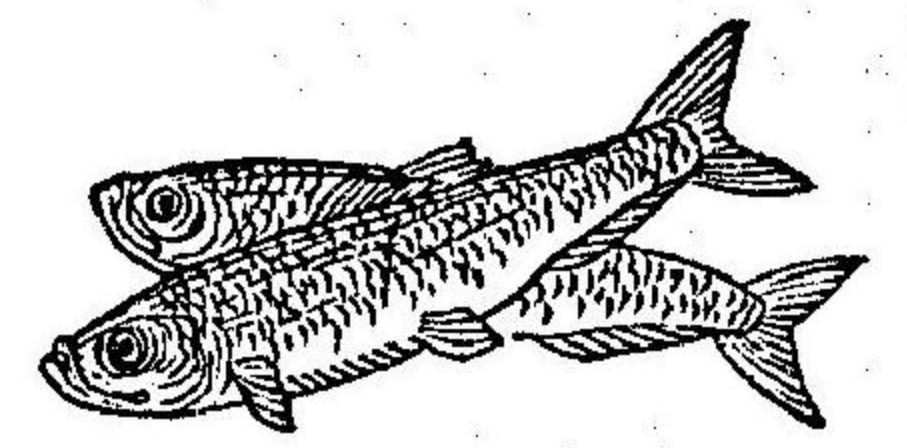
にふふとぼさつ 廿五菩薩、觀音、勢至、藥王、藥上、普賢、文
 殊、獅子吼、陀羅尼、虚空藏、德藏、寶藏、山海慧、金剛、金
 藏、光明王、花嚴王、珠寶王、日照王、月光王、三昧王、誠自
 在王、大自在王、白宮王、大威徳王、無邊身を云ふ)
 にふしから 廿四孝、舜帝、漢文帝、曾子、閔損、仲由、董永、
 刻子、江革、陸績、唐夫人、吳猛、王祥、郭巨、楊香、朱壽昌、
 蔡順、黃香、庾黔婁、老萊子、姜詩、王褒、丁蘭、孟宗、山谷等
 の諸賢孝子を云ふ)
 にふしせつ 廿四節、立春、雨水、啓蟄、春分、清明、穀雨、立
 夏、小滿、芒種、夏至、小暑、大暑、立秋、處暑、白露、秋分、寒
 露、霜降、立冬、小雪、大雪、冬至、小寒、大寒を云ふ)
 にしこり 錦織(氏)
 にしき 二至規(夏至線と冬至線の二をいふ)
 にしき(名) 錦、織文(美しき織物の名)、やまとにしき、から
 にしき
 にしきべ 錦部(氏)
 にしきへび(名) 錦蛇、蚺蛇、南蛇、あかさばつばつあるへ
 び、うはばみ、ねはへび(動物)
 にしきと 西城戸、錦戸(氏)
 にしきどり(名) 鵜、天雞、やまどりのたぐひ(動物)
 にしきがひ(名) 錦貝、美しき貝の名
 (動物)
 にしきらん(名) 錦蘭、くさのな(植
 物)
 にしきぐさ(名) 地錦草、馬蝗草、夜光
 草、血風草、地肤草(植物)
 にしきぎ(名) 錦木、衛茅、ひひらぎ、

鬼箭、まゆみ(植物)
 にしきめがね(名) 萬花鏡(種種の色を見する眼鏡)
 にしき(名) 錦繪、美しく彩色したる繪
 にしゆ 二朱、徳川時代の銀貨の名、よして一分の半)
 にじゆ 二豎、ふたりのわらべ(左傳より出づ病氣をいふ)、
 やまひのかみ、やまひ
 にしめ(名) 烹染、煮染、よくにつけたるくひもの
 にしめる(他) 烹染、よくにつける
 にしび(名) 西日、ゆふひ、いりひ、夕陽斜日、斜陽
 にしん(名) 鯡(北海道西部海岸に産し
 其の卵子を數の子と稱す)青魚、鱈
 白、黃魚、鱈
 にしん(名) 二心、ふたごころ
 にしん 二親、ふたれや、ちちはは、両親
 にばな(名) 煮初、飪、にたて、いまに
 たるもの
 にねる(自) 烹煮、よられる、じゆくす
 る
 にわかへる(自) 沸却、わかかへる、にたつ
 にえたつ(自) 沸立、わかあがる、にたつ
 にねたざる(自) 沸騰、わかかへる、わかたつ
 にねこぼれる(自) 沸溢、わかあがりてあふれる
 にねゆ(名) 熱湯、沸湯、あつゆ、たぎるゆ
 にひ(形) 新、あたらしき、あたら、あら
 にひろ 新納(氏)
 にひは(名) 新葉、わかば、嫩葉
 にひはり(名形) 新葉、あたらにきりひらけること

(圖の貝錦)



(圖の魚青)



にひがた 新潟越後國蒲原郡に在る港にて五港の一
 にひよね(名) 新米(しんまい)わたらしきこめ
 にひなめまつり(名) 新嘗祭(十太祭の一)として十一月に
 執行し此日新穀を神に獻ぐ
 にひむろ(名) 新室、わたらしきいへ、新室
 にひむろはぎ(名) 新室祝、わたらしきいへをいふこと
 にひのみ 新海(氏)
 にひのみ 新見、又しんみ(氏)
 にひま 新今(氏)
 にひま(名) 新參(しんざん)、いままあり、またて
 にひま(名) 新枕(男女の始めて同衾するを謂ふ、は
 つちぎり)
 にひまみち(名) 新道、わたらしきみち
 にもち(名) 荷持、擔夫、荷物を携ふ人足
 にもつ(俗名) 荷物、よなふもの、はこぶべきもの、行李、
 運搬物、また包貨、貨物
 にもつ(名) 糞物、よたるくひもの
 にせ形 贗、偽、假作、いつはりなる
 にせいん 贗印、謀判、にせはん
 にせる(他) 贗(似る様にする)、假似擬、假贗、摸擬
 にせがね 贗金、假金、贗札、偽造貨幣、偽造紙幣、よせつ
 けるかね
 にせさつ 贗札、贗幣、よせつくれるさつ
 にせさちがひ 伴狂、そらたはけ
 にせしようもん 贗證文、偽證、偽券、偽書
 にせそ(名) 宵繪、よせたるそ、にがは

にせもの(名) 贗物、贗品、偽物、修にせつくれるもの
 にすぬ 二水(文字の二、此偏をいふ)
 にすす(名) 糞、よたるすす、板等、よ塗る者
 にん(名) 仁、さね、葉實、核中のたねを云ふ、たね
 にん(名) 人、ひと、ひとがら
 にん(名) 任、やくめ、職、つとめ
 にん(名) 任意、さまかせ、こころのまま
 にんば 人馬、ひとどうま
 にんにく(名) 忍辱、かんにん、しのびこらね、がまん(佛經
 の語)
 にんにく(名) 蒜、ひる、小蒜、蒜、蒜、蒜、葱、茶、大蒜、野蒜、植
 物)
 にんにくのよろひ 忍辱鏡(袈裟の異名)
 にんべ 鹿伏兔(氏)
 にんべつ(名) 人別、戸籍(こせき)
 にんべつ(名) 人別帳、戸籍簿、口簿、戸冊
 にんべつ(名) 人偏(字形の偏即ち、イをいふ)
 にんべん 忍冬、すひかづら、金銀花、八草(植物)
 にんどう(名) 人頭、税、わたませい(頭數、課する税)
 にんどう(名) 仁徳天皇(人皇第十七代の帝)
 にんち(名) 認知、みとむる、わかまへる
 にんち(副) 恚地、かくのごとく(支那の俗語)
 にんち(名) 人中、はなみぞ、鼻下唇上の溝を云ふ
 にんち(名) 人中白、いばりかす(小便の澱滓)
 にんち(名) 人中、黄大便を云ふ
 にんち(名) 人皇、神武天皇より以還の天子を云ふ
 にんか(名) 人撰、ひとをえらむこと
 にんか(名) 人數、ひとかず

にんが 人我、ひとわれ、自他(他人と我身)
 にんがい(名) 人界、ひとのよ、人間
 にんかうてんわう 仁孝天皇(人皇第百廿代の帝)
 にんよう(名) 任用、とりもちふる(人を)
 にんよう(名) 妊孕、はらむ、懐胎、こをやどす
 にんた(名形) 任他、すてたき、放任、かんせふせぬこと
 にんたい(名) 人體、ひとがら、また人間の體相、ひとのか
 たち
 にんたい(名) 忍耐、こらえ、辛抱(しんぼう)、かんじん
 にんたい(名) 妊帶、ゆはたね、はらね、はらね、はらね、はらね、
 にんそく(名) 人足、人夫、遞夫、擔夫、かつぎ
 にんくわい 任槐、大臣に任せらるるを謂ふ
 にんくわん(名) 任官、拜命、官職、就く事
 にんけん(名) 任俠、をどこだて、をどこぎ、義俠
 にんけん 任限(任職の期限)
 にんげん(名) 人間、よのなか、世間、又「俗」よのひと
 にんげん(名) 人間界、このよのなか、人界
 にんげん(名) 仁賢天皇(人皇第廿五代の帝)
 にんげん(名) 妊婦、はらみ、をんな、孕婦
 にんげん(名) 人夫、にんそく、擔夫、かつぎ
 にんこく(名) 任國、赴任の地を云ふ
 にんてい(名) 認定、みとめる、みなす
 にんさう(名) 人相、ひとのかはかたち
 にんさう(名) 人相家、相者、にんさうみ、風鑑者
 にんさう(名) 人相書、さうがうがき
 にんき(名) 人氣、ひとごころ
 にんき(名) 認許、ゆるし、許容、ゆるす

にんぎ(名) 人魚(人頭魚身の動物にして食へば長生す
 と云ふ)
 にんぎ(名) 人形、ひとがた、偶人、でく、木偶、木像、土
 偶、泥像、泥塑、傀儡
 にんぎ(名) 人形使、傀儡師、でくつかひ
 にんぎ(名) 人形芝居、傀儡戯、傀儡棚、でくしぼる
 にんぎ(名) 任命、職、つかせる、任する
 にんめん(名) 人面、獸心、かははひとこころはけも
 の
 にんみやうてんわう 仁明天皇(人皇第五十五代の帝)
 にんし(名) 任恣、わがまま、任縱、ほしいまま
 にんし(名) 任所、管轄すべく任せられたる地方、つと
 めどころ
 にんし(名) 任職、官職につける事
 にんじ(名) 人情、ひとのこころのつね、ひとのこころ
 ね、なさけ
 にんじ(名) 刃傷、はものざんまい、はたしあひ、きり
 あひ、しんけんしようぶ
 にんじ(名) 人壽、ひとのいのち
 にんじ(名) 忍愛、しのびうける、がまんする
 にんじん(名) 妊娠、懷孕、妊身、みもち、はらみ、みれも
 にんじん(名) 人參、かのにげんさ、又胡蘿蔔、せりにんじ
 ん(植物)
 にんび(名) 人非人、ひとでなし、又また
 にんも(副) 恚、いかに(支那の俗語)
 にんせん(名) 人撰、ひとをえらむこと
 にんず(名) 人數、ひとかず

ほにんずる(他自) 任、つける(官職に)、つく(官職に)、ひきうける

ほ

ほ ホ保、穂、ボ、菩、吐、是は「ふ」の父音と「う」の母韻と合して生ずる音にして五十韻中なる第六行第五段に位す

ほ(名) 歩、あゆみ、また一坪

ほ(名) 火(古語)また頂、いただき(古語)

ほ(名) 穂(稻、麥等の花實)

ほ(名) 帆、帆、蓬(船にわけて風をうける具)

ほ(名) 布衣(狩衣に似て紋なし)

ほ(名) 其他多くは萌葱なり無官の者

之を着せり

ほ(名) 布衣、ふい(賤民の譬にも)

用ふ

ほ(名) 黼衣、たはんぞ、にしきの

ころものたぐひ(帝王等の)

ほ(名) 本意はんいの轉

ほ(名) 母衣(ほろを見よ)

ほ(名) 焙爐(茶等をはうじする具)

ほ(名) 布衣始(太上皇御尊號を受けて後初て御鳥

帽子着御せらるるを云ふ)

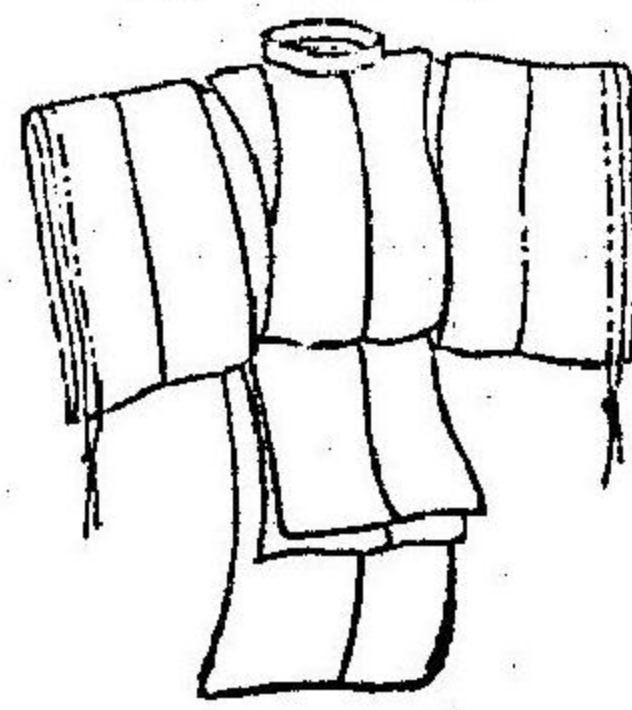
ほいぼん(或はゆぼん) 鉢盂盆、ほゆぼん(僧侶の鉢具)

ほいなく(副) 無本意のぞみをうしなひて、すこすこ

ほいなき(形) 無本意のぞみをうしなひたる、又こころな

らぬ

(圖の衣布)



ほいう「する」(他) 輔佐たすくる、輔佐(帝王などを)

ほいぎん(或はゆぎん) 鉢盂巾、僧侶の鉢を覆ふ巾

ほいしん(名) 背心、そでなしころも(僧等の着る)

ほいんずる「自」 連隱のがれかくれる

ほいんずる「自」 歩韻、いんをわはせる、和韻(作詩の語)

ほ(名) 蒲廬、ふくべ、へうたん

ほ(名) 母衣(往古戦時に背

に掛けて用ひし者、此圖

なるは大和國三輪藏大塔

宮所用、纒、武羅、布、廬

ぼろ(名) 縵、縵、爛布、つづれ

ぼろ(或はぼろぼろ) 暮露、梵

論(虛無僧を云ふ)

ぼろぼろ(副) 發露發露「ぼろ

りを見よ)

ぼろぼろ(俗) 形) 暴露暴露貧窮零落の狀を云ふ

ぼろぼろ(名) 梵論梵論、こむそら

ぼろぼろ(名) 珠鷄(動物)

ぼろぼす(他) 亡、めつする、た

ふす、そこなふ、勳滅、殄滅

ぼろり(副) 泣然(涙のれつる

貌)

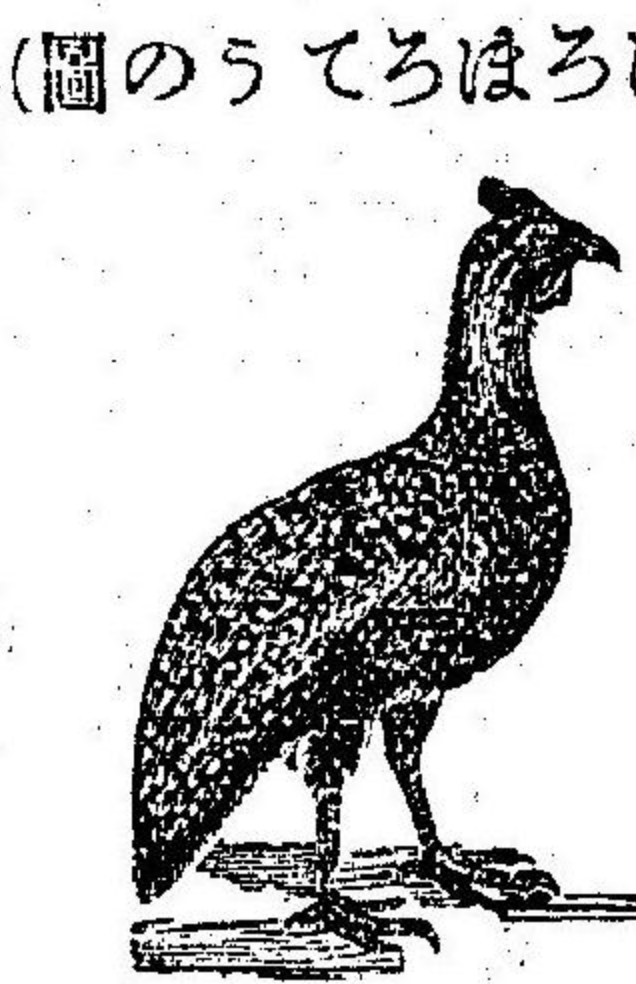
ほろがや(名) 纒蚊帳(小兒の

上を覆ふかや)

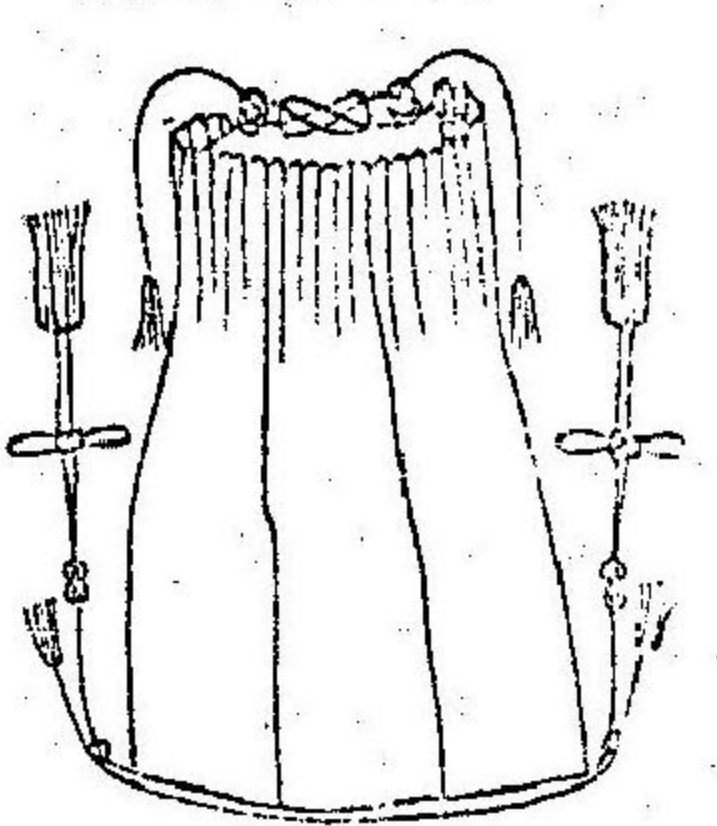
ほろよひ(形) 微醉、少し酔ふたる事

ほろつけ(名) 母衣、附甲冑の母衣をつける所をいふ

ほろうつ(自) 倍羅擊、ばばたきする(野雉が)



(圖の衣母)



ぼろく(名) 牡鹿、をじか(動物)

ぼろぶ(自) 亡くなる、たはる、恨、没、喪、滅、滅亡

ぼろぎく(名) 幌菊、さくがらくさ(植物)

ぼろみそ(名) 法論味噌(南都元興寺の護命僧正初てこれ

を製す)

ほろし(名) 白英、ひよどりじやうさ(植物)

ほろし(名) 確程、鐵確、下磨の真中にありて上磨に通る鐵

棒)

ぼろんじ(名) 梵論字、虛無僧をいふ、ぼろぼろ

ぼばら(名) 鰐魚の腹の前の方を云ふ

ぼばく(自) 捕縛、とらへる、めしとる、からめとる

ぼばく(名) 簿籍、すだれ

ぼばしら(名) 帆檣、桅竿、檣、桅、檣、ほをたてるはしら

ぼばん(名) 模範、てほん、いがた

ぼばん(名) 暮晚、くれ、いりあひ、たそがれ

ほばら(形) 哺乳、ちちのむ(動物に云ふ)

ほにん「する」 補任、缺たる官職に任せる事

ほほ(名) 頰、ほほ、べた、ほら、頰、臉

ほほ(副) 粗、あらまし、たはよそ、畧、大畧、概畧

ほほばる(俗) 他) 曠、響、くちよひれる、くちよみたす

ほほばね(名) 額骨、ほらばね、つらばね、輔骨、顙、頰車、かま

ち、つらかまち

ほほかぶり(名) 頰裳、手拭等を面よかぶる事

ほほかしは(名) 厚朴、ほほのき(植物)

「ほほら」(名) 蒲鋒、かまぼこ

ほほら(名) 墓封、つかやま、つか

ほほげた(名) 輔車、牙車、頰車、つらがまち、あどぼね

ほほけたつ(自) 彫毛、立、けばたつ

ほほふくらす 頰脹、ほつべたとふくらす、いかる

ほほわか(名) 頰赤、ほほのあかさどりのな、赤頰、黃道眉

(動物)

ほほわて(名) 頰當、頰と覆ふ兜の具

ほほさき(名) 頰、頰、かほばね

ほほじろ(名) 畫眉鳥、黃道眉、ほほのしろきどりのな(動

物)

ほほあむ(自) 微笑、すこしわらふ、含笑、莞爾笑

ほほひげ(名) 頰髭、鬚、頰毛、ほつべたひげ

ほへい(名) 歩兵、かちのつはもの、歩卒

ほへいたい(名) 歩兵隊(歩兵のくみ)

ほへいくわ(名) 歩兵科(歩兵の部)

ぼへう(名) 墓標、はかじるし、墓表、墓銘

ほど(名) 土圍兒、地栗子、土芋、芋の種類(植物)

ほど(名) 及後世詞、程、ありさま、程度、分限、くらゐ、また時

ころ、とき、又ごとく、わりよ、したかひて

ほど(名) 陰門、をんなのかくしどころ(古語)

ほどいも(名) 土圍兒、九羊子(植物)

ほどろ(名) 蓬蓬、ねざら、ほらけたるさま、蔵などの

ほどろ(名) 程、時とさ、ころ(ろ)は助語

ほどばしる(自) 迸、激騰、激、ふきいでるはしりいづ(水等

が)

ほどばす(他) 潤、ほとびさする、ふやけさする、ひたす、つ

ける、浸

ほどほ(名) 丁丁(木を伐る音、また門を叩く音、剝啄

ほどぼり(名) 熱、わたたかさ、あつさ、火熱、ねつき

ほるる(自) 恍惚恍惚ぼつとする。又著ぼける(はれる)を見よ

ぼるねを 婆羅尼、勃尼、印度洋中の島名

ぼるもさ 臺灣、たかさこ、東寧支那海に在る島名

ぼをく(名) 母屋、もやれもやれもなるたてや

ほわう(名) 蒲黄、がまむしろ

ほか(名) 名形及後置詞、外、他、表、外面、そと

ほか(名) 舗家、おきなみせ、商店

ほかい(名) 行器(食物を入れて運ぶ器)

ほかい(名) 模楷、いがた模型

ほか(名) 外居、ほかのところに

ほか(名) 外腹、てかけばら、をんなめのはら(本腹に對す)

ほか(名) 所、ところどころ

ほか(名) 形副、温温、わたたかなる貌

ほか(名) 形、朗然、廓然、ひろらか、朗朗、敞明、あきらか

ほか(名) 自、歩行、あゆみ、步履、あらく、あゆむ

ほか(名) 謙稱、よすてびと

ほか(名) 穂懸、稻穂を掛て干す等の事、穂組

ほか(名) 火影、ひわかり、ひのかげ

ほか(名) 掛帆、ほをあげる(船が)

ほか(名) 帆掛船(帆を揚たる船)

ほか(名) 猶、かりがねさう、馬鞭草(植物)

ほか(名) 小腹、肚腹(臍下)と云ふ

ほか(名) 祝、かむほぎ、古語、ほぎことば、いはひことば

又のろひ

ほか(名) 俗、他、放下、なげすてる、すてれく、投

ほか(名) 補翼、輔翼、たすける、輔佐、輔弼

ほか(名) 棉、棉棉、木株(かぶ)のきりくひ、きりかぶ

ほか(名) 刑具、極刑

ほか(名) 捕拿、とらへる、しばる

ほか(名) 保田(氏)

ほか(名) 遺滞、とどこほり(借金等の)

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほか(名) 菩提、ほとけのみち、覺道

ほたる(自) 螢火、ほたるがはなつひかり

ほたる(名) 保多織、織物の名

ほたる(名) 襖裂、ほつれ、つづれ

ほたる(名) 蒲桃、ふともも(植物)

ほたる(自) 連逃、のがれにげる、かけられちする

ほたる(名) 母堂、ははぎみ、母公、北堂母を尊稱する詞

ほたる(名) 墓道、はかみち、はかばみち

ほたる(名) 帆竿、ほさをほをあげるを

ほたる(名) 帆立貝、海扇、車渠、半邊蚶、いたやがひ、わ

ほたる(名) ぬきがひ、あげまき(動物)

ほたる(名) 被竊、見、被竊、被疑、しばられる

ほたる(名) 火燒、十一月神の社にて陽氣を迎る爲に行ふ

ほたる(名) 祭、鉦かなふくし(刑具、絆馬犬等を繋ぐに用ふる者)

ほたる(自) 挑挑、ふざける

ほたる(名) 樺火、木株と焚く火、たきび

ほたる(名) 牡丹餅、かいらもち、たはぎ、飯團餅

ほたる(名) 蒲團、ふとん、しきもの

ほたる(名) 牡丹、甘日草、なとりぐさ、ふかみぐさ、百両金、

ほたる(名) 富貴花、一捻紅、鹿韭、木花王、木芍藥、洛陽花(植物)

ほたる(名) 鎖袂、とめ(衣服に用ふる物)、扣子、扣鈕

ほたる(名) 女萎、つるくさのな(植物)

ほたる(名) 巴丹杏、すもものたぐひ(植物)

ほたる(名) 牡丹皮、ぼたんのねのかは(薬品)

ほたる(名) 牡蠣、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

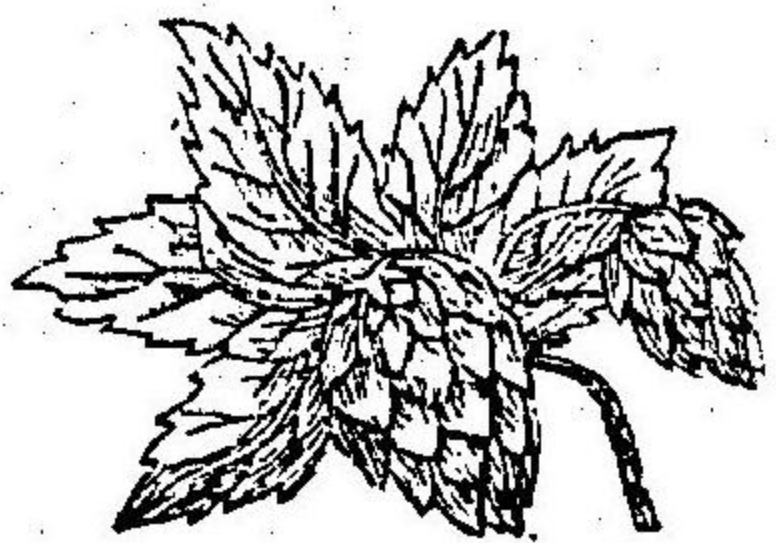
ほたる(名) 杜蠟、かき、牡蛤、蠔(動物)

ほそかは 細川(氏)
 ほそたにがは 細溪溪流、ちひさきやまがは
 ほそつ(名) 歩卒、あしがら、歩兵
 ほそね 細音(ちひさきこゑ)微音
 ほそね(名) 細根(大根の若く細き者)
 ほそながき(形) 細長楢圓、狭長、わびつなりの
 ほその 細野(氏)
 ほその(名) 臍帯、命帯、へそのを
 ほそく(する)〔他〕補足、たぎなひたす、補填、補充
 ほそぐみ(名) 半夏草、くさのな(植物)
 ほそまゆ(名) 蛾眉(三日月形の眉毛)、みかづきまゆ
 ほそき(名) 蔓椒、さのな(植物)
 ほそき(形) 細穢、微こまかき、ふとからぬ
 ほそめ(名) 細目、半開眼ほそきめ。又せまさわひだ
 ほそめ(名) 海帯、昆布の類(植物)
 ほそみち(名) 細道、徑、こみち、小蹊
 ほそびき(名) 細引、微索、麻繩、しばりなは、あさなは
 ほそん(名)〔する〕〔他〕保存、たくはへたもつこと。たまた
 する。かこふ
 ほつ(名) 貼髻、こめむし(動物)
 ほつにふ(する)〔自〕没入、れちいる。しづむ
 ほつぼつ〔俗〕〔副〕 黠黠、ひとつひとつ、だんだん
 ほつぼつ〔副形〕 勃勃、憤る貌、また盛なる貌
 ほつぼつすぢ(名) 黠線……此すぢ
 ほつと(副) 嗶然、大息つく貌、太息、太嘘
 ほつとうにん(名) 發頭人、ほつさにん。又ちやうばん、正
 犯(罪人の)

ぼつちり〔俗〕〔副〕 一點、すこしばかり
 ぼつちやり〔俗〕〔形〕 豊艶、豊満、肥膩、ぼてぼて、ふどり
 てをる
 ほつを(名) 末尾、すゑのを、をのすゑ、はつをにれなじ
 ほつが(名) 發駕、のりだし、發車、いでたち
 ほつかい(名) 渤海(支那直隸灣邊の海の稱)
 ほつかい〔俗〕〔名〕 棍手、わるもの
 ほつた 堀田(氏)
 ほつたい 法體、ほうすのすがた、僧體
 ほつたあす(名) 剝薺、亞斯藥材
 ほつたん(名) 發端、はじまり、れこり、起初
 ほつれる〔自〕 紕繆、放脱、はぐれる、とける(布絲などか)
 ほつそつ(形) 勃率、よろめく、はらばふ
 ほつそく(名) 發足、いでたち、いでゆくこと
 ほつつ(名) 帆筒(帆柱の端につける筒)
 ほつねつ(名) 發熱、病氣にて熱の發する事
 ほつな(名) 帆綱、船の帆の繩
 ほつら(名) 呼囉、いくさのなりもの、喇叭
 ほつらく(名)〔する〕〔自〕 没落、ほろび滅亡、ほろぶる
 ほつらん(名) 悖亂、さわぎ、みだれ
 ほつく(名) 發句、俳諧(歌の類)
 ほつくり〔俗〕〔名〕 黠頭、うなづき
 ほつぐわん 發願(佛道に入るの願を起す)
 ほつくわん 沒官(官府にとりあげる)、抄、もつしゆ
 ほつまのくに 秀真國(日本の一名)
 ほつつけ(名) 法華(法華經また法華宗)
 ほつつけしう(名) 法華宗(日蓮の開創せし宗門を云ふ)

ほつ(名) 葎草、かなむぐら、麥酒
 製する際加入し香氣を發生
 せしむる用に供す
 ほつと(名) 發語(章句の頭に加ふ
 る語を云ふ)
 ほつと 沒後、しにたるのち、死後
 ほつこう(する)〔自〕 勃興、いさみ
 れこる、れこりたつ
 ほつで(する)〔自〕 沒溺、れぼれる
 ほつでん(名) 沒田、沒收せる田地
 ほつさ(名) 發作、れこり、病氣の時時發する事
 ほつさ(名) 發作時、れこるとさ、病氣の
 ほつさうしう(名) 法相宗、佛の宗門の(名)
 ほつさ(名)〔する〕〔他〕發起、發企、くはだて、くはだてる、
 はじめる
 ほつさ(する)〔自〕 勃起、れこりたつ、れこる
 ほつさにん(名) 發起人、くはだてるひと、はじめるひと
 ほつさやく〔する〕〔他〕 沒却、ほろぼす
 ほつさやく(名形) 悖逆(はいさやく)、そむきもとり、よこ
 しま
 ほつめつ(名) 沒滅、ほろび滅亡
 ほつみ 八月朔日(氏)
 ほつみ 穂積(氏)
 ほつし(名) 法師、はふしに同じ、ばうす
 ほつし 沒齒、しぬる、いのちをはる
 ほつじかん(名) 沒字漢、あさめくら、もじしらぬひと、無

(圖のぶつほ)



學者

ぼつじよ(形) 勃如、むつとしたる(怒る貌)
 ぼつじゆ(する)〔他〕 沒收、もつしゆ、とりあげる(官府へ)
 ぼつしもめん(名) 綿散絲、ほろしもめん
 ぼつしん(する) 發心、はどけにさすること、をれこす
 ぼつせ(名) 法施(僧侶に物をほどこす事)
 ぼつせい(名) 啤聲(喇叭金鼓の聲、また鯨波の聲)
 ぼつせん(副) 勃然、むつとして、いさまさて
 ぼつす(自) 欲、のぞむ、望、願望
 ぼつす(名) 拂子(僧徒の用
 ふる具、はひはらび、塵
 尾)
 ほつすがひ(名) 拂子具(動
 物)
 ほね(名) 骨(身體の支柱)。
 骨格(はねぐみ)
 ほねにしみる 徹骨、みにしみる
 ほねちがひ(名) 骨違、脱臼、ほねのひさちがへ、ほねはつ
 れ
 ほねをり(名) 骨折、はたらき、つとめ、粉骨、刻苦、勤勞、勞
 力、力役
 ほねをる〔自〕 骨折、勞苦、力作、はたらく、つとめる
 ほねがらみ(名) 骨纏、結毒骨に毒がかかりて痛む事
 ほねつき(名) 接骨、ほねをつぎあははすること、整骨、接骨
 師、折傷醫
 ほねなし(名形) 無骨、ほねのやはらかくてたちぬぬひと、
 又かくのことさかたち

(圖の子拂)



ほうづきぢやうちん(名) 鬼燈提灯(小き赤き吊し提灯)

ほうねう(形) 豐饒(ふねう)ゆたか、澤山

ほうねん 豐年、ゆたかのとし、豊稔、豊歳、稔歳、樂歳、有年、康年

ほうなん(名) 一する(他) 奉納(神に物を奉ること)とさげ

ほうらいまめ(名) 蓬萊豆、れいらんまめ、ふつきまめ

ほうらいさん 蓬萊山、とよのくに、よもぎがしま(仙人のをる島國なりといふ)

ほうらいじゆり(名) 天香百合、はいざんじゆり、れうりじゆり(植物)

ほうらん(名) 釵子股蘭の屬(植物)

ほうのう(名) 蓬農、あしのはな(植物)

ほうのき(名) 厚朴、ほほがしは、浮爛羅勒、椰菜(植物)

ほうぐ或はぐ(名) 反故、すたれがみ、破故紙、かみくづ

ほうくわ(名) 烽火、のろし

ほうくわ(名) 蜂窠、はちのす、蜂巢

ほうくわい(名) 崩潰、くづれる

ほうくわん(名) 奉還、かへしたてまつる

ほうぐひ(名) 棒杭、界杭、界牌、さかひぐひ、くにざかひのしるし

ほうやう(名) 奉養、やしなふ(親等を)、孝養

ほうま(名) 俸米、ふち、扶持、禄米

ほうげ(名) 奉迎、むかへたてまつる

ほうけい(名) 謀計、はかりごと

ほうけい(名) 鳳頸、草馬、鞍草、くまづら(植物)

ほうけい(名) 鳳頸、天子の宮殿、禁闕、禁裡

ほうてふり(名) 棒手振、よびてうりあわくわきうど、ふり

ほうざ(名) 棒砂糖、尖形糖、塔糖、かたまりざたう

ほうざ(名) 謀殺、はかりごと

ほうざ(名) 豊草、しげりたるくさ

ほうざ(名) 逢遭、あふ、であふ、遭遇

ほうざ(名) 崩粗、女院皇后の身まがりたまふを云ふ

ほうざ(名) 豊作、米穀のあたりといふ、まんざく

ほうざ(名) 謀策、はかりごと

ほうざ(名) 棒先、買物等する時、主人の金を幾分か竊む事

ほうざ(名) 蜂起、わこりたつ(一揆等が)

ほうざ(名) 細魚、すずめふぐ(動物)

ほうざ(名) 崩御、かむあがり、晏駕、殞落、登仙、登霞、升遐(天子の死をいふ)

ほうざ(名) 豊凶、ゆたかとおしき、豊歉(年にいふ)

ほうざ(名) 封境、くもざかひ

ほうざ(名) 俸給、ふちかた、給料

ほうざ(名) 鳳巾、いかのぼり、たこ

ほうざ(名) 俸金、俸給、きんきん(官吏の)

ほうざ(名) 奉命、たはせとらけたまはる

ほうざ(名) 豊味、うまみ、うまさ、厚味

ほうざ(名) 蜂蜜、はちみつ

ほうざ(名) 封家、ねはふた(動物)

ほうざ(名) 法師、のりのし、ばうす(はふしを見よ)

ほうけつ(自) 浮屠然、はうすめく、ばうすらしくある

ほうけん 豐歉、ゆたかとおしき、年にいふ、豊凶

ほうけん(名) 奉獻、はうなんする(奉納)たてまつる

ほうけん(名) 封建、諸侯大名の存在する國體

ほうん(形) 豐實、ゆたか、胖、豐饒

ほうふりむし(名) 子、蜻蛉、釘倒蟲、水蛆、釘頭虫、蝟蟻、うふら夏日水中にわく虫にして蚊これより出づ(動物)

ほうふら(名) 南瓜、南蠻瓜、かぼちや(植物)

ほうふん(名) 霧霧、きり霧

ほうふ(名) 封戸、領分、知行、所領(政府或は君王より賜はる領分)

ほうこう(名) 封侯、だいまやう、諸侯

ほうこう(名) 封塚、いちりづか(一里塚)

ほうこう(名) 封口、くちをふうじる、くちどめする

ほうこう(名) 一する(自) 奉公、つとめ、やとひづとめにする

ほうこう(名) 奉公人、やとひにん

ほうこう(名) 封國、諸侯等が受領する國

ほうこん(名) 縫痕、ぬひめ、つぎめ

ほうてい(名) 奉呈、たてまつる、進呈

ほうてつ(名) 棒鐵把、くまで

ほうてう(名) 北條(氏)

ほうてう(名) 寢鳥(五色にて冠ある鳥)(動物)

ほうてう(名) 北條九代、時政、義時、泰時、經時、時頼、時宗、貞時、經時、高時を云ふ

ほうてう(名) 北條五代、早雲、氏綱、氏康、氏政、氏直を云ふ

ほうじ(名) 奉仕、つかへまつる、奉事

ほうじ(名) 奉事、つかへまつる

ほうじ(名) 眸子、ひとみ、め、のたま

ほうじ(名) 嚙、(もうじ)ひのいるたよ、日没の谷

ほうじ(名) 謀士、はかりごとするひと、策士、軍士

ほうじ(名) 炊夫、めしたき、料理人

ほうじ(名) 焙茶等を火よかけけるを謂ふ

ほうじ(名) 奉書(將軍家執事の文書を云ふ)、又紙の名

ほうじ(名) 補助、たすく、つたふ、すける

ほうじ(名) 謀書、にせふみ、偽書

ほうじ(名) 奉書紙(越前の國よて製する厚く柔き紙の名)

ほうじ(名) 奉書紬(越前國福井より出す絹布の名)

ほうじ(名) 奉書、しげれる、翁書

ほうじ(名) 奉職、つとめる(官府よ)

ほうじ(名) 蓬室、よもぎふきのいへ、茅屋

ほうじ(名) 瞳奥、かひくさき

ほうじ(名) 豐穰、ゆたか、みのりよき

ほうじ(名) 哀輯、あつめる

ほうじ(名) 鳳子蝶、あげはのてふ(動物)

ほうじ(名) 蓬子菜、かはらまつば(植物)

ほうじ(名) 哀聚、あつめる

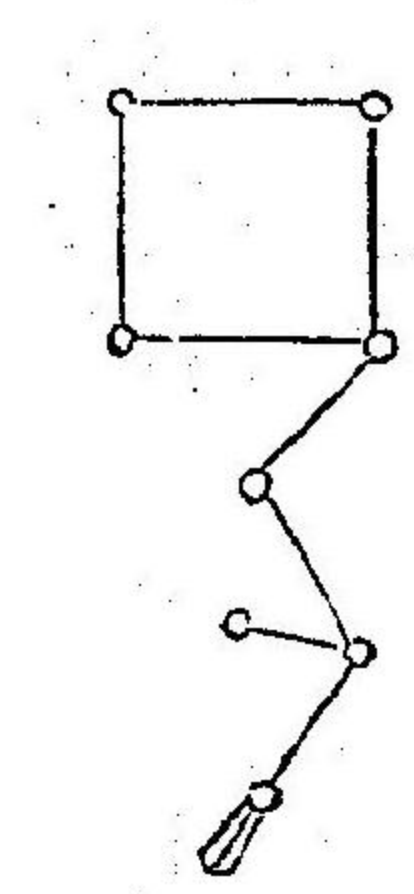
ほうじ(名) 蓬首、ちらしがみ、みだれがみ、蓬頭

ほうじん 蓬心、きたなきこころ
 ほうじん(名) 鋒刃、ほこさき、きつさき
 ほうしん(名) 謀臣、ばかりごとをめぐらすけらい
 ほうそ(名) 割壤、さけやぶれる、われる
 ほうい(形) 豊盈、こねふとれる、肥満、又ゆたかなる
 ほうい(名) 蜂腰、こしをれ(自詠の和歌を卑下していふ詞、また細腰)
 ほうい(名) 縫掖、逢掖、大袂の衣をいふ、大衣
 ほうい(名) 貿易、あきなひ、交易、うりかひする
 ほうい(名) 貿易場、あきなひば
 ほうい(名) 貿易商、あきなひんど、外國人と取引する人
 ほうい(形) 豊衍、ゆたか、たくさん
 ほうい(形) 豊麗、ばつちやり、ばてばて、むつくりふとれる
 ほうい(自) 奢侈、ひろがる、のびる
 ほうい(名) 蓬肥、ゆたかよこねたる、ふとれる
 ほうい(名) 蓬輝、ふなやかた(舟上の屋根)
 ほうい(形) 豊美、ゆたかよ、うるはしき
 ほうい(名) 鳳尾、とらのを(植物)
 ほうい(名) 鳳尾竹、ほういうちく、とようちく、くわんねんちく(植物)
 ほうい(名) 蓬葦、わらや、いやしきいへ、蓬室、蓬門、蓬戸、葦戸

ほうい(名) 鳳尾蘭、かやむしろ(植物)
 ほうい(名) 鳳尾草、はながくさ、うらじろ、やまわらび、きじのをした(植物)
 ほうい(名) 鳳尾松、そてつ(植物)、ほういせうを見よ
 ほうい(名) 鳳尾蕉、鐵蕉、火蕉、そてつ、からなづか(植物)
 ほうい(名) 捧物、ささげもの
 ほうい(名) 蓬門、よもぎのかど、葦門
 ほうい(名) 鳳紋賞牌、鳳凰のつきたる賞牌
 ほうい(名) 封舌、くちどめ、封口
 ほうい(名) 鳳詔、みことりのり、勅詔
 ほうい(名) 奉詔、みことりのりうけたまはる
 ほうい(名) 鳳鳥、天子の御香を云ふ
 ほうい(名) 奉饗、神に供する食物を云ふ、みけ、御供
 ほうい(名) 豊美、ゆたか、さは、ねはき、澤山
 ほうい(名) 鋒尖、ほこさき
 ほうい(名) 俸錢、俸金に同じ、さふきん
 ほうい(名) 鳳仙花、つまくれなる、きんほうくわ、菊婢、小桃紅(植物)
 ほうい(名) 崩、かむわがりする(崩御に同じ、天子の死をいふ)
 ほうい(名) 烽燧、のろし
 ほうい(名) 鳳髓、八珍美味中の一
 ほうい(名) 綉、かぶりもののひも、れひかけ
 ほうい(名) 火焰、はむら、燄、焔
 ほうい(名) 朗朗黎明、味爽、夜の明けかかれる貌、う

すあかるく
 ほのほ(名) 笑惑、あかりぼし、火星
 ほのほ(副) 側開、仄開、かすかに、うすうす、ちらりと
 ほのほ(名) 暁暁、ゆふぐれ、暁黒、薄暮、ひぐれ
 ほのほ(形) 味莫、味爽、うすく、らさ
 ほのほ(他) 風誘、よほはす、それとなくしらせる
 ほのほ(自) 髣髴、はのかにある、うすうすみゆる。發微光、かすかよひかる
 ほのほ(自) 髣髴、見、うすうすみえる
 ほのほ(他) 祝、いはふ、しゆくする(人または新築など、ほかひする(古語))
 ほのほ(名) 反古、ほうぐを見よ
 ほのほ(名) 墨、すみ、てがみ(書翰)
 ほのほ(名) 僕、やつがれ、こもの、しもべ
 ほのほ(他) ト、うらなふ、えらぶ(居所を)
 ほのほ(名) 痔、黒子、贅子、黒痔、あざ
 ほのほ(名) 幽蘭、米米香、しゆんらん(植物)
 ほのほ(他自) 暴露、さらす(隠、さらさるる、あらはにある)
 ほのほ(他) 北陸道(越路一般の稱、若狭、越前、加賀、能登、越中、越後、佐渡を含む)
 ほのほ(名) 木把、さらひ、きのくまで
 ほのほ(名) 木馬、きのうま(玩具)
 ほのほ(名) 牧馬、うまをかふこと、又琵琶の名
 ほのほ(名) 北焙、火の異名
 ほのほ(名) 木牌、きふだ
 ほのほ(名) 木防己、つづらふち(植物)

ほのほ(名) 牧伯、つかさ、をさ、かしら、侯伯
 ほのほ(名) 木盤、きばん
 ほのほ(形) 穆穆、威徳盛んなる貌、また深く敬ぶ貌
 ほのほ(名) 墨本、いしずり(石上の文字と紙にわたる者)
 ほのほ(名) 北斗、ほくとう(とみよ)
 ほのほ(名) 墨斗、すみつば、やだて(大工の用ふる)
 ほのほ(名) 木兔、つくみみづく、さず(動物)
 ほのほ(名) 木蠹、きくひむし(動物)
 ほのほ(名) 北斗香、めぐすりのな
 ほのほ(形) 木訥、ふこつ、かざりなき(田舎人の如く)
 ほのほ(名) 北斗(即ち遁)
 ほのほ(名) 狼、巨明、祿存、文曲、廉斗(北)
 眞武曲破軍の七星(圖の)
 ほのほ(名) 木頭、きざね、
 ほのほ(名) 幞頭、かうぶり、づきん、まつかふ
 ほのほ(名) 牧童、うしかひわらべ、くさかりわらは
 ほのほ(名) 僕童、こもの、わらは
 ほのほ(名) 火口、黒消引、火木、火絨、引火梁、ひをとるわた、ひをうちつけるわた
 ほのほ(名) 火絨盆、ほくちといれるはこ、ひうちばこ
 ほのほ(名) 牧畜(家畜とかふ事)、うしひつじなどかふこと
 ほのほ(名) 牧場、まき、まきば、くさち
 ほのほ(名) 僕着、かびつく、かびてくつつく
 ほのほ(名) 木幸、からばけ、楂楹(木瓜の類にして其果味



ほくろ(名) 木履、げた、きのはきもの
 ほくり(名) 木理、きのめ(木の文理)
 ほくりう(名) 木櫃、ふしこぶ
 ほぐわ(名) 牡瓦、をがはら(上にかぶせる屋根瓦)
 ほくわ(名) 蒲黄、かつみ(植物)
 ほくわく(名) 捕獲、とらへる、めしとる
 ほくわん(名) 捕完、たぎなひたす
 ほくが(名) 木芽、きのめ
 ほくかい(名) 北海、きたのうみ、北洋
 ほくかいだう(名) 北海道(日本八道の一にして舊蝦夷地の稱)
 ほくかうたう(名) 木銃刀、きばさみ
 ほくかく(名) 墨客、文人、騷人、みやびびと(文事を業とする人)
 ほくだう(名) 北堂、ははきみ、ははさま、母堂
 ほくたう(名) 木桃、こぼけ(木瓜の類にして其實味酸し)(植物)
 ほくたう(名) 木刀、きだち、こだち
 ほくたく(名) 木鐸(木舌の鈴をいふ)、警醒者、よをみちびくもの
 ほくたん(名) 木淡、さざはしがき、さざらしがき、さざがき(植物)
 ほくれい(名) 北嶺、比叡山を云ふ
 ほくれい(名) 僕隸、しもべ、ぬぼく
 ほぐれる(名) 解放、とける、はとける
 ほくそ(名) 火絨、ほくち

ほくそわらひ(名) 北叟笑、すこしくわらふこと、にこにこわらひ
 ほくそがほ(名) 北叟顔、わらひがほ、にこにこがほ
 ほくそづきん(名) 北叟頭巾、宗十郎頭巾の類、芋屑頭巾
 ほくそく(名) 僕遊、ちゑたらぬ、やくにたたぬ
 ほくぞく(名) 木賊、とくさ(植物)
 ほくそそむ(名) 北叟笑、微笑、にこにこわらふ、すこしくわらふ
 ほくつ(名) 木槌、さいづち、きづち
 ほくくない(名) 木乃伊、みいら、にいら
 ほくら(名) 木螺、動物
 ほくぐわ(名) 墨畫、すみゑ、すみにてかきたるゑ
 ほくくわんじゆ(名) 木槌樹、もくげんじ、つぶのき(植物)
 ほくぐら(名) 木偶、きにぎやう、きばとけ
 ほくやう(名) 牧養、かひやしな(家畜等を)
 ほくまく(名) 蹠膜、みづかき、水鳥海獸等の脚の
 ほくけい(名) 墨刑、いれずみ
 ほくけつ(名) 北闕、禁裏をいふ、宮闕
 ほくげつ(名) 睦月、むつき(正月の異名)
 ほくけん(名) 木劍、きだち
 ほくふ(名) 蹄跡、ちりふ、つまづきたふる
 ほくぶつ(名) 木佛、たちすくみ
 ほくふう(名) 北風、きたかせ、かへしつ
 ほくふやう(名) 木芙蓉、きばちす(植物)
 ほくこく(名) 北國、きたぐに

ほくごみし(名) 北五味子、まつぶさ(植物)
 ほくごじゆ(名) 木鎗樹、つぶのき(植物)
 ほくてい(名) 木槌、きのてこ
 ほくてい(名) 木釘、きぎぎ
 ほくてふ(名) 木礫、きざら
 ほくてふ(名) 墨帖、いしずりのてほん
 ほくてき(名) 北狄、きたえびす、北夷、北胡
 ほくてき(名) 牧笛、うしかひぶえ、牧者の吹く笛
 ほくさつ(名) 木札、きふだ
 ほくさつ(名) 撲殺、うちころす、たたきころす(犬等と)
 ほくさう(名) 牧草、牛馬を放し飼ふ所の草
 ほくさ(名) 卜龜、うらなひ龜筮
 ほくさ(名) 卜居、をりどころをみたてる、いへとさだむる
 ほくさ(名) 墨魚、いかすみらを、烏賊(動物)
 ほくさ(名) 北極、きたのはて
 ほくさ(名) 北極星、北辰(北極の上より現るる星、天極、紫微宮)
 ほくさ(名) 牧牛、うしとかふこと、野(て)
 ほくさ(名) 牧牛場、うしかひば
 ほくさ(名) 木櫃、きわく
 ほくさ(名) 木疆、きこつ、かざりなき、木訥
 ほくさ(名) 撲滅、うちけそ、たやす(火患疫等を)
 ほくさ(名) 北面、禁庭院中宿直の士をいふ、臣下、けら(帝王の)
 ほくさ(名) 穂組、つみたるいね、いなひら、いなづみ
 ほくみん(名) 牧民、たみをとさむる(知事などが)

ほくし(名) 火櫛、火串、松明をばさむ木或は松明自身、又はなびづつ
 ほくし(名) 牧士、うまかひ
 ほくし(名) 牧師、教會の長、教師
 ほくし(名) 木脂、きのや
 ほくし(名) 木耳、さるのこしかけ、さくらげ、みみたけ(植物)
 ほくし(名) 木虱、きじらみ
 ほくし(名) 木櫛、きぎぎのくし
 ほくし(名) 木質、きのみ、このみ、くだもの
 ほくし(名) 卜日、ひどりき、ひをえらぶ、選日
 ほくし(名) 僕從、しもべ、ともびと
 ほくし(名) 牧者、ひつじかひ、牧畜者、牧師
 ほくし(名) 卜者、うらなひし、占考者
 ほくし(名) 木匠、だいく、たくみ、番匠
 ほくし(名) 木廠、きごや
 ほくし(名) 撲傷、うちきず、うちみ
 ほくし(名) 木株、きりかぶ、こかぶ
 ほくし(名) 北辰、北極星(同じ)
 ほくし(名) 卜人、うらなひし、卜者
 ほくし(名) 牧人、牧者(同じ)
 ほくし(名) 木癩、きこぶ、木癩、きこぶ
 ほくし(名) 北越、きたこし、越後の國をいふ
 ほくし(名) 北越、きたこし、越後の國をいふ
 ほくし(名) 良勝、柿崎景家を云ふ
 ほくし(名) 木液、きのや、きのしる
 ほくし(名) 僕婢、ぬひ、下男、下女

ほくひようやう(名) 北氷洋、きたのこほりうみ

ぼくせい(名) 卜筮、うらなひ、龜卜

ぼくせき(名) 墨蹟、手跡筆跡、かきもち

ぼくす(他) 解、とく、ほごす

ぼくす(名) 墨氷(東京隅田川を云ふ)

ぼくす(名) 謨訓をしへ、訓誡、いましめ

ぼく(名) 寄生木、寓木、やどりき(植物)

ほや(名) 穂屋(稻等を入るる納屋)、いなづみ、かりや

ほや(名) 海蛸、石脚、紫蛙、龜脚、老海鼠(海中の生物)として

ほや(名) 他物に寄生す、やどかり(動物)

ほや(名) 燈筒、燈罩(ランプのはや)

ほやかうろ(名) 寶屋香爐(香爐の名)

ほやう(名) 一する(他自) 保養、なぐさみ、やすめやしなふ、養生

ほやく(名) 補藥、たぎなひぐすり

ほやけ(名) 火燒、火まやかかるる事、やけど

ほま(名) 牡麻、あざ(植物)

ほまへせん(名) 帆前船(帆まてはしる船舶をいふ)、ほふ

ほま(名) 私得、まうけ、わたくしのまうけ、役徳

ほまれ(名) 譽、名譽、名聞、名聲、榮譽、よきな

ほけ(名) 炎氣、あつさ、熱氣、ほとぼり

ほけ(名) 木瓜、鐵脚梨、檜子、きのな(植物)

ほけい(名) 圃畦、はたけのうね

ほけい(名) 誤計、ばかりごと、計畧

ほけい(名) 模形、ひながた、かた

ほけい(名) 牡荆、いばら(植物)

ほけい(名) 模型、いものかた、いかた

ほけい(名) 恍惚、こともらしき、ぐまかへれる(老人等が)

ほける(自) 老耄、惚耄、れいぼれる、ほればれする

ほけた(名) 帆柱、帆架、帆檣の横木

ほけつ(名) 補闕、かけたるをねぎなふ

ほけつ(名) 墓碣、はかじりし、石碑、つか

ほけつ(名) 塙土、くろつち

ほけん(名) 一する(他) 保險(非常の時の損害の償ひをう

けあふ事)うけあふ

ほけん(名) 保險料(保險するため取る金)

ほけん(名) 保險會社(保險する會社)

ほふ(名) 捕夫、とりて

ほふ(名) 逋負、ひきたひ

ほふ(名) 法衣(僧徒の服)、法服

ほふり(名) 屠場、うしろし(牛豚などを屠る場處)

ほふる(他) 屠、ころす、屠殺、重み獸を、はげしくころす

ほふつ(名) 繡黻、錦の類の織物

ほふね(名) 帆船、ほまへせん(同じ)

ほふく(名) 匭、はらばらふはふ

ほふせつ(名) 一する(自) 乏絶、とぼしくなる、つきる、たえ

ほこ(名) 戟、戈矛、は

ほこ(名) 鋒、はこ槍、やこ

ほこ(名) 架、架鷹の架、の

ほこ(名) 反故、はう(圖

々を見よ)、はぐかみ

ほでり(名) 颯母、おかぞら海上まで空赤くなる事、颯

風の起る徴、又ゆふやけ

ほわし(名) 帆船、帆の下の縁をいふ

ほさ(名) 一する(他) 輔佐、補佐、たさくる(君等を)、ほよく(を

見よ)

ほざい(名) 補劑、たぎなひぐすり

ほざ(名) 帆竿、はばしら(船の)

ほざ(名) 穂坂(氏)

ほざつ(名) 菩薩、佛陀の如き者

ほざつ(名) 簿冊、帳面、賬記、ちやうめん

ほざつ(名) 菩薩石、井泉石に同じ

ほざつ(名) 菩薩豆、續隨子、こはづ(植物)

ほざう(名) 一する(他) 模造、もぞう、まねつくる、擬作

ほざく(他) 言、いふ、いひ、いひだす

ほざく(他) 視、はぐ、いはふ

ほざく(名) 一する(他) 摸索、もさく、さがす、たづぬる、さぐり

ほざ(名) 銚、銚、さつささ

ほざ(名) 穎、のげ(穂の尖の刺ところ即ち穂の鬚)の

ほざ(名) 蒲葵、びろう(植物)

ほざ(名) 簞簋、支那の祭器

ほざ(名) 一する(自) 模擬、もぎ、まねる、

擬作

ほざ(名) 母儀、ははご、ははれや

ほざ(名) 記簿法、帳記法、ちや

ほころ(自) 綻、やぶれる、さける、さける

ほころ(名) 綻、破綻、やぶれぬひめざけ

ほこほ(形) 煥煥、はかほか、あたたか

ほこり(名) 埃、ちり、流塵、緋塵、ごみ、塵埃

ほこり(名) 零餘、算數、又言ふ、崎零、はした

ほこりがほ(名) 誇顔、ほこれるれもちほこらしくなる

かほつき

ほこりたけ(名) 馬勃、まぐそたけ、めつふれたけ、みみつ

ふし(植物)

ほこる(自) 誇、倭、傲、矜、誇稱、矜慢、夸大、たかぶる

ほこだち(名) 根(門の左右の柱を謂ふ)、ほうだて

ほこだて(名) 根、ほこだち、ほうだて

ほこつ(名) 輔骨、つらぼね、つらかまぢ

ほこら(名) 叢祠、神殿、祠廟、やしろ

ほこら(名) 蒲公英、たんばば、ふぢな、つつみくさ(植

物)

ほこさき(名) 鋒、ほこのきつさき

ほごす(他) 解、とく、ほごす、解放

ほごん(名) 暮昏、ひくれ、たそがれ、黄昏

ほて(名) 蒲搭、火を消す具

ほて(名) 帆手、帆を上ぐる綱、又は

ほて(名) 最手、相撲の第一なる者、たはせき

ほていばら(名) 布袋腹、ふくればら

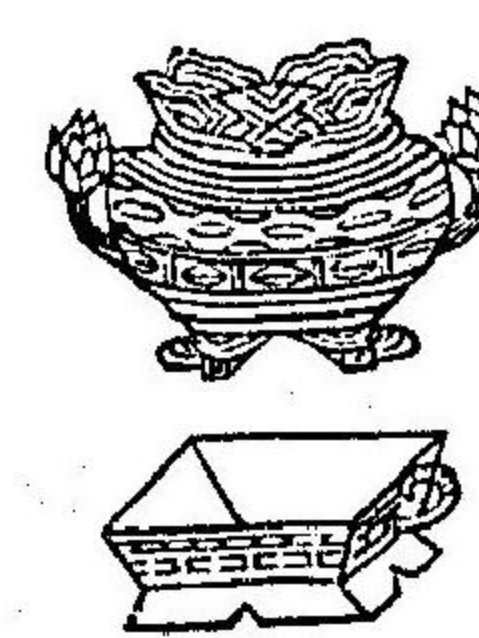
ほてい(名) 布袋和尙(七福神の一)

ほていちく(名) 人面竹、たけのな(植物)

ほてばら(名) 肥腹、ふくればら

ほてり(名) 炎熱、あつさ、熱氣

(圖の簞簋)



ほんいつする(自) 奔逸はしりすぎる、かけだす(馬が)
 ほんのん 本院、れもなるいへ。このいへ
 ほんば 本場、まことのところ、ほんばしよ
 ほんばい(名) 梵唄(佛經を誦するを云ふ)
 ほんばつ 本末(ほんまつ)もどす、始末
 ほんばう 本邦、わがくに、このくに。本國
 ほんばう(名) 本坊、本院、かしらのてら
 ほんばこ(名) 本箱、書函、書棚、しよもつばこ
 ほんに(俗) 本、眞、ほんまに、じつに
 ほんに(名) 本人、當人、そのひと
 ほんに(名) 凡人、なみのひと、ただびと
 ほんばち(名) 廩庫人(糶米の久しく倉中に在て陳くなりたるを云ふ)、陳廩米
 ほんぼり(名) 梢、穂子、穂穂子、みみはらひ(耳の垢を除くものを云ふ)
 ほんぼり(名) 雪洞、行燈、えつきぢやうちん
 ほんぼん(名) 肇、肇(鼓の音)
 ほんど(名) 本土、ほんどく、生國、うまれどころ
 ほんど(名) 磅(英國貨幣の名、わが四圓八十錢餘にあたる)
 ほんど(名) 封、斤(英語百十二文目)
 ほんち(名) 本地、ほんどく、本土、うまれどに
 ほんち 凡智、なみのちる
 ほんち(名) 奔女、いたづらむすめ
 ほんちすいじやく(名) 本地垂跡(神佛の假に現はるるを云ふ)
 ほんぢん(名) 本陣、牙營、大將の居る處
 ほんりよ 凡慮、なみのかんがへ

ほんりやう 本領、れのりやうふん、領地
 ほんりん(名) 梵輪、ぶつせんのかのみ
 ほんをつくる 作本、著書、著述、述作、著作
 ほんをわむ 編本、纂修、編纂、編輯、編集
 ほんれん(名) 梵音、佛音、ほとけのこゑ
 ほんわうきやう(名) 梵王宮、天上梵天王の宮殿
 ほんがう 本郷(氏)また地名、町名
 ほんかく(名) 梵閣、てら、佛寺
 ほんよう(自) 溢瀆、わさびづる
 ほんよう(形) 凡庸、よのつね、なみなみある
 ほんだ 譽田、こんだ(氏)
 ほんだ 本多(氏)
 ほんたい 本體、まことのすがた
 ほんたい(名) 本臺、書架、けんたい
 ほんたい(名) 梵臺、てら、梵刹
 ほんだはら(名) 神馬漢、海藻の名(植物)
 ほんだな(名) 本棚、書棚、しよたな
 ほんだな 本店、正店、老行、もとのみせ
 ほんたう(俗) 本當、まこと、眞實
 ほんたう 奔瀆、はやなみ、われなみ
 ほんたう(名) 本道、内部の病を治する醫を云ふ
 ほんたう(名) 本堂、寺院のねもや
 ほんたうか(名) 本道家、ほんたういしや
 ほんたうか(名) 本宅、まことのいへ
 ほんたう(名) 本筆、筆、書、刷、ほんばこ
 ほんたう(自) 奔走、はしりまはる。はねをる
 ほんたう 凡僧、よのつねのばうず

ほんそう(名) 梵嫂、だいく、梵妻(僧輩の妻をいふ)
 ほんぞく(形) 凡俗、よのつね、ただびと
 ほんぞん(名) 本尊、れもなるほとけ
 ほんつ(名) 書袋、書囊、ほんぶろしき
 ほんねだん 本直段、正價、實價、定價、まことのあたひ
 ほんねん 本年、ことし、今年、當年
 ほんなら(名) 煩惱、わづらひ、なやみ、よのわづらひ
 ほんらい(形) 本來、もとより、生來
 ほんらう(名) 盆雨、れはあめ、れはぶり
 ほんのう(名) 本能、能力、ちから、才能
 ほんのくぼ(俗) 頸凹、頸窩、ちりげ
 ほんのこ 實子、うみのこ、まことのこ
 ほんく(名) 盆供(盆祭のそなへもの)
 ほんくわい(名) 本懷、本意、まことのねがひ、もとよりののぞみ、本望
 ほんくわにん(名) 犯科人、どがにん
 ほんくわさう(名) 反花癡(女陰病の名)
 ほんくわん(名) 本貫、本籍(己れの籍の在る地)。うまれどころ、こきやう
 ほんぐわんじ 本願寺、眞宗の本山にて東西兩寺あり
 ほんぐう 本宮、本殿、れもなるみや
 ほんや(名) 本屋、書肆、書店、書林、しよもつや、ほんうり
 ほんやり(俗) 漠然、曖昧(あきらかならぬ貌)。又愚魯、わろからしき、かしこげあらぬ
 ほんやく(名) 翻譯、うつつ、やくする(他國の語を別の國語になはすを云ふ)
 ほんま(俗) 眞實、眞正、正實、正眞、誠實、ほんたう

ほんま 本間(氏)
 ほんまる(名) 本丸、中城、牙城、内城、ねじろ
 ほんまつり(名) 盆祭、ぼん、ぼんのいはひ、たまよびまつり
 ほんまう(名) 本望、本懷、かねてののぞみ、宿願
 ほんけ(名) 本家、宗家、本宗、正統、もとのいへ
 ほんげ(形) 凡下、いやしき、なみなみなる
 ほんげつ(名) 本月、このつき、今月、當月
 ほんげん(名) 本源、みなもと、もと
 ほんご(自) 奔趨、はしりたもむく、ゆきむかふ
 ほんご(名) 本部、もとのば
 ほんご(名) 唧筒、みづあげきかい、龍吐水
 ほんご(名) 凡夫、よのつねのひと
 ほんご(自) 本復、いゆる、なほる
 ほんご(名) 噴壺、みづふき、じやうろ
 ほんご(名) 梵語(天竺の古語)
 ほんご(自) 翻刻、ふたたびはる(書物を板に、再版)
 ほんご(名) 本國、うまれどに、故郷
 ほんごん 香港、支那國開港場の地、今英國に屬す
 ほんてい(名) 本邸、かみやしき、たもなるやしき(貴人の)
 ほんてう 本朝、わがくに
 ほんてう(名) 奔潮、はやなみ、はやしほ
 ほんてうし(名) 本調子(音樂の調子の名)
 ほんてん(名) 本廬、本店(ほんだなをみよ)
 ほんてん(名) 梵天、惡魔と攘ふ所の物
 ほんてん(名) 梵天(梵天王に同じ)
 ほんてんわう 梵天王、色界天王(天竺人が最尊の神とし

造化主宰とせし者
 ぼんでんうり(名) 白甜瓜(植物)
 ぼんでんくわ(名) 小椋花(植物)
 ぼんでんごめ(名) 梵天米(植物)
 ぼんわん(名) 翻案(舊案を翻して新様に易へる事)
 ぼんざい(名) 本妻嫡妻正室(まことのつま)
 ぼんざい(名) 盆裁(はちうゑのき、はちのき、はちうゑも
 の)
 ぼんざい(名) 犯罪とが、つみ
 ぼんざう(名) 本草(植物、くさき)
 ぼんざうか(名) 本草家(植物學者)
 ぼんざうかく(名) 本草學(植物學、植物學)
 ぼんざふ(名) 春申、もつこう
 ぼんざん(名) 本山、ほんもとのてら、本寺
 ぼんざん(名) 本義、まことのいみ、本解
 ぼんざん(名) 春菖、ふぢ
 ぼんざん(名) 盆魚(金魚に同じ)(動物)
 ぼんざん(名) 本郷、ふるさと、舊郷、故郷
 ぼんざん(名) 叛逆、むほん、そむくこと
 ぼんざん(名) 本金、まことのこがね
 ぼんざん(名) 奔命、ほんそう(奔走)
 ぼんざん(名) 焚滅、やきほろぼす
 ぼんざん(名) 焚滅、やきほろぼす
 ぼんざん(名) 他自、たごみ
 ぼんざん(名) 本名、實名、まことの名
 ぼんざん(名) 凡民、なみのたみ
 ぼんざん(名) 本始、はじめ
 ぼんざん(名) 本支、もとねだ、もとのいへ及わかれのいへ

ぼんせつ(名) 梵刹、てら、寺觀
 ぼんせん(名) 本膳(饗宴の時に出す第一の膳)
 ぼんせん(形) 本然、もとのままなる。自然、天然、たのづか
 らなる
 ぼんせんじゆ(名) 本錢主、金主、かねぬし、しほんぬし
 ぼんせんじゆ(名) 噴水器、ふんするき、みずふきかけ
 へ(名) 閉、邊、へ、辨、べ。是は「ふ」の父音と「え」の母韻と合
 して生ずる音にて五十韻の中において第六行第四
 段に位す
 へ(名) 舳(舟の前頭をいふ)、へさき、みよし、船
 へ(名) 笄、かめ、やきものどくり(古代の)
 へ(名) 邊、はどり、ちかま
 へ(名) 部、わかち、ぶ
 へ(名) 屁窠、尻より出る風、ねなら
 へ(名) 戸、いへ、ひどかす
 へ(名) 重、かさね、かさなり(常に「え」と響かす)
 へ(後置詞) 方、かたに、に
 へ(名) 兵、つはもの、兵卒
 へ(副) 唯、人の言に答ふる詞、はい
 へ(名) 丙、十干の第三、ひのえ
 へ(名) 嬖、さし、いり
 へ(名) 塀、塙、塙、かさね、かこひ
 へ(名形) 弊、つひに、あしきくせ。又、あしきき、わが、われ
 ちの(謙遜の詞)

ほんじ(名) 本寺、もとでら(末寺に對す)
 ほんじ(名) 梵宇、しつたん(天竺の宇)、サンスクリタもじ
 ほんじよ(名) 本署、ほんもとのやくしよ
 ほんじよ(名) 本所、ほんもとのところ、もとのところ
 ほんじよ(名) 梵鐘、てらのかね
 ほんじよ(名) 本色、もちまへ、眞面目
 ほんじよ(名) 本職、もちまへのつとめ、われ(官吏が自ら言
 ふ詞)
 ほんじつ(名) 本日、今日、けふ、このひ
 ほんじや(名) 本社、もとみや、神社の)。又、本會社(會社の本
 店を謂ふ)
 ほんじやう(名) 本性、まことのころね、本體、まことの
 かたち
 ほんじやう(名) 本城(氏)
 ほんじやう(名) 本莊(氏)
 ほんじやう(形) 凡常、よのつね、なみ、凡庸
 ほんじき(名) 本式、まことののり(略式に反對す)
 ほんじゆ(名) 本主、もとのぬし、もちぬし
 ほんじん(名) 本心、もとのころね、また良心、是非之心、よ
 しあしとせるころ
 ほんしん(名) 凡身、よのつねのからだ
 ほんしん(名) 本營、ほんぢん(本陣)、たいしやうのぢんし
 ほんひ(形) 凡卑、いやしき
 ほんもん(名) 本文、書物の本文にて註脚に非ざるをいふ、
 ほんもん(名) 梵文、ぼんじ(梵字)、又てんぢくことば
 ほんせい(名) 奔星、ながればし、よばひぼし

へ(名) 幣、たから、たぎもの
 へ(名) 丙、うをのを、さかなのしりを
 へ(する) 他、聘、招聘、まねきよする。たのむ
 へ(名) 米、こめ、又(アメリカの畧に用ふ)
 へ(名) 弊衣、やぶれころも
 へ(名) 秉彜、うまれつき、天性、道徳性
 へ(する) 他、平夷、たひらげる
 へ(形) 平易、やさしき、たやすき、わかりやすき
 へ(名) 兵威、つはもの、いさひ、兵力
 へ(する) 他、併有、あはせたもつ、かねあはせる
 へ(名) 柄愛、ねほいなるうれひ
 へ(名) 弊色、わがく(弊を見よ)
 へ(する) 他、蔽陰、蔽隠、ねほひかくす
 へ(名) 兵員、つはもの、兵士
 へ(名) 米飲、ねもゆ
 へ(する) 他、閉籠、とぢこもる、とぢこめる
 へ(名) 兵馬、いくさ(軍旅の事をいふ)、軍事
 へ(する) 自、弊敗、やぶれる
 へ(する) 自、病態、やみつかれる
 へ(名) 平方、平らなる者の面積
 へ(名) 米苞、米俵、こめだはら
 へ(名) 幣帛、ぬさ、みてぐら、たぎもの
 へ(名) 兵法、いくさのみち
 へ(名) 弊藩、わがはら(謙遜して云ふ詞)
 へ(名形) 平板、さまりきつたる、へんくわなき、れも
 へ(する) 他、平反、平翻(訴訟を再び整理するをい

ふ、しらべなほす
 へいじん(名) 平人、あみのひと、ただのひと
 へいば 弊舖、わたくしのみせ
 へいば 閉舖、みせをしまふ、閉店
 へいばう 兵鋒、つばもののほこさき
 へいばう(名) 莽蓬草、かはほね(植物)
 へいぼく(名) 蹠踏、たふれしぬる
 へいぼん(形) 平凡、なみなみの
 へいへい(形) 萍萍、萍蓬草のあつまりはえたる貌
 へいへい(名) 聘幣、進物、れくりもの
 へいへう(名) 柄瓢、ひしやく
 へいどう(名) 彼得堡、露西亞の首都の(名)
 へいどう(形) 平等、たいらかにひとしき、れなじき
 へいどう(名) 弊害、弊害に同じ、あしきしくせ
 へいどん(名) 并呑、のみほろぼす(國圖と)
 へいち 平地、たひらち、ろくぢ
 へいち(名) 平治、をさめる(天下を)
 へいち(名) 屏除、しりぞけのぞく
 へいち(名) 嬖女、れもひもの、とばめ、きにりをんな
 へいち(名) 閉帳、かいちやうのをはり
 へいち(名) 兵杖、刀剣弓箭を帯する護衛者
 へいち(名) 閉場式、ばをどつるしき、博覽會等の
 へいち(名) 平鎖、たいらげしづむる
 へいち(名) 薛荔、こづた(植物)
 へいち(名) 兵力、つはもの、のちから
 へいち(名) 並立、ならびたつ
 へいち(名) 平陸、平地、たひらち、ひらち

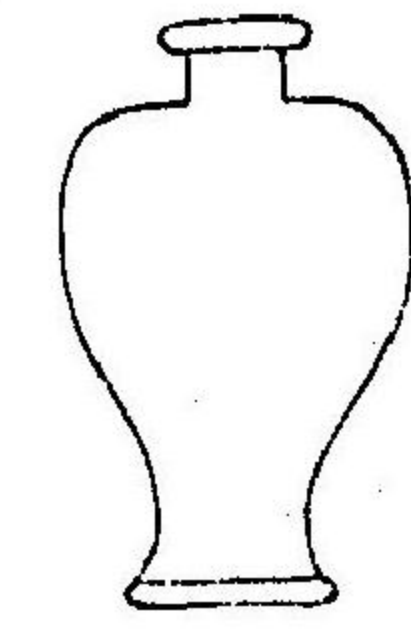
べいりふ(名) 米粒、こめつぶ
 べいりふ(名) 米廩、米倉、こめぐら
 へいをく 弊屋、わたくしのいへ、わがや(謙遜の詞)
 へいたん(名) 平穩、れだやか、しづか
 へいわ 平話、つねのはなし
 へいわ(名) 平和、やわらぎ、れだやか
 へいか(名) 兵家、軍學士、武弁、ぶし
 へいか(名) 陛下、みかど(天子の尊稱)
 へいか 弊家、わがいへ(弊屋をみよ)
 へいか(名) 米價、こめのあたひ
 へいか(名) 米賤、あみ、こまかきえび(動物)
 へいかい 閉開、あけたて
 へいかい(名) 弊害、弊害、あしきところ、わるいくせ
 へいかう(名) 嬖幸、きにりもの
 へいかう(名) 並行線、ならびゆくまぢ
 へいかう(名) 兵革、よろひたち、いくさのうつは
 へいかう(名) 兵學、いくさのがくもん、いくさのみち
 へいかく(名) 兵革之事、いくさ、兵馬之事
 へいかく(名) 閉關、とつるしめる(門戸などを)
 へいかん(名) 兵艦、いくさぶね、軍艦
 へいかん(名) 米泔、こめのしる
 へいたい(名) 兵隊、いくさびとのくみ、つはもの
 へいたう(名) 兵道、いくさのみち
 へいたく 弊宅、弊屋に同じ
 へいたく(名) 弊宅、あちこちにみをよせる
 へいたん(名) 兵端、いくさのはし、たたかひのはし
 へいたん(形) 平坦、たひら、ひらつたき

へいたん(名) 平旦、よあけ、平明、よのひさあけ
 へいだん(名) 餅餠菓子(の)名
 へいれい(名) 聘禮、結納、れくりもの(婚姻等の)
 へいれつ(名) 並列、ならぶ、そらぶ
 へいそ(名) 平素、ふだん、つねづね、平常
 へいそ(名) 兵卒、つはもの
 へいそ(名) 平僧、ひらばうす(教導職以下の僧、なみの
 ばうす)
 へいそ(名) 閉塞、とぢふさぐ、ふさがる
 へいそ(名) 揮東、よせたばねる
 へいそ(名) 幣束、みてぐら、御幣
 へいぞく(名) 弊俗、あしきしくせ、あしきしきたり
 へいぞく 米粟、こめあわ
 へいら(名) 薜蘿、つたかづら(植物)
 へいなう(名) 米囊花、けしのはな
 へいなう(名) 米囊子、けし(植物)
 へい(名) 病苦、ひやうく、やまひ、いたづま
 へい(名) 海牙、和蘭の都府
 へい(名) 兵具、軍器、いくさのうつは
 へい(名) 兵火、兵燹、いくさのひ
 へい(名) 萃果、れらんだりんご(植物)
 へい(名) 平臥、たひらにふす、よこねる
 へい(名) 米顆、こめつぶ
 へい(名) 米果、れこし、こめれこし
 へい(名) 平潤、たひらにひろき
 へい(名) 撞牆車、しろうくづし、たはづち
 へい(名) 拜寓、拜託を見よ

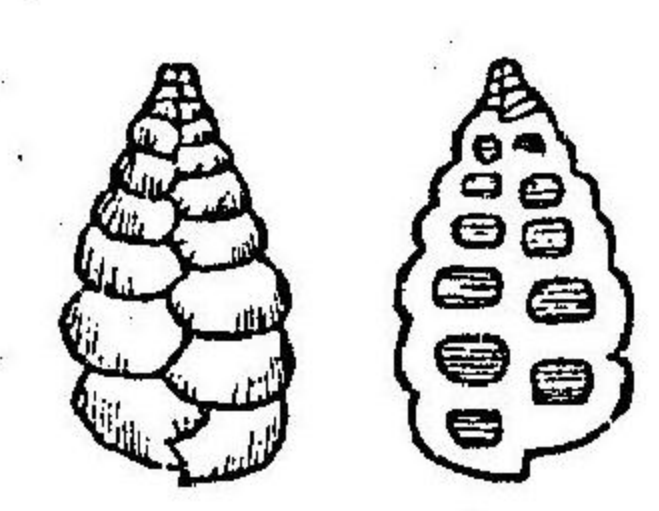
へいやく(名) 兵厄、いくさのわざはひ
 へいまん(名) 屏帳、とばりまく
 へいけい(形) 炳炯、あきらか、かがやく
 へいげい(名) 埤境、こまがき
 へいげい(名) 睥睨、みさげる
 へいげい(名) 平家蟹、車蟹、しまむらに、きよつねが
 に(動物)
 へいげき(名) 陸鼓、階下に鼓を持って警護する者
 へいけん(名) 平權、たひらなること
 へいけん(名) 兵權、いくさをいだしちから
 へいけん(名) 平絹、濃花色の絹
 へいげん(名) 平原、のはら、ひらの
 へいふ(名) 弊仆、たふれふそ
 へいふ(名) 屏拂、追放、たひはらふ
 へいふ(名) 幣物、しんもつ、れくりもの、つかひもの
 へいふ(名) 弊風、あしきならはし
 へいふ(名) 屏風、びやうぶ
 へいふ(名) 平伏、ひれふす
 へいふ(名) 平復、はんぶくする、病氣が
 へいふ(名) 平服、つねぎ、ふだんぎもの
 へいふ(名) 平分、たひらにわける
 へいふ(名) 米粉、こめのこ
 へい(名) 病故、やまひ
 へい(名) 鼙鼓、いくさつづみ
 へい(名) 兵庫、武器兵器を置く所、武庫、ぶきぐら
 へい(名) 屏語、私語、ささやき、ひそひそばなし
 へい(名) 米糊、ひめのり

へいこう[する]自 閉口、だまる、へこむ、まける
 へいこく 弊國、わがくに(弊をみよ)
 へいこく 米國(亞米利加國)
 へいこく(名) 米穀、こめ、こくもつ
 へいでい[する]他 平定、たひらげさだむる
 へいでい(名) 蔽泥、あふり(馬具)
 へいてん 閉店、みせをしまふ、閉鋪
 へいてん 弊店、わたくしのみせ、弊舖、卑下する詞
 へいわ(名) 病瀾、いたづき、やまひ
 へいわ(名形) 平安、やすきこと、れだやか。きげんよう
 へいわんじやう 平安城(山城國愛宕郡に在りし都府)な
 らのみやこ
 へいさ(名) 平沙、すなはら
 へいざ[する]自 平坐、ろくよゐる、したよすゐる
 へいざん(名) 平産、安産、たやすきさん
 へいさ(名) 兵器、もののぐ、いくさのうつは、武器
 へいさ(名) 兵機、いくさのはづみ
 へいさ(名) 平氣、きをたひらかよすること、又「俗」れちつ
 き、ひとんぢやく
 へいさよ[する]自 屏去、しりぞきさる
 へいさよ[する] 屏居、隠居、こもりをる
 へいさよ[する]自 閉居、とぢこもる
 へいさよ[する]自 並居、なみゐる、ならびをる
 へいさん(名副) 平均、ならし。ひきならす
 へいゆ[する]自 平愈、平復、反常、快復、本復、なほる、いへ
 る
 へいめ(名副) 平明、あけぼの、あくるころ、よあけ

へいみやく 平脈、つねにかはらぬみやく
 へいみん 平民、つねなみのたみ、華士族にあらぬ、白民
 へいし(名) 兵士、つはもの、いくさびと
 へいし 閉肆、みせをしまふ、閉店
 へいし[する]自 斃死、たふれしぬる
 へいし(名) 瓶子(酒を入れる器)
 へいし(名) 瓶子(酒を入れる器)
 とくり(大和國東大寺八幡宮
 藏胡德樂に用ふる所)
 へいし 平時、れだやかのとき、つ
 ねのとき
 へいしよ 兵書、軍書、兵法の書
 へいしよ(副形) 炳如、あきらか、煥然
 へいしよ(名) 兵食、軍餉、ひやうらう
 へいしよ(名) 併織、織貝類の
 動物)
 へいしつ(名) 蔽膝、ひざかけ
 へいじつ 平日、つねのひ、ふだん
 へいじやう(名) 陪從、ともびと(貴人
 のうたひと俗人の屬)
 へいじや(名) 兵車、いくさぐるま
 へいじや[する]他 蔽遮、さへぎりどむる
 へいじや 弊社、吾が會社といふ事)
 へいじや(名) 餅炙、かまぼこ
 へいじやう[する]他 蔽障、れはひさへさる
 へいじやう(形副) 平常、ふだん、つねづね、平素、居常、平
 生
 へいじやう 平城、なら(奈良)



(圖の子瓶)



(圖の蟲織併)

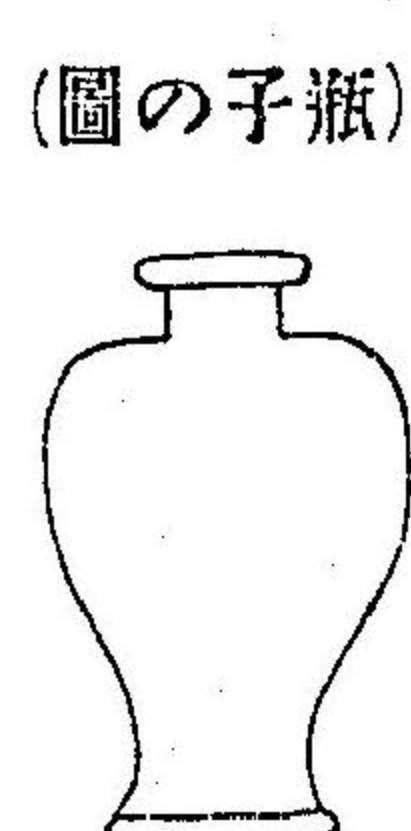
へいじやうてんわう 平城天皇、人皇第五十二代の帝
 へいじふ(名) 弊習、わじきならはし
 へいじゆ[する]他 并取、あはせとる
 へいじゆ(名) 並樹、なみき、列樹
 へいじゆつ 兵衛、いくさのみち
 へいしせうさう(名) 瓶子小菴、はなやすり(植物)
 へいしん 葬心、とりとめなきこと
 へいしん 平心、たひらかごころ
 へいしん 平信、ふじのたより、つねのてがみ
 へいしん(名) 嬖臣、きにいらたるけらい
 へいじん(名) 兵刃、やいば
 へいじん(名) 嬖人、きにいら
 へいしんわう 平親皇、平將門を云ふ
 へいはい(名) 兵營、陣營、つはものだむる
 へいはい(形) 炳耀、ひかりかがやく
 へいはい(名) 兵役、いくさのつとめ
 へいひ(名) 兵備、いくさのそなへ
 へいひかう(名) 米皮糠、こぬか
 へいもつ(名) 聘物、じんもつ、たくりもの
 へいもく 閉目、めをとづる
 へいもん(名) 聘問、ねどづれ、みまひ、訪問
 へいもん(名) 閉門、れしこめ(己れの家に)
 へいせい 兵勢、つはものいきはひ、兵力、兵威
 へいせい(形) 平靜、しづか、れだやか
 へいせい(名副) 平生、つねづね、平常
 へいせつ(名) 米屑、糲糠、小米、こごめ、くづれごめ
 へいせう[する]他 聘石、よふ、よびまねく、めしだす

へいせふ(名) 嬖妾、てかけ、そばめ、きにいらのをんな
 へいせき(名) 兵籍、つはものなふみ
 へいせん(名) 兵船、いくさぶね
 へいせん(名) 兵燹、兵火、いくさのひ
 へいせん(副形) 炳然、炳焉、いちじるく、あきらか
 へろへろや(名) 弱矢、よわきや
 へばりつく[自] 粘着、こびりつく、ねばりつく
 へに(名) 紅花、胭脂、胭脂粉、わかさるのぐ(唇等につく
 る)
 へにば(名) 紅花、紅藍花、吳藍、さくらん(植物)
 へにかは 紅華、わかきかは
 へにから(名) 鑿紅、べにのこな
 へにかのこ 紅鹿子、ひがのこ
 へにたけ(名) 胭脂、しもこし、葛花、紅菘(植物)
 へにぞめ(名形) 紅染、あかぞめ
 へにつけゆび(名) 無名脂、ななしゆび、くすりゆび
 へにうこん(名) 紅鬱金(植物)
 へにくりげ(名) 紅粟毛、驛、紅梅粟毛(馬の毛色の名稱)
 へにくわんざう(名) 紅葦、くさのな(植物)
 へにまじこ(名) 突厥、動物)
 へにこ(名) 洋紅、たうべに
 へにざら(名) 紅皿、べにつけたるざら、べにぢよく
 へにざしゆび(名) 無名指、ななしゆび、くすりゆび
 へにしばり(名形) 紅絞、あかきしばり
 へにすむじやう(名) 紅水晶、紅寶石、あかだま
 へぼがや(名) 粗榦、いぬがや(植物)

- へいこう[する]自 閉口だまる、へこむ、まける
- へいこく 弊國、わがくに(弊をみよ)
- へいこく 米國(亞米利加國)
- へいこく[名] 米穀、こめ、こくもつ
- へいでい[する]他 平定、たひらげさだむる
- へいでい[名] 散泥、あふり(馬具)
- へいてん 閉店、みせをしまふ、閉舖
- へいてん 弊店、わたくしのみせ、弊舖(卑下する詞)
- へいわ[名] 病瀕、いたづき、やまひ
- へいわ[名形] 平安、やすきこと、れだやか。きげんよう
- へいわんじやう 平安城(山城國愛宕郡に在りし都府)ならのみやこ
- へいさ[名] 平沙、すなはら
- へいさ[する]自 平坐、うくよむる、したよすむる
- へいさん[名] 平産、安産、たやすきさん
- へいさ[名] 兵器、もののぐ、いくさのうつは、武器
- へいさ[名] 兵機、いくさのはづみ
- へいさ[名] 平氣、きをたひらかよすること。又[俗]ねちつ
- へいさ[名] ひとんぢやく
- へいさよ[する]自 屏去、しりぞきさる
- へいさよ[する]一 屏居、隠居、こもりをる
- へいさよ[する]自 閉居、とぢこもる
- へいさよ[する]自 並居、なみゐる、ならびをる
- へいさん[名副]一 平均、ならし。ひきならず
- へいさん[名副]一 平愈、平復、反常、快復、本復、なほる、いへ
- へいゆう[する]自 平愈、平復、反常、快復、本復、なほる、いへ
- へいめい[名副] 平明、わけぼの、あくるころ、よわけ

- へいじやうてんわう 平城天皇人皇第五十二代の帝
- へいじふ[名] 弊習、あしきならはし
- へいじゆ[する]他 并取、あはせとる
- へいじゆ[名] 並樹、なみき、列樹
- へいじゆつ 兵衛、いくさのみち
- へいしせうさう[名] 瓶子小草、はなやすり(植物)
- へいしん 萍心、とりとめなきこと
- へいしん 平心、たひらかさ
- へいしん 平信、ふじのたより、つねのてがみ
- へいしん[名] 嬖臣、きにいらたるけらい
- へいじん[名] 兵刃、やいば
- へいじん[名] 嬖人、きにいら
- へいじんわう 平親皇(平將門を云ふ)
- へいはい[名] 兵營、陣營、つはものだむろ
- へいはい[名形] 炳耀、ひかりかがやく
- へいはい[名] 兵役、いくさのつとめ
- へいはい[名] 兵備、いくさのそなへ
- へいひかう[名] 米皮糠、こぬか
- へいもつ[名] 聘物、しんもつ、ねくりもの
- へいもく 閉目、めをとづる
- へいもん[名] 聘問、ねとづれ、みまひ訪問
- へいもん[名] 閉門、ねとづれ(己れの家)
- へいせい 兵勢、つはものいきはひ、兵力、兵威
- へいせい[名形] 平靜、しづか、れだやか
- へいせい[名副] 平生、つねづね、平常
- へいせつ[名] 米屑、糲糠、小米、ここめ、くづれ、こめ
- へいせう[する]他 聘石、よぶ、よびまねく、めしだす

- へいみやく 平脈、つねにかはらぬみやく
- へいみん 平民、つねなみのたみ(華士族にあらぬ)、白民
- へいし[名] 兵士、つはものいくさびと
- へいし 閉肆、みせをしまふ、閉店
- へいし[する]自 斃死、たふれしぬる
- へいし[名] 瓶子(酒を入れる器)
- へいし[名] どくり(大和國東大寺八幡宮藏胡徳樂に用ふる所)
- へいし 平時、れだやかのとき、つねのとき
- へいしよ 兵書、軍書(兵法の書)
- へいしよ[副形] 炳如、あきらか燦然
- へいしよ[名] 兵食、軍餉、ひやうらう
- へいしよ[名] 併織、蠶貝類の動物
- へいしつ[名] 蔽膝、ひざかけ
- へいじつ 平日、つねのひ、ふだん
- へいじう[名] 陪從、ともびと(貴人の)うたひと(俗人の屬)
- へいじや[名] 兵車、いくさくるま
- へいじや[する]他 蔽遮、さへぎりどむる
- へいじや 弊社(吾が會社といふ事)
- へいじや[名] 餅炙、かまぼこ
- へいじやう[する]他 蔽障、れはひさへさる
- へいじやう[形副] 平常、ふだん、つねづね、平素、居常、平生
- へいじやう 平城、なら(奈良)



(圖の子瓶)



(圖の蟲織併)

- へいせふ[名] 嬖妾、てかけ、そばめ、きにいりのをんな
- へいせき[名] 兵籍、つはものなふみ
- へいせん[名] 兵船、いくさぶね
- へいせん[名] 兵燹、兵火、いくさのみ
- へいせん[副形] 炳然、炳焉、いちじるく、あきらか
- へいせうや[名] 弱矢、よわきや
- へいせう[名] 粘着、こびりつく、ねばりつく
- へいそ[名] 紅花、胭脂、臘脂、紅粉、あかさゑのぐ(唇等につく)
- へいそ[名] 紅花、紅藍花、呉藍、さふらん(植物)
- へいそ[名] 紅草、あかさかは
- へいそ[名] 麋紅、べにのこな
- へいそ[名] 紅鹿子、ひがのこ
- へいたけ[名] 胭脂、しもこし、葛花、紅菘(植物)
- へいぞめ[名形] 紅染、あかぞめ
- へいつけゆび[名] 無名脂、ななしゆび、くすりゆび
- へいこう[名] 紅鬱金(植物)
- へいくりげ[名] 紅栗毛、驕紅、梅栗毛、馬の毛色の名稱
- へいくわんざう[名] 紅萱、くさのな(植物)
- へいましこ[名] 突厥、畜動物
- へいにこ[名] 洋紅、たうべに
- へにざら[名] 紅肌、べにつけたるさら、べにぢよく
- へにさしゆび[名] 無名指、ななしゆび、くすりゆび
- へにしほり[名形] 紅綾、あかきしほり
- へにすずめ[名] 紅雀、梅花雀(動物)
- へぼがや[名] 粗榦、いぬがや(植物)

べ(俗)名 衣服、きもの(小兒の語)
 へどはく 嘔吐、えづく、反吐、もどす、へどつく
 へちま(名) 絲瓜、魚鱗、洗鍋羅瓜(瓠瓜植物)
 へり(名) 縁、ふち
 へりどる(自) 縁、ふちつける
 へりぬり(名) 端塗茶の異名
 へりくだる(自) 謙遜、ひげする(卑下)、みづからひくくする

へる(自) 経歴、どはる、ずぐる、よぎる
 へる(他) 綜、いとをまく
 へる(自) 減耗、すくなくなる
 へるりん 百爾靈、伯倫(普魯西の都府)
 へるうこく 百露國、秘魯、俾路國(南米の一國)
 へるけい(名) 百露雞、七面鳥、からくんでう(動物)
 へるぎい(名) 比利時、白耳義、歐羅巴洲の國名
 へるしや 比耳西亞、波斯(亞細亞洲の一古國)
 へる(名) 經緒、足纒、足緒、鷹の足に附くる糸を謂ふ
 べからず 不可、よろしからず

へた(俗)形 下手、拙工、つたなき
 へた(名) 帯、ほぞ、葉實の莖に附く處
 へた(名) 曆、かひのふた(貝蓋)
 へたいしや 庸醫、凡醫、敷醫者やふいしや
 へたばる(俗)自 低身、ひれふす、拜伏、俯伏
 へたへた(副)形 隔隔、漣漣、糶糶、ばらばら
 へだたる(自) 隔隔、離はなれる、どほざかる
 へだてる(他) 隔介、阻、間、隔はなす、離隔、どほざかる
 へだて(と)ころ(名) 隔心、うちとけぬ(と)ころ、うちとけ(と)ころ

べつかん(名) 鼈甲、瑠璃、かめのかん、黒龍衣
 べつたう(名) 別當、監督、つかさ、まもるもの、「俗」馬を牧
 べつたふ(名) 馬夫、厩廐、管廐夫、馬丁
 べつたく 別宅、わかれすまひ、別居、こといへ別室、別屋、別家

べつだん(俗)副形 別段、とりわけ、格段、ことに
 べつそく(名) 篋束、たが(桶の)、かつらだけ
 べつつい(俗)名 竈、かまど、壁吹、土竈
 べつらふ(自) 詔、諛、佞、こびる、つるじようする
 べつくわ(名) 別火、ことなるひ(神佛へ供する爲に別に打出せる火)
 べつくわ(名) 別課、べつのくみ(本課に對す)
 べつげふ(名) 別業、しもやしき別莊(べつさう)
 べつけん(する) 瞥見、ちらりとみる
 べつふ 別府(氏)

べつこう 別項(別に掲げたる箇條)
 べつこん(俗)形 別魂、入魂、懸意、したしき、なかよき、懸親
 べつてい 別邸、しもやしき、別莊
 べつでう(名) 別條、別儀、ことなること、異變
 べつさつ 別冊、別卷、ほかのかきはん、ほかのまき
 べつさう(名) 別莊、あそびいへ、別業
 べつさよ(する)自 別居、わかれすむ、別宅
 べつし 別紙、つきをひてがみ、副書、添簡
 べつし(する)他 蔑視、さげすむ、みさげる、藐視
 べつしよ 別所(氏)

べつじよ(する)他 蔑如、からんずる、藐視

べたきん(俗)形 總金、そうこがね
 べれんす(名) 洋青、洋靛、わたりあゐ、あゐらふ
 へそ(名) 臍、はぞ、腹外の小穴
 へそ(名) 卷子、續繩、緒環、だまき、いとまき
 へそのを(名) 臍帶、生れ兒の胞衣の緒
 へそのした(名) 臍下、小腹、丹田、したはら
 べそくち(名) 臍口、泣く如き口の形を云ふ
 へそくりがね(俗)名 私房、銀たぐはへがね(老婆等の)

べつ(名) 鼈、うみがめ(動物)
 べつ(形) 別、ことなる、ほかの、わかち、區別
 べつい 別意、ほかの(と)ころもち
 べつろ 別路、ことみち、ほかみち、他道
 べつろう(名) 莖籠、めかど
 べつば 別派、ことわかれ(異なる流派)、別流儀
 べつばい 別杯、わかれのさかづき、離杯
 べつばら 別腹、はらがはり、異腹、ことばら

べつべ(名) 海濱、うみへ、海岸
 べつべつ(副) 別別、各自、れのれの
 べつべき(形) 整齊、あしなへ、びつこ
 べつどう(名) 蕙胴、をけがはどう、桶皮胴(鏡胴の形状の)

べつち(名) 鷺、鷺鷥、鷺鷥、錦鷄、金鷄、雉の如き美き雞(動物)
 べつり(名) 一する(自) 別離、わかれ、わかればなる
 へづる(他) 折、折、けづる、そぐ
 べつか(名) 別家、わかれいへ、分家(ぶんけ)、支流
 べつがう(名) 別號、ほかのな、あだしとなへ
 べつかく 別格(他に異なる格式)、格段

べつしつ(名) 蕙櫛、たうぐし、たけぐし
 べつじやく(名) 轉雀、えな(動物)
 べつして(俗)副 別而、とりわけて、ことに
 べつしん 別心、異心、ことなる(と)ころ、ふた(と)ころ
 べつじん 別人、ことびと、餘人、他人
 べつえん(名) 別宴、わかれのさかもり、離宴、祖宴
 べつびりむし(名) 氣蠶、へこきむし、くさきむし(動物)
 べつびん 別品、別して善き品、また美女、美婦
 べつもう(名) 蟻蟻、かつほむし、まくなぎ(動物)
 べつせつ(形) 整齊、あしなへたる、よろける
 べつす(名) 襪子、たび、したぐつ、足衣

へなは(名) 綜繩、繫、はたのなは、はたをわやつるなは
 へなたり(名) 海螺、甲螺、甲香、磨、ばい、つぎ香と共に焚きて香氣を増さしむる者にて海辛の如き貝(動物)
 へなつち(名) 埴、はに、ねばつち、粘土
 へら(名) 篋、竹にて作れる、胞刀産の時に臍緒を切る者
 へら(名) 牛舌魚(動物)
 へらたもたか(名) 水澤瀉、くさのな(植物)
 へらさぎ(名) 篋、鷺、漫畫、其體

灰色を帯びて羽冠大きく
 狀鷺に同じく嘴稍大きく
 嘴頭圓にして恰もしの
 如し
 へらも(植物) 苦草、せきしやう
 へらす(他) 減、減小、すくなくする

(圖の鷺)

